VALUESTAR R
VALUESTAR W

2 準備と設定

◎「あなたのパソコン」として使うために◎

パソコンは、ほかの電化製品とちがって
電源をいれただけでは使えません。
付属品をとりつけ、あなた個人が使うための
設定をし、インターネットにつなぐところまで、
この本の手順にそって、準備してみましょう。

もう一台パソコンを買ったときの
内容の移しかえや、設定を最初から
やり直す方法も、この本がご案内します。

新しいパソコンがやってきました！

箱を開いて、

嬉しいような、そわそわするような、

そんな、新しい道具を手にするときの気持ちを

たいせつにしながら、

間違いなく確実に、

パソコンの準備と設定を進めていけるよう、

この本は作られています。

853-810601-539-A

『準備と設定』の読み方

第1章〜第3章まで
「箱を開けて最初にすること」「電源を入れる前に接続しよう」「セットアップを始める」

パソコンの置き場所を確認したり、箱の中のケーブルや部品を接続する手順、はじめて電源を入れたときの設定（Windows のセットアップ）手順を説明しています。

第4章
「基本中の基本の操作」

電源の入れ方／切り方、音量調節、CD-ROM などのディスクの扱い方など、基本的な操作について説明しています。

第5章
「これからインターネットを始めるかたへ」

これまでにパソコンを持っていなかったかたは、この章をご覧ください。インターネットに接続する方法について説明しています。

第6章
「パソコンを買い替えたかたへ」

パソコンを買い替えたかたは、この章をご覧ください。インターネットに接続する方法や、以前のパソコンの設定やデータを新しいパソコンに移す方法について説明しています。

第7章
「前に使っていたパソコンと一緒に使いたいかたへ」

複数のパソコンをネットワーク接続して利用したいかたは、この章をご覧ください。

第8章
「再セットアップする」

パソコンの調子が悪くなったときなどに、買ってきたときの状態に戻す「再セットアップ」について説明しています。

第9章
「パソコン内部に取り付ける」

このパソコンにメモリを取り付ける方法を説明しています。

853-810601-539-A
2006年4月　初版

このマニュアルの表記について

◆このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります

注意　人が傷害を負う可能性が想定される内容、および、物的損害の発生が想定される内容を示します。

障害や事故の発生を防止するための指示事項は、次のマークで表しています。

使用者に対して指示に基づく行為を強制するものです。

一般禁止
その行為を禁止します。

その他の指示事項は、次のマークで表しています。

そのページで説明している手順で、特に大切なことです。

してはいけないことや、注意していただきたいことです。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているソフトの破壊、パソコンの破損などの可能性があります。

◆このマニュアルの表記では、次のようなルールを使っています

【　】	【　】で囲んである文字は、キーボードのキーを指します。
DVD/CD ドライブ	DVD-RAM/R/RW with DVD+R/RW ドライブ（DVD-R/+R 2層書込み）を指します。
「サポートナビゲーター」	電子マニュアル「サポートナビゲーター」を起動して、各項目を参照することを示します。 「サポートナビゲーター」は、デスクトップの（困ったときのサポートナビゲーター）をダブルクリックして起動します。

◆このマニュアルでは、各モデル（機種）を次のような呼び方で区別しています

次ページの表をご覧になり、ご購入された製品の型名とマニュアルで表記されるモデル名を確認してください。

このパソコン	表の各モデル（機種）を指します。
DVD-RAM/R/RW with DVD+R/RW（DVD-R/+R 2層書込み）モデル	DVD-RAM/R/RW with DVD+R/RW ドライブ（DVD-R/+R 2層書込み）（DVD スーパーマルチドライブ（DVD-R/+R 2層書込み））を搭載しているモデルのことです。
TV モデル	地上アナログ放送を見るための機能を搭載しているモデルのことです。
デジタルハイビジョンTV モデル	地上アナログ放送、地上デジタル放送、BS・110度CSデジタル放送を見るための機能を搭載しているモデルのことです。
RAID 機能搭載モデル	RAID 機能を搭載しているモデルのことです。
Office 2003 モデル	Office Personal 2003またはOffice Professional 2003があらかじめインストールされているモデルのことです。

Office Personal 2003 モデル　Office Personal 2003 があらかじめインストールされているモデルのことです。

Office Professional 2003 モデル　Office Professional 2003 があらかじめインストールされているモデルのことです。

<table>
<tr><th rowspan="2">シリーズ名</th><th rowspan="2">型名
（型番）</th><th colspan="5">表記の区分</th></tr>
<tr><th>DVD/CDドライブ</th><th>ディスプレイ</th><th>TV機能</th><th>RAID機能</th><th>添付ソフト</th></tr>
<tr><td rowspan="4">VALUESTAR W</td><td>VW970/FG
（PC-VW970FG）</td><td rowspan="7">DVD-RAM/R/RW with DVD+R/RW（DVD-R/+R 2層書込み）モデル</td><td rowspan="2">32 型ワイド液晶ディスプレイ</td><td rowspan="3">デジタルハイビジョンTVモデル（リモコン添付）</td><td rowspan="3">RAID機能搭載モデル</td><td>Office Personal 2003 モデル</td></tr>
<tr><td>VW900/FH
（PC-VW900FH）</td><td>−</td></tr>
<tr><td>VW770/FG
（PC-VW770FG）</td><td rowspan="2">20 型ワイド液晶ディスプレイ</td><td rowspan="5">Office Personal 2003 モデル</td></tr>
<tr><td>VW700/FG
（PC-VW700FG）</td><td rowspan="4">TVモデル（リモコン添付）</td><td rowspan="4">−</td></tr>
<tr><td rowspan="3">VALUESTAR R</td><td>VR570/FG
（PC-VR570FG）</td><td rowspan="3">17 型液晶ディスプレイ</td></tr>
<tr><td>VR500/FG
（PC-VR500FG）</td></tr>
<tr><td>VR300/FG
（PC-VR300FG）</td></tr>
</table>

◆ VALUESTAR G シリーズについて

VALUESTAR G シリーズの各モデルについては、添付の『VALUESTAR G シリーズをご購入いただいたお客様へ』をご覧ください。

◆本文中の画面やイラスト、ホームページについて

- 本文中の画面やイラスト、ホームページは、モデルによって異なることがあります。また、実際の画面と異なることがあります。
- 記載しているホームページの内容やアドレスは、このマニュアル制作時点のものです。

◆このマニュアルで使用しているソフトウェア名などの正式名称

(本文中の表記)	(正式名称)
Windows、Windows XP、Windows XP Home Edition	Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版 Service Pack 2
Windows、Windows XP、Windows XP Professional	Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版 Service Pack 2
Windows XP Media Center Edition	Microsoft® Windows® XP Media Center Edition 2005 operating system 日本語版
Windows 2000 Professional	Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版
Windows Me、Windows Millennium Edition	Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版
Windows 98 Second Edition	Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system 日本語版
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 operating system 日本語版
Windows 95	Microsoft® Windows® 95 operating system 日本語版
Office Personal 2003	Microsoft® Office Personal Edition 2003 (Microsoft® Office Word 2003、Microsoft® Office Excel 2003、Microsoft® Office Outlook® 2003、Microsoft® Office Home Style+)
Office Professional 2003	Microsoft® Office Professional Enterprise Edition 2003(Microsoft® Office Word 2003、Microsoft® Office Excel 2003、Microsoft® Office Outlook® 2003、Microsoft® Office PowerPoint® 2003、Microsoft® Office Access 2003、Microsoft® Office Publisher 2003、Microsoft® Office InfoPath™ 2003)
Outlook、Outlook 2003	Microsoft® Office Outlook® 2003
Home Style+	Microsoft® Office Home Style+
インターネットエクスプローラ、Internet Explorer	Microsoft® Internet Explorer 6.0 Service Pack 2
アウトルックエクスプレス、Outlook Express	Microsoft® Outlook® Express 6.0
ウイルスバスター	ウイルスバスター™2006 インターネット セキュリティ
インターネット無料体験	BIGLOBE インターネット無料体験
DigitalMedia	Roxio DigitalMedia SE 7

ご注意

（1）本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
（2）本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
（3）本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、NEC 121 コンタクトセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本はお取り替えいたします。
（4）当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、（3）項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
（5）本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
（6）海外 NEC では、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
（7）本機の内蔵ハードディスクにインストールされている Microsoft® Windows® XP Media Center Edition および本機に添付の CD-ROM、DVD-ROM は、本機のみでご使用ください。
（8）ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。

Microsoft、Windows、Office ロゴ、Outlook は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
インテル、Intel、Pentium、Celeron はアメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
TRENDMICRO 及びウイルスバスターは、トレンドマイクロ株式会社の登録商標です。
Roxio DigitalMedia は Sonic Solutions 社の登録商標です。
SDおよびminiSDロゴ、およびSDロゴは商標です。
“MagicGate Memory Stick”（“マジックゲートメモリースティック”）および“Memory Stick”（“メモリースティック”）、MEMORY STICK、、MEMORY STICK PRO、MEMORY STICK DUO、“MagicGate”（“マジックゲート”）、MAGICGATE、OpenMGはソニー株式会社の商標です。
xD、「xD-ピクチャーカード™」は富士写真フイルム（株）の商標です。
BIGLOBE、MediaGarage、121 ポップリンクは、日本電気株式会社の登録商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

目次

©NEC Corporation, NEC Personal Products, Ltd. 2006
日本電気株式会社、NEC パーソナルプロダクツ株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

■輸出に関する注意事項

本製品（ソフトウェアを含む）は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。
本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。
従いまして、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていません。

本製品の輸出（個人による携行を含む）については、外国為替及び外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。
必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。
輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせください。

■Notes on export

This product (including software) is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards. NEC*1 will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan. NEC*1 does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.

Export of this product (including carrying it as personal baggage) may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law. Export without necessary permit is punishable under the said law. Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

*1: NEC Corporation, NEC Personal Products, Ltd.

第 1 章

箱を開けて最初にすること

この章には、パソコンの箱を開けて最初にすることが書いてあります。添付品が全部そろっているか、型番や製造番号が合っているか確認しましょう。また、パソコンの置き場所を決めましょう。

この章の所要時間：約 10 分

添付品はそろっていますか？

ポイント

● 『スタートシート』で確認

1 『スタートシート』を見る

マニュアルセットの中に『スタートシート』が入っています。『スタートシート』の「①添付品を確認しよう」を見て、添付品が全部そろっているか確認してください。万一、足りないものがあったり、添付品の一部が破損していたときは、すぐに下記までお問い合わせください。

VALUESTAR G シリーズをご購入の場合は、『VALUESTAR G シリーズをご購入いただいたお客様へ』をご覧になり、添付品を確認してください。

困ったときには…

NEC 121（ワントゥワン）コンタクトセンター

フリーコール 0120-977-121

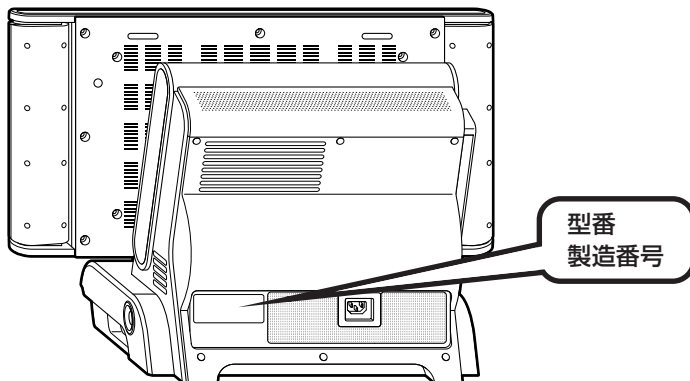
※電話番号をよくお確かめになり、おかけください。

添付品の内容はモデルにより異なる場合があります。

型番と製造番号を確認する

● 保証書と本体のラベルが一致していることを確認する

1 パソコン本体の保証書を見る

2 パソコン本体のラベルと一致しているか確認する

・記載された番号が保証書と異なっている場合、NEC 121コンタクトセンターにお問い合わせください。

・保証書は、所定事項（販売店名、お買い上げ日など）が記入されていることを確認して、保管しておいてください。保証期間中に万一故障した場合は、保証書記載内容に基づいて修理いたします。保証期間終了後の修理についてはNEC 121コンタクトセンターにお問い合わせください。

パソコンの置き場所を決める

ポイント

- キーボードやマウスを使うために十分余裕のある場所に
- 電話回線や電源などの場所にも気を付ける

⚠注意

- **本体を設置したり移動したりするときは、側面にある取っ手を 2 人以上で持ち、ゆっくり持ち上げてください。**

  このパソコンの重さは約25～40kgあります。無理に持ち上げたり、乱暴に扱って落としたりするとけがをするおそれがあります。

1 パソコンの設置環境

◆屋内であること

屋外には設置しないでください。

◆しっかりした台の上

パソコンの重さを安定して支えられるテーブル、机を選んでください。

◆温度は 10 ～ 35℃、湿度は 20 ～ 80%

室内の温度と湿度が高く、機械やガラスなどの温度が低いと、水滴がついてしまうことがあります（結露）。パソコンが結露したときは、電源を入れずに 1 時間以上置き、水滴が蒸発してから使ってください。

◆ホコリの少ない場所

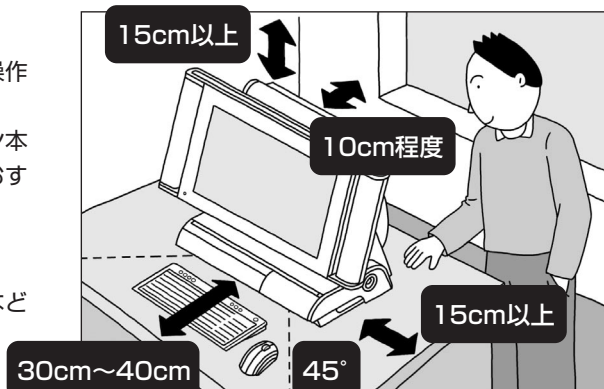
ホコリの多い場所に置くと、パソコンの内部にホコリがたまって故障の原因になることがあります。ホコリの少ない場所を選んでください。

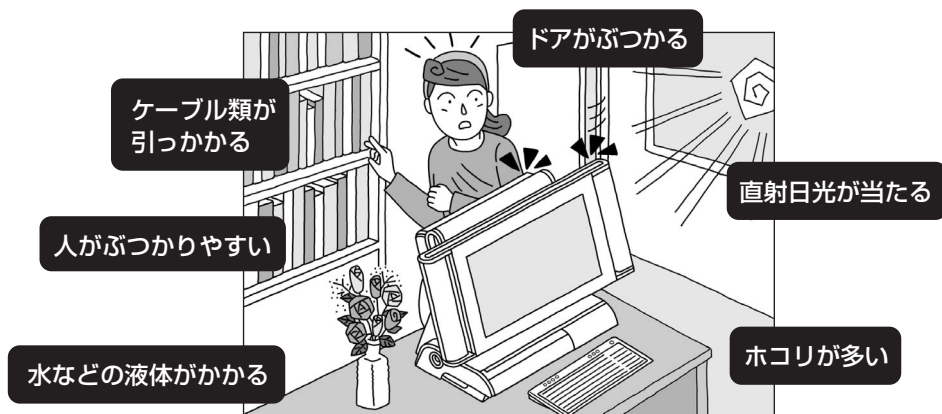
パソコンを設置したり移動したりするときは、ディスプレイ左右にあるスピーカの下部を持たないでください。スピーカが破損するおそれがあります。

2 パソコン周囲の広さ

本体前に 30 ～ 40cm
キーボードを置き、ゆったりマウスを操作できる広さが必要です。
また、キーボードとマウスは、パソコン本体から45度の範囲で使用することをおすすめします。

本体後ろに 10cm 程度
本体の後ろ側に通風孔があるため、壁などから10cm程度離してください。

本体側面にも 15cm 以上
本体の側面にケーブルなどを接続するため、15cm以上の空間を確保してください。

パソコンを使っているときは、本体の上に紙や布を置いて通風孔をふさがないようにしてください。内部の温度が上昇し、動作不良や故障の原因になります。

3 こんな場所にはパソコンを置かないで！

小さなお子さんがいる場合は、ケーブルの付いた機器をお子さんが落としてしまうことがあるので、十分気を付けてください。

4 コンセントや電話回線などの近くに置く

◆コンセントについて

・ラジオやテレビに雑音が入ることがあるため、これらの機器とは別のコンセントに接続してください。
・添付の電源ケーブルを直接コンセントに接続してください。
・コンセントが足りなくてパソコン用のテーブルタップを使うときは、テーブルタップの合計電力を守ってください。
・アース線を接続できるよう、アース端子のあるコンセントを使ってください。コンセントにアース端子がないときは、お近くの電器店など電気工事士の資格を持った人にアース端子付きコンセントの取り付けを相談してください。

◆電話回線について

インターネットを利用するときは、パソコンに添付されている電話回線ケーブル（モジュラケーブル）が電話回線の接続口（モジュラコンセント）に届く範囲にパソコンを設置してください。インターネットに接続するための機器（ケーブルモデムやルータなど）を利用するときは、それらの機器の近くにパソコンを設置します。

◆アンテナ線について

パソコンでテレビを楽しむには、アンテナ線の位置や長さに注意が必要です。アンテナ線の接続については、「アンテナ線を接続する」（97 ページ）をご覧ください。

5 パソコンの近くに置いてはいけないもの

◆扇風機や大型のスピーカ、温風式こたつなど（磁気を発生するもの）

強い磁気を発生する装置が近くにあると、ディスプレイの表示や色が乱れることがあります。パソコン用スピーカなど、磁気をもらさないように設計された装置であれば、近くに置いてもかまいません。

◆ストーブなどの暖房器具

暖房器具の近くにパソコンを置くと、熱で変形したり、異常な動作をすることがあります。

◆ほかのディスプレイやテレビ、ラジオ

ほかのディスプレイやテレビの表示が揺れたり、色が乱れたりすることがあります。テレビやラジオの音声に雑音が入ることがあります。

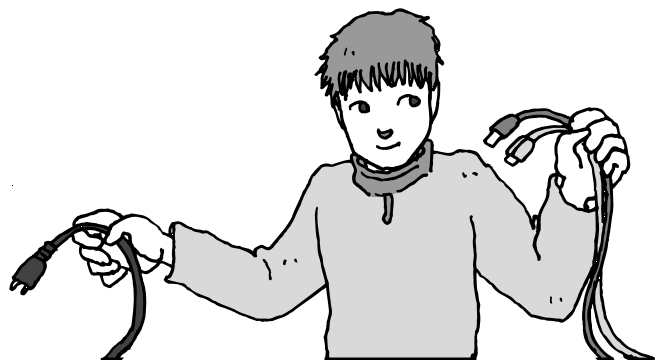
◆コードレス電話、携帯電話

通話中に雑音が入ることがあります。パソコン側も電波の影響を受けるため、スピーカに雑音が入ることがあります。

アンテナ線を用意する

デジタルハイビジョンTVモデルでは、セットアップ作業（パソコンを使えるようにする準備）に続けて、チャンネル設定などをおこないます。このとき、アンテナ線を接続している必要があります。市販のアンテナ線を用意しておいてください。
お手元にない場合は、そのまま作業を進めてかまいません。セットアップは問題なくおこなうことができます。アンテナ線を接続した後に、あらためてチャンネル設定などをおこないます。

第2章

電源を入れる前に接続しよう

パソコン本体の置き場所を決めたら接続です。キーボードとマウスを使う準備もします。じっくり説明を読んで慎重にやりましょう。次ページから順番に作業を進めてください。電源ケーブルの接続は最後ですよ。

この章の所要時間：約20分

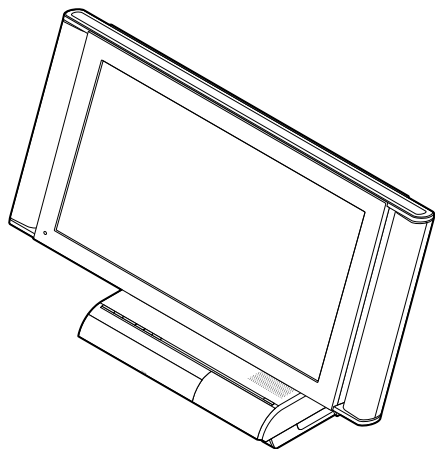
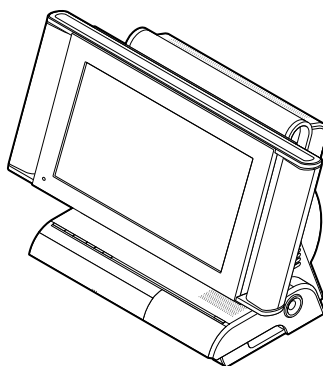
インターネットや周辺機器は後から接続

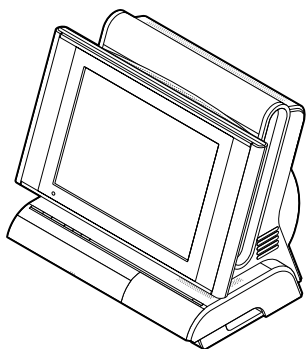
ここではまだ、電話回線には接続しません。また、プリンタなどの周辺機器があるときも、まだ接続しないでください。「第3章　セットアップを始める」で説明している作業が終わってから、電話回線や周辺機器の接続をおこないます。

ディスプレイについて

3種類のディスプレイ

VALUESTAR W

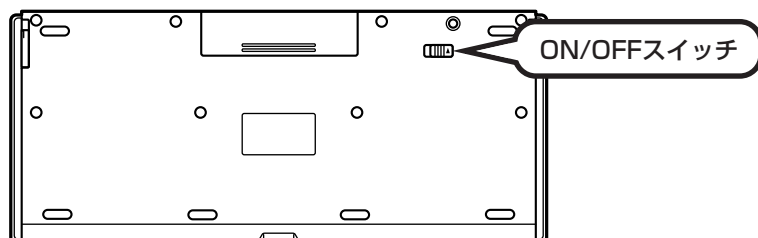
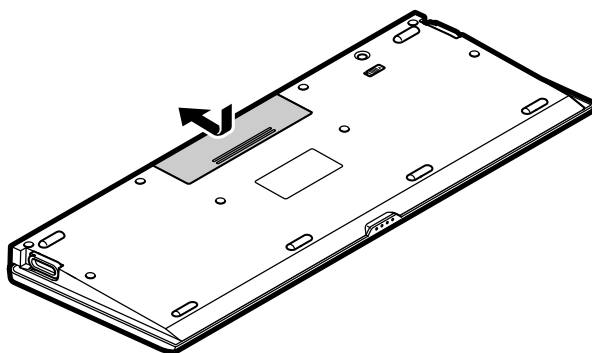
32型ワイド液晶ディスプレイモデル

20型ワイド液晶ディスプレイモデル

VALUESTAR R

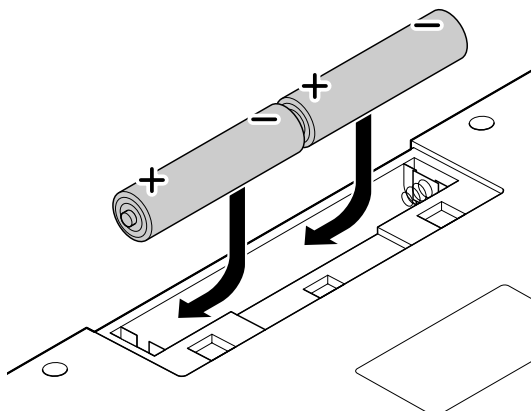
17型液晶ディスプレイモデル

本文中のディスプレイのイラストは、断りのないかぎり、VALUESTAR W 20型ワイド液晶ディスプレイモデルのイラストを使用しています。

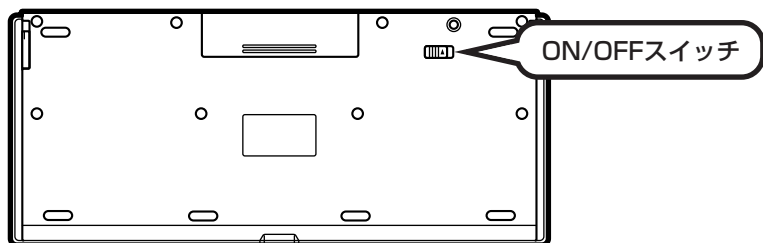
キーボードを使う準備をする

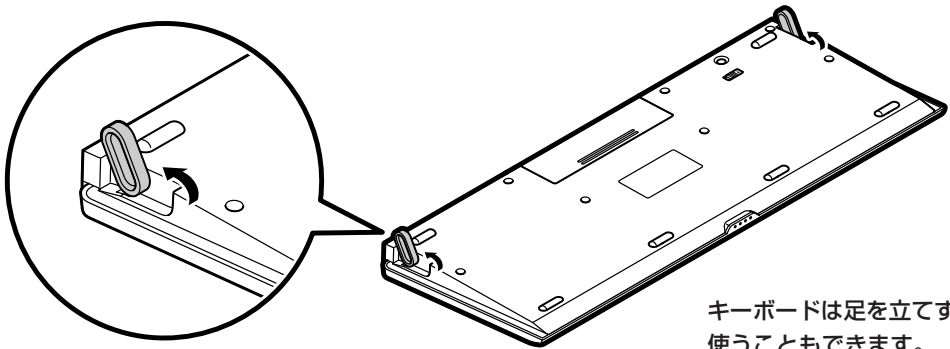
ポイント

- 乾電池を入れる
- ＋（プラス）と－（マイナス）の向きを間違えないように

1 キーボード裏面のON/OFFスイッチを「OFF」にする

2 キーボード裏面のカバーを外す

3 乾電池を入れる

単３形アルカリ乾電池２本を入れます。入れたら電池カバーをもとどおりにはめてください。

- 乾電池の＋（プラス）と−（マイナス）の向きを、電池ボックス内の表示どおりに入れてください。
- ご使用の環境や方法にもよりますが、キーボードの使用時間は連続使用で約３００時間です。
- 必ずアルカリ乾電池を使用してください。
- 充電式電池は使用できません。

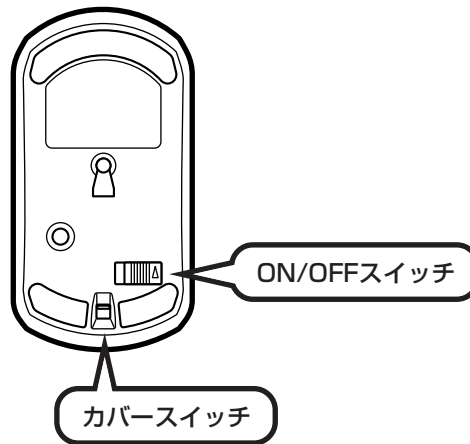
4 キーボード裏面のON/OFFスイッチを「ON」にする

キーボードを長時間使わないときは、キーボード裏面のON/OFFスイッチを「OFF」にしておくと、乾電池が長持ちします。

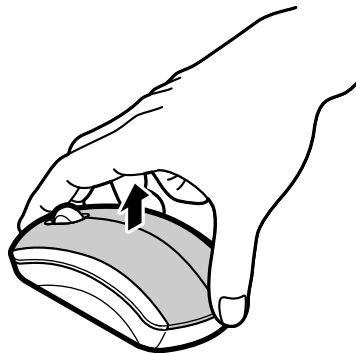
5 キーボードの足を立てる

キーボードは足を立てずに
使うこともできます。

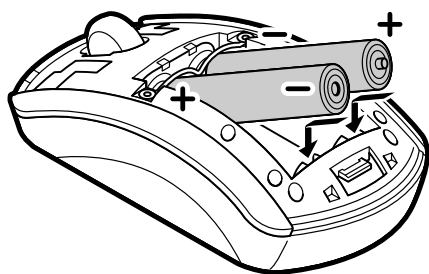
キーボードがうまく動作しないときは、付録の「キーボードとマウスを登録しなおす」（229ページ）をご覧ください。

マウスを使う準備をする

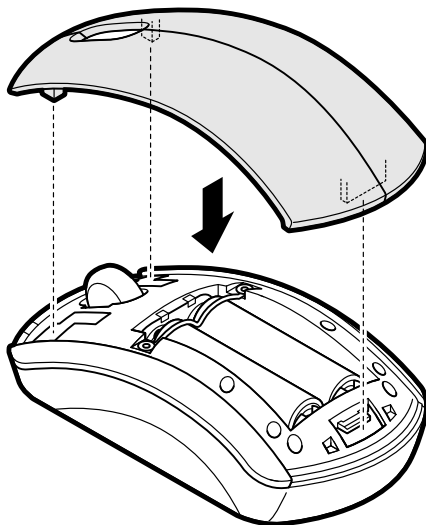
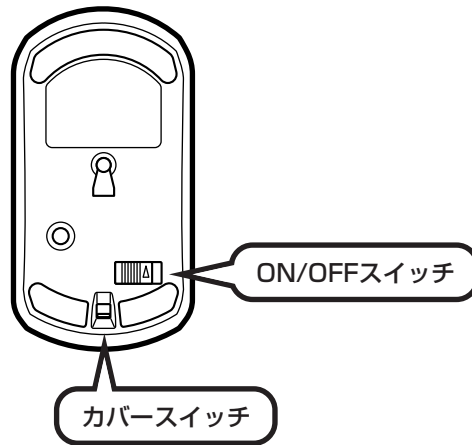
ポイント
- カバーを外して乾電池を入れる
- ＋（プラス）と－（マイナス）の向きを間違えないように

1 マウス底面のON/OFFスイッチを「OFF」にし、カバースイッチを「RELEASE」にする

2 カバーを上に持ち上げて外す

カバーは片方だけ持ち上げると外れにくくなります。前後同時に持ち上げるようにしてください。

3 乾電池を入れる

図のように、単3形アルカリ乾電池をマウスの前方に向けて押し込んでから、後方を端子に合わせて入れてください。

- 乾電池の＋（プラス）と－（マイナス）の向きを、電池ボックス内の表示どおりに入れてください。
- マウスの後方の端子が変形しないように乾電池を入れてください。
- 必ずアルカリ乾電池を使用してください。
- 充電式電池は使用できません。

4 カバーをもとどおりはめる

カバー前後のツメが穴に入るようにはめてください。

5 マウス底面のカバースイッチを「LOCK」にし、ON/OFFスイッチを「ON」にする

・マウス底面から出ている光を直接見ないでください。

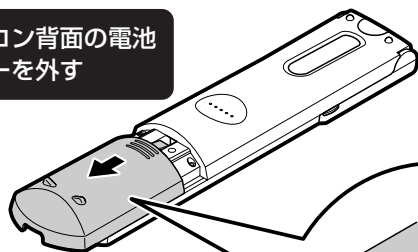
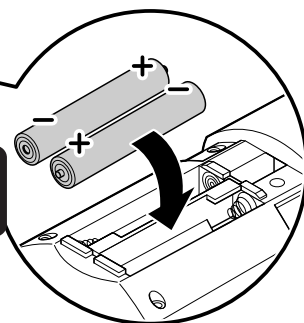
・マウスの電池寿命は、ご使用の環境や方法にもよりますが、連続して操作した場合最大約60時間です。約2.5か月間使用可能です。

・マウスを長時間使わないときは、マウス底面のON/OFFスイッチを「OFF」にしておくと、乾電池が長持ちします。

マウスがうまく動作しないときは、付録の「キーボードとマウスを登録しなおす」（229ページ）をご覧ください。

リモコンを使う準備をする

ポイント

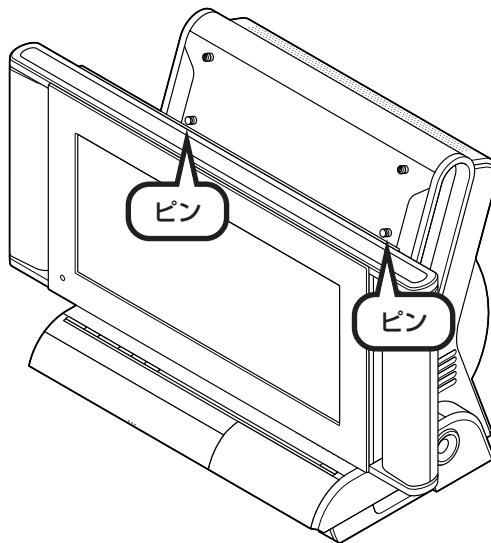
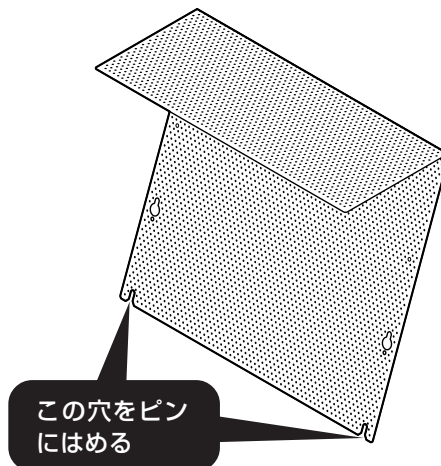
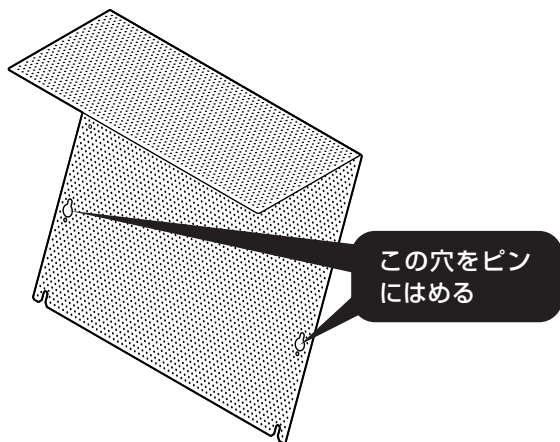
- 乾電池を入れる
- ＋（プラス）と－（マイナス）の向きを間違えないように

1 リモコンに乾電池を入れる

入れたら電池カバーをもとどおりにはめてください。

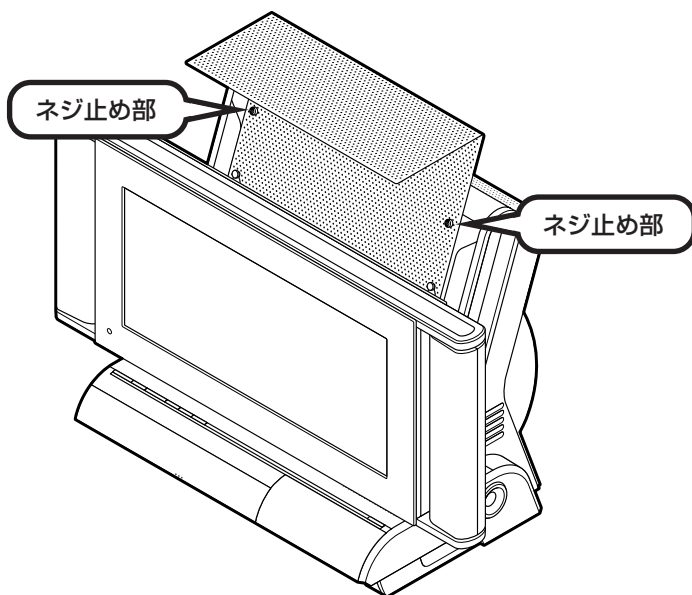
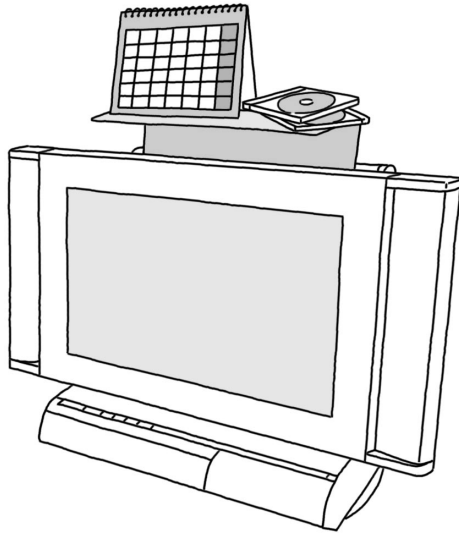
- 乾電池の＋（プラス）と－（マイナス）の向きを、電池ボックス内の表示どおりに入れてください。
- ご使用の環境や方法にもよりますが、このリモコンの電池寿命はアルカリ乾電池で約 90 時間です。
- 必ずアルカリ乾電池を使用してください。
- 充電式電池は使用できません。

ガジェットスペース用スタンドを取り付ける

このパソコンにはガジェットスペース用スタンドが添付されています。取り付けると、パソコンの上に小物類などを置くスペースができます。

ガジェットスペース用スタンドは、セットアップが終わった後で取り付けてもかまいません。

1 本体側にあるピン2か所に、ガジェットスペース用スタンドの穴をはめる

32 型ワイド液晶ディスプレイの場合

20 型ワイド液晶ディスプレイおよび 17 型液晶ディスプレイの場合

2 添付のネジでガジェットスペース用スタンドを固定する

2 本のネジで、ガジェットスペース用スタンドをしっかり固定してください。

ガジェットスペースを使う

ガジェットスペースの上に小物などを置いてお使いください。

⚠注意

● **ガジェットスペースには、こわれやすいものや重いもの（1kg 以上のもの）を載せないでください。**

載せたものが落ちて、けがの原因になります。

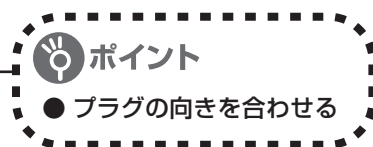
● **花瓶など液体を含んだものを載せないでください。**

振動などで落下して、本機の火災や故障の原因になります。

● **ガジェットスペース用スタンドとパソコン本体の間に手をはさまないように注意してください。**

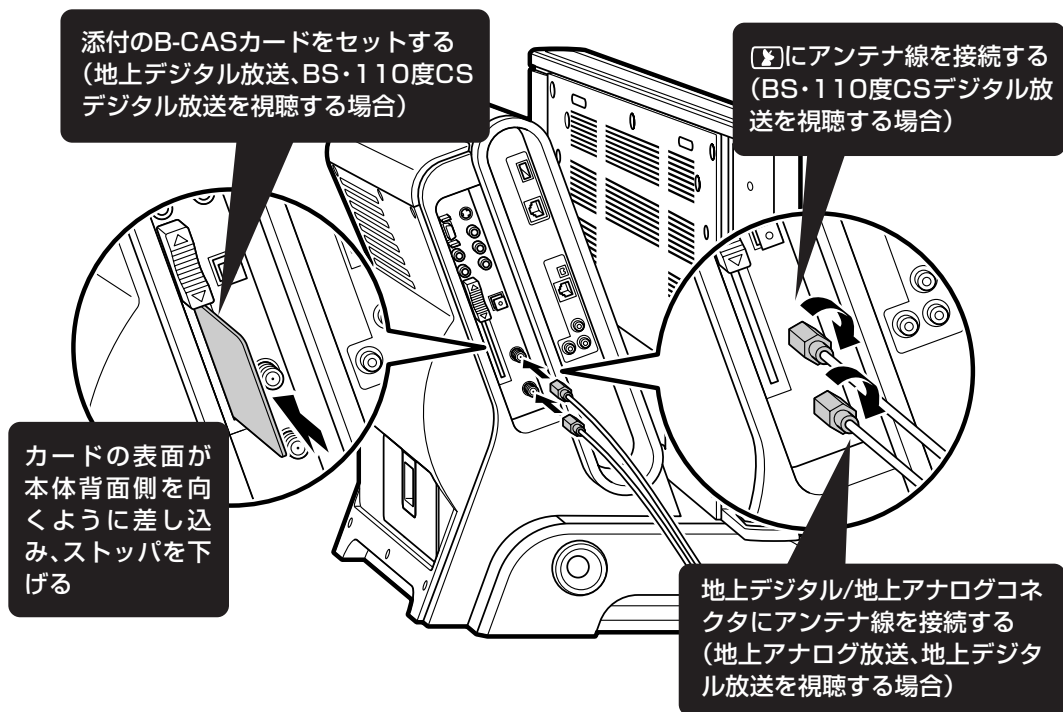
けがのおそれがあります。

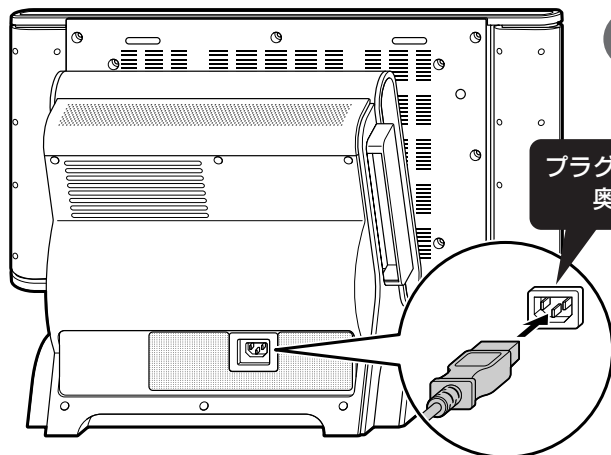
液晶ディスプレイの角度を変える際は、本体と液晶ディスプレイの間に、ガジェットスペースから小物などが落ちてはさまっていないか、確認してください。
ものがはさまったまま液晶ディスプレイの角度を変えると、本機が故障するおそれがあります。

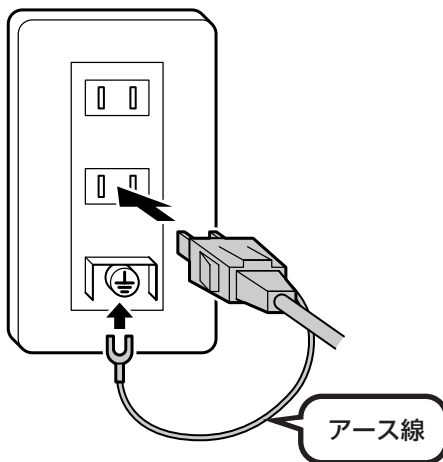
電源ケーブルを接続する

アンテナ線があれば接続する（デジタルハイビジョンTVモデルの場合）

市販のアンテナ線が用意してある場合は、電源ケーブルを接続する前に、アンテナ線を接続してください。アンテナ線の種類について詳しくは、「アンテナ線を接続する」（97ページ）をご覧ください。

ケーブルを接続するときは、まず本体左側面のケーブルカバーを外してください。また、接続が終わったら、ケーブルカバーをもとどおりに取り付けてください。取り外し方／取り付け方については、付録の「ケーブルカバーの取り外し方と取り付け方」（225ページ）をご覧ください。

接続例

B-CASカードは、デジタル放送の各種サービスを利用するときに必要なカードです。サービスを受けられるようにするには、B-CASカードのユーザー登録が必要です。B-CASカードについて詳しくは、『もっとテレビを楽しむ本』をご覧ください。

1 電源ケーブルをパソコン本体に接続する

モデルによって、ディスプレイ背面の形状は異なる場合があります。

2 もう一方のプラグをコンセントに差し込む

先にアース線を接続してから、プラグを差し込んでください。

- アース線の端子部分にはキャップが付いています。接続するときに取り外してください。
- 電話線用のアース端子には接続しないでください。通話中に雑音が入るおそれがあります。
- アース端子付きのコンセントが利用できないときは、お近くの電器店など電気工事士の資格を持つ人にアース端子付きコンセントの取り付けをご相談ください。

電源ケーブルを取り外すときは、先にプラグを抜いてから、アース線を取り外してください。

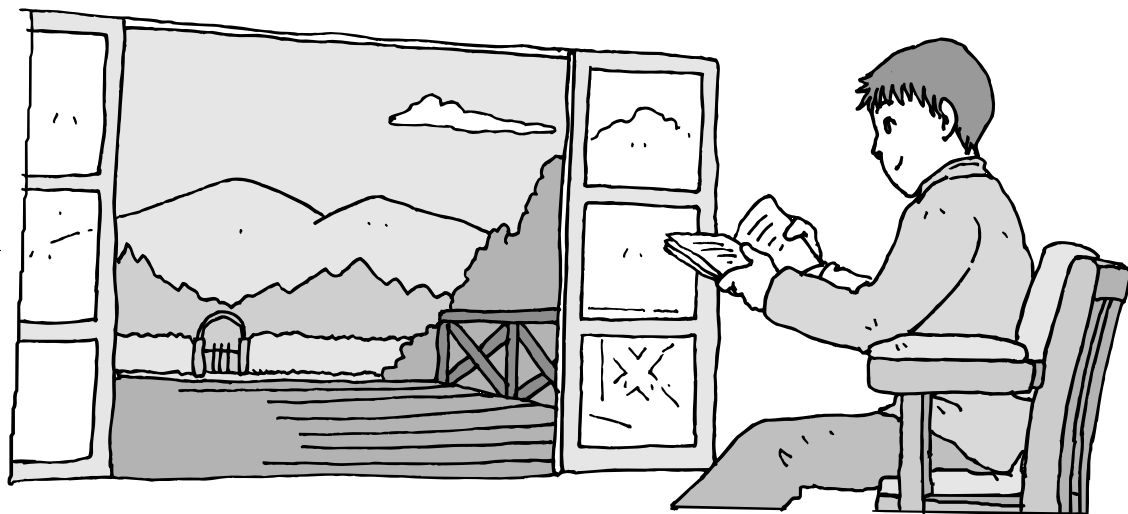
これで接続は完了です。

インターネット、周辺機器などの接続は後から

ここまでの接続が終わったら、続けて「第３章　セットアップを始める」に進んでください。第３章で説明している作業が終わってからインターネット、周辺機器などの接続をおこないます。

電源ケーブルなどが人の通る場所にないことを、もう一度確認してください。ケーブルを足に引っかけたりするとパソコンの故障の原因になるだけでなく、思わぬけがをすることもあります。

第3章

セットアップを始める

今度は、いよいよパソコンの電源を入れます。最初に電源を入れるときは、「セットアップ作業」といって、自分の名前を登録したりする操作が必要です。この後の説明をよく読んで、ゆっくり確実に操作してください。

この章の所要時間：約30～40分

電源を入れる

● 電源スイッチの場所を確認しておく

1 電源スイッチを押して電源を入れる

液晶ディスプレイのドット抜けについて

液晶ディスプレイは、非常に高精度な技術で作られていますが、画面の一部にドット抜け※（ごくわずかな黒い点や、常時点灯する赤、青、緑の点）が見えることがあります。
また、見る角度によっては、色むらや明るさのむらが見えることがあります。
これらは、液晶ディスプレイの特性によるものであり、故障ではありませんのであらかじめご了承ください。

※ 社団法人 電子情報技術産業協会(JEITA)のガイドラインに従い、ドット抜けの割合を付録の「仕様一覧」（239ページ）または『VALUESTAR Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』の「仕様一覧」に記載しています。ガイドラインの詳細については、以下のホームページをご覧ください。

「パソコン用液晶ディスプレイのドット抜けに関する定量的表記ガイドライン」
http://it.jeita.or.jp/perinfo/committee/pc/0503dot/index.html

電源スイッチを押しても、電源ランプが点灯しない場合、電源ケーブルが正しく接続されていないことが考えられます。「電源ケーブルを接続する」（31 ページ）をご覧ください。

画面が表示されるまで数分かかることもある

電源スイッチを押してから、次ページの画面が表示されるまでに数分かかることがあります。その間、NECのロゴ（社名のマーク）やWindows（ウィンドウズ）のマークなどが表示されたり、画面が真っ暗になったりしますが、故障ではありません。あわてて電源を切ったりせずに、そのままお待ちください。

操作の途中では、絶対に電源を切らない!

セットアップ作業がすべて終わるまでに、約30～40分かかります。「ここで一段落」（65ページ）までの手順が完了する前には、絶対に電源を切らないでください。電源ケーブルをいきなり抜いたりするのも、絶対ダメです。セットアップ作業が終わらないうちに電源を切ると、故障の原因になります。

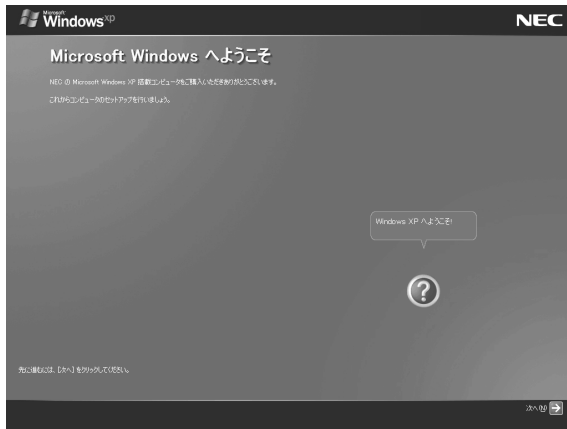
停電などのときは

万一、停電などの理由で電源が切れてしまったときは、一度電源ケーブルをコンセントから抜いて1分ほど待ち、再度コンセントに差しなおしてから、電源スイッチを押してください。セットアップの画面が表示されるときは、その画面からセットアップ作業を続けてください。セットアップの画面が表示されないときは、NEC 121コンタクトセンターにお問い合わせください。

では、始めましょう

ポイント

- 画面の矢印を動かしてみる
- 「クリック」という操作を覚える

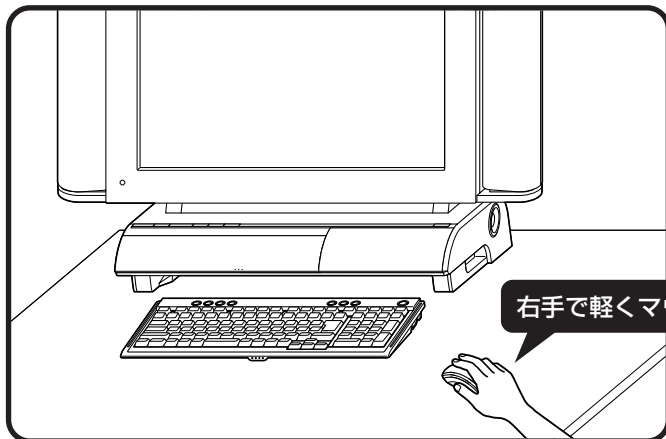
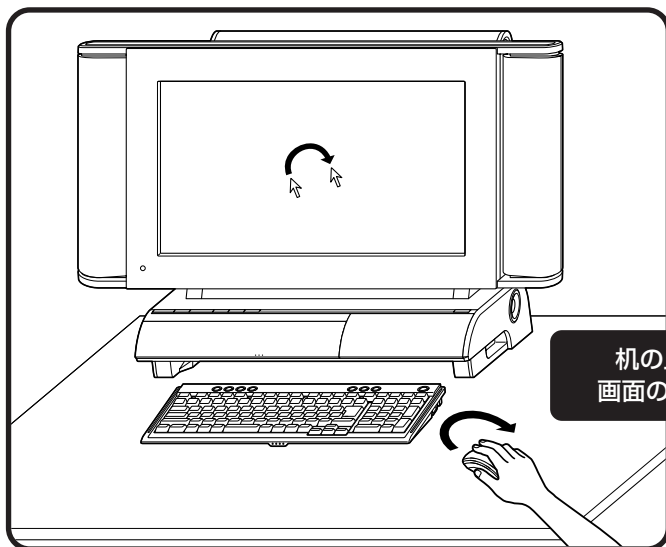
1 セットアップの最初の画面を確かめる

「Microsoft Windows へようこそ」という画面が表示されていますね。これがセットアップ作業の出発点です。

⌛は、「何もしないで待ってて」の合図

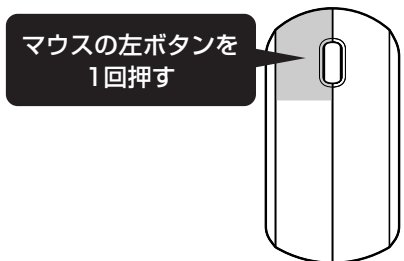
パソコンの内部で何かの処理が進んでいて、操作できないときには、画面に⌛のマークが出ることがあります。このマークが表示されているときや、「しばらくお待ちください」などと文字が表示されているときは、キーを押したり、マウスのボタンを押したりせずに、待っていてください。

パソコン内部での処理の進み具合を示すグラフが表示されることもあります。その場合も、何も操作せずに待ってください。

2 マウスを動かす

このマウスは、マウス底面から出ている赤い光をセンサーが検知して、動きを判断します。濃淡のはっきりした模様や柄のないところ、光沢や反射のないところで使うと、センサーが光を検知しやすく、快適に動きます。

マウスを動かすと、その動きに合わせて画面の矢印が動きます。マウスを動かすときは、マウスの前後左右に10cm程度のスペースをあけるとよいでしょう。肩の力を抜き、手首だけで動かすことがコツです。

- マウス底面のON/OFFスイッチが「ON」になっているか、底面の中央部が赤く光っているか確認してください。
- マウスがうまく動作しないときは、『活用ブック』の「困ったときの解決法」をご覧ください。
- まだ、マウスのボタンを押さないでください。

3 画面内の右下を見る

「次へ」の に、マウスの矢印 （マウスポインタ）を合わせてマウスの左ボタンを押すと、画面の表示が切り換わって「使用許諾契約」と書かれた画面になります。

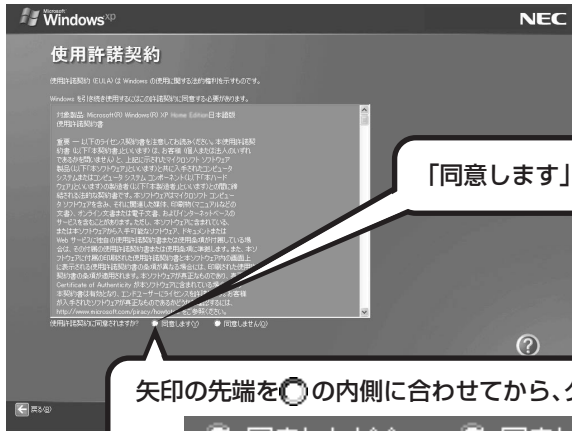
クリック

このような操作で、手順を次に進めたり、次ページを表示したりすることができます。
画面の絵や文字などに矢印を合わせて左ボタンを1回押す操作を「クリック」と呼びます。パソコンを使うときの一番基本的な操作なので、覚えてくださいね。

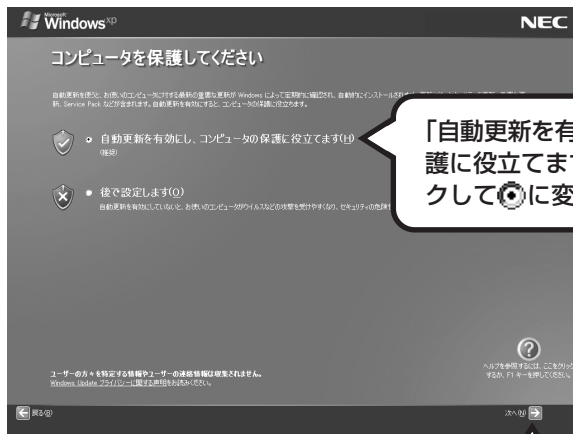
画面を見ながら手順を進める

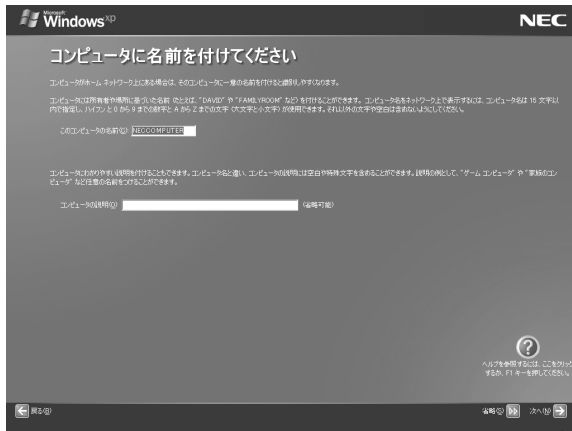
ポイント

- 画面に書かれたことを読みながら
- 指示にしたがってクリック

1　使用許諾契約に同意する

これで、使用許諾契約に同意することになります。「同意します」の左が◯から◉に変わらないときは、マウスの矢印がうまく合っていなかったので、やりなおしてください。

「使用許諾契約」とは、このパソコンに入っているソフトを違法にコピーして他人に渡したりしないという約束をしていただくことです。この契約に同意していただけない場合は、パソコンを使うことができません。画面に表示されている契約文の続きを読むには、文書表示欄の右下にある をクリックします。

2 コンピュータを保護する設定をする

Windowsがいつも最新の状態になるように、インターネット経由で定期的に更新情報が確認され、自動的にインストールされるようになります。Windowsの更新について詳しくは、『活用ブック』の「しっかりセキュリティであんしんインターネット」をご覧ください。

3 次の画面に進む

このまま、 をクリックする

・キーボードの操作に慣れていないかたは、名前を付けずにこのまま次に進んでかまいません。

・キーボードを使った文字入力に慣れている場合、半角英数文字でコンピュータの名前を自由に入力してください。名前を思いつかない場合は「VALUESTAR」(バリュースター)とするとよいでしょう。すでに何台かパソコンをお持ちの場合、「PC1」、「PC2」のように数字で区別してもかまいません。

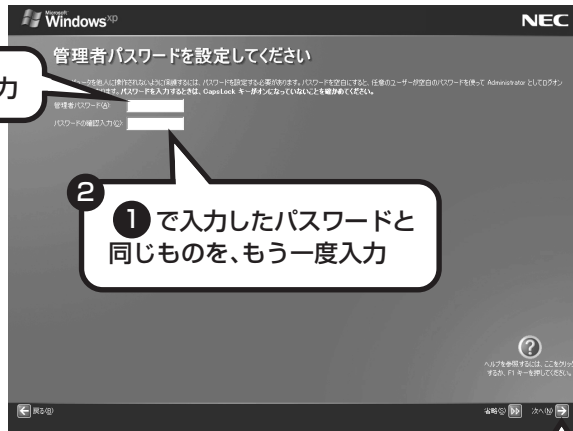
・次の文字列は、パソコンのシステムですでに使われているため、入力しないでください。

CON、PRN、AUX、CLOCK$、NUL、COM1 ～ COM9、LPT1 ～ LPT9

・すでに何台かパソコンをお使いの場合は、同じ名前を付けないでください。ネットワークで接続したときにエラーが表示されます。

・キーボード裏面のON/OFFスイッチが「ON」になっているか確認してください。

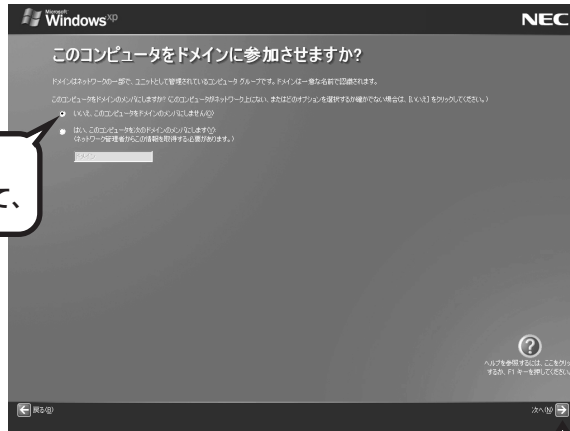
・キーボードがうまく動作しないときは、『活用ブック』の「困ったときの解決法」をご覧ください。

4 管理者パスワードを設定する

・入力したパスワードは「●●●」のように表示されます。これは、入力したパスワードが他人に見られてもわからないようにするためです。

・覚えやすく、忘れにくいパスワードを決めてください。大文字、小文字も入力したとおりに区別されます。

5 ドメインに参加させないようにして、次に進む

「いいえ、…」の左にある表示が ◉ になっていることを確認して、

このコンピュータをドメインに参加させますか?

をクリックする

・上の画面が表示されたときはコンピュータをドメインに参加させずにセットアップ作業を進めてください。

・Windows XP Media Center Editionでは、ネットワークでドメインに参加する機能はありません。

・上の画面が表示されずに次ページの画面が表示されることもあります。その場合、次ページの説明にしたがって進めてください。

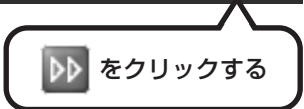
6 インターネットの接続方法を省略する

下の画面がどちらも表示されずに次ページの画面が表示された場合、次ページの説明にしたがって進めてください。

をクリックする

インターネットへの接続は、セットアップ作業が終わってから別に設定します。ここでは、そのまま「省略」をクリックしてください。

をクリックする

「インターネット接続が選択されませんでした」と表示されたときも、「省略」をクリックしてください。

7 ユーザー登録せずに次へ進む

「いいえ、今回はユーザー登録しません」の左にある◯をクリックして◉に変えてから、

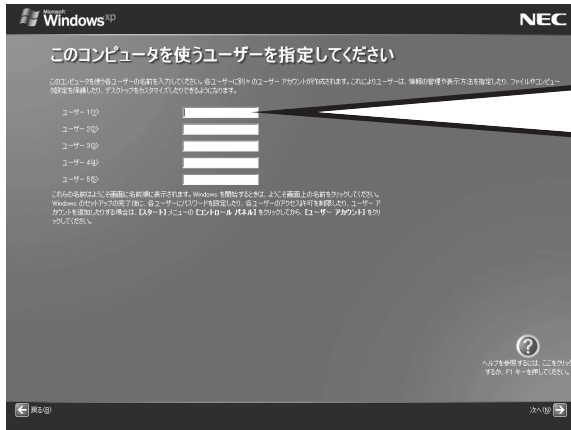
- 「今すぐインターネットアクセスのセットアップを行いますか？」と表示されたときは、そのまま次ページの説明にしたがって進めてください。
- 「いいえ、…」を選択しないで手順を進めるとセットアップ作業が途中で止まってしまいます。必ず、「いいえ、…」の左にある◯をクリックして◉に変えてください。
- Microsoftへユーザー登録する場合は、セットアップ作業が終わってからWindowsの「ヘルプとサポート」をご覧ください。

8 インターネット接続せずに次へ進む

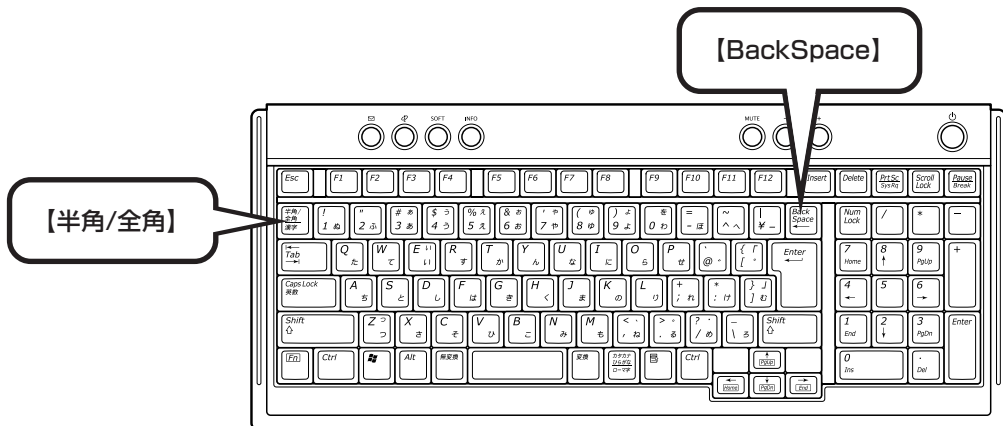
- 「このコンピュータを使うユーザーを指定してください」と表示されたときは、そのまま次ページの説明にしたがって進めてください。
- 「いいえ、…」を選択しないで手順を進めるとセットアップ作業が途中で止まってしまいます。必ず、「いいえ、…」の左にある◯をクリックして◉に変えてください。
- インターネットへの接続は、セットアップ作業が終わってから別に設定します。

キーボードを使って自分の名前を入れる

● ローマ字(アルファベット)で名前を入れる

1 「ユーザー1」欄に自分の名前を入れる

ここに小さな縦棒(|)が点滅しているのを見てから、キーボードの【半角/全角】を一回押し、キーボードから自分の名前をローマ字で入力する

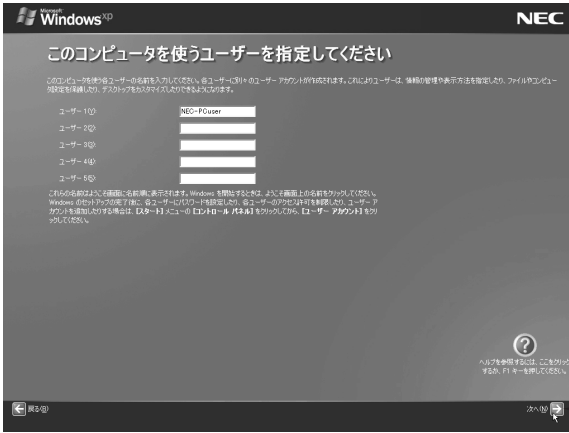
【例】「mita」と入力する場合なら

点滅していないときは、「ユーザー1」欄をクリックしてください。

・ここでは「ユーザー 1」欄だけ入力してください。
・次の文字列は、パソコンのシステムですでに使われているため、入力しないでください。
CON、PRN、AUX、CLOCK$、NUL、COM1 ～ COM9、LPT1 ～ LPT9
・コンピュータ名と同じ名前を付けないでください。
・キーボード裏面のON/OFF スイッチが「ON」になっているか確認してください。
・キーボードがうまく動作しないときは、『活用ブック』の「困ったときの解決法」をご覧ください。

入力を間違えたら

キーボードの【BackSpace】(バックスペース)を押してください。

ひらがなが表示されるときは

キーボードの【BackSpace】を押して、表示された文字をすべて消してください。次に、キーボードの【半角/全角】を押すと、アルファベットが表示されるようになります。

入力した名前を控えておく

ユーザー名：

パソコンのトラブルを解決するために、後でセットアップ作業をやりなおす（再セットアップする）とき、この名前が必要です。上の欄に控えておいてください。

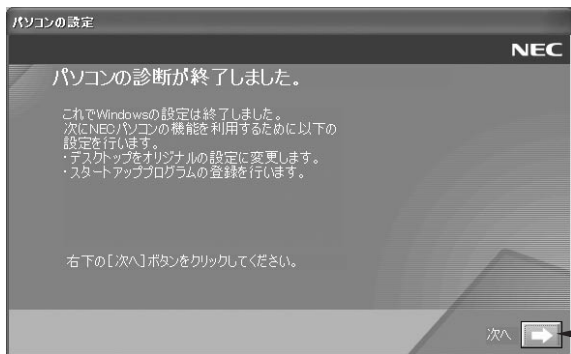
2 さらにセットアップ作業を進める

→ をクリックする

→ をクリックすると、しばらくしてからパソコンの電源が切れ、自動的に再度電源が入ります（これを「再起動」といいます）。
次ページの画面が表示されるまで何も操作せずに待っていてください。

パソコンが再起動しても、
まだセットアップ作業が残っています。

続けて次ページ以降の作業を進めてください。

3 残りのセットアップ作業に進む

をクリックする

画面に「パソコンの診断が終了しました。」と表示されます。これでWindowsの設定は終了しましたが、NECのパソコンの機能を利用するために、もう少しセットアップ作業を進める必要があります。

画面右下に次のようなメッセージが表示される場合があります。

コンピュータが危険にさらされている可能性があります。
ウイルスバスター2006 が無効になっています。
問題を解決するには、このバルーンをクリックしてください。

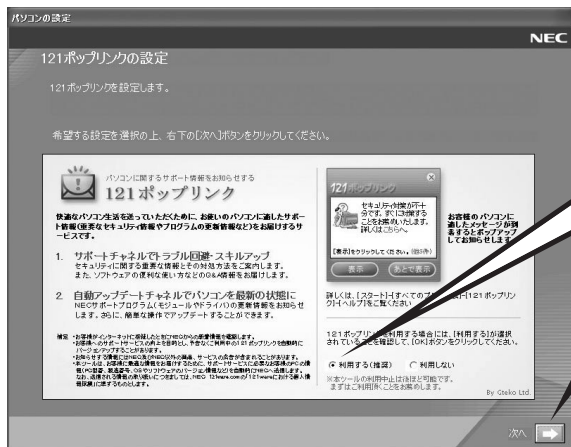
コンピュータが危険にさらされている可能性があります。
ウイルスバスター2006 が最新の状態でない可能性があります。
問題を解決するには、このバルーンをクリックしてください。

ここでこのメッセージが表示されても問題はありません。今はこのメッセージをクリックせずに、セットアップ作業を進めてください。

121ポップリンクを設定する

ポイント

● NEC から新しい情報が届くように、「利用する」を選ぶ

1 [→] をクリックする

「利用する(推奨)」の左が◉になっていることを確認して、

をクリック

121（ワントゥワン）ポップリンクは、お使いのパソコンに適したサービスサポート情報（危険度の高いウイルスに対するセキュリティパッチ（修正プログラム）やアップデートプログラム）を、NEC からインターネット経由でお知らせするサービスです。このパソコンでインターネット接続できるようになってから、新しい情報が発表されるたびに自動的に届くようになります。

121 ポップリンクの設定は、後から利用しないように変更することもできます。

この画面に変わったら、

をクリック

パソコンの電源が切れ、自動的に再度電源が入ります（1 回目の再起動）。再起動後、「システムの復元ポイントの設定」の画面が表示され、もう一度再起動（2 回目の再起動）します。2 回目の再起動後、65 ページの画面（デスクトップ画面）が表示され、デジタルハイビジョンTV モデルの場合は、続けて次ページの「TV 共通設定」が表示されます。

TVモデルの場合

65 ページへ進んでください。

デジタルハイビジョンTVモデルの場合

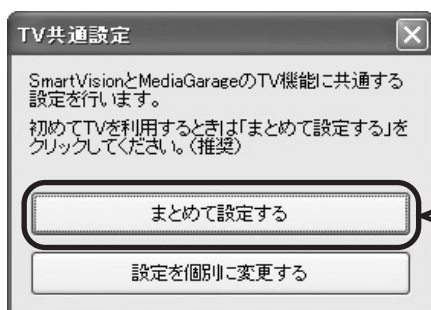
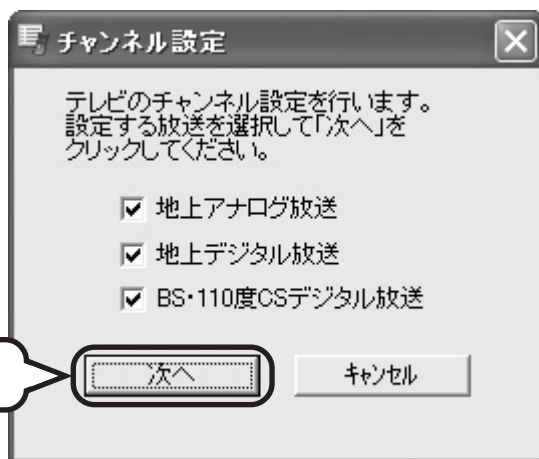
次ページへ進んでセットアップ作業を進めてください。

「TV共通設定」で設定する（デジタルハイビジョンTVモデルの場合）

ポイント

● アンテナ線の接続が終わっているときは、続けてチャンネルの設定をおこないます。

アンテナ線を接続していないかたは、「TV共通設定」の画面右上の☒をクリックして65ページへ進んでください。チャンネル設定は、アンテナ線を接続した後でおこなうことができます。

1 「TV共通設定」で「まとめて設定する」をクリックする

「スタート」-「すべてのプログラム」-「TV共通設定」-「TV共通設定」をクリックしても「TV共通設定」を起動できます。

「チャンネル設定ユーティリティ」が起動します。

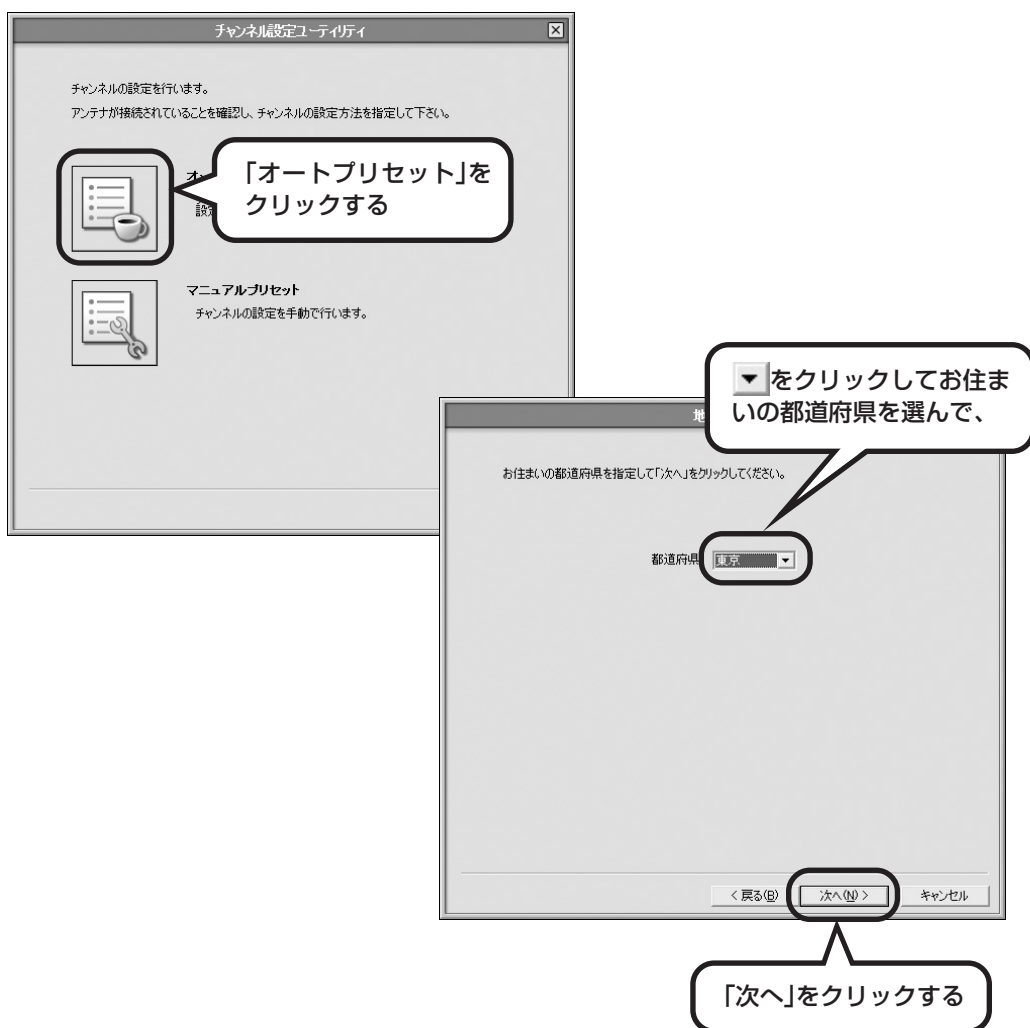
設定する放送を選びたいときは

たとえば地上アナログテレビの放送は視聴するけれどそれ以外の放送は視聴しないときなど、設定する放送を選びたいときは、視聴しない放送の☑をクリックして☐にしてから「次へ」をクリックしてください。

・地上アナログ放送の設定をする場合（56 ページ）
・デジタル TV 放送の設定をする場合（62 ページ）

地上アナログ放送の設定をする

地上デジタル放送の開始によりアナログ周波数変更対策がおこなわれた地域のかたは、放送局のチャンネル番号が変更されていることがあります。詳しくは、(社) 電波産業会のホームページのアナログ周波数変更対策情報 (http://www.arib.or.jp/anahen/index.html) をご覧いただくか、またはお住まいの地域の受信対策センターにご相談ください。

1 利用する地域を選んでチャンネルを設定する

オートチューニングが始まります。オートチューニングが終了すると、「プリセットチャンネル」の画面が表示されます。

・CATV（ケーブルテレビ）の視聴方法は、各CATV会社により異なります。視聴にホームターミナルなどの装置が必要かどうかは、各CATV会社にお問い合わせください。

・ホームターミナルを接続して視聴する場合は、S映像用ケーブル（または映像用ケーブル）と音声ケーブルを使って接続します。接続方法について詳しくは、『もっとテレビを楽しむ本』をご覧ください。

・CATV番組の放送局については、各CATV会社より届けられているCATV番組表などをご覧ください。

受信できないチャンネルがあったときは

受信できるチャンネルが正しく設定されなかったときは、次の手順でチャンネルを手動で設定してください。

① 設定するチャンネルの左の□をクリックして☑にし、「CH」の数字をクリック

② ▼をクリックしてチャンネルと放送局名を選ぶ

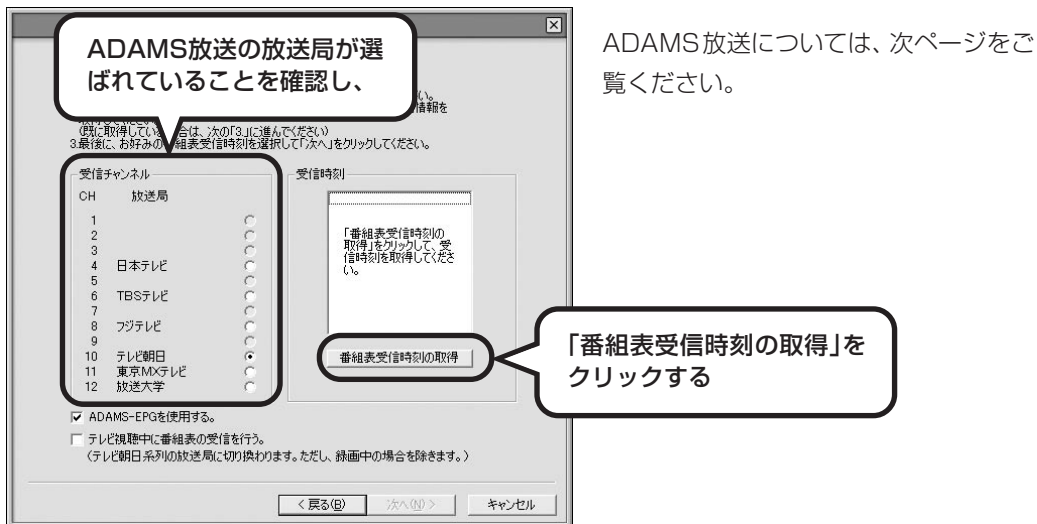
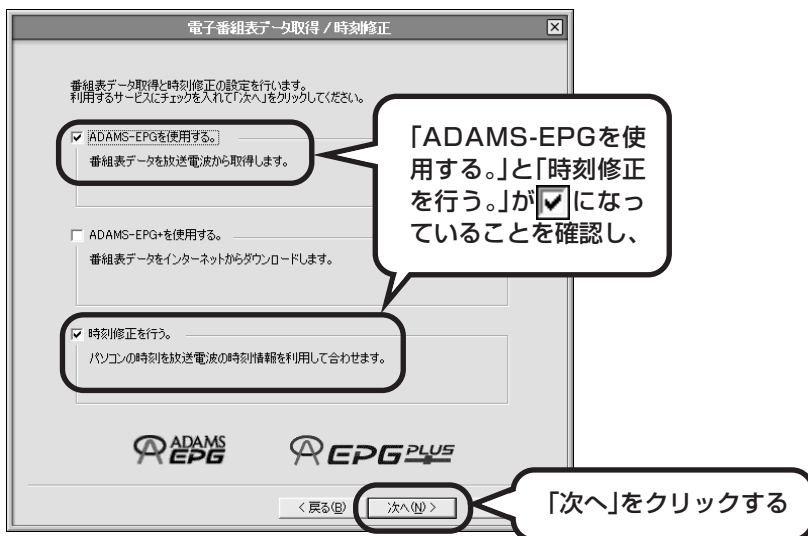
「放送局」の一覧に該当する放送局名がないときは、キーボードで放送局名を入力してください。

（「放送局」の一覧に放送局名があるときは、キーボードから入力せずに一覧から選んでください。キーボードから入力すると番組表が受信できなくなることがあります。）

③ 必要に応じて「微調整」のをドラッグして、番組を受信できるように調整する

設定するチャンネルすべてについて上記の手順をおこないます。設定が終わったら「次へ」をクリックしてください。

2 番組表の受信予約を設定する(1)

ADAMS放送については、次ページをご覧ください。

電波状態が悪かったり、お住まいの地域にADAMS放送を受信できる放送局がない場合は、メッセージが表示されます。この場合は、「ADAMS-EPGを使用する。」をクリックしてにして、「次へ」をクリックしてください。60ページ下の「時刻修正」の画面へ進みます。

番組表が放送される時刻情報を受信している間、左の画面が表示されます。

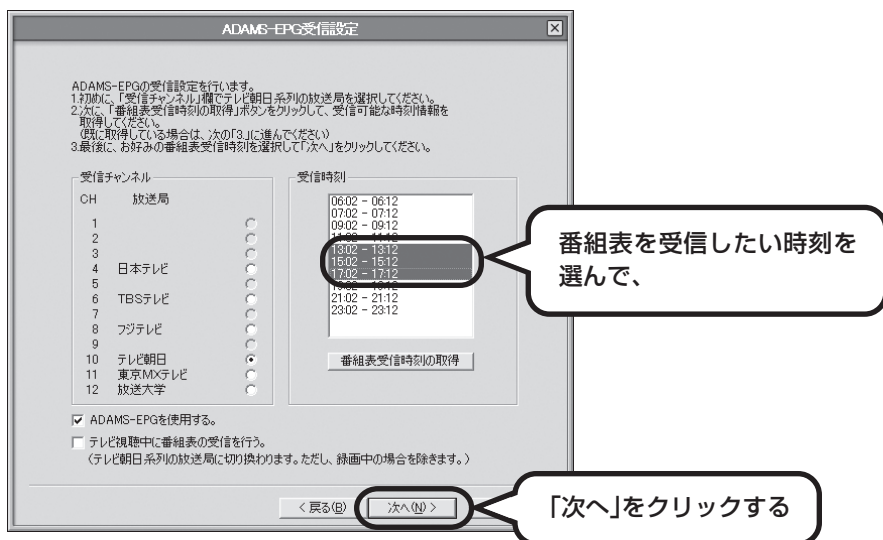
受信が完了すると、「ADAMS-EPG 受信設定」が表示されます。

番組表はADAMS放送の1コンテンツ

放 送 局	
北海道テレビ放送	朝日放送(ABCテレビ)
青森朝日放送	広島ホームテレビ
岩手朝日テレビ	山口朝日放送
東日本放送	瀬戸内海放送
秋田朝日放送	愛媛朝日テレビ
山形テレビ	九州朝日放送
福島放送	長崎文化放送
新潟テレビ21	熊本朝日放送
長野朝日放送	大分朝日放送
あさひテレビ	鹿児島放送
北陸朝日放送	琉球朝日放送
メ~テレ	テレビ朝日

番組表は ADAMS 放送の 1 コンテンツとして受信されます。ADAMS 放送のチャンネルはお住まいの地域によって異なります。
各地域の ADAMS 放送を送信している放送局は、次のとおりです（2006年4月現在）。

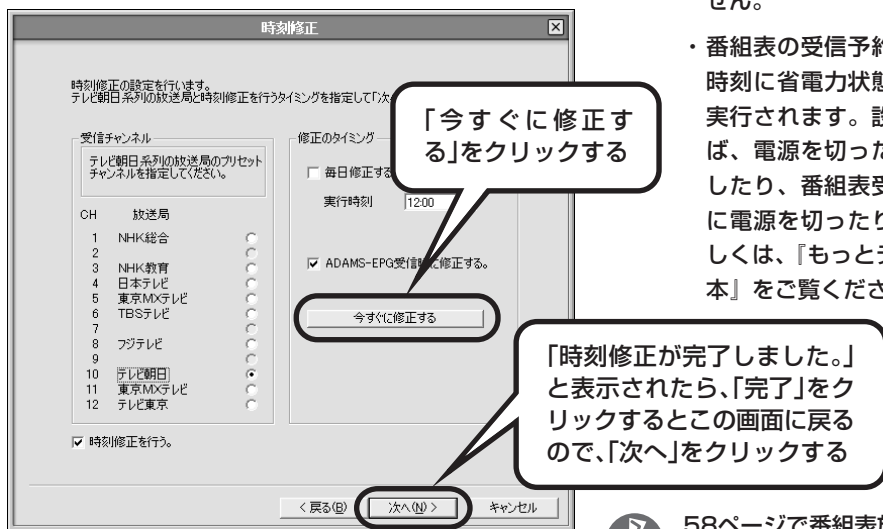
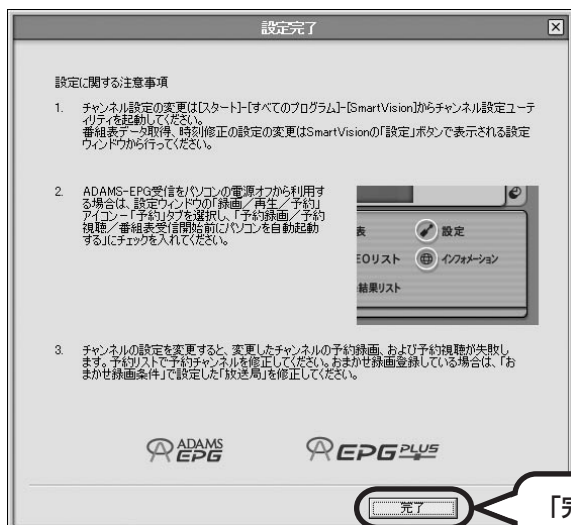
番組表は、約２時間おき（夜間除く）に放送されます。ここでは、その放送時刻情報を受信します。

3 番組表の受信予約を設定する(2)

キーボードの【Ctrl】を押しながらクリックすると、複数の時間帯を選ぶことができます。

・設定が終わっても、番組表の受信時間に番組表のデータを取得するまでは番組表は表示されません。

・番組表の受信予約は、設定した時刻に省電力状態から起動して実行されます。設定を変更すれば、電源を切った状態から起動したり、番組表受信後に自動的に電源を切ったりできます。詳しくは、『もっとテレビを楽しむ本』をご覧ください。

「今すぐに修正する」をクリックする

「時刻修正が完了しました。」と表示されたら、「完了」をクリックするとこの画面に戻るので、「次へ」をクリックする

58ページで番組表放送時刻を取得できなかった場合は、「時刻修正を行う。」をクリックして☐にして、「次へ」をクリックしてください。

これで、地上アナログ放送の設定は完了です。続けて、地上デジタル放送の設定と、BS・110度CS デジタル放送の設定をおこなう場合は、次ページへ進んでください。

地上アナログ放送のみを視聴する場合

54ページの「TV共通設定」で「地上デジタル放送」と「BS・110度CSデジタル放送」の☑をクリックして□にしている場合は、「設定を完了する」（64ページ）へ進んでください。

デジタルTV放送の設定をする

地上デジタル放送を視聴しないで、BS・110度CSデジタル放送のみを視聴する場合は、手順1の画面は表示されません。次ページの手順2へ進んでください。

1 チャンネルをスキャンする

チャンネルスキャンが始まります。
チャンネルスキャンが終わると、次の画面が表示されます。

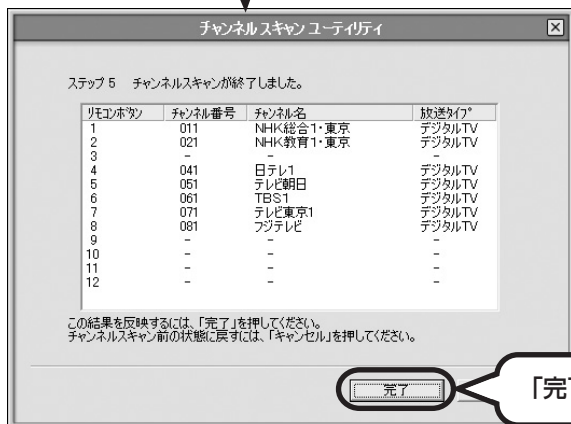
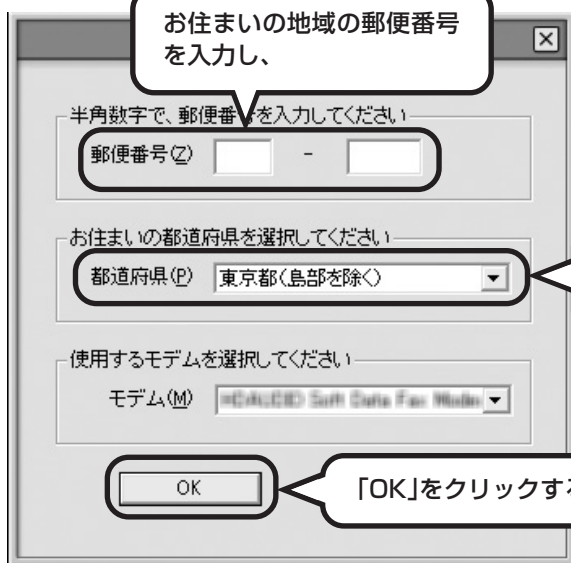
2　地域の設定をする

お住まいの地域の郵便番号を入力し、

半角数字で、郵便番号を入力してください

郵便番号(Z)　　-

お住まいの都道府県を選択してください

都道府県(P)　東京都(島部を除く)

お住まいの都道府県名(地域名)を一覧から選んで、

使用するモデムを選択してください

モデム(M)

OK

「OK」をクリックする

これで地上デジタル放送とBS・110度CSデジタル放送の設定は完了です。次ページへ進んでください。

設定を完了する

「OK」をクリックする

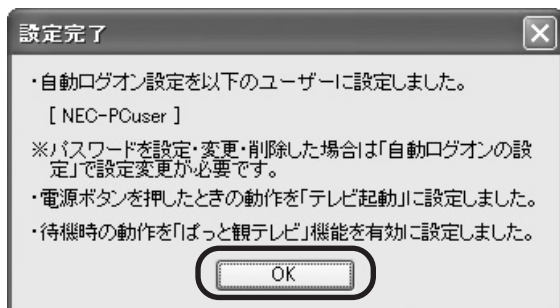
設定完了

・自動ログオン設定を以下のユーザーに設定しました。

[NEC-PCuser]

※パスワードを設定・変更・削除した場合は「自動ログオンの設定」で設定変更が必要です。

・電源ボタンを押したときの動作を「テレビ起動」に設定しました。

・待機時の動作を「ぱっと観テレビ」機能を有効に設定しました。

これで設定は完了です。次ページへ進んでください。

左の画面が表示されたら、「OK」をクリックしてください。

パスワードを設定・変更・削除した場合や自動ログオンするユーザーを変更したい場合は、「TV共通設定」の「自動ログオンの設定」で設定を変更する必要があります。設定内容について詳しくは、『映像・音楽を楽しむ本』をご覧ください。

- **引越しなどでお使いの地域が変わったときなど、設定を変更したいときは、「TV共通設定」の「TVチャンネルの設定」で設定を変更できます。**
- **デジタル放送の番組表を定期的に受信するよう、番組表の受信予約をすることができます。詳しくは、『もっとテレビを楽しむ本』をご覧ください。**

ここで一段落

● パソコンを使い始めるときの画面を見ておこう

ここまでの操作で、パソコンに自分の名前などを登録する、最初のセットアップ作業は一段落です。次回から、Windowsを起動すると、１～２分後には、いつもこの画面が表示されるようになります。

複数のユーザーを登録している場合、上の画面が表示される前に、使う人の名前を選択する画面が表示されます。

画面右下に次のようなメッセージが表示される場合があります。

コンピュータが危険にさらされている可能性があります。
ウイルスバスター2006 が最新の状態でない可能性があります。
問題を解決するには、このバルーンをクリックしてください。

これは、このパソコンに入っているウイルス対策ソフト「ウイルスバスター」が最新の状態ではない可能性があることをお知らせするものです。この後、パソコンをインターネットにつなぐと「ウイルスバスター」を最新の状態にできます。インターネットにつなぐまでは、このメッセージが表示されても、何もしなくてかまいません。詳しくは、「パソコンを安全に使うための設定をおこなう」（134ページ）をご覧ください。

Windows XP に搭載された新しい機能を知るには、ここをクリックしてください。ツアーを後で始めるには [スタート] メニューの [すべてのプログラム] をクリックしてから [アクセサリ] をクリックしてください。

画面右下に上のようなメッセージが表示されることがあります。これは、Windows XPの新機能を紹介するものですが、パソコンの操作に慣れてから見ることをおすすめします。なお、この表示はしばらくすると自動的に消えます。

お客様登録のお願い

お客様登録はこれからパソコンを安心・快適にお使いいただく上で非常に重要です。NEC パーソナル商品総合情報サイト「121ware.com（ワントゥワンウェア・ドット・コム）」では、お客様登録されたかたに充実したサポート・サービスを提供しております。この機会に是非ご登録ください。
※法人のお客様としてご使用の場合も、ご登録をおすすめします。
登録料・会費無料

ご登録の特典

特典１　電話サポート

商品についての電話相談窓口「121 コンタクトセンター」をご利用いただけます。
詳しくは、『121ware ガイドブック』をご覧ください。

特典２　メールサービス

ご利用製品のサポート情報やキャンペーンのご案内などをメールマガジンでお届けいたします。
詳しくは、『121ware ガイドブック』をご覧ください。

特典３　インターネットサポート

121ware.com で「ログイン ID」を取得していただきますと、さまざまなサポート・サービスをご利用いただけます。詳しくは、『121ware ガイドブック』をご覧ください。
ログインIDは、「121ware.com」（http://121ware.com/）およびNECショッピングサイト「NEC Direct」（http://www.necdirect.jp/）で共通にご利用いただける ID です。取得方法については『121ware ガイドブック』をご覧ください。

◆ 121ware.com でご利用いただけるサポート・サービス

ログインIDをご登録いただくと…	お客様とNECとのコンタクト履歴がわかる！	電話サポートがよりつながりやすく！	買い取りサービスの申し込みができます！	
ログインIDとE-mailアドレスをご登録いただくと…	121オリジナルメールマガジンをお届け！	「NEC Direct」※でお得にお買い物！	※日本電気(株)が運営するショッピングサイトです。	
ログインIDと保有商品をご登録いただくと…	保有商品の情報をすばやくGET！	保有商品に関するQ&A情報をすばやくGET！	保有商品に合うモジュールをすばやくGET！	パソコンを最新の状態に！「自動アップデート」
ほかにもいろいろなサービスが！	インターネットから電話サポート予約サービス！	お役立ち情報フォローアップメールサービス！		

最新情報・詳細につきましては、インターネットでご確認ください。

お客様登録の方法

お客様登録をして、電話の問い合わせのときに必要な「121wareお客様登録番号」と、インターネットサポート・サービスをご利用になる際に必要な「ログインID」を取得してください。
ご登録いただくことでお客様に合ったサポート・サービスをご提供させていただきます。

インターネットによる登録をおすすめします。
「121wareお客様登録番号」と「ログインID」を同時に取得でき、すぐにインターネットサポートが受けられます。
まだインターネットをお使いになれないお客様にはFAX登録をご用意しております。ただし、FAX登録からでは「121wareお客様登録番号」のみの取得になり、インターネットでのさまざまなサービスがご利用いただけません。
インターネットが使えるようになり次第、「ログインID」の取得をおすすめします。

インターネット登録（推奨）

登録の前に、インターネット接続の設定が必要です。設定の方法については、第5章または第6章をご覧ください。

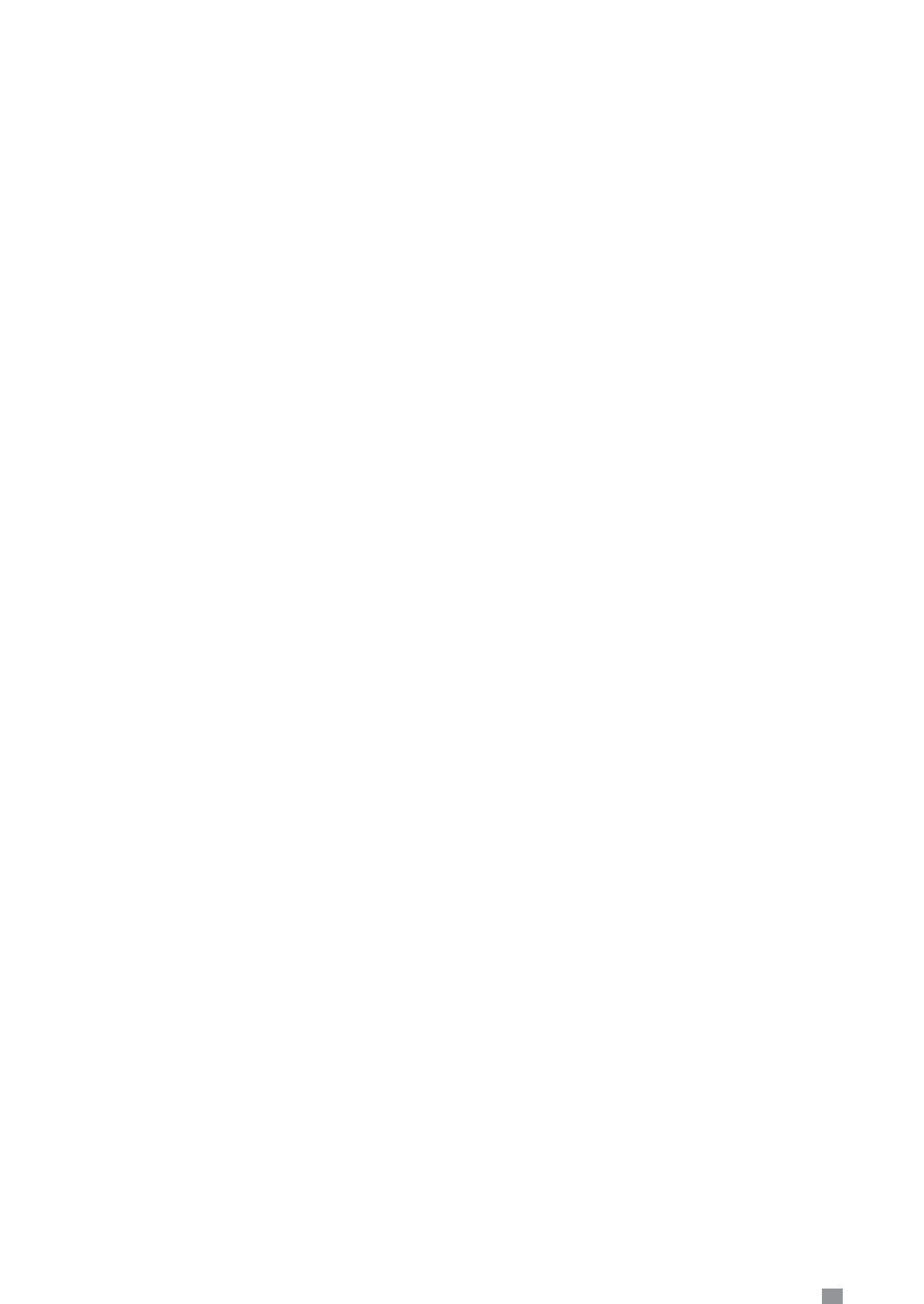
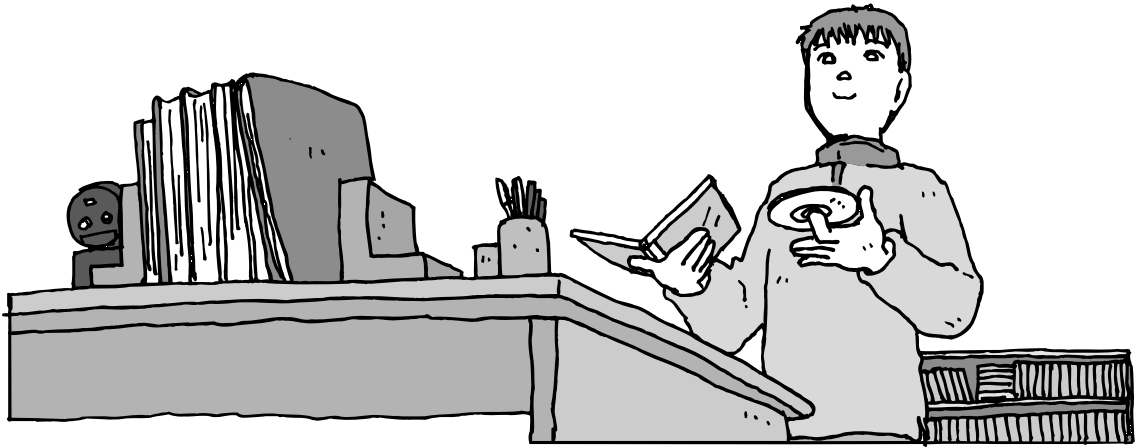
インターネットに接続して、NECパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com」のマイアカウント（http://121ware.com/my/）から登録します。詳しくは、『121wareガイドブック』をご覧ください。

FAX登録

FAX用紙はNECパソコン情報FAXサービスから取り出してください。

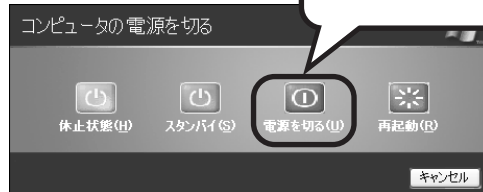
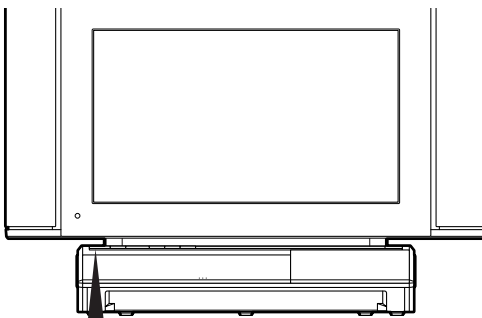
お手持ちのFAXから「0120-977-121」（フリーコール）に電話します。ご希望の窓口案内のアナウンスが流れますので、FAX情報サービス窓口番号である9番を押します。
FAX情報サービスにつながりますので、アナウンスにしたがい、BOX番号3002と#を押し、お客様登録用紙を取り出してください。必要事項をご記入の上、FAXでお送りください。

※番号をよくお確かめになり、おかけください。

第4章

基本中の基本の操作

電源の入れ方／切り方、CD-ROM や DVD のディスクをセットする方法など、このパソコンを使うときの最も基本的な操作を説明します。インターネットの接続や設定に進む前に、この章に目をとおしておくとよいでしょう。

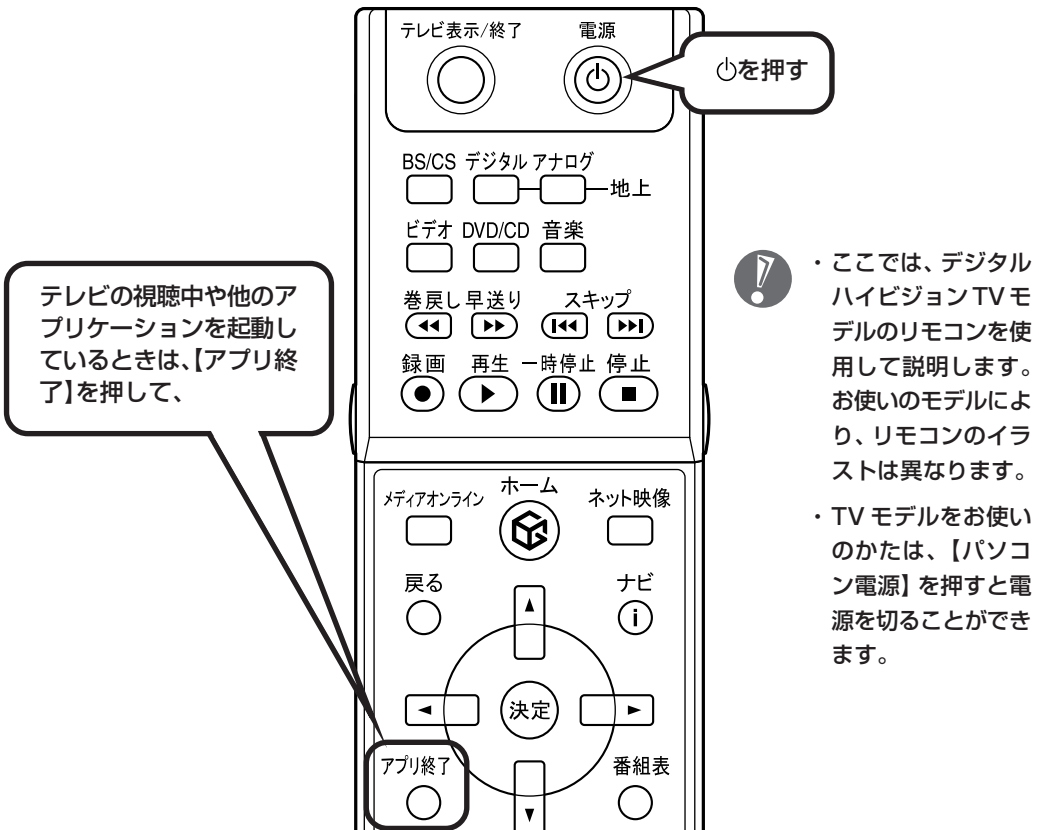
電源の切り方

パソコンの電源を切るときは、マウスで操作します。本体のスイッチやボタンを押すのではありません。いきなり電源ケーブルを抜いたりするのは、絶対ダメです。

1 画面を見ながら、マウスを操作して電源を切る

2 電源が切れたことを確認する

数秒後に、ディスプレイの画面が暗くなり、自動的に電源が切れます。

リモコンの⏻から電源を切ることもできる

・ここでは、デジタルハイビジョンTVモデルのリモコンを使用して説明します。お使いのモデルにより、リモコンのイラストは異なります。

・TVモデルをお使いのかたは、【パソコン電源】を押すと電源を切ることができます。

リモコンの⏻を押してもパソコンの電源を切ることができます。
テレビの視聴中など、パソコンの画面から離れているときにリモコンで操作してください。

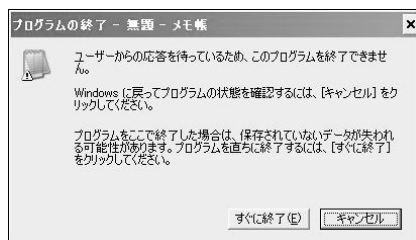
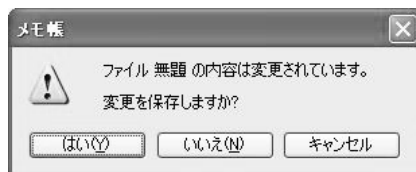
続けて電源を入れるときは

いったん電源を切ってから電源を入れなおすときは、電源が切れてから5秒以上待って電源スイッチを押してください。

電源が切れるまでに少し時間がかかることも

パソコンの状態によっては、「電源を切る」をクリックした後、電源が切れるまでに数秒以上の時間がかかることもあります。あわてずにお待ちください。

保存していない文書があるとき

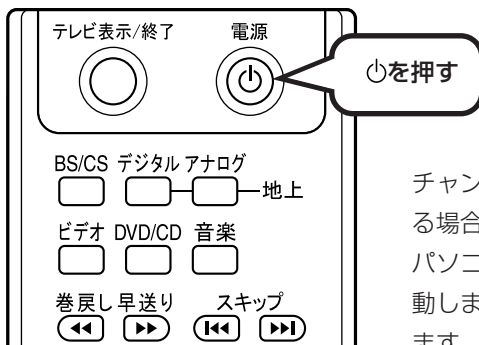
ソフトを使って文書などを作成している場合、文書を保存しないで電源を切ろうとすると、画面にメッセージが表示されることがあります。
そのままにしていると、数秒後、さらにメッセージが表示されます。
作成した文書などを保存したい場合、「プログラムの終了」の画面が表示されたら「キャンセル」をクリックしてください。使用中のソフトで文書などを保存してから電源を切るようにしましょう。

マウスの操作で電源が切れないとき

画面の表示が動かなくなったり、操作の途中でマウスやキーボードが反応しなくなったりして、パソコンの電源が切れなくなってしまうことがあります。その場合、パソコン本体の電源スイッチを４秒以上押し続けると、強制的に電源を切ることができます。強制的に電源を切ったときは、電源が切れてから５秒以上待ち、もう一度電源スイッチを押してパソコンの電源を入れなおしてください。パソコンの電源が入ったら、改めてマウスの操作で電源を切ってください。

パソコン本体の電源スイッチを押し続けて強制的に電源を切ると、パソコンに負担がかかります。何度も繰り返すと、パソコンが起動しなくなってしまうこともあるため、この方法で電源を切ることは、できるだけ避けてください。

電源の入れ方：デジタルハイビジョンTVモデルの場合

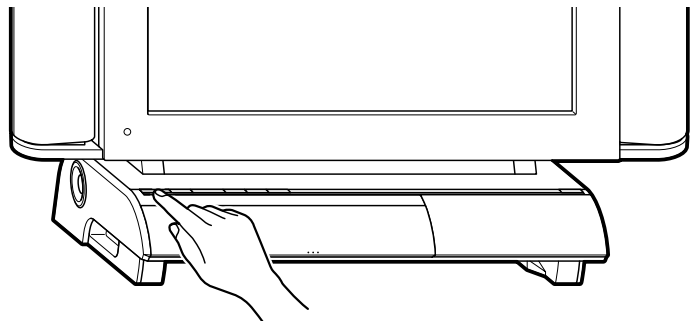
リモコンとパソコン本体、キーボードのどこから電源を入れるかで何が起動するか決まります。

テレビを見ながらパソコンを起動したいときは、リモコンの【電源】を押す

プリンタなどの周辺機器を接続している場合は、パソコン本体の電源を入れる前に周辺機器の電源を入れてください。

チャンネル設定（54ページ～64ページ）が終了している場合は、テレビの画面が表示されます。
パソコンのテレビランプが青色に点滅し、Windowsも起動します。青色に点灯すると、Windowsの起動が完了します。

リモコンの【アプリ終了】を押すか、パソコン本体の「テレビ表示/終了」ボタンを押すと、Windowsのデスクトップ画面が表示されます。

モデルによって、表示される画面の絵柄が異なる場合があります。

チャンネル設定（54ページ～64ページ）をおこなっていない場合は、Windowsが起動します。

パソコンの電源スイッチを押してもテレビの画面が表示されます。

Windowsを起動したいときは、キーボードの電源スイッチを押す

プリンタなどの周辺機器を接続している場合は、パソコン本体の電源を入れる前に周辺機器の電源を入れてください。

Windows が起動して、デスクトップ画面が表示されます。

設定を変更するには

設定を変更する場合は、「スタート」-「すべてのプログラム」-「TV 共通設定」-「TV 共通設定」-「設定を個別に変更する」-「電源ボタンの設定」をクリックして設定してください。
設定内容について詳しくは、『映像・音楽を楽しむ本』をご覧ください。

電源の入れ方:TVモデルの場合

電源スイッチを押して電源を入れます。

1 電源スイッチを押す

プリンタなどの周辺機器を接続している場合は、パソコン本体の電源を入れる前に周辺機器の電源を入れてください。

リモコンの【パソコン電源】ボタンを押しても、電源を入れたり省電力状態からもとに戻すことができます。

省電力状態については次ページをご覧ください。

1～2分後に、パソコンを使い始めるときの画面が出てきます。

モデルによって、表示される画面の絵柄が異なる場合があります。

- 電源を入れてから、左の画面が表示されて、CD/ハードディスクアクセスランプが点滅しなくなるまで、電源スイッチを押したりしないでください。無理に電源を切ると、故障の原因になります。
- 複数のユーザーを登録している場合、左の画面が表示される前に、使う人の名前を選択する画面が表示されます。

スタンバイ機能について

パソコンを使っているとき短時間だけ作業を中断したい場合、そのつど電源を切っていると、作業の再開に時間がかかってしまいます。「スタンバイ機能」を利用すると、パソコンの消費電力を抑えながら、すぐに作業を再開することができます。

20分以上使わないと自動的に画面が消える(ご購入時)

マウスやキーボードを操作していない時間が 20 分以上たつと、画面の表示が消えて暗くなり、パソコン本体の電源ランプがオレンジ色に点灯します。この状態を「スタンバイ状態」と呼びます。ご購入時には、自動的にスタンバイ状態になるように設定されています。
スタンバイ状態では、消費電力を抑えるため、パソコン本体に内蔵されているハードディスクの電源も自動的に切れます。

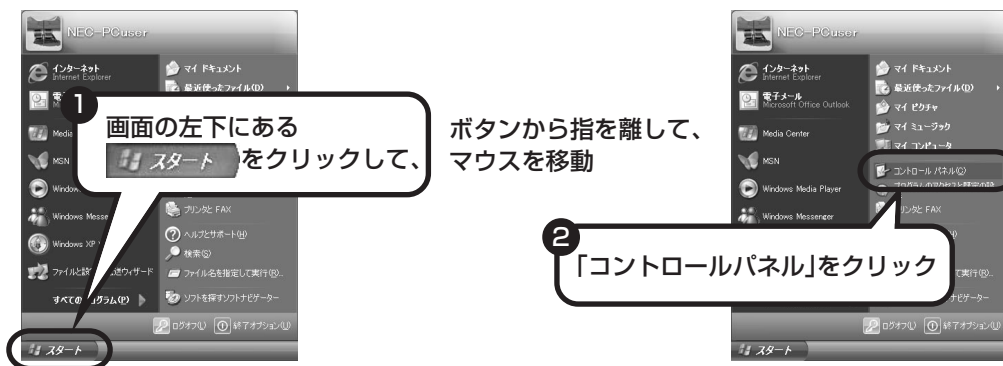
もとに戻すには、電源スイッチを押す(押し続けないこと)

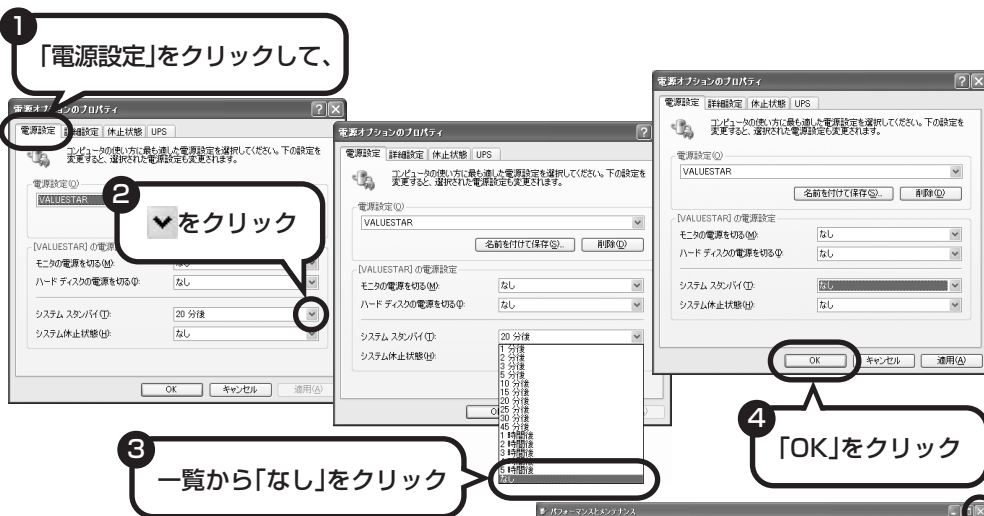
パソコン本体の電源スイッチを押すとスタンバイ状態になる前の画面が表示されます。
デジタルハイビジョン TV モデルの場合は、キーボードの電源スイッチを押してください。パソコン本体の電源スイッチを押した場合、スタンバイ状態から復帰した後の画面は設定によって異なります。

電源スイッチを押し続けないでください。4秒以上押し続けると、パソコンの電源が切れてしまいます。

自動的にスタンバイ状態にならないようにするには

次の手順で、自動的にスタンバイ状態にならないように設定を変えることができます。

1 コントロールパネルの画面を表示する

2 「パフォーマンスとメンテナンス」、「電源オプション」の順にクリック

3 「電源設定」で「システムスタンバイ」を「なし」に変更

省電力機能の詳しい説明は、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」で

スタンバイ機能は、このパソコンが備えている「省電力機能」のひとつです。パソコンの使用状態や利用するソフト、周辺機器によっては、省電力機能を使わない方がよいことがあります。詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「省電力機能」に説明があります。

これで、設定の変更は終わりです。

各部の名称と役割

ここでは、基本的なボタンなどにかぎって説明します。パソコン本体側面の端子類の説明など、詳しい情報を知りたいときは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「各部の名称と役割」をご覧ください。

パソコン本体

電源スイッチ/電源ランプ

パソコン本体の電源を入れるとき、省電力状態から復帰するときに押します。デジタルハイビジョンTVモデルの場合、チャンネル設定が終わっていると、パソコンと同時にテレビが起動します。電源が入っているときは、電源スイッチの下のランプが青色に点灯します。スタンバイ状態のときはオレンジ色に点灯します。電源が切れているときは、消灯します。

CD/ハードディスクアクセスランプ( )

CDやハードディスクを読み書きしているときに点滅・点灯します。
点滅・点灯中は、電源スイッチや、DVD/CDドライブのディスクトレイイジェクトボタンを押さないでください。

テレビボタン(TVモデル)
テレビ表示/終了ボタン
(デジタルハイビジョンTVモデル)

テレビを視聴するときに押します。かんたんAV視聴ソフト「MediaGarage(メディアガレージ)」が起動します。TVモデルでは、電源が切れているときに押すと、インスタント機能が起動します。※

ニューメリックロックキーランプ( )

このランプが点灯しているとき、キーボード右側にある、電卓のように並んだ数字キー(テンキー)で数字を入力できます。

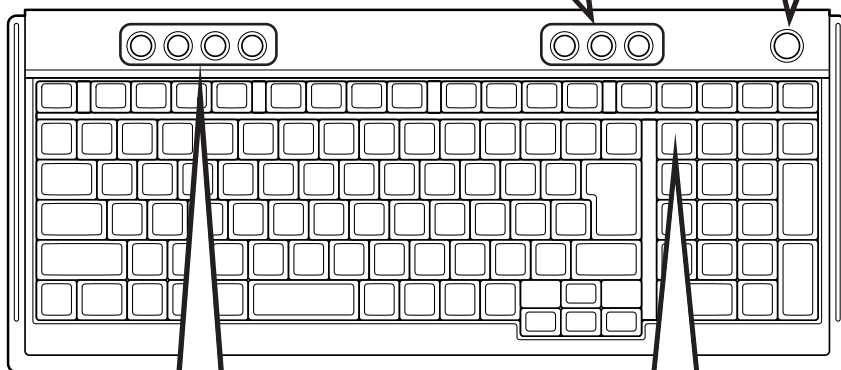
DVD/CDドライブ

CD-ROMやDVD-ROM、音楽用CDなどを楽しむときは、ここにセットします。

※「MediaGarage」およびインスタント機能については『映像・音楽を楽しむ本』をご覧ください。

キーボード

ボリュームボタン
＋を押すと大きくなり、－を押すと小さくなります。MUTEを押すと音が消えます。

電源スイッチ
パソコン本体の電源を入れるときや、省電力状態から復帰するときに押します。

ワンタッチスタートボタン

(メール)
メールを利用するためのソフトが始まります。

(インターネット)
ホームページを見るためのソフトが始まります。

SOFT
このパソコンに入っているいろいろなソフトを利用するための「ソフトナビゲーター」が始まります。

INFO
パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」が表示されます。

【NumLock】
このキーを押すと、ディスプレイ右下にあるニューメリックロックキーランプ(1)の点灯／消灯が切り換わります。
ニューメリックロックキーランプが点灯しているとき、キーボード右側にある、電卓のように並んだ数字キー(テンキー)で数字を入力できます。

詳しい機能については「パソコン各部の説明」

このパソコンのいろいろな部分の機能や使い方を知ろう

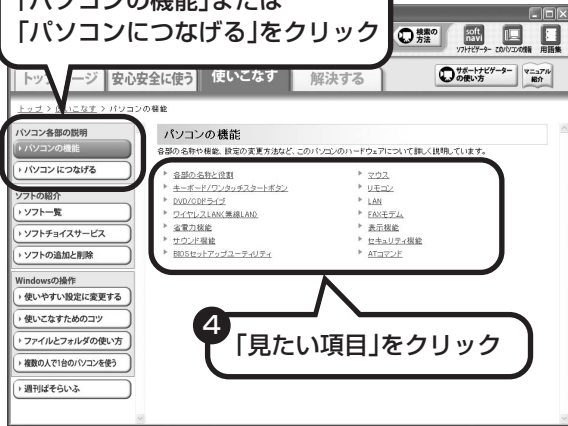
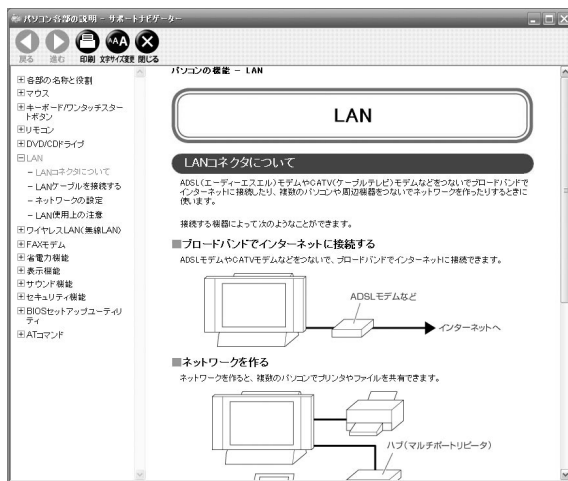
ここで紹介しているボタンやドライブについて、もっと詳しく知りたいときには、「サポートナビゲーター」の中にある「パソコン各部の説明」を見てみましょう。また、ここでは紹介していない部分の機能や使い方も説明しています。たとえば、次のような機能や使い方について知ることができます。

・トリプルメモリースロット
「SDメモリーカード」「メモリースティック」「xD-ピクチャーカード」などが使えます。デジタルカメラで撮影した画像を見たり、音楽CDの曲を保存するのに便利です。

・光デジタルオーディオ（S/PDIF）出力端子
AVアンプなどのデジタル入力機能を持ったオーディオ機器を接続し、音楽などを楽しむことができます。

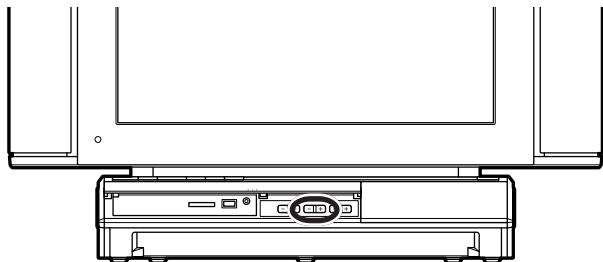
・IEEE1394（DV）コネクタ（4ピン）
デジタルビデオカメラなどのデジタルビデオ機器を取り付けて、映像の取り込みや編集、他のデジタルビデオ機器への出力ができます。

ほかにも、「パソコン各部の説明」では、このパソコンの便利な設定の方法についても詳しく説明しています。

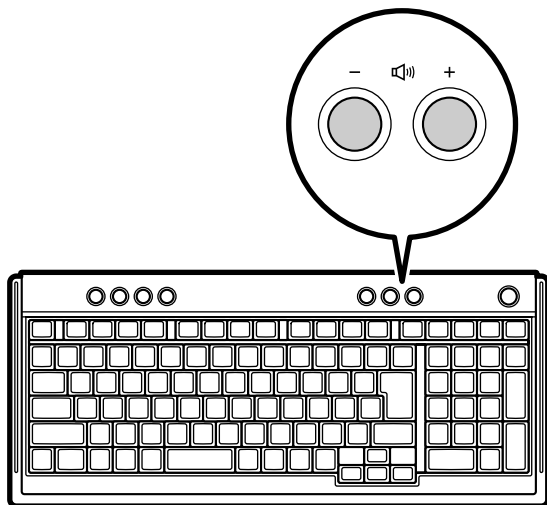
「パソコン各部の説明」を見るためには

「パソコン各部の説明」の画面が表示されます。画面左のしおりをクリックすると、ほかのページを見ることができます。

音量を調節する

パソコンの音が大きすぎる、小さすぎると感じたときは、音量を調節できます。

本体前面のボタンで調節する

（本体前面のカバーを開けたところ）

前面のカバーの突起部を軽く押すと、カバーが開きます。
＋を押すと大きく、－を押すと小さくなります。

キーボードから調節する

＋を押すと大きく、－を押すと小さくなります。

CD-ROMやDVDの扱い方

CD-ROMやDVDなどをパソコンで楽しむときの取り扱い上の注意、入れ方と出し方を説明します。

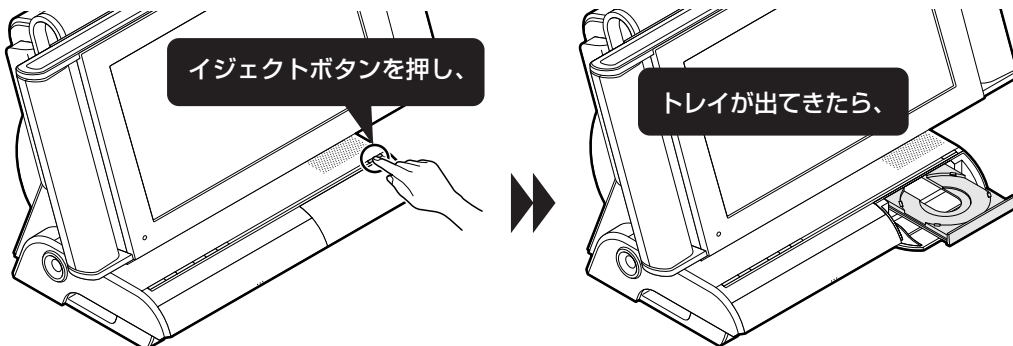
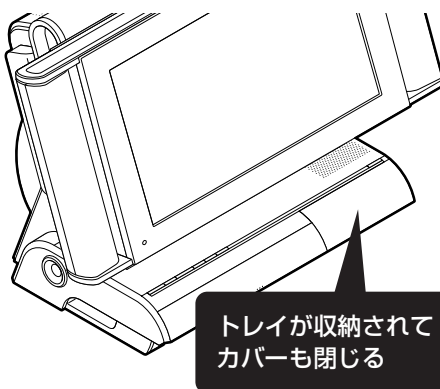
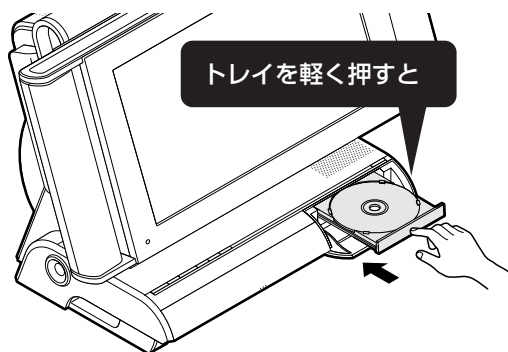
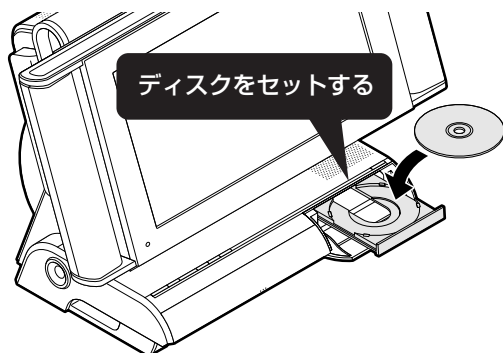
- ラベルやテープが貼られているなど、重心バランスの悪いディスクを使用すると、使用時の振動や故障の原因になります。
- Windows 95/98/Me対応のCD-ROMは、このパソコン（Windows XP）で使えないものがあるため、ご購入前に確認してください。
- Macintosh専用と書かれているCD-ROMは使えません。
- 使用するディスクによっては、最高速度で書き込み、読み込みができない場合があります。
- このパソコンで使えるディスクについて詳しくは、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「DVD/CDドライブ」をご覧ください。

ディスクを取り扱うときの注意

次の注意事項を守ってください。

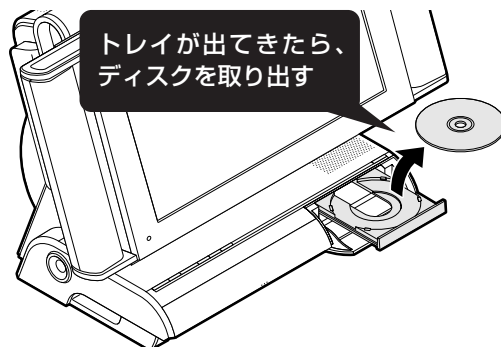
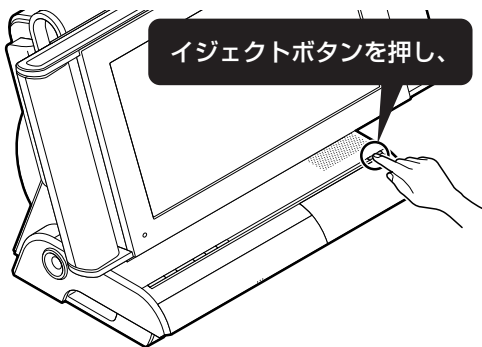
- データ面（文字などが印刷されていない面）に手を触れない。
- ディスクにラベルを貼ったり、傷つけたりしない。
- ラベル面に文字を書くときは、フェルトペンなどペン先の柔らかいものを使う。
- ディスクの上に重い物を載せない。ディスクを曲げたり落としたりしない。
- 汚れたときは、柔らかい布で内側から外側に向けてふく。
- 汚れが落ちにくいときは、CD専用のスプレーを使う。
- ベンジン、シンナーなどは使わない。
- ゴミやホコリの多い場所で使わない。
- 直射日光の当たる場所や湿度の高い場所に保管しない。

1 イジェクトボタンを押してトレイを出す

トレイは、パソコンの電源が入っているときのみ出し入れできます。

2 ディスクを入れる

トレイを軽く押す代わりに、イジェクトボタンを押してディスクを収納することもできます。

3 ディスクを取り出す

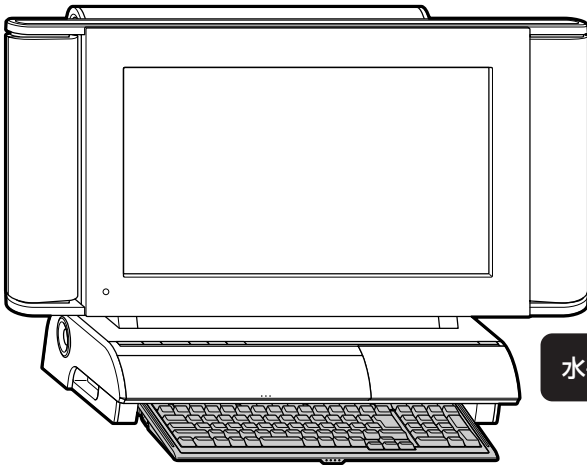
イジェクトボタンを押し、

トレイが出てきたら、
ディスクを取り出す

ディスクを取り出したら、トレイを軽く押すか、イジェクトボタンを押してください。トレイが収納されてカバーが閉じます。

キーボードを収納する

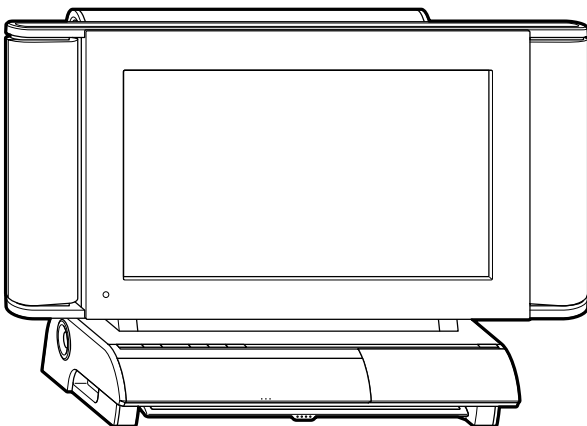
このパソコンのキーボードは、スライドインキーボードです。
キーボードを使用しないときは、パソコン本体の下に収納することができます。

1 キーボードをパソコン本体の下に入れる

キーボード裏面の足を立てている場合は、倒してください。

キーボードを本体の下に入れて、そのまま奥にスライドさせせます。

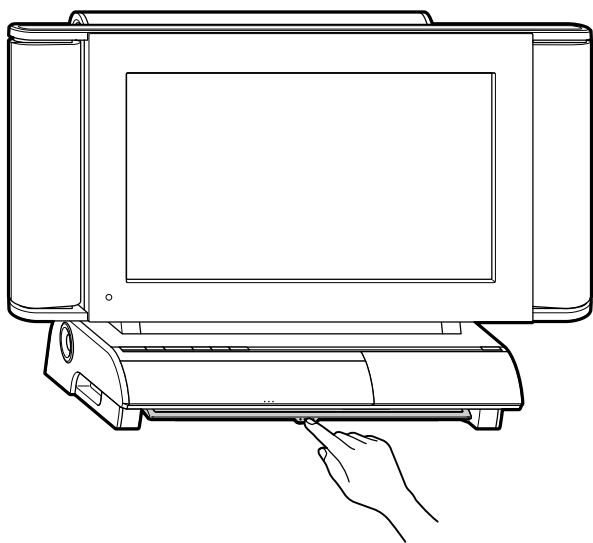
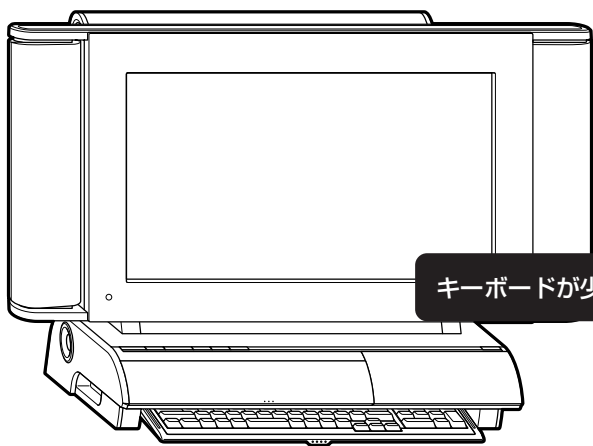
キーボードを斜めにしないように、水平に入れてください。

水平になるように入れる

キーボードの中心を押して、
カチッというまで押し込む

パソコンの電源が入っている場合、キーボードを奥まで押し込むと、かんたんAV視聴ソフト「MediaGarage（メディアガレージ）」が起動します。

キーボードを収納したときに、パソコンの電源を切ったり、ほかのソフトを起動するように設定を変更することもできます。詳しくは、「「キーボードシンクロナイザー」で設定する」（88ページ）をご覧ください。

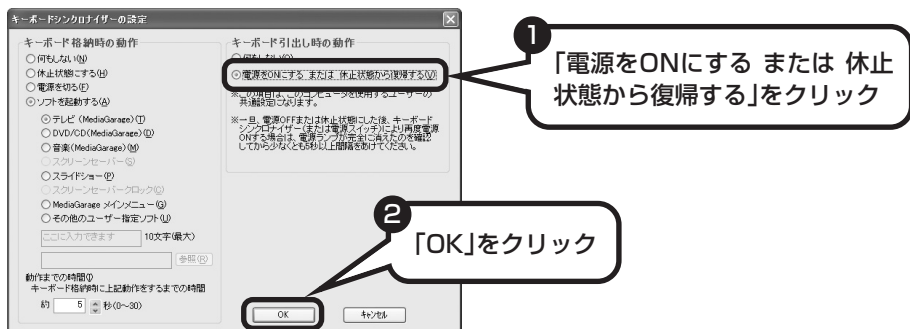
2　キーボードを取り出す

キーボード前面の中央部分を少し押します。

キーボードを取り出したときに、パソコンの電源を入れたり、休止状態から復帰するように設定することができます。詳しくは、「「キーボードシンクロナイザー」で設定する」（88ページ）をご覧ください。

静かに引き出してください。
引き出したら、必要に応じてキーボード裏面の足を立ててください。

「キーボードシンクロナイザー」で設定する

「キーボードシンクロナイザー」というソフトで、パソコン本体の下に収納されたキーボードを取り出したときにパソコンに電源を入れたり､休止状態から復帰したりするように設定することができます（ご購入時の状態では、「何もしない」に設定されています)。

1 画面左下の「スタート」-「すべてのプログラム」-「キーボードシンクロナイザー」-「キーボードシンクロナイザーの設定」の順にクリック

2 「キーボード引出し時の動作」を設定して「OK」をクリック

これで設定が変更できました。
この画面で、キーボードを収納したときの動作も設定できます。

パソコン本体の電源を切った後(または休止状態にした後)､収納されたキーボードを取り出して再度電源を入れる場合は、電源ランプが完全に消えたのを確認してから、５秒以上間隔をあけてください。

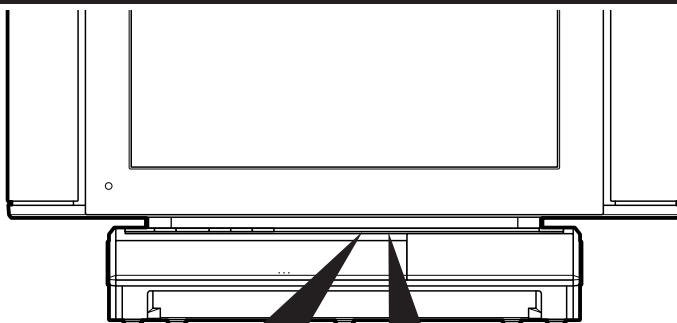
パソコンがはじめてのかたへ

このパソコンに入っている「パソコンのいろはⅡ」を使って、基本操作を学んでみましょう。パソコンを使うのがはじめてというかたは、インターネットを始める前にキーボードで文字を入力する練習をしておくことをおすすめします。

「パソコンのいろはⅡ」で操作を学ぶ

このパソコンには、基本的なことからパソコンの操作が学べる「パソコンのいろはⅡ」が入っています。「パソコンのいろはⅡ」では、文字の入力、電子メールのやりとり、ホームページを見る方法などを学ぶことができます。パソコンの基本操作を覚えたいかたは、次の手順にしたがって「パソコンのいろはⅡ」で学習を始めてみましょう。

ほかのソフトが起動しているときは、「パソコンのいろはⅡ」を始める前にすべて終了させてください。

1 ディスプレイ右下のランプを確認する

🔒1ランプが点灯していること

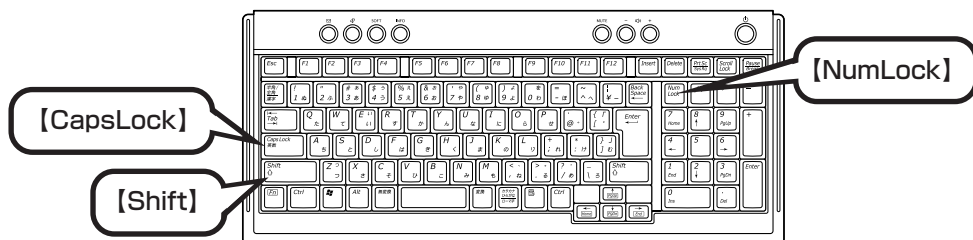
【NumLock】(ニューメリックロック)を押すと、ランプの点灯／消灯が切り換わります。

🔒Aランプが消えていること

【Shift】(シフト)を押したまま【CapsLock】(キャップスロック)を押すと、ランプの点灯／消灯が切り換わります。【Shift】はキーボードに2つありますが、どちらか1つを押すだけでかまいません。

【CapsLock】

【Shift】

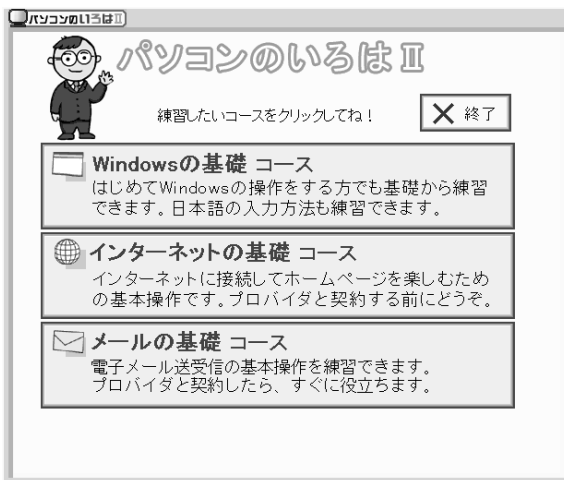
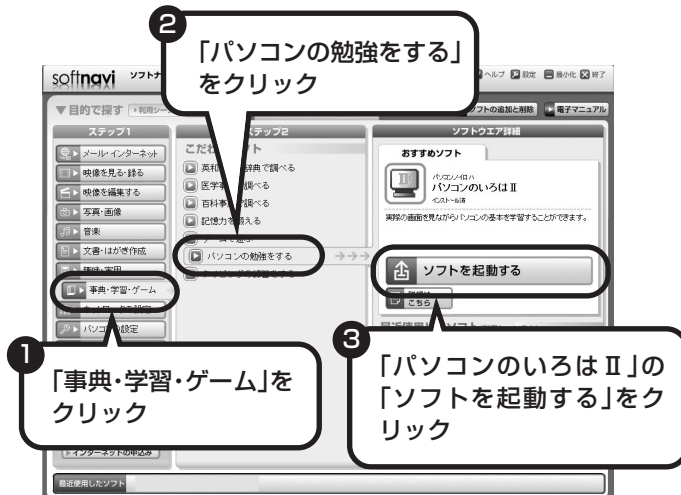
【NumLock】

2 ソフトナビゲーターを起動する

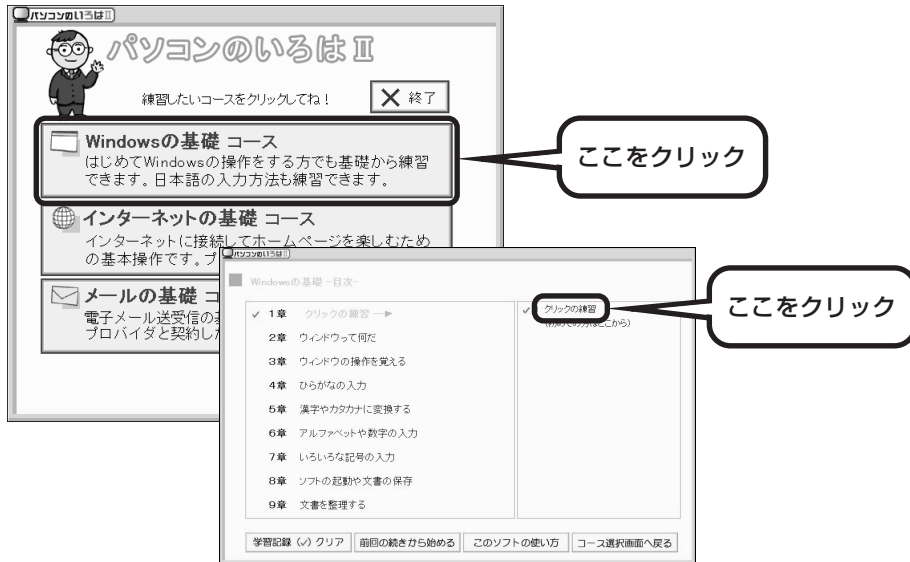
ソフトナビゲーターの最初の画面が表示されます。

画面右にある「おすすめメニューバー」の「ソフトを探す」をクリックすることでもソフトナビゲーターを起動できます。

ソフトナビゲーターとは

このパソコンに入っているソフトを見つけたり、使い始めるときに利用します。「ソフトナビゲーター」について詳しくは、『活用ブック』の「パソコン初心者道場」-「基本編」をご覧ください。

3　「パソコンのいろはⅡ」を始める

「パソコンのいろはⅡ」の最初の画面が表示されます。

「Windowsの基礎コース」へ進む

パソコンを使うのがはじめてのかたは、「クリックの練習」から始めてください。1～2時間で文字の入力まで練習することができます。練習の途中で「パソコンのいろはⅡ」を終了させることもできます。その場合、画面右上に表示されている「終了」をクリックしてください。画面中央に「パソコンのいろはⅡを終了します。」と表示されるので、「OK」をクリックします。

「終了」をクリックしても「パソコンのいろはⅡを終了します。」と表示されないときは、キーボードの【Esc】を押してから、再度「終了」をクリックしてください。

「メールの基礎コース」は、インターネット接続の設定が終わってから

「パソコンのいろはⅡ」には、次の３つのコースがあります。

・Windowsの基礎コース
・インターネットの基礎コース
・メールの基礎コース

パソコンがはじめてのかたは、「Windowsの基礎コース」から順番に進めることをおすすめします。「メールの基礎コース」は、メールソフト「Outlook Express（アウトルックエクスプレス）」の設定が済んでいないと練習することができません。Outlook Expressを使うには、まずプロバイダに入会して、インターネット接続の設定をする必要があります。入会がまだのかたは、プロバイダに入会して、インターネット接続ができるようにしてください。

プロバイダへの入会、インターネット接続の設定方法については、第５章をご覧ください。

Outlook Expressの設定については、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「ソフト一覧」-「Outlook Express」をご覧ください。

パソコンの画面で解説、検索「サポートナビゲーター」について

紙で見るマニュアルのほかに、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」があります。このパソコンのさらに詳しい使い方を知りたいとき、パソコンを使っていて困ったときに見てみましょう。

サポートナビゲーターを起動する

「サポートナビゲーターの使い方」のムービーが表示された後、「サポートナビゲーター」の最初の画面が表示されます。

- 画面右にある「おすすめメニューバー」の「困ったときは」をクリックすることでも「サポートナビゲーター」を起動できます。
- ムービーは、終了をクリックして省略することもできます。

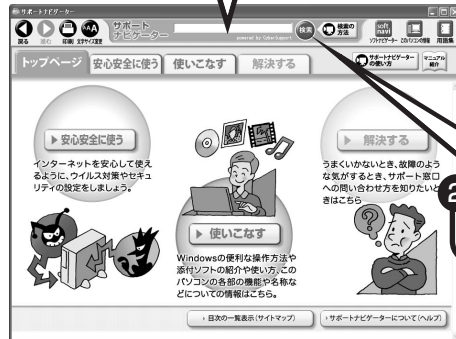
目的に応じて3つの入り口があります。これから知りたいこと、やろうとしていることに合わせて、ボタンをクリックしてください。

▶ 安心安全に使う　インターネットを安心して使うためのウイルス対策やセキュリティの設定などについて説明しています。

▶ 使いこなす　Windowsの便利な使い方、このパソコンに入っているソフトの使い方、このパソコンの各部の機能や設定についての詳しい情報など、一歩進んだ使い方を説明しています。

▶ 解決する　うまくいかないときや、故障かな？と思ったときに利用してください。サポート窓口への問い合わせ方なども説明しています。

パソコンの中を検索してみる

知りたい項目が見つからないときは、キーワードを入力して検索してみましょう。

選んだ検索範囲の中から、入力したキーワードが含まれる項目が検索されます。

はじめて検索するときは、CyberSupportの「使用許諾契約」が表示されます。内容をよく読み、「同意する」をクリックしてください。その後、パソコンが検索するための設定をおこないますので、結果が出るまで少しお待ちください。
次回からは、すぐに結果が出るようになります。

もしものときに備えて

● 大切なデータはこまめにバックアップ
● 再セットアップ用DVD/CD-ROMの作成はお早めに
● 不正アクセスはパスワードで阻止

大切なデータはバックアップを取る

バックアップとは

パソコンに内蔵されているハードディスクには、大切なデータが保存されています。このハードディスクは、ちょっとした衝撃によって壊れたり、長期間使用するうちに突然動かなくなったりすることがあります。このような場合、ハードディスクを交換したり再セットアップすることでパソコンをご購入時の状態に戻すことはできますが、大切なデータが失われてしまいます。万一のアクシデントに備えて、データの控えを残しておきましょう。このデータの控えのことを「バックアップ」と呼びます。

DVD-R や CD-R などにもバックアップを取っておく

このパソコンに搭載されている「バックアップ－NX（エヌエックス）」というソフトを使って、バックアップを取ることができます。「バックアップ－ NX」の使い方について詳しくは、「データのバックアップを取る」（164 ページ）をご覧ください。
ただし、ハードディスクのDドライブという場所にバックアップを取っておいても、ハードディスク自体が故障したときは、データをもとに戻すことができません。別売のDVD-RやCD-Rなどにもバックアップを取っておくことをおすすめします。

・セキュリティ機能を使用してパスワード付きのバックアップを取る場合、パスワードを控えておいてください。パスワードを忘れると復元できなくなります。
・セキュリティ機能を使用してDVDやCDにデータのバックアップを取る場合や、バックアップを取ったデータを参照・復元する場合、C ドライブに一時的にデータをコピーする必要があります。そのため、バックアップを取ったデータのサイズに応じて、C ドライブに約0.9～9GB の空き容量が必要です。

再セットアップ用DVD/CD-ROMを作成しておく

トラブルがどうしても解決できないときにおこなう「再セットアップ」は、通常、ハードディスク内にある再セットアップ用データを使います。けれども、ハードディスクが故障した場合は、この方法で再セットアップすることができなくなります。そのような場合に備え、再セットアップ用 DVD/CD-ROMを作成しておき、そのディスクから再セットアップすることができるようにしておきましょう。再セットアップ用 DVD/CD-ROM を作成する方法については、「再セットアップ用 DVD/CD-ROM を作成する」（182 ページ）をご覧ください。

再セットアップ用 DVD/CD-ROM は、ご購入時の製品構成以外では、作成できないことがあります。

Windows起動時のパスワードを設定する

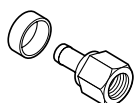
不正アクセス被害防止や情報の保護など、セキュリティ対策のため、Windows 起動時にパスワードを入力する設定をしておくことをおすすめします。
手順については、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「複数の人で 1 台のパソコンを使う」-「パスワードを設定する」をご覧ください。

- TV機能を使って予約録画をする際、Windows起動時のパスワードによって動作が異なります。詳しくは、『もっとテレビを楽しむ本』をご覧ください。
- デジタルハイビジョン TV モデルの場合、Windows 起動時のパスワードを設定すると、テレビと同時にパソコンが起動できなくなります(自動ログオンができなくなります)。自動ログオンしたいときは、「TV 共通設定」の「自動ログオンの設定」で、設定したパスワードを入力してください。

アンテナ線を接続する

テレビを見る準備をします。アンテナに接続されているケーブルにＦ型コネクタプラグ（市販）を取り付けます。

用意するもの

いまお使いのアンテナ線の形状によって必要なものが異なります。
市販のF型コネクタプラグ、または市販のF型コネクタプラグ付きアンテナケーブルでパソコン本体と接続します。

F型コネクタプラグ

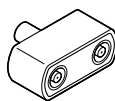
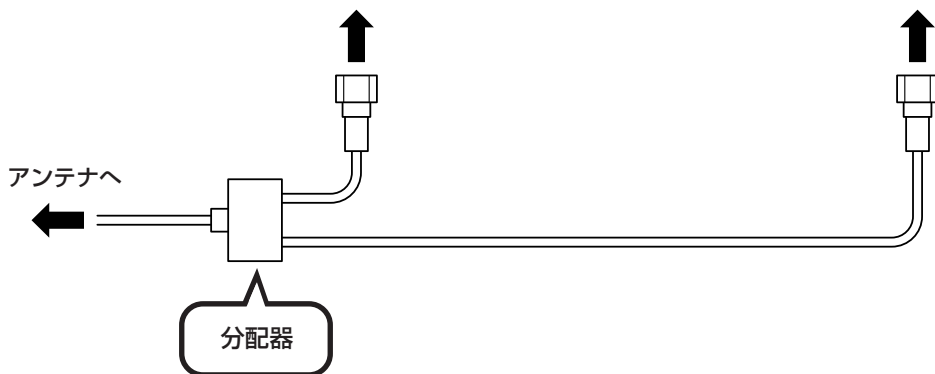
F型コネクタプラグ付き
アンテナケーブル

このほか、アンテナ線の状態によっては、U/V混合器や分配器が必要になります。お使いのアンテナ線の状態に合わせて、適したものをお買い求めください。

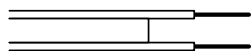
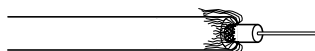
F型コネクタプラグやF型コネクタプラグ付きアンテナケーブルは、このパソコンには添付されていません。
アンテナケーブルとパソコン本体の接続には、ネジタイプを使ってください。

アンテナ線をパソコン本体とテレビ（またはビデオ）の両方に接続したい

市販の分配器を使えば、アンテナ線を２つにできます。分配した後で、市販のF型コネクタプラグの付いた同軸ケーブルで、パソコンと接続してください。

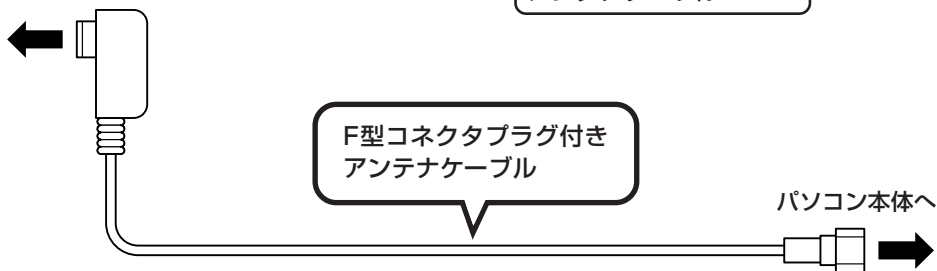
分配器

テレビをつなぐなどしてアンテナを分配すると、電波が弱くなります。このため、ディスプレイの画面がちらついたり、きれいに映らないことがあります。この場合は、市販のアンテナブースターを接続してください。詳しくは、お近くの電器店などにご相談ください。

アンテナ線に平行フィーダを使っている

アンテナ線が平行フィーダの場合は、市販の整合器を使用して、同軸ケーブルに変更してください。詳しくは、お近くの電器店などにご相談ください。

アンテナ線の状態を確認する

いまお使いのアンテナ線はどうなっていますか？

壁面などにアンテナ端子があるとき⇒F型コネクタプラグ付きアンテナケーブル

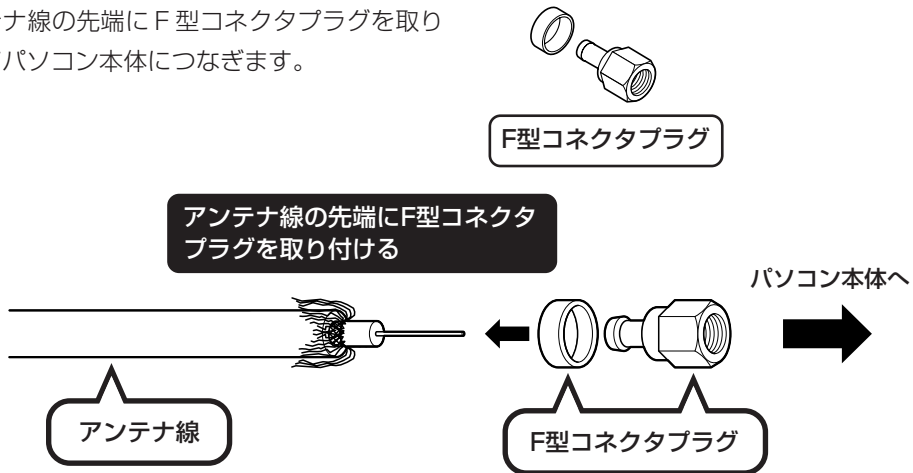
マンションなどで壁面にアンテナ端子だけがある場合は、市販のF型コネクタプラグの付いた同軸ケーブルをお買い求めください。

これ以外にも壁側の端子とそれに適合するプラグの形状にはいくつかのタイプがありますので、お近くの電器店などにご相談ください。

アンテナケーブルには上の図のように一方のプラグの形状が箱型になっているものもあります。その場合は、次のように接続してください。

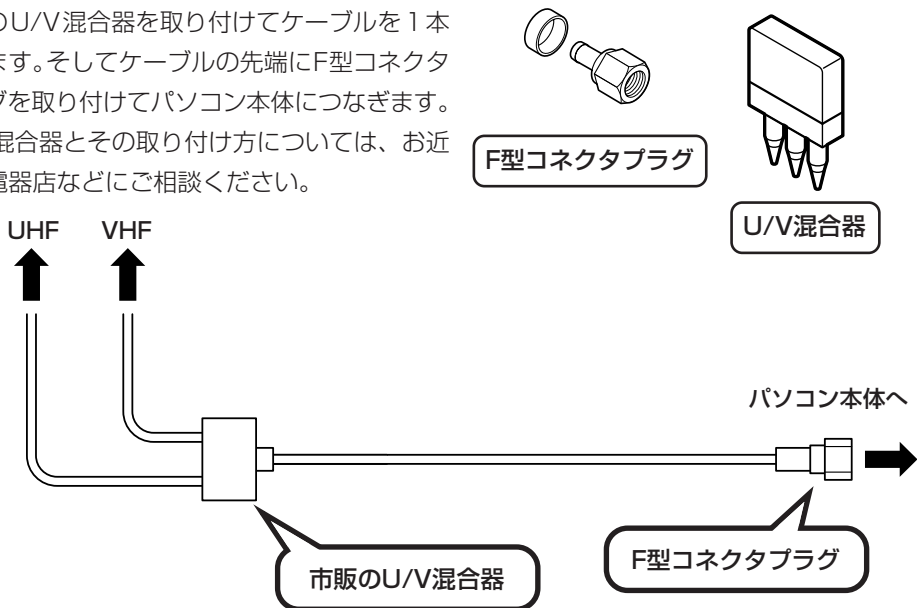
- **箱型→壁の端子**
- **ネジタイプ→パソコン本体**

箱型のプラグをパソコン側のコネクタに使用すると、ノイズの影響を受けやすくなり、データ放送を正常に受信できないことがあります。

アンテナ線が１本（UHFのみまたはVHFのみか、UHF/VHF混合）のとき⇒ F型コネクタプラグ

アンテナ線の先端にＦ型コネクタプラグを取り付けてパソコン本体につなぎます。

ケーブルにＦ型コネクタプラグを取り付ける方法について詳しくは、付録の「ケーブルにＦ型コネクタプラグを取り付ける」（232 ページ）をご覧ください。

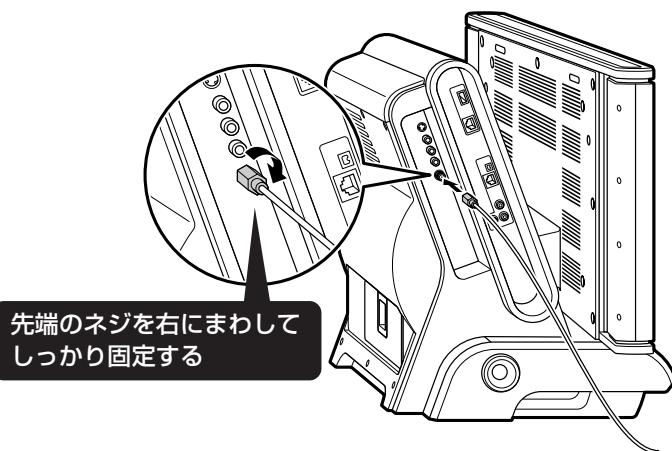
アンテナ線が２本（UHFとVHF）のとき⇒Ｆ型コネクタプラグ、U/V 混合器

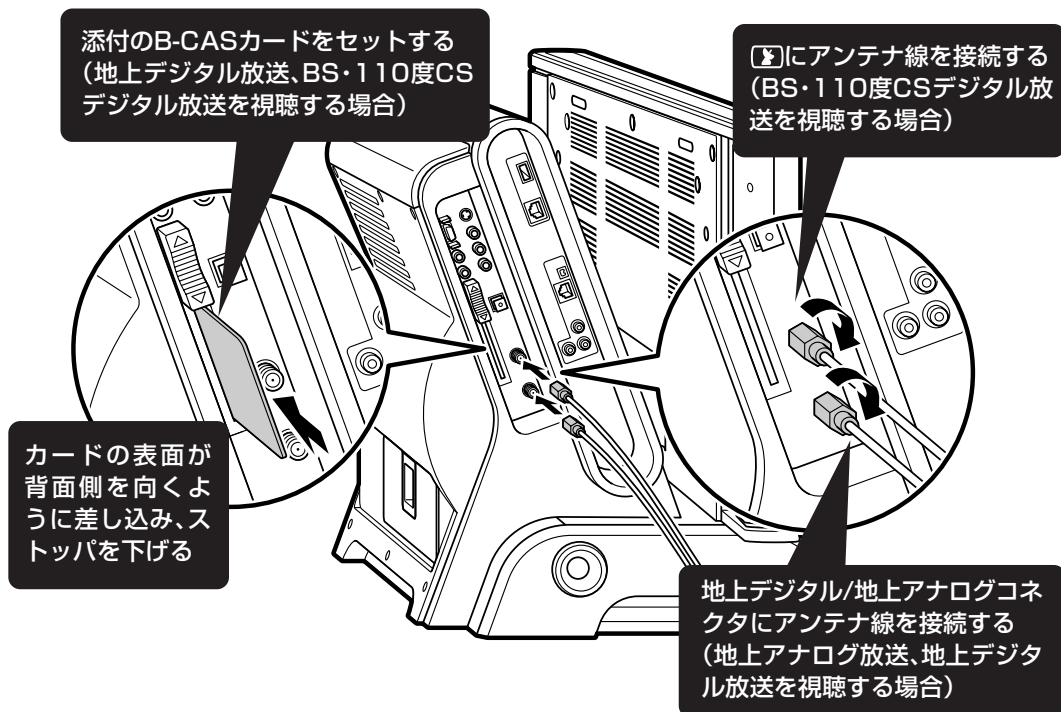
市販のU/V混合器を取り付けてケーブルを１本にします。そしてケーブルの先端にF型コネクタプラグを取り付けてパソコン本体につなぎます。U/V 混合器とその取り付け方については、お近くの電器店などにご相談ください。

アンテナ線を本体につなぐ

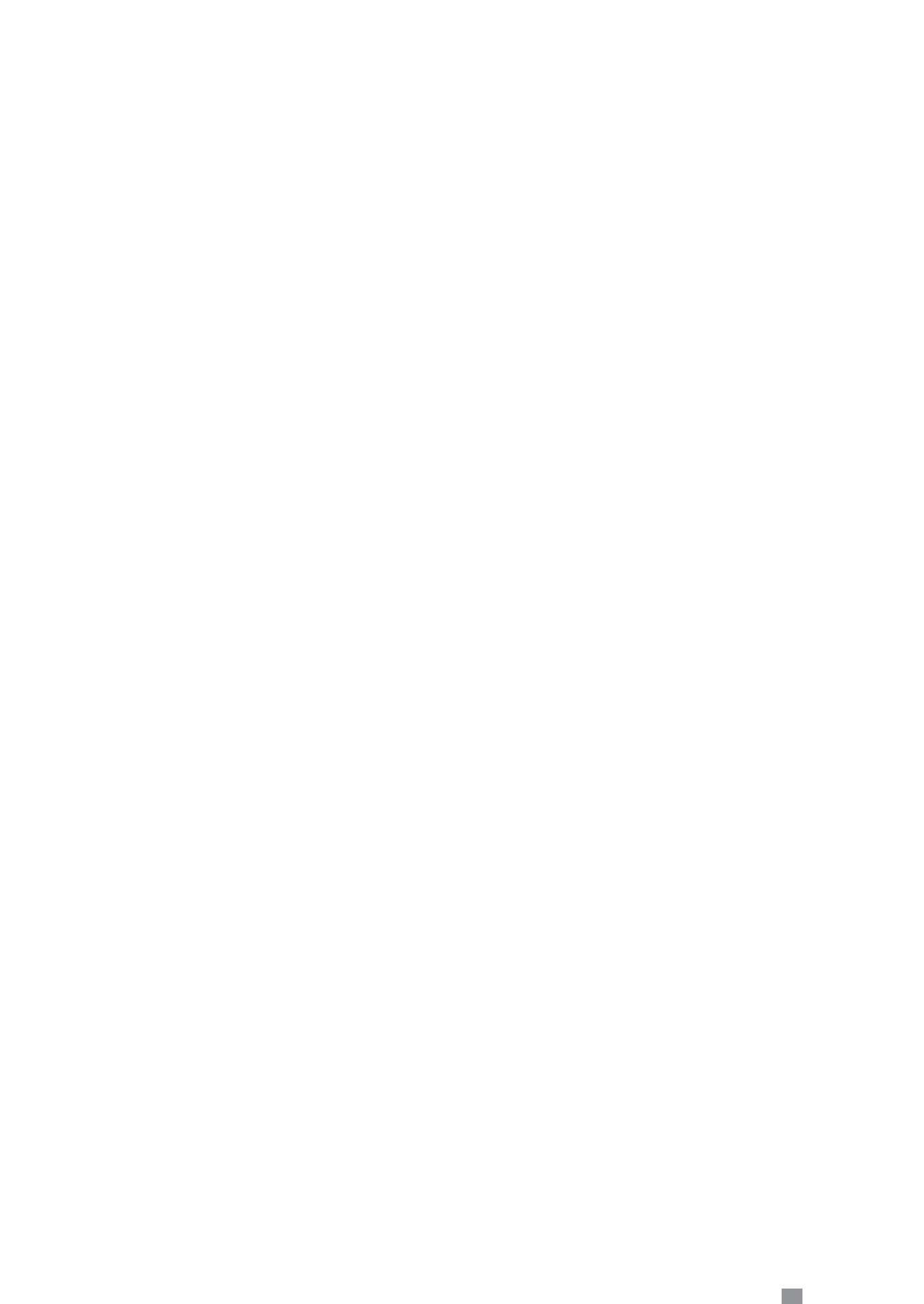
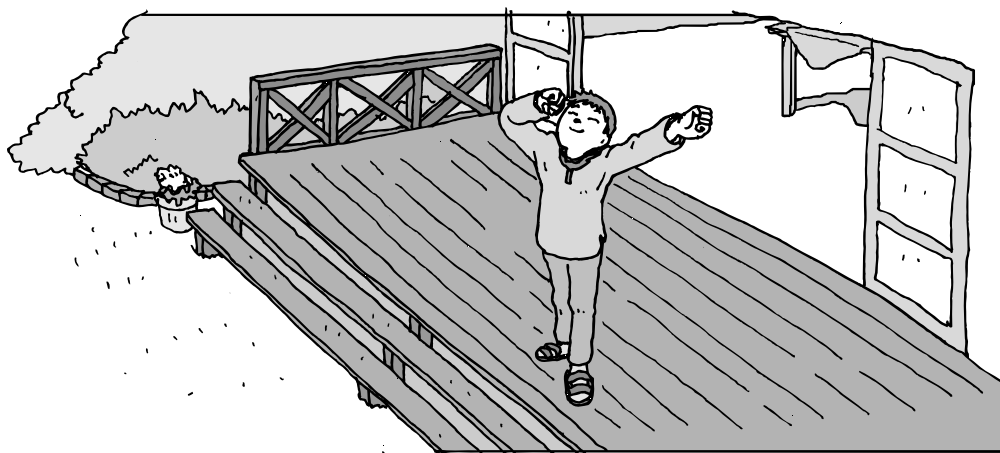
・ケーブルを接続するときは、まず本体左側面のケーブルカバーを外してください。また、接続が終わったら、ケーブルカバーをもとどおりに取り付けてください。取り外し方／取り付け方については、付録の「ケーブルカバーの取り外し方と取り付け方」（225ページ）をご覧ください。

・アンテナ線を接続する前にパソコン本体や周辺機器の電源を切り、電源ケーブルを取り外してください。

TVモデルの場合

本体左側面の「Y VHF/UHF」と書かれているコネクタにアンテナ線のF型コネクタプラグを差し込んでください。

デジタルハイビジョンTVモデルの場合

接続例

B-CASカードは、デジタル放送の各種サービスを利用するときに必要なカードです。サービスを受けられるようにするには、B-CASカードのユーザー登録が必要です。B-CASカードについて詳しくは、『もっとテレビを楽しむ本』の付録をご覧ください。

第 5 章

これからインターネットを始めるかたへ

インターネットを利用してホームページを楽しんだり、メールをやりとりするためには、パソコンを通信回線に接続し、インターネット接続業者（プロバイダ）に入会する必要があります。ここでは、はじめて自分のパソコンでインターネットを始めるかたを対象に、接続や設定の手順を説明します。前に持っていたパソコンで、すでにインターネットを利用していたかたは、「第６章　パソコンを買い替えたかたへ」（139ページ）へ進んでください。

インターネットの魅力

インターネットは、わずかの間にものすごい勢いで普及が進んで、私たちの生活に身近なものになりました。

ホームページ

インターネットは情報の宝庫です。役所などの公共機関や大きな企業だけでなく、近所の商店や小さな工場まで、本当にいろいろな人たちが、自分のホームページを持つようになりました。電車の乗り継ぎや発車時刻をホームページで調べたり、バーゲンセールの目玉商品をホームページでチェックするなど、インターネットがあれば、生活のちょっとしたことが便利になります。

メール

インターネットを利用したメール(「電子メール」とか「Eメール」ともいいます)を使うと、家族や友人、仕事や趣味の仲間たちと手軽に連絡することができます。日本全国どこでも、世界中のどこにいる人とでも、料金を気にせず用件を伝えられること。デジタルカメラで撮った写真などをメールと一緒に送信できること。相手が都合のよいときにメールを見ればよいので、時間帯を気にしなくてよいこと。このような便利さのために、いまでは、たくさんの人たちにとって、メールが欠かせない通信手段になっています。

まだまだある、インターネットの魅力

インターネットの通信回線を使って、格安の料金で市外電話や国際電話を利用することができる「IP電話」というサービスを利用することもできます。ホームページを経由して、買い物をしたり(「オンラインショッピング」といいます)、ソフトやデータを自分のパソコンに取り入れたり(「ダウンロード」といいます)、使う人それぞれにインターネットは活用されています。

いろいろある接続方法

インターネットを利用するための接続方法には、いろいろなものがあります。はじめに、ダイヤルアップ接続か、ブロードバンド接続かを決めましょう。

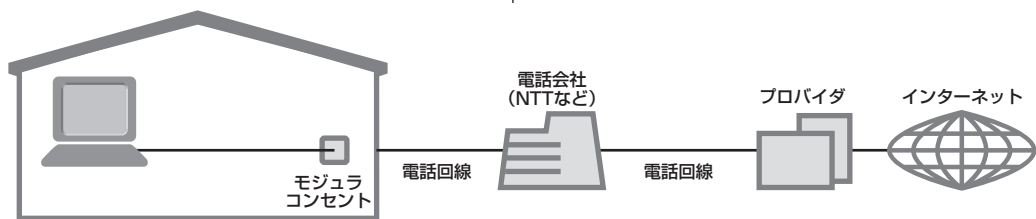
ダイヤルアップ接続

家庭にある一般の電話回線にパソコンを接続して、インターネットを利用します。このパソコンには、モデム（データを電話回線経由でやりとりできるように変換する装置）が内蔵されているため、添付の電話回線ケーブル（モジュラケーブル）を使って、いますぐにインターネットを始めることができます。別に新しい機器をご購入する必要はありません。また、接続した時間分だけ料金を支払うことができるため、利用頻度や利用時間が少ない場合には、いちばん安い料金でインターネットを利用することができます。

ダイヤルアップ接続の短所も知っておこう

けれども、この後に説明する「ブロードバンド接続」と比べると、ダイヤルアップ接続には次のような短所もあります。このため、ホームページの利用頻度が少なく、メールを中心にインターネットを利用したいかたに向いています。

・通信速度が遅いため、ホームページがなかなか表示されないことや、動画などを再生できないことがある。

・パソコンでインターネットを利用しているときは、電話が使えない（電話をかけてきた相手には、話し中になります）。

ブロードバンド接続

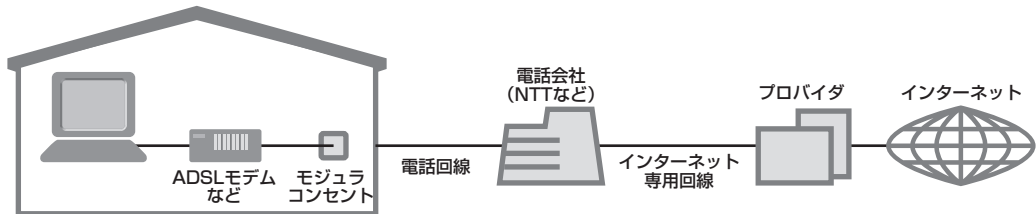
大量のデータを高速に受け取ることができる通信方式を使って、快適にインターネットを利用できるようにする接続方法です。次ページで説明するように、ブロードバンド接続にもいろいろな種類がありますが、おおよそ次のような特徴があります。

・いくらインターネットを利用しても、月額料金が変わらない（定額料金）。
・パソコンでインターネットを利用しているときも、電話が使える。
・接続するには、別の機器（ADSL モデムなど）が必要になる。
・回線の申し込みや工事が必要になることがある。
・住んでいる地域によっては、利用できないことがある。

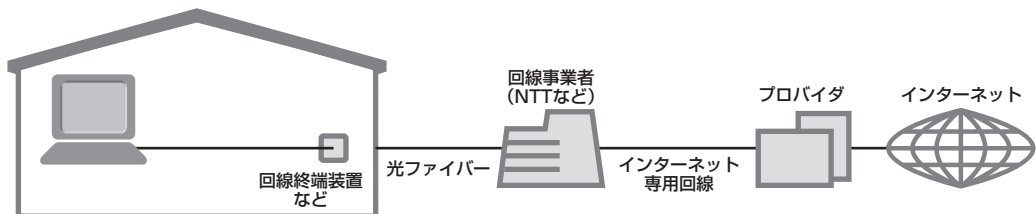
ブロードバンドにもいろいろある

インターネットを高速、快適に利用できるブロードバンド接続には、次のような種類があります。

ADSL(エーディーエスエル)

家庭にあるアナログ回線（一般の電話回線）とパソコンの間に「ADSL モデム」という接続機器を入れることによって、高速な通信ができます。

ADSL モデムには、おもに「ブリッジタイプ」と「ルータタイプ」の２種類があります。ブリッジタイプのADSLモデムは、１台のパソコンからインターネットに接続できます。ルータタイプの ADSL モデムは、複数のパソコンからインターネットに接続できます。
また、ブリッジタイプのADSLモデムでも、パソコンとADSLモデムの間に「ルータ」（ブロードバンドルータ）という通信機器を入れることで、ルータタイプのADSLモデムを使ったときと同様に、複数のパソコンからインターネットに接続できるようになります。

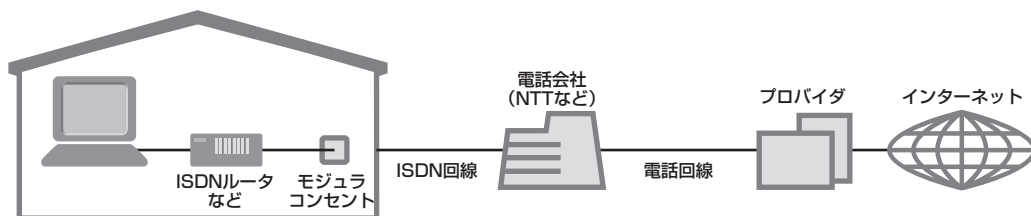
FTTH(エフティーティーエイチ)

光ファイバーを使った回線を利用するものです。ほかのブロードバンド方式よりも高速な通信をおこなうことができますが、利用料金はADSLなどに比べて高くなる場合もあります。FTTHを提供する回線事業者は増えており、サービスの提供地域も広がっています。
ADSLと異なり、受信だけでなく情報を送信する速度も大幅に上がるため、インターネットを利用したアルバムサービスなど、大きなデータをやりとりする場合にも短時間で処理できます。

家の中まで光ケーブルを直接引き込み、回線終端装置に接続するという工事をおこなう必要があります。回線終端装置とパソコンは、LANケーブルで接続します。複数のパソコンからインターネットに接続する場合は、回線終端装置とパソコンの間にルータを接続します。
FTTH では、集合住宅向けのサービスも提供されています。

CATV(ケーブルテレビ)

ケーブルテレビの回線を使ってインターネットに接続します。ケーブルテレビのサービスが提供されていない地域では利用できません。

ISDN回線でインターネットも利用できる

NTTのデジタル回線、ISDN（アイエスディーエヌ）に契約している場合、この回線を使ってインターネットを利用することもできます。通信速度は、アナログ回線を使ったダイヤルアップ接続より少し高速になる程度で、ブロードバンド接続ほどの速さを期待することはできませんが、電話とインターネットを同時に利用できます。また、料金も従量制（使った時間に応じて料金が変化）だけでなく、定額制（いくら使っても同じ金額）を選ぶこともできます。

ブロードバンド接続の流れ

ADSLの場合を例として、インターネットに接続するまでの流れを説明します。

1 プロバイダや申し込みたいコース(料金プラン)を決める

プロバイダとは、インターネット接続業者のことです。特に会社を決めていない場合、NECが提供するインターネットプロバイダBIGLOBEに入会することをおすすめします。
詳しくは、「プロバイダに入会する」(110ページ)をご覧ください。

2 プロバイダに申し込む

このパソコンから直接申し込むことができます。パソコンをアナログ回線に接続して、操作を進めます。
詳しくは、「プロバイダに入会する」(110ページ)をご覧ください。

3 ADSL回線の開通を待つ

ADSLは、回線をNTT東日本またはNTT西日本が提供するもの(フレッツ・ADSL)と、別の回線事業者(イー・アクセスやアッカなどという会社があります)が提供するものがあります。どこが回線を提供するかや、通信速度などによってコース(料金プラン)が分かれています。
ADSLを利用できるか適合チェックをおこなってから、必要に応じてADSL対応モデムの準備や電話回線の工事などをおこないます。申し込みから開通までは、通常、数週間かかります(BIGLOBEなどのプロバイダは、申し込んでからADSL回線が開通するまでの間、ダイヤルアップ接続でインターネットを利用できるようにしています)。
申し込みから回線の開通までについて詳しくは、各回線事業者にお問い合わせください。

4 回線装置を接続して、パソコンの設定を変更する

ADSLモデムなどの回線装置をパソコンに接続して、パソコンの設定を変更します。
回線や機器によって接続方法や設定が異なります。「入会手続きが完了したら」(113ページ)をご覧ください。

申し込みたいコース（料金プラン）を決めるには

多くのプロバイダは、ブロードバンド方式、回線事業者、通信速度などの種類別に、たくさんのコース（料金プラン）を用意しています。あらかじめ、プロバイダのパンフレット（BIGLOBEの『インターネット活用ブック』など）を見て検討してください。また、お住まいの地域や建物の状況によって利用できないサービスがあります。申し込みたいコースが利用できるかどうか、プロバイダにお問い合わせください。また、集合住宅の場合は、オーナーや管理組合の承認が必要な場合があるので、こちらも確認してください。

ADSL以外の接続の場合

FTTH

お住まいの地域や建物で光ファイバーの利用が可能か、回線事業者の担当者がコンサルティングをおこないます。詳しくは、プロバイダにお問い合わせください。
申し込む回線事業者や必要な工事によっても異なりますが、申し込みから開通まで、一般に数週間〜2か月程度の時間がかかります。

CATV

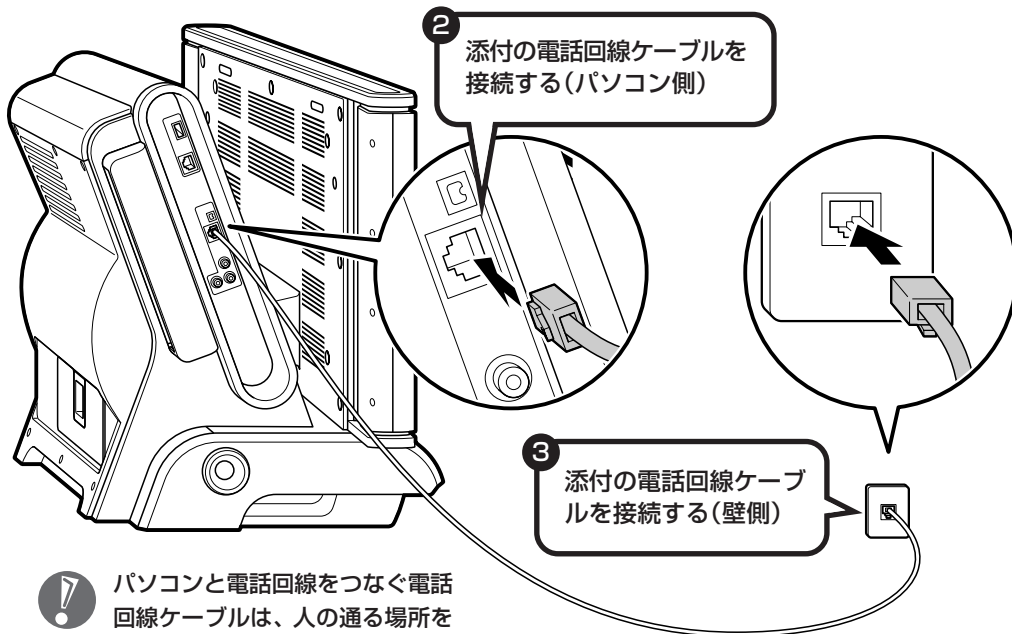
ケーブルテレビ局への申し込みが必要です。申し込み手続きやインターネット接続用機器の設置などについては、ご利用地域のケーブルテレビ局にお問い合わせください。
開通までに必要な時間は、ケーブルテレビ局によって異なります。各ケーブルテレビ局にお問い合わせください。

ISDN

BIGLOBEの場合、ダイヤルアップコースの中にある「フレッツ・ISDN」が該当します。これまでアナログ回線で電話を利用していたかたは、ISDN回線への切り換え工事をおこない、TA（ターミナルアダプタ）などのISDN接続機器を設置する必要があります。

プロバイダに入会する

BIGLOBE（ビッグローブ）に入会する場合を例に、プロバイダ（インターネット接続業者）に入会する手順を説明します。このパソコンからプロバイダに入会を申し込む前に、パソコンと電話線を接続する必要があります。

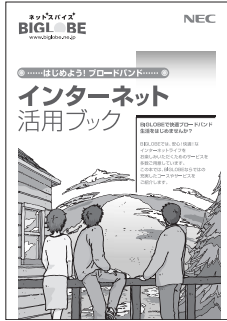
1 アナログ回線に接続する

パソコンと電話回線をつなぐ電話回線ケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。

インターネット無料体験について

画面に表示されている（インターネット無料体験）をダブルクリックすると、専用ソフトが起動して14日間無料でインターネットを体験できます（電話料金は別途かかります）。プロバイダに入会を申し込む前に、インターネットのホームページを見ることができます。

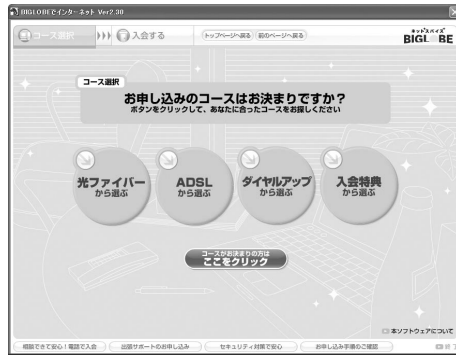
有効期限は2007年３月31日までです

・ここでは、このパソコンから直接入会する手順を説明します。キーボードから自分の名前や住所などを入力する必要があります。

・プロバイダの契約申込書に記入して、FAXや郵送で申し込むこともできます。BIGLOBEの契約申込書は、『インターネット活用ブック』に入っています。
「BIGLOBE電話で入会センター」でお電話での入会申し込みもできます。

プロバイダって何をするの？

プロバイダはインターネットに24時間つながっているコンピュータ（「サーバー」といいます）を管理しています。このサーバーが、メールを一時的に預かってくれたり、インターネットにつなげる中継役になってくれるのです。プロバイダは、「ISP（インターネット・サービス・プロバイダの略）」と呼ばれることもあります。

2 BIGLOBEへの入会手続きを始める

デスクトップ画面の（BIGLOBEでインターネット）をダブルクリックします。

この後の手順は、申し込もうとしているコースに合わせて、画面に表示される指示にしたがって進めてください。

その他のプロバイダに入会するには

デスクトップ画面の（インターネットを始めよう）をダブルクリックすると、さまざまなプロバイダに入会する手続きができます。

入会したいプロバイダの名前をクリックする

クリックしたプロバイダのサービス内容などが、同じ画面の右側に表示されます。その中から「入会する」などの表示をクリックすると、各プロバイダへの入会手続きが始まります。

この方法で入会できるのは、次のプロバイダです。

BIGLOBE、DION、OCN、ODN、So-net、WILLCOM、かるがるネット、Yahoo! BB

ケーブルテレビなど、上記以外のプロバイダに入会したい場合、各プロバイダまでお問い合わせください。

入会手続きが完了したら

ブロードバンド接続(ADSL、FTTH)でルータを利用しない場合

ブリッジタイプのADSLモデムやFTTHの回線終端装置とこのパソコンを直接接続してブロードバンド接続する場合は、「ブロードバンド接続の設定」(118ページ)をご覧になり、設定をおこなってください。

ブロードバンド接続(ADSL、FTTH)でルータを利用する場合

ルータやルータタイプのADSLモデムを利用してブロードバンド接続する場合は、「ルータを利用したブロードバンド接続の設定」(114ページ)をご覧になり、設定をおこなってください。ルータには、ブリッジタイプのADSLモデムやFTTHの回線終端装置を接続します。

ダイヤルアップ接続を利用する場合

「ダイヤルアップ接続の設定」(125ページ)をご覧になり、設定をおこなってください。FAXや郵送でプロバイダに入会申し込みをした場合は、まず「プロバイダに入会する」(110ページ)の手順でこのパソコンとアナログ回線を接続してから、設定をおこないます。

集合住宅型のブロードバンド接続やCATVのブロードバンド接続を利用される場合、このパソコンに接続する機器の種類や設定については、回線事業者やケーブルテレビ局へお問い合わせください。

ルータを利用したブロードバンド接続の設定

ブロードバンドの通信回線が開通したら、パソコンを通信回線に接続して、設定をおこないます。

ここで説明している設定や流れは、あくまでも一例です。お使いの機器やプロバイダにより設定は大きく異なります。プロバイダから入手した説明書や、プロバイダのホームページなどで設定を確認することをおすすめします。

必要なもの

回線事業者やプロバイダから入手した資料

プロバイダの会員証など、ユーザー名やパスワードがわかる資料を用意してください。また、プロバイダから入手した接続設定用マニュアルやCD-ROMなどがある場合、そのマニュアルやCD-ROMにしたがって設定をおこなってください。

LANケーブル

ADSLモデムなどに添付されていなければ、LAN（ラン）ケーブルをお買い求めください。LANケーブルには「ストレートケーブル」と「クロスケーブル」の２種類があります。パソコンとADSLモデムなどのインターネット接続機器をつなぐときは、ストレートケーブルを使用してください。

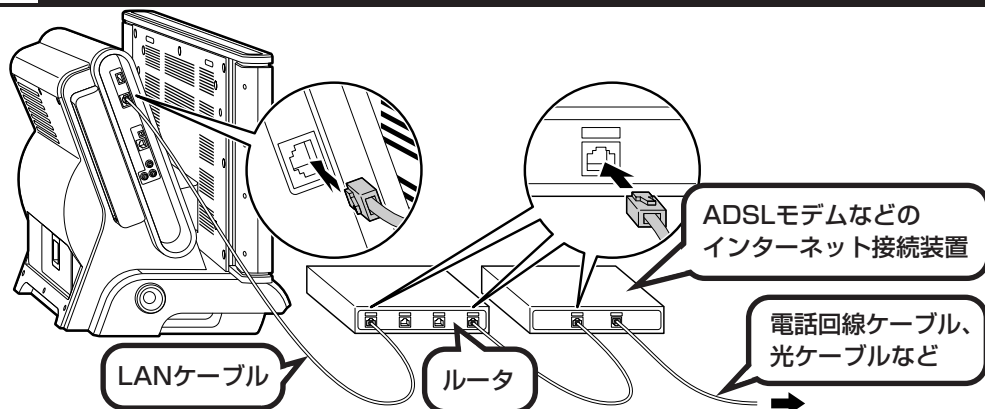
インターネット接続機器

ブロードバンド回線の種類によって次のような機器が必要です。詳しくは、入会申し込みの時点でプロバイダにご確認ください。

・ADSL：ADSLモデム

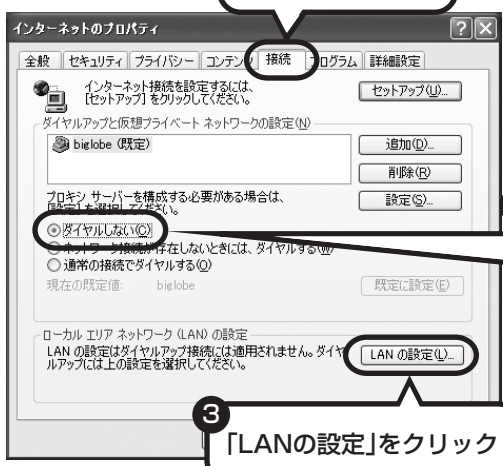
・CATV：ケーブルモデム（CATV開通工事で設置）

・FTTH：回線終端装置（回線工事で設置）

1 図のように接続する

・ルータタイプのADSLモデムは、パソコンに直接接続します。

・ケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。

ルータとパソコンを接続したら

ユーザー名やパスワードなどの接続情報をルータに設定、登録してください。詳しくは、ルータのマニュアルやプロバイダから入手した説明書、資料をご覧ください。

・接続情報を設定、登録しないと、このパソコンでの設定が終わってもインターネットに接続できません。

・ユーザー名、パスワードについては、126ページをご覧ください。

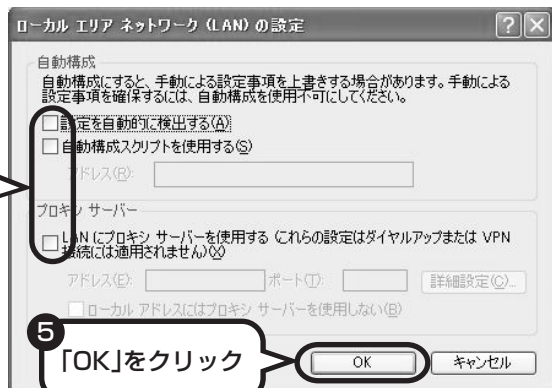
2 インターネットのプロパティを表示する

1 「スタート」をクリックして、

2 「コントロールパネル」をクリック

3 「ネットワークとインターネット接続」をクリック

4 「インターネット接続のセットアップや変更を行う」をクリック

3 「ダイヤルしない」に設定する

「ダイヤルしない」をクリックできないときは、そのまま「LANの設定」をクリックして、次の手順に進んでください。

☑ になっている項目があるときは、クリックして□に変更してください。

「OK」をクリックすると、「ローカルエリアネットワーク（LAN）の設定」の画面が閉じます。続けて、「インターネットのプロパティ」の画面でも「OK」をクリックして閉じてください。

4 パソコンを再起動する

しばらくすると、パソコンの電源が切れ、自動的にもう一度電源が入ります（再起動）。

これで、ルータを利用したブロードバンド接続の設定は完了です。「インターネットに接続する」（124 ページ）へ進んでインターネットへの接続を試してください。

ブロードバンド接続の設定

ブロードバンドの通信回線が開通したら、パソコンを通信回線に接続して、設定をおこないます。

ここで説明している設定や流れは、あくまでも一例です。お使いの機器やプロバイダにより設定は大きく異なります。プロバイダから入手した説明書や、プロバイダのホームページなどで設定を確認することをおすすめします。

必要なもの

回線事業者やプロバイダから入手した資料

プロバイダの会員証など、ユーザー名やパスワードがわかる資料を用意してください。また、プロバイダから入手した接続設定用マニュアルやCD-ROMなどがある場合、そのマニュアルやCD-ROMにしたがって設定をおこなってください。

LANケーブル

ADSLモデムなどに添付されていなければ、LAN（ラン）ケーブルをお買い求めください。LANケーブルには「ストレートケーブル」と「クロスケーブル」の２種類があります。パソコンとADSLモデムなどのインターネット接続機器をつなぐときは、ストレートケーブルを使用してください。

インターネット接続機器

ブロードバンド回線の種類によって次のような機器が必要です。詳しくは、入会申し込みの時点でプロバイダにご確認ください。

・ADSL：ADSLモデム
・CATV：ケーブルモデム（CATV開通工事で設置）
・FTTH ：回線終端装置（回線工事で設置）

1 図のように接続する

ケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。

2 ウィザードを表示する

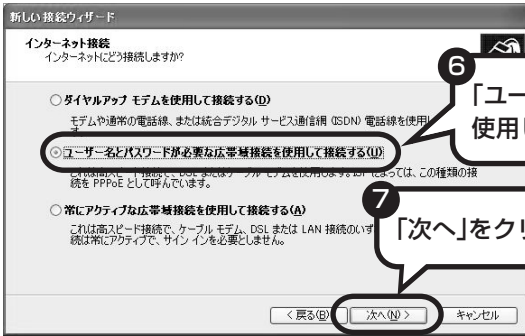
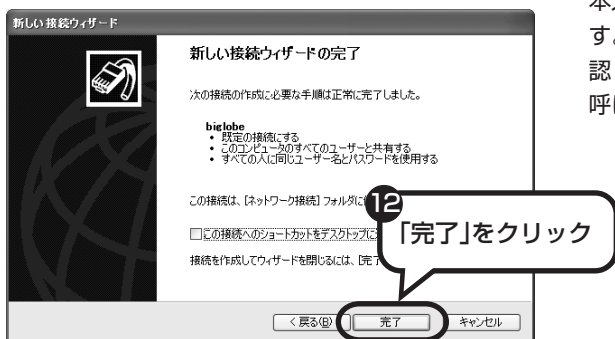
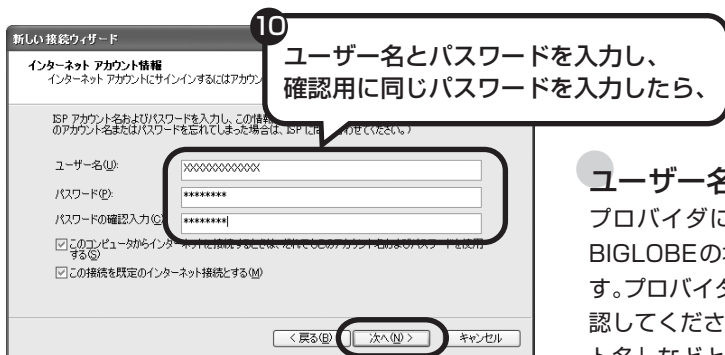
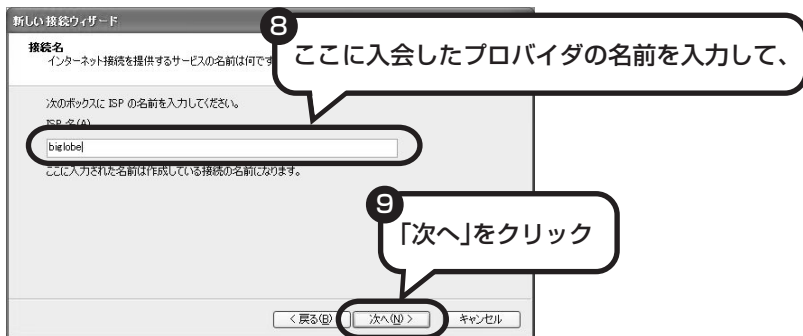
❶ スタート をクリックして、

❷「コントロールパネル」をクリック

❸「ネットワークとインターネット接続」をクリック

❹「ネットワーク接続」をクリック

❺「新しい接続を作成する」をクリック

3 ウィザードにしたがって操作する

ユーザー名とは

プロバイダに接続するための識別番号で、BIGLOBEの場合は「ユーザID」と呼ばれます。プロバイダから送られた会員証などで確認してください。「ログインID」、「アカウント名」などと呼ばれることもあります。

パスワードとは

本人であることを証明するための暗証番号です。プロバイダから送られた会員証などで確認してください。「接続パスワード」などと呼ばれることもあります。

「完了」をクリックすると、「新しい接続ウィザード」の画面が閉じ、プロバイダに接続するための画面が開きます。ここでは、「キャンセル」をクリックし、手順４へ進んでください。

4 「インターネットのプロパティ」で「LANの設定」をする

☑ になっている項目があるときは、クリックして□に変更してください。

「OK」をクリックすると、「ローカルエリアネットワーク（LAN）の設定」の画面が閉じます。続けて、「インターネットのプロパティ」の画面でも「OK」をクリックして閉じてください。

これで、ルータを利用しないブロードバンド接続の設定は完了です。
次ページへ進んでインターネットへの接続を試してください。

インターネットに接続する

インターネットに接続できるか確認しましょう。

1 Internet Explorerを起動する

ルータを利用しない場合

次の接続用画面が表示されます。
「接続」をクリックすると、Internet Explorer（インターネットエクスプローラ）が起動して、プロバイダのホームページなどが表示されます。

ルータやルータタイプのADSLモデムを利用している場合

ルータやルータタイプのADSLモデムを利用している場合、接続用の画面は表示されず、直ちにInternet Explorerが起動して、プロバイダのホームページなどが表示されます。これは、パソコンの電源を入れると自動的にインターネットに接続されるためです。

これで、インターネット接続の設定は終わりです。
続けて「メールソフトを設定する」（128ページ）へ進んでください。

ダイヤルアップ接続の設定

ダイヤルアップ接続を選んでプロバイダに入会したかたは、ここでパソコンの設定をおこなってください。ブロードバンド接続を選んだかたで、回線が開通するまでの間ダイヤルアップ接続をおこなうかたも、同じように設定してください。

回線事業者やプロバイダから入手した接続設定用CD-ROMがある場合は、そのCD-ROMで設定をおこなうこともできます。詳しくは、CD-ROMの説明書でご確認ください。

1 「インターネットのプロパティ」で設定する

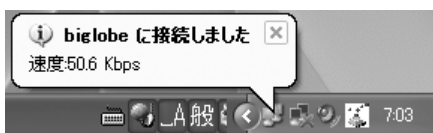
2 インターネットに接続する

このパソコンから直接 BIGLOBE などのプロバイダに入会した場合、「ユーザー名」と「パスワード」の欄には入会時の情報が入力されています。これらの欄が空欄になっているときは、申し込んだプロバイダまで設定方法をお問い合わせください。

ユーザー名とは

プロバイダに接続するための識別番号で、入会時に決まるものです（一般には、メールアドレスと違って自分で好きなものを選ぶことはできません）。プロバイダによっては、「ユーザID」、「ログイン ID」、「アカウント名」などと呼ばれることがあります。

パスワードとは

本人であることを証明するための暗証番号です。他人に悪用されることがないよう「＊＊＊」で表示されます。プロバイダによっては「接続パスワード」などと呼ばれることもあります。

しばらくすると、インターネットに接続され、画面右下に「接続しました」と表示されます。このときに表示されるマークを、「接続アイコン」と呼びます。このマークが出ているときは、インターネットに接続中で、パソコンが電話回線を使用している（＝電話料金がかかっている）ことを表します。

正式なIDとパスワードが発行されたときは

プロバイダによっては、最初に入会申し込みを受け付けるときに仮のIDとパスワードを決め、後から郵送される会員証などで正式のIDとパスワードを知らせてくることがあります。その場合、会員証を受け取ったら、「ユーザー名」と「パスワード」の欄に、正式なものを入力しなおしてください。

3 インターネットへの接続を切る

インターネットへの接続を切る（電話を切る）ときは、画面右下に表示されている（接続アイコン）をクリックします。

インターネットへの接続が切れると、（接続アイコン）の表示が消えます。

Internet Explorerで「接続が必要なくなったとき切断する」の設定*を有効にしていても、おすすめメニューバーを起動している場合、Internet Explorer終了時に自動的にインターネットへの接続を切断することはできません。

＊ 設定方法
1 Internet Explorer -「ツール」-「インターネットオプション」をクリック
2「接続」タブをクリックし、作成した接続を選択して「設定」をクリック
3 表示された画面で、「詳細設定」をクリック
4「接続が必要なくなったとき切断する」にチェックを入れ、「OK」をクリック

これで、インターネット接続の設定は終わりです。
続けて次ページのメールの設定に進んでください。

メールソフトを設定する

このパソコンには、メールを利用したり、スケジュールを管理したりするために、Outlook（アウトルック）というソフトが用意されています。

・ADSLやFTTHで接続する場合、使用する機器やプロバイダによっては、ここでの説明とは異なる設定が必要になることがあります。プロバイダの資料やホームページに設定例などが記載されている場合は、そちらも合わせてご覧になり、設定することをおすすめします。

・Outlookが入っていないモデルをお使いのかたは、「Outlook Express」というソフトでメールを利用できます。Outlook Expressの設定については、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「ソフト一覧」-「Outlook Express」をご覧ください。

1 Outlookを起動する

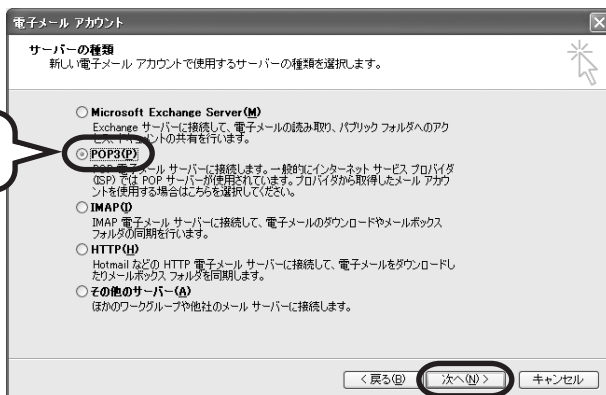
1 スタート をクリックして、

2 「電子メール」をクリック

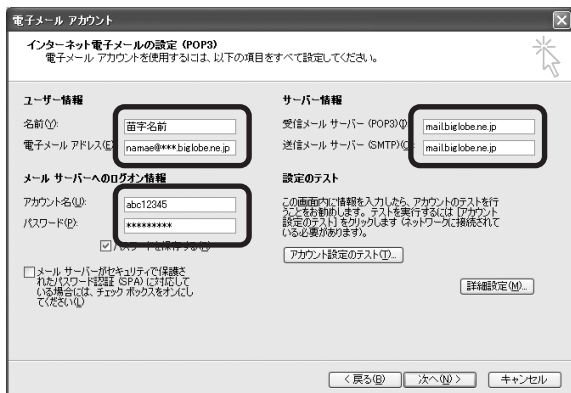
3 「次へ」をクリック

4 「次へ」をクリック

2 サーバーの種類を選ぶ

1 「POP3」をクリックして、

2 「次へ」をクリック

ほとんどのプロバイダは「POP3」という種類のサーバーを使っています。プロバイダが「IMAP」という種類のサーバーを使っている場合は、「IMAP」を選びます。その場合、詳しくはプロバイダに確認してください。

3 名前などを入力する

■ この画面では、次の項目に入力してください。

名前	自分の名前を入力します。日本語、アルファベット、どちらで入力してもかまいません。
電子メールアドレス	ご利用の電子メールアドレスを入力します。
受信メールサーバー(POP3)	プロバイダの会員証などを見て、アドレスを入力します。プロバイダによっては、「メールサーバー」、「POPサーバー」、「メール受信サーバー」などと呼ばれることもあります。
送信メールサーバー(SMTP)	会員証などを見て、アドレスを入力します。プロバイダによっては、受信メールサーバーと送信メールサーバーのアドレスは同じことがあります。「メールサーバー」、「SMTPサーバー」、「メール送信サーバー」などと呼ばれることもあります。
アカウント名	会員証などを見て、アカウント名として記載されているものを入力します。「メールアカウント」、「メールサーバーログイン名」、「POPアカウント名」、「メールログイン名」などと呼ばれることもあります。
パスワード	会員証などを見て、メールパスワードとして記載されているものを入力します。「メールサーバーパスワード」などと呼ばれることもあります。

4 「詳細設定」で接続方法を設定する

この後の手順は、接続方法によって異なります。

ダイヤルアップの場合

「電話回線を使用する」をクリックして、◯を◉にします。次に「モデム」欄で、使用するダイヤルアップネットワーク接続の名前を選びます。設定内容を確認したら、「OK」をクリックしてください。
「電子メールアカウント」の画面に戻ったら、「次へ」をクリックします。

ルータを利用しない接続の場合

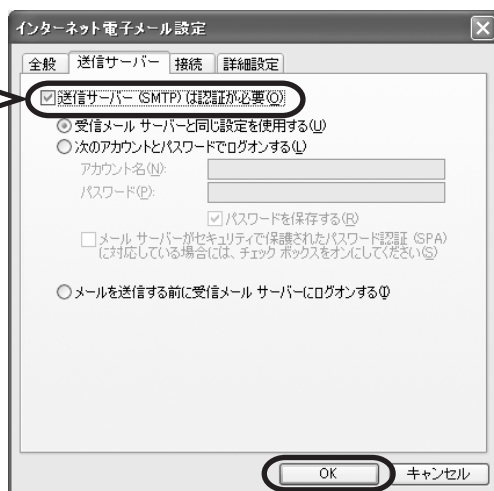
「電話回線を使用する」をクリックして、◯を◉にします。次に「モデム」欄で、使用するダイヤルアップネットワーク接続の名前を選びます。続けて、「送信サーバー」をクリックして、サーバーを設定してください。

ルータを利用した接続の場合

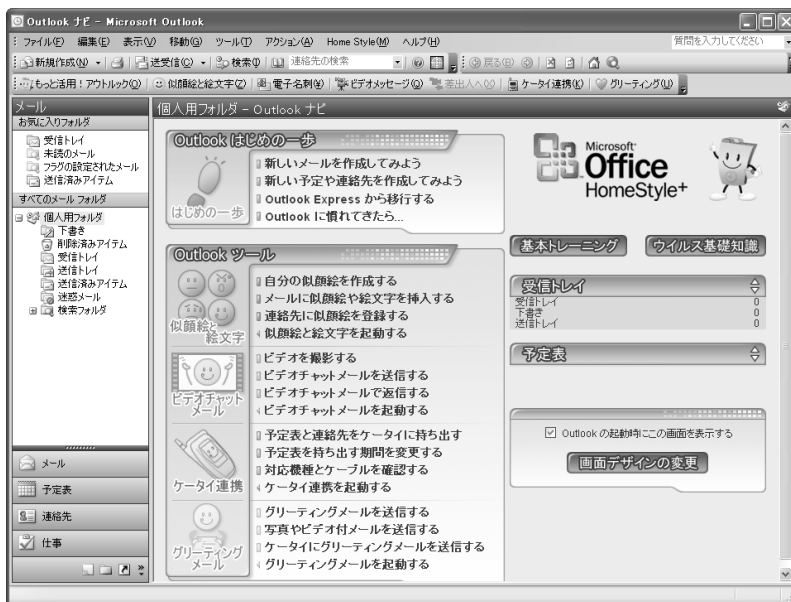
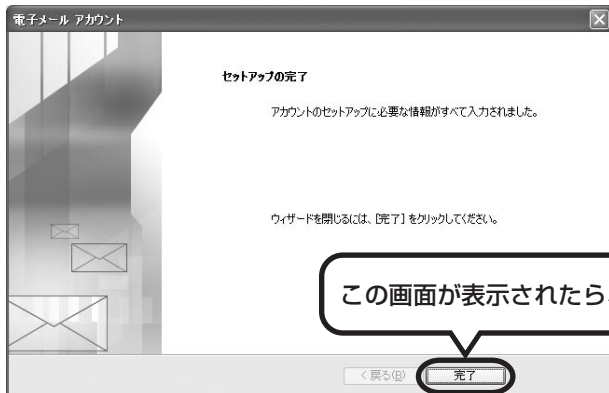
「ローカルエリアネットワーク(LAN)を使用する」をクリックして、◯を◉にします。続けて、「送信サーバー」をクリックして、サーバーを設定してください。ルータタイプのADSLモデムもこの設定をおこないます。

送信サーバーの設定：ブロードバンド接続共通

「送信サーバー（SMTP）は認証が必要」をクリックして☑にしてください。次に、「受信メールサーバーと同じ設定を使用する」が◉になっていることを確認します。ほとんどのプロバイダでは、「受信メールサーバーと同じ設定を使用する」ようになっています。

設定内容を確認したら、「OK」をクリックしてください。

「電子メールアカウント」の画面に戻ったら、「次へ」をクリックします。

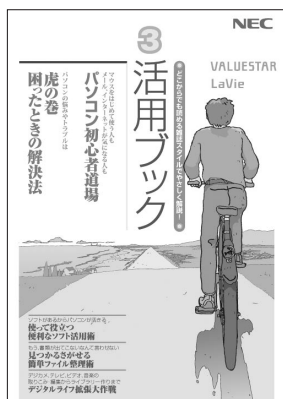
送信用メールサーバーのアカウント名やパスワードが違う場合だけ、「次のアカウントとパスワードでログオンする」をクリックして、アカウント名とパスワードを入力してください。

5 メールの設定を完了する

これで、メールが使えるようになりました。
メールを送ったり受け取ったりする方法については、
『活用ブック』の「パソコン初心者道場」-「メール編」をご覧ください。

パソコンを安全に使うための設定をおこなう

ポイント
- セキュリティ対策をしっかりと
- ウイルス対策ソフトを最新の状態に

パソコンやインターネットを安全に使うために

パソコンの誤動作や内部のデータ破壊を引き起こす、コンピュータウイルスなどの不正プログラムの被害が多くなっています。電子メールのやりとり、インターネット経由のソフト入手、他人から受け取ったディスクの使用などが原因になって、知らないうちに不正プログラムがパソコンに侵入することもあります。これらの被害を防ぐには、定期的な対策が必要です。
このほか、パソコンやインターネットを安心して使うために注意することを『活用ブック』の「しっかりセキュリティであんしんインターネット」で紹介しています。
このページと合わせてご覧になり、セキュリティ対策をしてください。

『活用ブック』で紹介していること

・Windows Update
インターネットを通じて、Windows の問題点を修復する「Windows Update」について説明しています。

・ウイルス対策ソフト
このパソコンに入っているウイルス対策ソフト「ウイルスバスター」について説明しています。この後の「パソコンをウイルスから守るために」と合わせてご覧ください。

・個人情報を守るために
クレジットカード番号などの大切な個人情報が流出するのを防ぐために、注意しなければいけないことを紹介しています。

・無線 LAN を使うとき
無線 LAN を使うときに、特に注意しなくてはいけないセキュリティの設定を説明しています。

パソコンをウイルスから守るために(1)

ウイルスとは、パソコンに誤動作やデータの破壊などのトラブルを引き起こす不正プログラムのことです。インターネットやメールからパソコンに入り込んだり、CD や DVD、各種メモリーカードなどのメディアから感染する場合もあります。
ウイルスによる被害は、自分のパソコンのデータが破壊されたり個人情報が流出したりするだけでなく、ほかの人へ大量の電子メールが自動的に送信されることもあります。自覚がないまま加害者になり得る可能性もあるのです。

「ウイルスバスター」を最新の状態に更新する

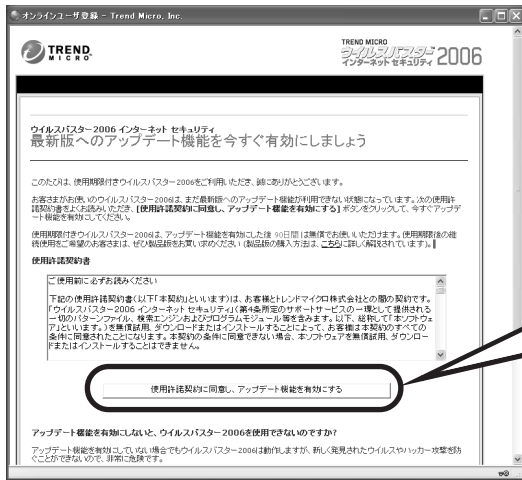
このパソコンには、ウイルス対策ソフト「ウイルスバスター」が入っていて、パソコンをウイルスから守ることができます。しかし、ウイルスは日々新しいものが出てくるので、新しいウイルスに対応するために、ソフトを常に最新の状態に更新（「アップデート」といいます）してウイルスチェックをしなければなりません。

このパソコンの「ウイルスバスター」では、はじめてアップデートを利用した日から90日間、無料でアップデートをおこなうことができます。90日間の無料期間を過ぎると、すべての機能が利用できなくなり、セキュリティ対策をおこなうことができません。無料期間終了後も継続してご利用いただくには、ダウンロード販売またはパッケージなどで製品版を購入し、シリアル番号を入力して「ウイルスバスター」をアップグレードしていただく必要があります。
有料のサービスについて詳しくは、無料サービスの開始時に登録したメールアドレス宛に配信されるメールなどの案内をご確認ください。

アップデートするには、インターネット接続の設定が必要です。インターネット接続の設定について、これまでにパソコンを持っていなかったかたは第５章、パソコンを買い替えてインターネット接続をやりなおすかたは第６章をご覧ください。

アップデートのしかた

パソコンをご購入後、はじめてアップデートする場合は、まずインターネットに接続をして、90日間無償サポートを受けるため、アップデート機能を有効にする必要があります。

インターネット接続の設定が終わった後、画面右下のを右クリックして、「アップデート開始」をクリックしてください。

登録のしかたや、アップデートの方法などの詳しい手順については、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」-「安心安全に使う」-「ウイルス感染の防止」-「ウイルス対策ソフトを使い始める」をご覧ください。

パソコンをウイルスから守るために(2)

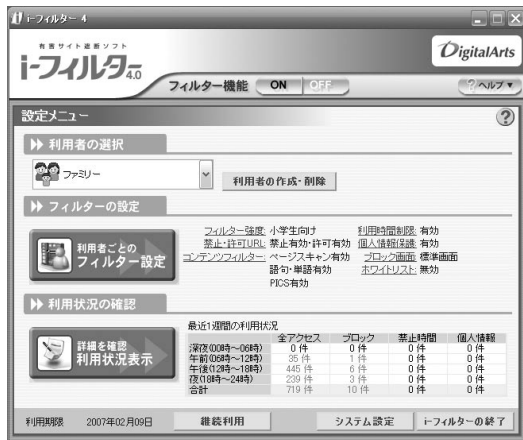
ウイルスの侵入を常にチェックする

「ウイルスバスター」には、ウイルスの侵入を常に監視する機能があります。その機能を「リアルタイム検索」といいます。「リアルタイム検索」を有効にしている間は、ウイルスの侵入が自動的に監視されます。
ご購入時の状態では、ウイルスの侵入を常に監視する（「リアルタイム検索」が有効）設定になっています。通常はこの状態でお使いください。画面右下にが表示されていたら、「リアルタイム検索」は無効です。が表示されているときは有効です。
「リアルタイム検索」を有効にしている間は、ウイルスの検査が頻繁におこなわれるため、ほかのソフトの動作が遅くなることがあります。ウイルスに対して安全な状況であるとわかっている場合、「リアルタイム検索」を一時的に無効にすることができます。
また、パソコンや周辺機器の設定、インターネット接続の設定をするときなどに、ウイルスチェックを停止するよう指示が表示される場合があります。その場合も、「リアルタイム検索」を一時的に無効に設定してください。
「リアルタイム検索」の有効/無効設定について詳しくは、「サポートナビゲーター」-「安心安全に使う」-「ウイルス感染の防止」-「ウイルスを見張る」をご覧ください。

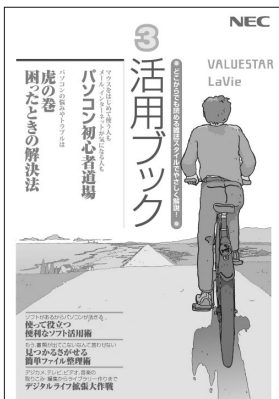
その他のウイルス対策ソフトを使う

「ソフトチョイスサービス」を利用すると「ウイルスバスター」以外のウイルス対策ソフトを使うことができます。

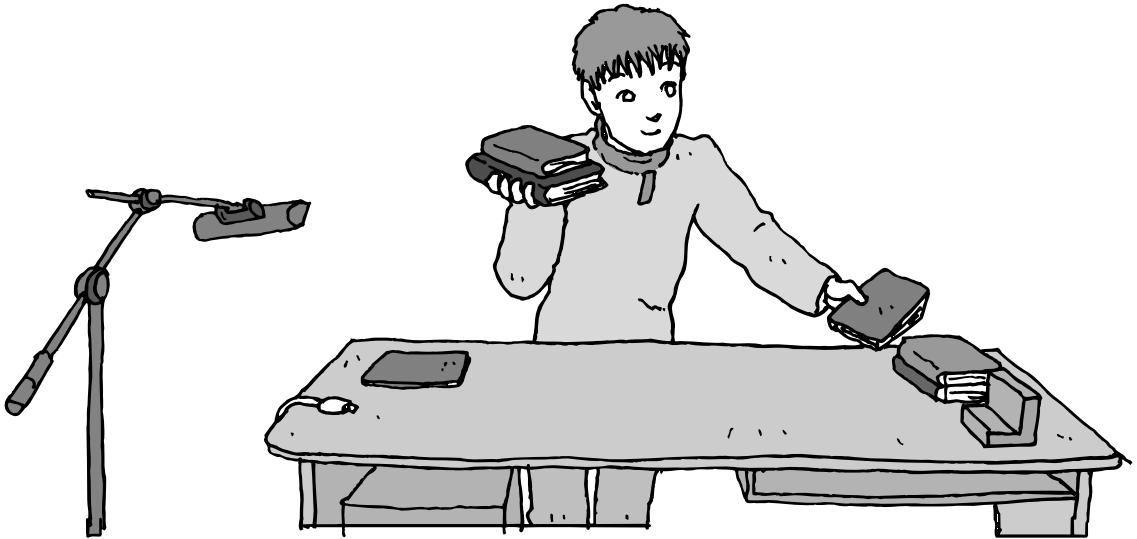
「ウイルスバスター」以外のウイルス対策ソフトを使用する場合は、必ず「ウイルスバスター」を削除（アンインストール）してください。削除方法については、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「ソフト一覧」-「ウイルスバスター」の「追加方法と削除方法」をご覧ください。

有害なホームページを閲覧できないようにするためには

インターネットにアクセスすると、さまざまなホームページを閲覧できます。しかし、有害な情報を含むホームページもあります。このようなホームページへのアクセスを自動的に遮断してくれる「i-フィルター」を使うことをおすすめします。
利用者それぞれに適した設定ができるため、お子さまも安心してインターネットを楽しめるようになります。

「i-フィルター」について詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「ソフト一覧」-「i-フィルター」をご覧ください。

インターネット・メールの楽しみ方を知るには

『活用ブック』では、セキュリティ対策のほかに、インターネットやメールでどんな楽しみ方ができるのか紹介しています。
お気軽に読み進めてください。

第6章

パソコンを買い替えたかたへ

すでにパソコンを使っていたかたが、このパソコンでインターネットを利用できるようにしたり、前のパソコンからデータを移したり、前のパソコンで使っていたデータや周辺機器を使えるようにする方法について説明します。

インターネットを使えるようにする:ブロードバンド編

これまでのパソコンで、ADSLなどのブロードバンド接続を利用していたかたは、次の手順でインターネットの接続と設定をおこなってください。

ダイヤルアップのかたは、141ページへ

前のパソコンを家庭の電話回線に直接接続して、ダイヤルアップ接続を利用していたかたは、「インターネットを使えるようにする ダイヤルアップ編」(141ページ)を参照してください。パソコンを買い替えたことを機会にダイヤルアップ接続からブロードバンド接続に切り換えたいかたも、まず、ダイヤルアップ接続をおこない、その後でプロバイダのホームページからコース変更を申し込んでください。

CATVのかたは、ケーブルテレビ局に確認を

前のパソコンでCATV接続を利用されていたかたは、ご契約のケーブルテレビ局にパソコンを買い替えたときの設定方法についてお問い合わせください。

パソコンの接続、設定をおこなう

ブロードバンド接続でインターネットを使えるようにするには、パソコンと通信回線の接続、インターネットの設定、メールソフトの設定が必要です。ご利用の機器に合わせて、第5章の該当するページをご覧ください。

ルータを利用しない場合の接続設定をおこなう

「ブロードバンド接続の設定」(118ページ)をご覧ください。

ルータを利用する場合の接続設定をおこなう

「ルータを利用したブロードバンド接続の設定」(114ページ)をご覧ください。

ルータタイプのADSLモデムを利用している場合も同じです。

インターネットに接続する

「インターネットに接続する」(124ページ)をご覧ください。

設定が終わったら、インターネットへの接続を試してください。

メールソフトを設定する

「メールソフトを設定する」(128ページ)をご覧ください。

インターネットに接続してホームページを見ることができたら、必ず、メールソフトの設定をおこなってください。

上記の設定を済ませてから、「古いパソコンからデータを移す」(143ページ)へ進み、データや周辺機器、ソフトの移行作業をおこなってください。

インターネットを使えるようにする：ダイヤルアップ編

これまでのパソコンでダイヤルアップ接続を利用していたかたは、次の手順でインターネットの接続と設定をおこなってください。

ブロードバンドのかたは、140 ページへ

ADSL など、前のパソコンでブロードバンド接続を利用していたかたは、「インターネットを使えるようにする ブロードバンド編」（140 ページ）をご覧ください。パソコンを買い替えたことを機会にダイヤルアップ接続からブロードバンド接続に切り換えたいかたは、まず、次の説明を読んでダイヤルアップ接続をおこない、その後でプロバイダのホームページからコース変更を申し込んでください。

ダイヤルアップとは

インターネットを利用するたびに、パソコンから電話をかける接続方法です。前のパソコンにモデムが内蔵されている場合は、パソコンと電話回線を電話回線ケーブルで接続していたはずです。前のパソコンを電話回線から取り外し、代わりにこのパソコンを接続してください。

前のパソコンにモデムが内蔵されていない場合、外付けのモデムを利用していたと考えられます。このパソコンにはモデムが内蔵されているため、従来お使いの外付けモデムを利用する必要はありません。

1 パソコンを電話回線に接続する

1 電話機などにつながっている電話回線ケーブルを、壁面などのモジュラコンセントから取り外す

2 添付の電話回線ケーブルを接続する（パソコン側）

3 添付の電話回線ケーブルを接続する（壁側）

パソコンと電話回線をつなぐ電話回線ケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。

パソコンの設定をおこなう

「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「ソフト一覧」-「新しい接続ウィザード」をご覧ください。
「新しい接続ウィザード」の説明画面の下にある「詳しい説明を見る」ボタンをクリックすると、デスクトップ画面の右側に説明が表示されます。「ダイヤルアップIP接続の設定をする」から順にご覧ください。

操作を始める前に、これまでのパソコンで利用していたアクセスポイントの電話番号を調べておいてください。アクセスポイントとは、プロバイダに接続するための電話番号です。わからないときは、プロバイダにお問い合わせください。

続けて、「メールソフトを設定する」（128ページ）をご覧ください。メールソフトの設定が終わったら、次ページへ進み、データや周辺機器、ソフトの移行作業をおこなってください。

古いパソコンから データを移す

データ引越ツール「データトラベリング」を利用すると、これまでお使いのパソコンからデータを移行することができます。

データトラベリングで移行できるデータ

次のようなデータを移行することができます。

・Internet Explorer の「お気に入り」
・Outlook の予定表や連絡先、メールのアカウントや受信データなど
・Outlook Express のアカウント、アドレス帳や送受信データ
・年賀状作成ソフト「筆王」の住所録
・マイドキュメントに保存されているデータ
・デスクトップに置かれているデータ
・指定のフォルダに入っているデータ
・ダイヤルアップ接続の設定

移行される内容について詳しくは、データトラベリングを起動後、最初に表示される画面で「機能紹介と移行内容」をクリックしてご確認ください。

古いパソコンが次の条件にあてはまること

使用していたOS（オーエス）が次のいずれかであること

・Windows 98 Second Edition
・Windows Me(Millennium Edition)
・Windows 2000 Professional
・Windows XP Home Edition
・Windows XP Professional

これまでにお使いのパソコンのOSが上記以外の場合、データトラベリングは利用できません。マイドキュメントのウィンドウで、「ヘルプ」-「バージョン情報」をクリックすると、Windowsのバージョンを調べることができます（マイコンピュータ、コントロールパネルなどのウィンドウでも同様です）。

LANコネクタがあること

データトラベリングを利用するには、古いパソコンとこのパソコンをLANケーブルで接続する必要があります。これまでお使いのパソコンにLANコネクタがない場合、利用できません。

1 データトラベリングを使う準備をする

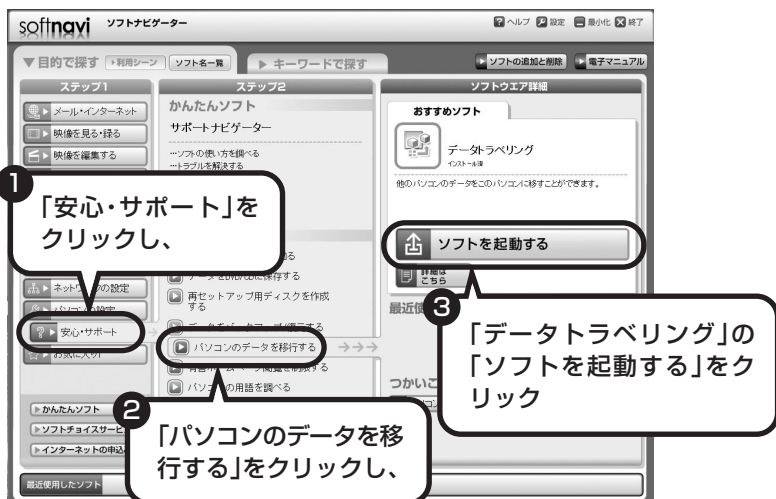
未使用の CD-R または CD-RW を 1 枚用意します。

DVD-R、DVD-RW、DVD+R、DVD+RW、DVD-RAM、DVD-R（2 層）、DVD+R（2 層）は使用できません。

古いパソコンと、このパソコンを LAN ケーブルで接続してください。詳しくは、データトラベリングを起動後、最初に表示される画面で、「はじめる前の準備」の「ヘルプ」をクリックして説明をご覧ください。

- **HUB（ハブ）を使って接続するときは、2 台のパソコンをそれぞれストレートケーブルでハブに接続してください（こちらの接続方法をおすすめします）。**
- **2 台のパソコンを直接接続するときは、クロスケーブルをお使いください。**
- **複数のユーザーでパソコンを使用している場合は、管理者権限のあるユーザーでログオンしてください。ほかのユーザーはログオフしてください。**

2 データトラベリングを起動する

デスクトップ画面の ソフトナビゲーター（ソフトナビゲーター）をダブルクリックします。

3　ネットワーク設定をする

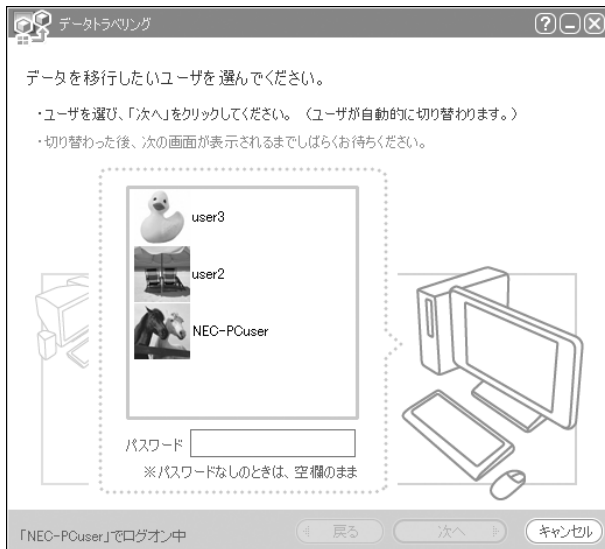
通常は「おまかせで設定。（おすすめ）」を選択して、「次へ」をクリックします。ネットワーク設定を自分でおこないたい場合は「手動で設定。」を選択してください。詳しくは、「ヘルプ」をクリックして確認してください。

「おまかせで設定。（おすすめ）」を選ぶと、コンピュータの設定が変更される場合があります。詳しくは、「ヘルプ」をクリックして確認してください。

「ヘルプ」をクリックしてファイアウォールと共有フォルダの設定をおこないます。設定が終わったら「次へ」をクリックします。

データの移行に必要な設定ですので、必ずおこなってください。

4 このパソコンで「ツールCD」を作成する

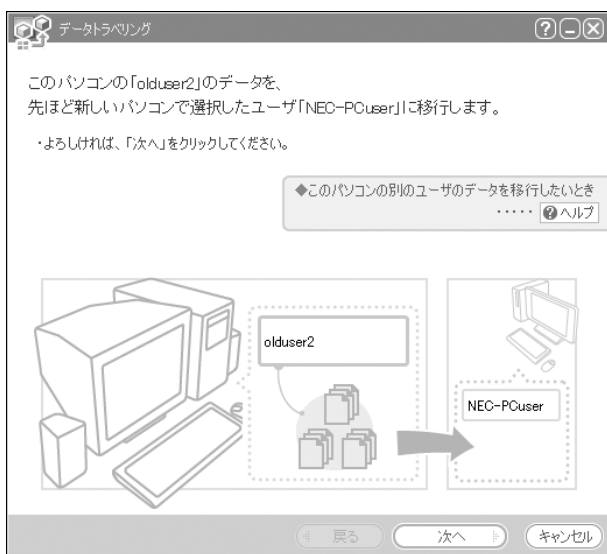
この画面が表示されたら、未使用のCD-RまたはCD-RWをセットします。自動的に「ツールCD」の作成が始まります。

複数のユーザーでパソコンを使用している場合は、移行するユーザーを選択して「次へ」をクリックしてください。
選択したユーザーにパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してから「次へ」をクリックしてください。

「ツールCD」の作成が完了したら、ディスクを取り出してください。

5 古いパソコンで、移行するデータを指定する

これまでお使いのパソコンに「ツールCD」をセットします。しばらくすると、次の画面が表示されます。

「次へ」をクリックしてください。

途中でパソコンを再起動することがありますので、使用中のほかのソフトは終了させてください。

複数のユーザーでパソコンを使用している場合はこの画面が表示されます。表示されている内容を確認して「次へ」をクリックしてください。

移行するデータを選択して「次へ」をクリックしてください。

選択したデータによっては、さらに詳細な移行内容を設定する必要があります。その場合、画面に指示が表示されますので、それにしたがって操作してください。

この画面が表示されたら、「完了」をクリックして、「ツールCD」を取り出してください。

6 このパソコンで、残りの移行作業をおこなう

古いパソコンで「完了」をクリックすると、この画面が新しいパソコンに表示されます。自動的に残りの移行処理がおこなわれるため、しばらくお待ちください。

この画面が表示されたら、データの移行は完了です。

移行したデータによっては、この後で詳細な設定作業が必要になることがあります。その場合、画面に指示が表示されますので、それにしたがって操作してください。

周辺機器を使えるようにする

古いパソコンに接続して利用していたプリンタなどの周辺機器は、そのままこのパソコンに接続できるとはかぎりません。

周辺機器を移行する前に確認が必要

まずは、周辺機器のマニュアルでチェック

周辺機器に添付のマニュアルで、その機器がWindows XPに対応しているか確認してください。対応している場合、このパソコンとの接続方法や設定の手順についての説明をご覧ください。

メーカーのホームページもチェック

周辺機器のマニュアルだけでなく、メーカーのホームページで、ご利用の製品についてのサポート情報も必ず確認してください。マニュアルよりも新しい情報がホームページで確認できることがあります。Windows XPに対応した最新のドライバ（周辺機器を利用できるようにするためのソフト）がダウンロードできるときは、最新のドライバをお使いください。

周辺機器の一般的な移行手順

古いパソコンから周辺機器を取り外す

取り外しの手順については、周辺機器に添付のマニュアルや、古いパソコンに添付のマニュアルをご覧ください。

このパソコンに周辺機器を取り付け・接続する

USB接続する周辺機器などの場合、このパソコンに取り付け・接続する前に、ドライバなどをインストールしておく必要があることもあります。マニュアルなどで確認してください。

このパソコンで使用できるように設定する

周辺機器によっては、取り付け・接続するだけで使えるようになるものもあります。パソコンでの設定方法についても、マニュアルなどで確認してください。

周辺機器の動作確認をおこなう

周辺機器を移行したら、うまく動作するか確認してください。うまく動作しないときは、ドライバや添付ソフトなどを確認して、周辺機器のメーカーにお問い合わせください。

ソフトを移す

古いパソコンで利用していたソフトを、このパソコンで利用するときに注意することを説明します。

ソフトを移行する前に

このパソコンに最新版が入っていないかチェック

このパソコンには、主要なソフトが入っています。これまで利用していたソフトの最新版や、同じ用途のソフトが見つかるかもしれません。

ソフトのマニュアルをチェック

ソフトに添付のマニュアルで、Windows XPに対応しているか確認してください。対応していない場合、このパソコンでは利用できません。

開発元のホームページもチェック

ソフトの開発元のホームページで、ご利用の製品についてのサポート情報も必ず確認してください。Windows XPに対応するための方法など、マニュアルよりも新しい情報がホームページで確認できることがあります。

ソフトの一般的な移行手順

必要な情報を確認する

マニュアルなどで、インストールに必要な情報を確認します。ユーザー名やライセンス番号などが必要な場合は、それらの情報をメモしておきましょう。ソフトによっては設定を移行する機能を持つものがあります。その場合、マニュアルやホームページなどで移行方法を調べてください。

ライセンスとは

ソフトのメーカーが購入者に対して許諾する、使用権を「ライセンス」と呼びます。ライセンスの条件にしたがわずにソフトを使用した場合は不正使用になり、著作権を侵害してしまうこともあります。ライセンスの内容を確認して、不正使用にならないようにアンインストールやインストールをおこなってください。

古いパソコンからソフトをアンインストールする

アンインストールの方法については、ソフトに添付のマニュアルをご覧ください。

このパソコンにインストールする・必要な設定をおこなう

マニュアルなどをご覧になり、このパソコンにインストールしてください。必要に応じて、インストール後の設定作業をおこなってください。

第 7 章

前に使っていたパソコンと一緒に使いたいかたへ

このパソコンには、パソコンを接続してホームネットワークを作るためのソフト「ホームネットサポーター」が入っています。
家庭でネットワークを作ることの利点や、「ホームネットサポーター」の使い方を紹介します。

ホームネットワークでできること

複数のパソコンをつなぐことで、もっと便利にパソコンライフが広がります。

複数のパソコンから同時にインターネットを利用できる

ADSLなどでブロードバンド接続を利用している場合、複数のパソコンから同時にインターネットを楽しむことができるようになります。複数のパソコンでインターネットを利用しても、電話機はこれまでどおり使えます。

プリンタを共有して、複数のパソコンから印刷する

ホームネットワークがあれば、どのパソコンからも1台のプリンタで印刷できるようになります。そのたびにプリンタをつなぎ替えたり、プリンタが接続されたパソコンに移動したりする必要がありません。

パソコン同士で簡単にデータを受け渡しできる

デジタルカメラの画像やパソコンで作成した文書などを、家庭内のパソコン同士で受け渡せるようになります。フロッピーディスクやメモリーカードなどを使う必要はありません。ファイルサイズの大きなデータでも、手軽にやりとりできます。

ほかのパソコンの共有フォルダにデータをバックアップ

ホームネットワークがあれば、「バックアップ－NX」というソフトを使ってこのパソコンのデータをネットワーク上にあるほかのパソコンの共有フォルダにバックアップを取ることができます。大切なデータを間違って削除してしまったときなどに、ほかのパソコンにバックアップを取っておいたデータを使ってもとに戻すことができます。
1日1回、週に1回などバックアップを取るスケジュールを設定できるので、定期的にバックアップを取ることができます。

ホームネットワークも、LANのひとつ

会社や学校で、複数のパソコンをつないでいる環境があるかたは、「LAN（ラン）」という言葉を耳にしたことがあるかもしれません。「LAN」とは「ローカル・エリア・ネットワーク」の略で、同じ建物に置かれたパソコンやプリンタなどの周辺機器をつないで情報をやりとりできるようにしたものです。ホームネットワークも、LANのひとつです。

複数のパソコンを ホームネットワークでつなぐ

「ホームネットサポーター」が利用できる条件や、設定の進め方について説明します。

「ホームネットサポーター」の利用条件

「ホームネットサポーター」を使用するには、次の条件を満たしている必要があります。

接続したいパソコンのOSが次のいずれかに該当すること

・Windows XP Home Edition
・Windows XP Professional
・Windows XP Media Center Edition

接続したいパソコンのOSが上記以外の場合、「ホームネットサポーター」は利用できません。

ご利用の回線がADSLまたはFTTHであること

ISDN、CATVをご利用の場合、「ホームネットサポーター」は利用できません。

未使用のCD-RまたはCD-RWを1枚用意する

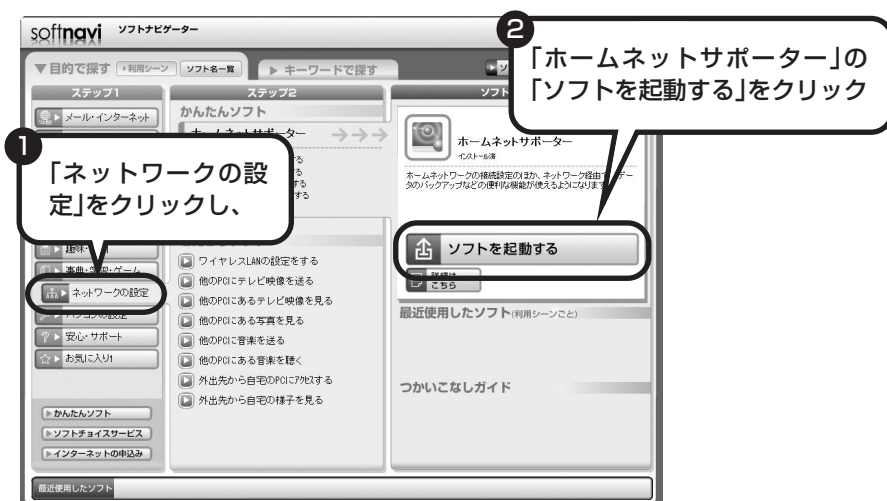
ホームネットワークに接続するほかのパソコンに、「ホームネットサポーター」をインストールするCDを作成します。

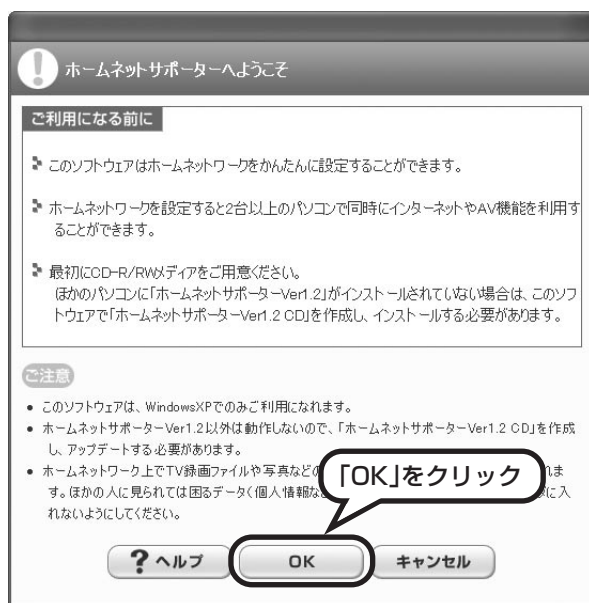
複数のユーザーでパソコンを使用している場合は、管理者権限のあるユーザーでログオンしてください。ほかのユーザーはログオフしてください。

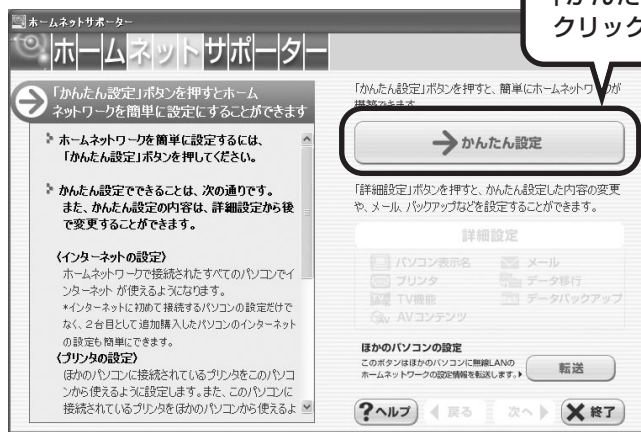
「ホームネットサポーター」が利用できないとき

パソコンのOSや通信回線などが上記の条件に該当しないときは、手動でネットワークの設定をおこなう必要があります。詳しくは、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「LAN」をご覧ください。

「ホームネットサポーター」を開始する

デスクトップ画面の（ソフトナビゲーター）をダブルクリックします。

「コンピュータ名変更」の画面が表示されたら、「OK」をクリック。パソコンが再起動します。

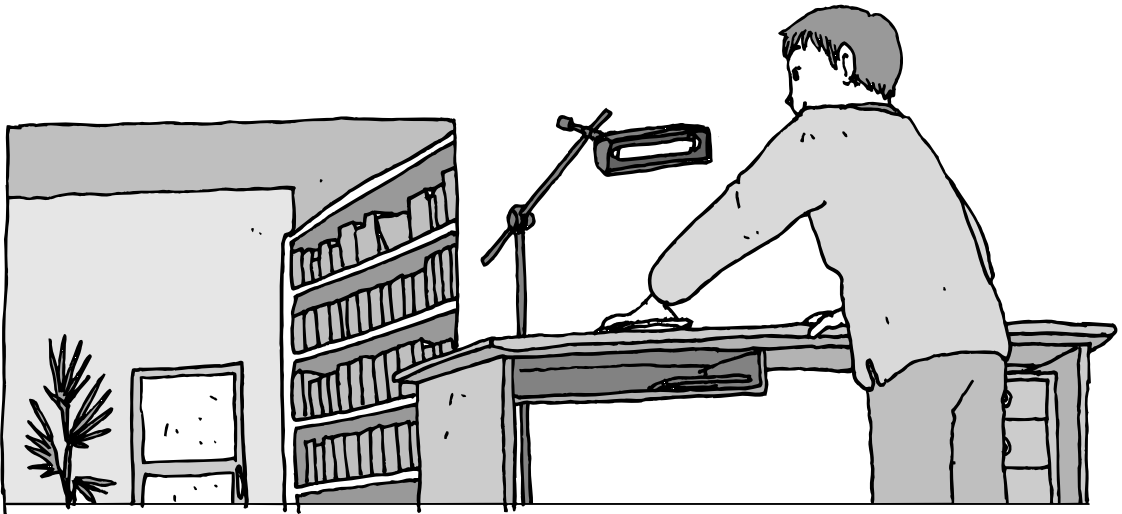
「ホームネットサポーターへようこそ」の画面が表示されます。

まずは「かんたん設定」

「かんたん設定」をクリックすると、ホームネットワークを作る手順が始まります。画面に表示される説明を読みながら、設定を進めてください。

「かんたん設定」では次の設定をおこなえます。

・インターネットの設定

・プリンタの設定

・AV コンテンツの設定

第8章

再セットアップする

パソコンを起動できなくなったときなどの「最後の手段」が再セットアップです。再セットアップをおこなうと、パソコンに保存されている大切なデータや設定の内容などが失われてしまうことがあります。作業を始める前に、この章の説明をよくお読みください。

Office Professional 2003モデルの場合は、再セットアップの際に準備するものや、再セットアップ手順が一部異なります。『VALUESTAR Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』も合わせてご覧ください。

再セットアップを始める前に

再セットアップの意味を理解して、いくつかのトラブル解決手段を試してみましょう。

パソコンをご購入時の状態に戻す、再セットアップ

再セットアップとは、パソコンを買ってきた直後におこなうセットアップ（準備作業）をもう一度おこなって、パソコンの中をご購入時の状態に戻すことです。エラーメッセージが何度も表示されたり、フリーズ（画面の表示が動かなくなること）が多くなったりしたときは、意識しないうちにパソコンのシステムが壊れたり、設定が変更されてしまった可能性があります。再セットアップすると、パソコンをご購入時の状態に戻すことができます。
しかし、再セットアップをおこなうと、自分で作って保存しておいた文書や電子メールの内容、アドレス帳などがすべて消えてしまいます。どうしてもトラブルを解決できないときの最後の手段として再セットアップをおこなってください。この後の説明を読み、再セットアップの前にデータのバックアップ（データの控えを残しておくこと）を取ってください。

再セットアップの前に試すこと

再セットアップを始める前に、次のチェックを試してみてください。問題が解決することがあります。

ウイルスチェックをおこなう（161ページ）

↓

セーフモードでパソコンを起動してみる（162ページ）

↓

データのバックアップを取る（164ページ）

↓

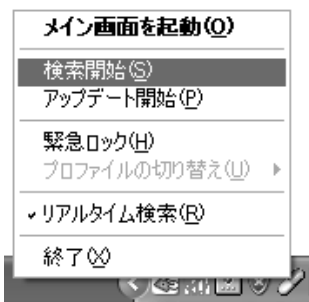
システムの復元を試みる（166ページ）

ウイルスチェックをおこなう

ウイルスとは、パソコンに誤動作やデータの破壊などのトラブルを引き起こす不正プログラムです。インターネットやメールを経由してパソコンに入り込んだり、ウイルスに感染したディスクからパソコンに感染してしまうこともあります。

知らないうちに保存したデータが消えていたり、意味不明な文字や絵が突然画面に表示されたりしたときは、次のようにしてウイルスをチェックしてください。ウイルスが駆除されればパソコンが正常に使えるようになることがあります。

「ウイルスバスター」でチェックする

1 **デスクトップ画面右下の通知領域にあるを右クリックし、「検索開始」をクリック**

アイコンが表示されていないときは、ソフトナビゲーターの「メール・インターネット」-「ウイルスを検出・駆除する」-「ウイルスバスター」の「ソフトを起動する」をクリックしてください。「ウイルスバスター」のメイン画面が表示されたら「検索開始」をクリックしてください。

ウイルスのチェックが完了するまでにしばらく時間がかかります。ウイルスが見つかったときは、画面に表示される指示にしたがって操作してください。

ウイルスチェックは、常に最新のウイルス情報をもとにおこなう必要があります。「ウイルスバスター」は、はじめてアップデート機能を利用した日から90日間、無料で最新のウイルス検索やウイルス定義ファイルのアップデートをおこなうことができます。詳しくは、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「ソフト一覧」-「ウイルスバスター」をご覧ください。

セーフモードでパソコンを起動してみる

電源を入れてもパソコンが正常に起動しないときなどは、次のようにしてパソコンをセーフモードで起動してください。

セーフモードは、Windowsの機能を限定して、必要最小限のシステム環境でパソコンを起動する、Windowsの起動モードのひとつです。通常の操作ではパソコンが起動しない場合でも、セーフモードなら起動できることがあります。

セーフモードでは、Windows の最小限の機能しか使えません。

1 **パソコン本体の電源を切る**

通常の操作で電源を切ることができないときは、電源スイッチを4秒以上押したままにして電源を切ってください。

2 **キーボードの電源スイッチでパソコン本体の電源を入れる**

3 **「NEC」のロゴマークが表示されたら、【F8】を何度か押す**

4 **「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されたら、【↑】、【↓】を使って「セーフモード」を選び、【Enter】を押す**

「Windows拡張オプションメニュー」が表示されず、パソコンが通常のように起動してしまったときは、いったん電源を切り、手順2からやりなおしてください。

また、ここで「オペレーティングシステムの選択」と表示されたときは、【F8】を押すと「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されます。

5 **「オペレーティングシステムの選択」と表示されたら、そのまま【Enter】を押す**

6 **ユーザー選択の画面が表示されたときは、自分のユーザー名をクリック**

7 **「Windows はセーフモードで実行されています。…」と表示されたら、「はい」をクリック**

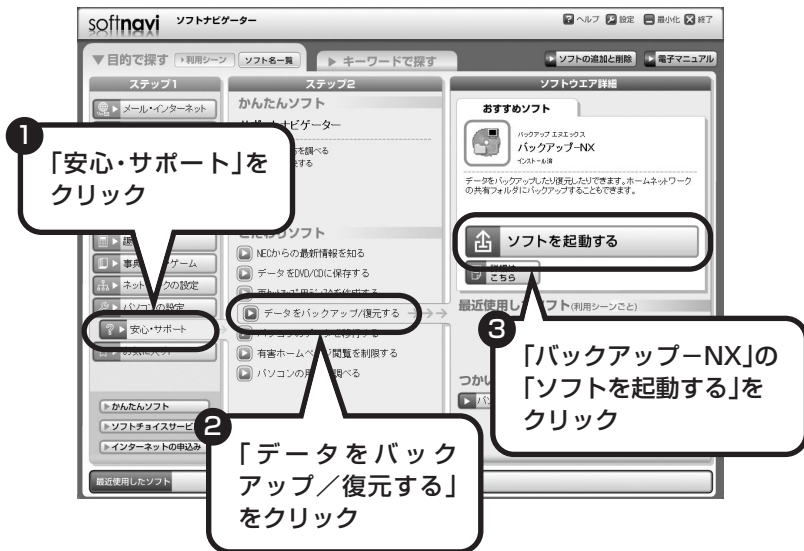
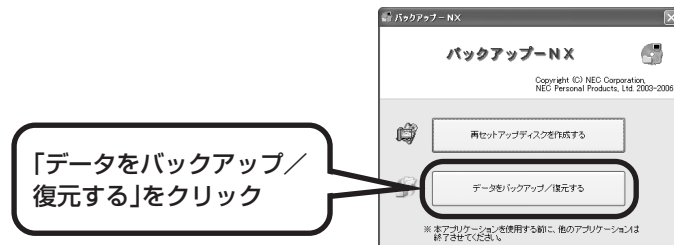
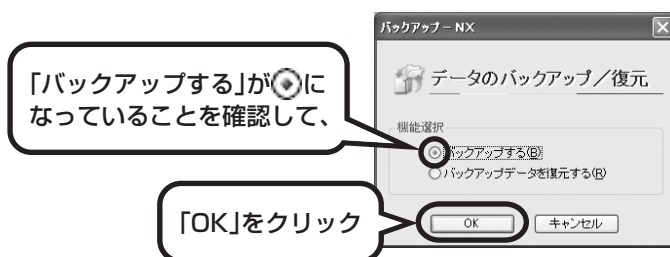
これで、パソコンをセーフモードで起動することができました。

この後、「スタート」-「終了オプション」-「再起動」をクリックし、再起動して問題がなければ、正常な状態に戻ります。

セーフモードについて詳しくは、「スタート」-「ヘルプとサポート」-「問題を解決する」-「問題のトラブルシューティング」-「Windows をセーフモードで起動する」をご覧ください。

データのバックアップを取る

システムの復元や再セットアップをおこなう前に、必ずデータのバックアップを取ってください。

1 デスクトップ画面の（ソフトナビゲーター）をダブルクリック

2 「バックアップー NX」の画面が表示されたら、「データをバックアップ／復元する」をクリック

3 この画面が表示されたら、「OK」をクリック

バックアップできるソフトの一覧が画面に表示されます。

4 「バックアップするアプリケーション」、「バックアップするインターネット設定」のいずれも「すべて選択」に が付いていることを確認して、「開始」をクリック

初期状態では、パソコンのハードディスク内にあるDドライブという場所にデータの控えが作成されるようになっています。再セットアップの際にCドライブの領域を変更する場合には、D ドライブのデータも消えてしまうため、CD-R/RW、DVD-Rなどのディスク、またはほかのパソコンにデータのバックアップを取る必要があります。バックアップ先を変更するには、次の「バックアップの実行」の画面でバックアップ先の場所を指定します。

5 「バックアップの実行」の画面が表示されたら、「実行」をクリック

バックアップが始まります。完了までにしばらく時間がかかります。

6 「データのバックアップが完了しました。」と表示されたら、バックアップユーザー名を控えてから「閉じる」をクリックし、「バックアップ－NX」の画面右上の☒をクリック

- Dドライブにバックアップを取った場合は、バックアップが成功すると「D:¥BackupNX¥（ユーザー名）」フォルダに「BackupNX.bnx」というファイルが作られます。（ユーザー名）には、バックアップを取ったユーザーの名前が入ります。
- 家族など、複数のユーザーでこのパソコンを共有している場合、ユーザーの人数分だけバックアップが必要です。「スタート」-「ログオフ」-「ユーザーの切り替え」の順にクリックして、ユーザーごとにバックアップの手順を繰り返してください。このとき、制限ユーザーのバックアップは、管理者ユーザーが取ってください。

・セキュリティ機能を使用してパスワード付きのバックアップを取る場合、パスワードを控えておいてください。パスワードを忘れると復元できなくなります。

・セキュリティ機能を使用してDVDやCDにデータのバックアップを取る場合や、バックアップを取ったデータを参照・復元する場合、Cドライブに一時的にデータをコピーする必要があります。そのため、バックアップを取ったデータのサイズに応じて、Cドライブに0.9～9GBの空き容量が必要です。

・「バックアップ－NX」でバックアップを取ったデータは、パソコンを再セットアップしたら、すぐに復元してください。復元が遅れると、再セットアップ以降に作成されたデータが失われることがあります。

・「バックアップ－NX」について詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「ソフト一覧」-「バックアップ－NX」をご覧ください。

・障害によりWindowsが起動しないときは「バックアップレンジャー」を使ってバックアップを取ることができます。詳しくは194ページをご覧ください。

・デジタルハイビジョンTVモデルでは、テレビ番組を録画したデータを「バックアップ－NX」でバックアップできません。「SmartVision」を起動して、Cドライブ以外のフォルダに番組を移動することで、Cドライブを再セットアップしてもデータを残しておくことができます。詳しくは、『もっとテレビを楽しむ本』をご覧ください。

システムの復元を試みる

システムの復元によって、トラブルが発生する前の「復元ポイント」を指定して、Windowsを構成する基本的なファイルや設定だけをもとに戻すことができます。この方法を使うと、「マイドキュメント」などに保存しておいたデータの多くをそのまま残しておくことができます。

・システムの復元をおこなう前にデータのバックアップを取ってください。システムを復元することで大切なデータが失われることがあります。

・システムの復元をおこなうときは、前もって起動中のソフトを終了させておいてください。

・Windowsが正常に起動しない場合は、「セーフモードでパソコンを起動してみる」で説明した手順1～7にしたがって、パソコンをセーフモードで起動してください。その後、次の手順で操作します。

1 「スタート」-「すべてのプログラム」-「アクセサリ」-「システムツール」-「システムの復元」の順にクリック

2 「システムの復元」の画面が表示されたら、「コンピュータを以前の状態に復元する」が◉になっていることを確認し、「次へ」をクリック

3 カレンダーから復元したい日付をクリック

太字で表示された日付から、トラブルが起きるようになる前の日付を選んでください。

4 選択した日付の「復元ポイント」が複数表示されているときは、どれかをクリックして選択し、「次へ」をクリック

5 「復元ポイントの選択の確認」が表示されたら、内容を確認して「次へ」をクリック

選択した「復元ポイント」の時点にさかのぼって、パソコンのシステムが復元されます。しばらくすると、自動的にパソコンが再起動します。

6 「復元は完了しました」と表示されたら、「OK」をクリック

これで、システムの復元は完了です。

「前回正常起動時の構成」でシステムを起動する

セーフモードでもパソコンを起動できず、「システムの起動」も実行できない場合、次の手順を試してください。

1 キーボードの電源スイッチでパソコン本体の電源を入れる

2 「NEC」のロゴマークが表示されたら、【F8】を何度か押す

3 「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されたら、【↑】、【↓】を使って「前回正常起動時の構成」を選び、【Enter】を押す

「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されず、パソコンが通常のように起動してしまったときは、いったん電源を切り、手順 1 からやりなおしてください。

4 「オペレーティングシステムの選択」と表示されたら、そのまま【Enter】を押す

これで、前回正常起動時の構成を使用してパソコンが起動します。

再セットアップする（Cドライブのみ）

このパソコンのハードディスクにあるＣドライブの内容をご購入時の状態に戻します。

パソコンに慣れていないかたは、この方法で再セットアップ

このパソコンのハードディスクには、あらかじめCドライブとDドライブという２つの領域と、インスタント機能用のデータが入っている領域があります。Cドライブには、Windowsやアプリケーションソフト、マイドキュメントなどに保存したファイルなどが入っています。Dドライブには、ソフトチョイス対応アプリケーションのセットアップ用データが入っています。アプリケーションソフトで作成したデータやバックアップデータの保存先にDドライブを指定した場合は、それらのファイルも入っています。

「再セットアップする（Cドライブのみ）」で説明する手順では、Dドライブの内容を残したまま、Cドライブだけをご購入時の状態に戻します。パソコンの操作に慣れていないかたやハードディスクをフォーマットした経験のないかたは、この方法で再セットアップをおこなってください。

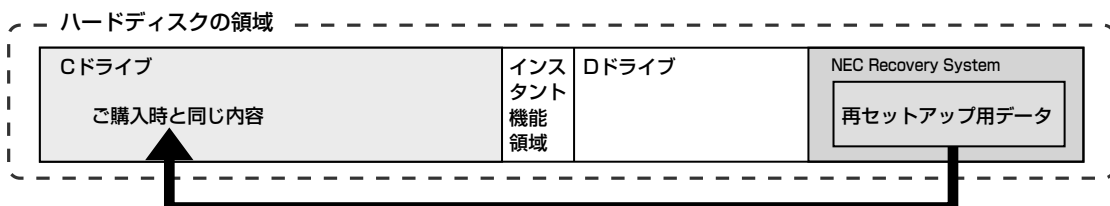
Cドライブの領域を変更して再セットアップする場合は、180ページ

Cドライブの領域を変更して再セットアップする場合は、「Cドライブの領域を変更して再セットアップする」（180ページ）へ進んでください。その場合、Dドライブのデータも失われるため、ソフトチョイス用アプリケーションDVD/CD-ROMの作成も必要になります。パソコンやハードディスクの知識を十分にお持ちのかたのみCドライブの領域を変更してください。

※インスタント機能のみ再セットアップする場合は、181ページをご覧ください。

ハードディスクに格納されている再セットアップ領域データ（NEC Recovery System）を、Cドライブに書き込んで再セットアップします。ハードディスクの領域の変更はしません。

ハードディスクの領域

Cドライブ ご購入時と同じ内容	インスタント機能領域	Dドライブ	NEC Recovery System 再セットアップ用データ

ハードディスクにある再セットアップ用データを使って再セットアップ

再セットアップの流れ

再セットアップは次の13項目の作業を連続しておこないます。項目によっては（　）内におよその作業時間を示していますが、実際にかかる時間はモデルやパソコンの使用状況で異なります。
Office Professional 2003モデルの場合は、準備するものやOfficeの再セットアップ手順が異なります。『VALUESTAR Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』をご覧ください。

1　必要なものを準備する
2　バックアップを取ったデータを確認する
3　インターネットやLANの設定を控える
4　ユーザー名を控える
5　BIOS（バイオス）の設定を初期値に戻す：初期値を変更している場合のみ
6　別売の周辺機器（メモリ、プリンタ、スキャナなど）を取り外す
7　システムを再セットアップする（約1時間）
8　Windowsの設定をする（約30分）
9　Office Personal 2003を再セットアップする（約10分）
　　：Office Personal 2003モデルのみ
10　別売の周辺機器（メモリ、プリンタ、スキャナなど）を取り付けて設定しなおす
11　インターネット接続の設定などをやりなおす
12　別売のソフトをインストールしなおす
13　バックアップを取ったデータを復元する

バックアップは終わっていますね？

再セットアップをおこなうと、Cドライブに保存したデータはすべて失われます。バックアップが終わっていない場合、164ページをご覧ください。

再セットアップを始めたら、途中でやめない！

再セットアップは、すべての作業項目を最後まで続けて作業することが必要です。途中でやめてしまうと、再セットアップが終わってもデータがもとどおりに復元されなかったり、一部のデータが失われたりすることがあります。

1 必要なものを準備する

Office Professional 2003モデルの場合は、『VALUESTAR Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』をご覧になり、必要なものを準備してください。

このパソコンの添付品から、次のものを準備してください。

- 「Microsoft® Office Personal Edition 2003」CD-ROM（Office Personal 2003 モデルのみ）
- 「Microsoft® Office Home Style＋」 CD-ROM（Office Personal 2003 モデルのみ）
- 『準備と設定』（このマニュアル）

その他、このパソコンをご購入後に自分でインストールしたソフトがある場合、そのマニュアルをご覧になり、インストールに必要なCD-ROMなどを準備してください。

2 バックアップを取ったデータを確認する

164ページの「データのバックアップを取る」でバックアップを取ったデータを、もう一度確認してください。まだバックアップを取っていなかったり、バックアップに失敗していたときは、バックアップを取りなおしてください。

3 インターネットやLANの設定を控える

再セットアップをおこなっても、インターネット接続の設定は自動的には復元されません。インターネットを利用している場合、プロバイダの会員証を用意してください。会員証がない場合は、次の項目をメモしてください。

- ユーザー ID
- パスワード
- 電子メールアドレス
- メールパスワード
- プライマリ DNS
- セカンダリ DNS
- メールサーバー
- ニュースサーバー
- アクセスポイントの電話番号（ダイヤルアップ接続の場合）

4 ユーザー名を控える

このパソコンをご購入後、はじめて電源を入れておこなったセットアップ作業で設定したユーザー名を確認し、次の「ユーザー1」の欄に控えておきます。「キーボードを使って自分の名前を入れる」(49ページ)をご覧ください。「8.Windowsの設定をする」の作業をおこなうときに、このユーザー名が一致しないとデータが復元できなくなってしまいます。

	ユーザー名
ユーザー1(1人目)	
ユーザー2(2人目)	
ユーザー3(3人目)	
ユーザー4(4人目)	

- 家族など、このパソコンを複数のユーザーで共有している場合、それらのユーザー名も一緒に控えておくことをおすすめします。
- ユーザー名を控えるときは、「大文字と小文字の区別」、「半角と全角の区別」に注意してください。
- 「バックアップ－NX」でデータのバックアップを取った場合は、バックアップが完了したときに表示されるバックアップユーザー名を控えてください。

5 BIOSの設定を初期値に戻す:初期値を変更している場合のみ

BIOSの設定を変更している場合は、BIOSセットアップユーティリティを起動して、変更した内容をメモしてから、設定を初期値に戻してください。この作業は、BIOSの設定を変更していない場合は必要ありません。手順について詳しくは、『活用ブック』の「困ったときの解決法」-「画面が表示されないとき」-「パソコンの使用環境を変更したら、Windowsが起動しない」をご覧ください。

6 別売の周辺機器(メモリ、プリンタ、スキャナなど)を取り外す

別売の周辺機器をすべて取り外してください。また、インターネットの通信回線との接続に使っている電話回線ケーブルやLANケーブルも取り外してください。

外付けのハードディスクドライブなどを接続したまま再セットアップをおこなうと、ハードディスク内のデータが削除される場合があります。

7 システムを再セットアップする

次の手順で操作してください。

1. **パソコン本体の電源を切る**
   通常の操作で電源を切ることができないときは、電源スイッチを4秒以上押したままにして電源を切ってください。
2. **キーボードの電源スイッチでパソコン本体の電源を入れる**
3. **「NEC」のロゴマークが表示されたら、【F11】を何度か押す**
4. **「再セットアップツール」の画面が表示されたら、「開始」をクリック**
   「再セットアップツール」の画面が表示されず、パソコンが通常のように起動してしまったときは、いったん電源を切り、手順2からやりなおしてください。
5. **「再セットアップとは」の画面が表示されたら、「次へ」をクリック**
6. **「準備するもの」の画面が表示されたら、必要なものがそろっているか確認し、「次へ」をクリック**
7. **「再セットアップを始める前に」の画面が表示されたら、「次へ」をクリック**
8. **「再セットアップの種類を選択する」の画面が表示されたら、「C ドライブのみ再セットアップ」を選び、「次へ」をクリック**

   ここでバックアップを取りたい場合は「バックアップレンジャー」を選んでください。

9 「C ドライブのみ再セットアップ」の画面が表示されたら、「実行」をクリック

「Cドライブの領域を自由に作成して再セットアップ」の画面が表示されたときは、「戻る」をクリックし、手順８からやりなおしてください。

再セットアップが始まります。再セットアップが始まったら、画面に指示が表示されるまで、キーボードや電源スイッチなどに触れないでください。

10 「パソコンを再起動します」の画面が表示されたら、「再起動」をクリック

「パソコンを再起動します」の画面が表示されなかったときは再セットアップが正常におこなわれていません。「7. システムを再セットアップする」の最初に戻り、操作をやりなおしてください。

「再起動」をクリックして、パソコンが再起動したら、次の「8.Windowsの設定をする」へ進んでください。

8 Windowsの設定をする

次の手順で操作してください。

1 「Microsoft Windows へようこそ」の画面が表示されていることを確認する

2 「次へ」をクリック

3 「使用許諾契約」が表示されたら、「同意します」をクリックして◯を◉にして、「次へ」をクリック

4 「コンピュータを保護してください」が表示されたら、「自動更新を有効にし、コンピュータの保護に役立てます」をクリックして◯を◉にして、「次へ」をクリック

5 「コンピュータに名前を付けてください」が表示されたら、そのまま、「次へ」をクリック

「VALUESTAR」など好みの名前を入力してもかまいません。また、再セットアップする前に付けていた名前と異なるものを入力してもかまいません。

6 「管理者パスワードを設定してください」が表示されたら、管理者パスワードを自由に入力する

7 「パスワードの確認入力」の欄に、手順6で入力したパスワードと同じものを入力して、「次へ」をクリック

8 「このコンピュータをドメインに参加させますか？」と表示されたら、「いいえ」をクリックして◯を◉にして、「次へ」をクリック

9 「インターネットに接続する方法を指定してください」または「インターネット接続が選択されませんでした」と表示されたら、そのまま「省略」をクリック

10 「Microsoft にユーザー登録する準備はできましたか？」と表示されたら、「いいえ、今回はユーザー登録しません」をクリックして◯を◉にして、「次へ」をクリック

11 「今すぐインターネットアクセスのセットアップを行いますか？」と表示された場合は、「いいえ」をクリックして◯を◉にして、「次へ」をクリック

12 「このコンピュータを使うユーザーを指定してください」と表示されたら、あらかじめ控えておいたユーザー名を正確に入力して、「次へ」をクリック

13 「設定が完了しました」と表示されたら、「完了」をクリック

ここで、「アップデートを行います。」という画面が表示された場合は、画面の表示にしたがい「再セットアップ用DVD/CD-ROM(2枚目)」をセットし、「次へ」をクリックしてください。

しばらくすると、「パソコンの診断が終了しました。」と表示されます。

14 **をクリック**

15 **「121ポップリンクの設定」が表示されたら、「利用する」がになっていることを確認し、をクリック**

121ポップリンクは、お使いの機種に適した最新情報をNECからインターネット経由でお届けするサービスです。

16 **「設定が完了しました」と表示されたら、をクリック**

パソコンが再起動します。再起動後、「システムの復元ポイントの設定」の画面が表示されます。しばらくすると、もう一度再起動します。デジタルハイビジョンTVモデルで、アンテナ線を接続している場合は、54ページ以降の手順をご覧になり、「TV共通設定」の設定をしてください。これでWindowsの設定は終了です。

Office Personal 2003モデルの場合は、続けて「9.Office Personal 2003を再セットアップする」に進んでください。
Office Professional 2003モデルの場合は、『VALUESTAR Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』をご覧になり、Office Professional 2003を再セットアップしてください。
その他のモデルの場合は、「10.別売の周辺機器(メモリ、プリンタ、スキャナなど)を取り付けて設定しなおす」(178ページ)へ進んでください。

9 Office Personal 2003を再セットアップする
(Office Personal 2003モデルのみ)

Office Professional 2003モデルの場合は、『VALUESTAR Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』をご覧になり、Office Professional 2003を再セットアップしてください。

このパソコンに入っている「Office Personal 2003」は、機能を厳選してインストールされています。ここでは、ご購入時と同じ状態でセットアップをおこなう手順を説明します。
必要のない機能を削除する方法や、後から機能を追加する方法については、添付の「Office Personal 2003」のマニュアルをご覧ください。

1 「Microsoft® Office Personal Edition 2003」CD-ROMをセットする

2 「Microsoft Office 2003 セットアップ」の画面が表示されたら、プロダクトキーを入力して、「次へ」をクリック

「プロダクトキー」は、CD-ROMケースの裏面に貼ってあるシールに記載されています。

3 「ユーザー情報」が表示されたら、ユーザー名などを入力して「次へ」をクリック

ユーザー名などの欄には、何も入力しなくてもかまいません。

4 「インストールの種類」と表示されたら、「カスタムインストール」をクリックして○を◉にして、「次へ」をクリック

5 「カスタムセットアップ」と表示されたら、「アプリケーションごとにオプションを指定してインストール」をクリックして☐を☑にして、「次へ」をクリック

6 「詳細なカスタマイズ」と表示されたら、「Microsoft Office」の左側にある をクリックして、「マイコンピュータからすべて実行」をクリック

このとき表示される一覧の中に、灰色で表示されているフォルダがないことを確認してください。あったときは、もう一度この手順をやりなおしてください。

7 「Microsoft Office Excel」の左側にある ＋ をクリックし、「読み上げ」の左側にある をクリックして、「インストールしない」をクリック

「読み上げ」の左にあるアイコンが ✕ に変わります。

8 同じようにして「Office共有機能」の ＋ -「入力システムの拡張」の ＋ をクリックし、「音声」の左側にある をクリックして、「インストールしない」をクリック

9 「Microsoft Office Excel」の「読み上げ」、「Office共有機能」の「音声」、どちらも ✕ に変わったことを確認し、「次へ」をクリック

10 「ファイルの概要」と表示されたら、「完了」をクリック

インストールが始まります。

11 再起動するようにメッセージが表示されたら、「はい」をクリック

・「Microsoft Office 2003のセットアップが正常に完了しました。」と表示されることもあります。その場合、「完了」をクリックしてください。

・「Webサイトで更新および追加ダウンロードをチェックする」の□を☑にしないでください。

12 「Microsoft® Office Personal Edition 2003」CD-ROMを取り出す

続けて「Home Style+」をインストールします。

13 「Microsoft® Office Home Style+」CD-ROMをセットする

14 「Microsoft Office Home Style+セットアップへようこそ」の画面が表示されたら、「次へ」をクリック

15 「使用許諾契約書」が表示されたら、内容を確認し、「同意します」をクリックして○を◉にして、「次へ」をクリック

16 「セットアップ先のフォルダ」と表示されたら、「次へ」をクリック

17 「インストールタイプの選択」と表示されたら、「標準」が◉になっていることを確認し、「次へ」をクリック

18 「インストールの開始」と表示されたら、「次へ」をクリック

インストールが始まります。

19 「セットアップは正常に終了しました。」と表示されたら、「OK」をクリック

「Microsoft .NET Framework 1.1 パッケージをインストールしますか？」と表示された場合は、「いいえ」をクリックしてください。

20 「Microsoft® Office Home Style+」CD-ROMを取り出す

続けて「Office 2003 SP2」をインストールします。

21 「スタート」-「マイコンピュータ」をクリックして、「Windows XP(C:)」をダブルクリック

「ファイルは表示されていません。」と表示された場合は、「このフォルダの内容を表示する」をクリックしてください。

22 「APSETUP」フォルダをダブルクリック

23 「O11SP2」フォルダをダブルクリック

24 「O11Sp2PI」をダブルクリック

25 **「Office 2003 Service Pack 2(プレインストール用)」の画面が表示されたら、「はい」をクリック**

26 **「使用許諾契約」の画面が表示されたら、内容に同意して、「はい」をクリック**

インストールが始まります。「インストールを継続するには、次のアプリケーションを閉じる必要があります」と表示された場合は、「無視」をクリックしてください。

27 **再起動するようにメッセージが表示されたら、「はい」をクリック**

これでOffice Personal 2003を使う準備ができました。

再セットアップ後、Office Personal 2003を最初に使用するとき

Outlook 2003やWord 2003、Excel 2003など、Office Personal 2003のソフトを最初に使用するときは、「Microsoft Office 2003 ライセンス認証ウィザード」が表示されます。添付の『Microsoft® Office Personal Edition 2003 スタートガイド』をご覧になり、ライセンス認証をおこなってください。このライセンス認証手続きは、必ず、再セットアップの作業がすべて完了してからおこなってください。

10 別売の周辺機器(メモリ、プリンタ、スキャナなど)を取り付けて設定しなおす

ご利用の周辺機器に添付のマニュアルを準備してから作業してください。

1 **パソコンの電源を切る**

2 **取り外した周辺機器を取り付け、それぞれのセットアップや設定をおこなう**

セットアップや設定の手順、パソコンの電源を入れるタイミングなどについては、各周辺機器に添付のマニュアルにしたがってください。

11 インターネット接続の設定などをやりなおす

再セットアップをおこなうと、インターネット接続の設定や、テレビのチャンネル設定もやりなおす必要があります。プロバイダに接続するためのユーザー名やパスワードなどは、入会時に決まったものがそのまま使用できます。サインアップ（入会申し込み）をやりなおす必要はありません。
「バックアップ－NX」を使ってインターネット接続の設定をバックアップした場合は、簡単に復元することができます。詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「ソフト一覧」-「バックアップ－NX」をご覧ください。
「バックアップ－NX」でインターネット接続の設定のバックアップを取っていない場合、「第6章　パソコンを買い替えたかたへ」を参考にインターネット接続の設定をおこなってください。
テレビのチャンネル設定については、『映像・音楽を楽しむ本』をご覧ください。

12 別売のソフトをインストールしなおす

パソコンに別売のソフトをインストールしていた場合は、それぞれに添付のマニュアルにしたがってインストールをおこなってください。

13 バックアップを取ったデータを復元する

「バックアップ－NX」または「バックアップレンジャー」でバックアップを取っておいたデータを復元してください。詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「ソフト一覧」-「バックアップ－NX」をご覧ください。

これで再セットアップの作業は完了です。

Cドライブの領域を変更して再セットアップする

このパソコンのハードディスクにあるCドライブとDドライブの領域を変更してから、Cドライブをご購入時の状態に戻します。

パソコンに慣れていないかたは、168ページへ

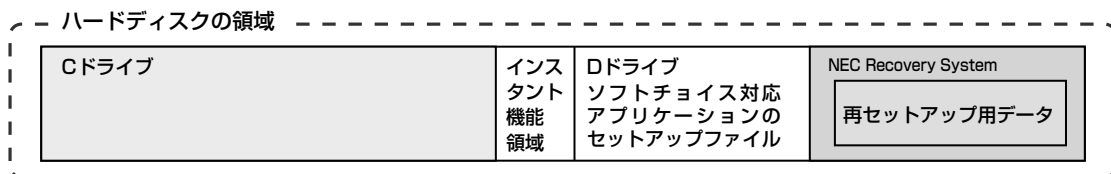
ここで説明する方法で、パソコンのハードディスクにあるCドライブとDドライブの領域を変更して再セットアップするには、ハードディスクの知識が必要です。初心者のかたやパソコンの操作に慣れていないかたは、「再セットアップする（Cドライブのみ）」（168ページ）をご覧になり再セットアップをおこなうことを強くおすすめします。

Cドライブの領域サイズを20Gバイトから1Gバイト単位で変更できます。Cドライブの領域サイズは、最大でもハードディスク全体のサイズから「再セットアップ用データ＋インスタント機能領域」を除いたサイズになります。
Dドライブを含め、それまでにハードディスクに保存されていたデータはすべて失われます。

- この方法で再セットアップをおこなうと、Cドライブだけでなく、Dドライブにあるデータも失われます。操作を始める前に、CD-R/RWディスクなどに大切なデータのバックアップを取ってください。
- Dドライブにあるソフトチョイス対応アプリケーションのセットアップファイルも失われます。操作に入る前に「再セットアップ用DVD/CD-ROMを作成する」（182ページ）の説明を読み、ソフトチョイス用アプリケーションDVD/CD-ROMを作成してください。
- Cドライブの領域を最大に設定して再セットアップをおこなうと、Dドライブのない構成になります。
- Windowsが起動しないなどの理由で、「バックアップレンジャー」でDドライブにバックアップデータを作成した場合、一度Cドライブのみ再セットアップをおこなってから、CD-R/RWディスクなどにバックアップデータを移動してください。

ご購入時の状態

ハードディスクの領域

Cドライブ	インスタント機能領域	Dドライブ ソフトチョイス対応アプリケーションのセットアップファイル	NEC Recovery System 再セットアップ用データ

Cドライブのサイズを変更できる

再セットアップ後の状態

ハードディスクの領域

1 170ページの「1.必要なものを準備する」から「7.システムを再セットアップする」の手順1〜7までの操作をおこなう

2 「再セットアップの種類を選択する」の画面が表示されたら、「Cドライブの領域を自由に作成して再セットアップ」を選び、「次へ」をクリック

3 「Cドライブの領域を指定します」の画面が表示されたら、Cドライブの領域の大きさを指定して「次へ」をクリック

以降の操作は、画面の表示内容をよく読みながら進めてください。

再セットアップ終了後の、Windowsの設定、周辺機器の再設定、インターネット接続の再設定などについては、173ページの「8.Windowsの設定をする」以降の説明を参考にしてください。

インスタント機能のみ再セットアップする場合は、172ページの「7.システムを再セットアップする」の手順1〜7までをおこない、「再セットアップの種類を選択する」の画面が表示されたら「インスタントの再セットアップ」を選んで「次へ」をクリックしてください。
以降の操作は、画面の表示内容をよく読みながら進めてください。

再セットアップ用DVD/CD-ROMを作成する

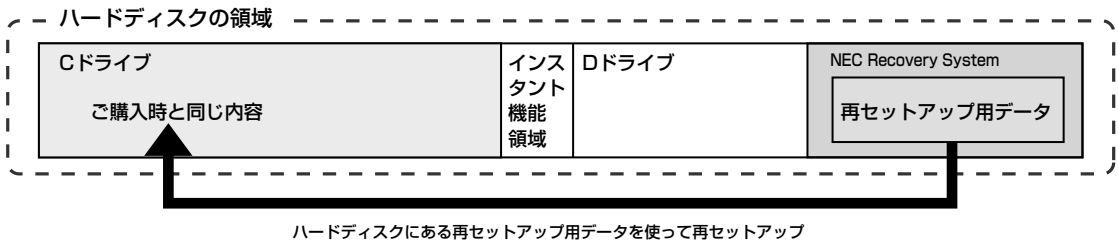
ここでは、再セットアップ用DVD/CD-ROM、インスタント用DVD/CD-ROMおよびソフトチョイス用アプリケーションDVD/CD-ROMの作成手順を説明します。

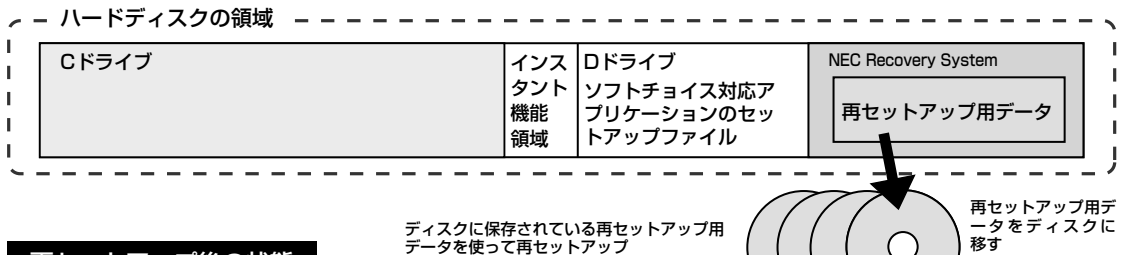
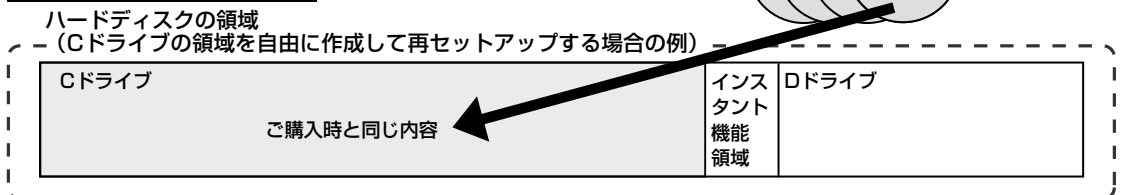
再セットアップ用DVD/CD-ROMとは

このパソコンは、次のように、ハードディスク内の「再セットアップ領域」(NEC Recovery System)に保存されている再セットアップ用データを使って、再セットアップをおこなうしくみになっています。
通常は、「再セットアップする(Cドライブのみ)」(168ページ)をご覧になり、この方法で再セットアップしてください。

ハードディスクの領域

Cドライブ ご購入時と同じ内容	インスタント機能領域	Dドライブ	NEC Recovery System 再セットアップ用データ

ハードディスクにある再セットアップ用データを使って再セットアップ

そのほかに、ここで作成する「再セットアップ用DVD/CD-ROM」を使った再セットアップ方法が利用できます。

●再セットアップ用DVD/CD-ROMを作成して再セットアップする場合の一例

再セットアップ用DVD/CD-ROMを作成する

このパソコンに入っている「再セットアップディスク作成ツール」を使って、再セットアップ用 DVD/CD-ROM とインスタント用 DVD/CD-ROM を作成します。インスタント用DVD/CD-ROMは、インスタント機能のみ再セットアップする場合や、ハードディスクをご購入時の状態に戻して再セットアップする場合などに使用します。

また、「再セットアップディスク作成ツール」でソフトチョイス用アプリケーション DVD/CD-ROM の作成もおこないます。

・再セットアップ用 DVD/CD-ROM は、ご購入時の製品構成以外では、作成できないことがあります。
・「再セットアップ領域」(NEC Recovery System)に保存されている再セットアップ用データが削除されている場合は、「スタート」-「すべてのプログラム」-「アプリケーション」-「再セットアップディスク作成ツール」をクリックすると、次のいずれかのメッセージが表示され、再セットアップ用 DVD/CD-ROM を作成できません。
- 「必要なファイルが見つからないため、ソフトウェアを実行できません。」
- 「再セットアップ用DVD/CD-ROMの作成に必要なファイルが見つからないため、ソフトウェアを実行できません。」

再セットアップ用データは次のような場合に削除されます。
- 再セットアップ用 DVD/CD-ROM を使用して「C ドライブの領域を自由に作成して再セットアップ」をおこなった場合
- 手動で再セットアップ領域を削除、または再セットアップ用データを削除した場合

・ソフトチョイス用アプリケーションがあるモデルをご利用の場合、D ドライブにソフトチョイス対応アプリケーションのセットアップファイルが格納されています。C ドライブの領域を変更して再セットアップする場合、D ドライブにあるソフトチョイス対応アプリケーションのセットアップファイルも失われます。そのため、事前にソフトチョイス用アプリケーション DVD/CD-ROM を作成し、ソフトチョイス対応アプリケーションのセットアップファイルを保存しておくことが必要です。

未使用のDVD-R/DVD+Rディスクまたは未使用のCD-Rディスクを準備する

必要な枚数は、お使いのモデルによって異なります。186ページの手順3で画面に表示される枚数を確認してください。再セットアップ用DVD/CD-ROM、ソフトチョイス用アプリケーションDVD/CD-ROM、およびインスタント用DVD/CD-ROM作成のために必要な枚数も合わせて用意してください。作成には、CD1枚につき最大約30分、DVD1枚につき最大約100分かかります。

- **必ず次の容量のディスクを用意してください。**
  CD-Rディスクの場合：700Mバイトまたは650Mバイトのもの
  DVD-R/+Rディスクの場合：4.7Gバイトのもの
  DVD-R/+R（2層）ディスクの場合：8.5Gバイトのもの
- **DVD-R/+Rディスク、またはDVD-R/+R（2層）ディスクを使用する場合、1枚目以外は同じ種類のディスクを用意してください。**
- **次のディスクは使用できません。**
  CD-RW、DVD-RW、DVD+RW、DVD-RAM
- **作成済みの再セットアップ用DVD/CD-ROMも販売しています。お買い求めの際は、PC98-NXシリーズメディアオーダーセンターのホームページをご覧ください。**
  URL： http://nx-media.ssnet.co.jp/

DigitalMediaがインストールされていることを確認する

データ書き込みには「DigitalMedia」というソフトが必要です。このパソコンにあらかじめインストールされていますが、削除してしまっているときは、追加しておいてください。ソフトを追加する方法については、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「ソフトの追加と削除」をご覧ください。

作成の手順を始める前に

ほかのソフトが起動していると、ディスクの書き込み中にエラーが発生することがあります。作成の手順を始める前に次の操作をおこなってください。

- **スクリーンセーバーが起動しないようにする**
  次の手順で設定を変更します。
  1. 「スタート」-「コントロールパネル」をクリックする
  2. 「デスクトップの表示とテーマ」をクリックする
  3. 「スクリーンセーバーを選択する」をクリックする
  4. 「画面のプロパティ」の「スクリーンセーバー」で「(なし)」を選び「OK」をクリックする
  5. 「デスクトップの表示とテーマ」の×をクリックする

・**自動的にスタンバイ状態／休止状態にならないように設定する**

設定方法は、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「省電力機能」をご覧ください。

・**起動中のソフトをすべて終了する**

終了方法は、それぞれのソフトのヘルプなどをご覧ください。

・**常駐プログラム（ウイルス対策ソフトなど）をすべて終了する**

終了方法は、それぞれのソフトのヘルプなどをご覧ください。

・**テレビ番組の録画予約をしている場合は予約を取り消す**

予約を取り消す方法については、『もっとテレビを楽しむ本』をご覧ください。

作成の手順

1 **「スタート」-「すべてのプログラム」-「アプリケーション」-「再セットアップディスク作成ツール」をクリック**

次の画面が表示されます。

・ソフトチョイス用アプリケーションがないモデルをご利用の場合、「ソフトチョイス用アプリケーションDVD/CD-ROMを作成する」は表示されません。ソフトチョイス用アプリケーションのセットアップファイルを削除している場合も同様です。

・ソフトチョイス用アプリケーションDVD/CD-ROMを作成した後で、この画面を表示すると、「ソフトチョイス用アプリケーションのセットアップファイルを削除する」という表示が追加されます。

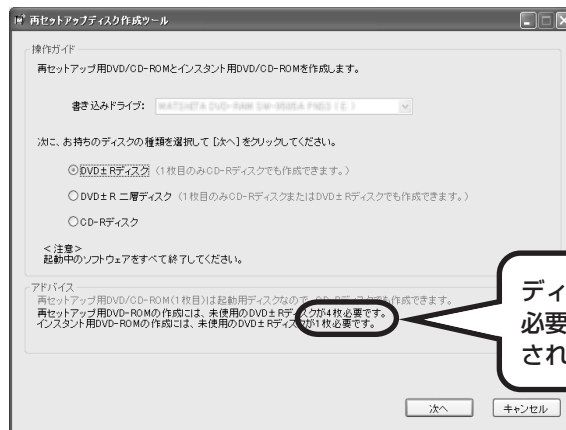
2 **作成するDVD/CD-ROMの種類を選び、「次へ」をクリック**

はじめて作成するときは、「再セットアップ用DVD/CD-ROMとインスタント用DVD/CD-ROM」、「ソフトチョイス用アプリケーションDVD/CD-ROM」の順番で作成してください。

3 **次の画面が表示されたら、ディスクの種類を選び、必要なディスクの枚数を確認して、「次へ」をクリック**

必要な枚数は、お使いのモデルによって異なります。

・DVD-R/+Rディスクを選んだ場合でも、1枚目はCD-Rディスクで作成できます。

・DVD-R/+R（2層）ディスクを選んだ場合でも、1枚目はCD-Rディスクまたは DVD-R/+R ディスクで作成できます。

4 **次の画面が表示されたら、「次へ」をクリック**

一部のディスクの書き込みに失敗した場合などは、この画面で、作成開始ディスク: の をクリックすると、途中から作成するように指定することもできます。

・インスタント用 DVD/CD-ROM は必ず再セットアップ用 DVD/CD-ROM とセットで作成してください。インスタント機能のみ再セットアップする場合でも、再セットアップ用DVD/CD-ROMが必要になります。

・「書き込み速度」は、通常は「最速」を選んでください。DVD/CD ドライブと用意したディスクの組み合わせで使用可能な最高速度で書き込みます。

・書き込みに失敗した場合は、「書き込み速度」を「中速」または「低速」にして、再度作成してください。

5 用意したディスクをセットする

CD/ ハードディスクアクセスランプが消えるまで待ってください。

6 「作成開始」をクリック

１枚目のディスクへの書き込みが始まります。書き込みにはしばらく時間がかかります。そのままお待ちください。

書き込みが完了すると、自動的にディスクが排出され、1 枚目のディスクが作成されたことを知らせるメッセージが表示されます。

7 「OK」をクリック

8 ディスクを取り出し、ディスクの種類と何枚目のディスクかわかるようにラベル面に記入する

続けて、次のディスクをセットしてください。最後のディスクへの書き込みが終わるまで、同じ操作を繰り返します。

再セットアップ用DVD/CD-ROMの作成が終わると、続けてインスタント用DVD/CD-ROMの作成に入ります。確認画面が表示されたら「OK」をクリックしてください。

再セットアップ用DVD/CD-ROMとインスタント用DVD/CD-ROMの作成が終わったら、同じようにしてソフトチョイス用アプリケーションDVD/CD-ROMも作成してください。

作成した再セットアップ用DVD/CD-ROM、インスタント用DVD/CD-ROMおよびソフトチョイス用アプリケーションDVD/CD-ROMは、紛失・破損しないように大切に保管してください。

ソフトチョイス用アプリケーションのセットアップファイルを削除するには

D ドライブからソフトチョイス用アプリケーションのセットアップファイルのみを削除して、D ドライブの空き容量を増やすことができます。その場合、ソフトチョイス用アプリケーション DVD/CD-ROM を作成した後で、「再セットアップディスク作成ツール」を起動し、「ソフトチョイス用アプリケーションのセットアップファイルを削除する」を選んで、「次へ」をクリックしてください。後は画面のメッセージにしたがって操作を進めてください。

Dドライブからソフトチョイス用アプリケーションのセットアップファイルを削除した場合、ソフトナビゲーターからソフトチョイス対応アプリケーションをインストールするように操作したときは、ソフトチョイス用アプリケーション DVD/CD-ROM をセットするように表示されます。画面の指示にしたがって操作してください。

再セットアップ用DVD/CD-ROMを使って再セットアップする

再セットアップ用DVD/CD-ROMを使ってできることを説明します。

再セットアップ用DVD/CD-ROMでできること

目的に応じて、次の再セットアップと、ハードディスクのデータ消去をおこなうことができます。

Cドライブのみ再セットアップ

Cドライブの領域のみ再セットアップをおこない、Dドライブの内容は再セットアップをおこなう前の状態のまま残します。「再セットアップする（Cドライブのみ）」（168ページ）で説明している内容と同じです。

ハードディスクの状態をご購入時から変更した場合（ダイナミックディスクなど）、この方法での再セットアップはできません。

Cドライブの領域を自由に作成して再セットアップ

Cドライブの領域サイズを20Gバイトから1Gバイト単位で設定できます。Cドライブの最大の領域サイズは、ハードディスク全体のサイズから「インスタント機能領域」を除いたサイズになります。
Dドライブを含め、それまでにハードディスクに保存されていたデータはすべて失われます。

- **この方法で再セットアップすると、ご購入時にNEC Recovery Systemに入っていた再セットアップ用データと、Dドライブに入っていたソフトチョイス用アプリケーションのセットアップファイルが失われます。**
  作成した再セットアップ用DVD/CD-ROMおよびソフトチョイス用アプリケーションDVD/CD-ROMを紛失・破損しないように、大切に保管してください。作成したインスタント用DVD/CD-ROMも合わせて大切に保管してください。
- **再セットアップを始める前に、CD-R/RWディスクなどに大切なデータのバックアップを取ってください。**
- **Cドライブの領域を最大に設定して再セットアップをおこなうと、Dドライブのない構成になります。**
- **Windowsが起動しないなどの理由で、「バックアップレンジャー」でDドライブにバックアップデータを作成した場合、一度Cドライブのみ再セットアップをおこなってから、CD-R/RWディスクなどにバックアップデータを移動してください。**

ハードディスクをご購入時の状態に戻して再セットアップ

C ドライブをご購入時の状態に復元して再セットアップをおこないます。再セットアップ用DVD/CD-ROMの内容をハードディスクにコピーして、ハードディスクから再セットアップできるようにします。そのため、この方法での再セットアップには約３時間かかります。C ドライブの領域を自由に作成して再セットアップした後で、ハードディスクの領域をご購入時の状態に戻したいときに利用します。

- この方法で再セットアップすると、それまでのハードディスクの内容はＣドライブ、Ｄドライブ（ソフトチョイス用アプリケーションのセットアップファイルを含む）ともにすべて失われます。また、インスタント機能は初期状態に設定されます。
- Ｄドライブのソフトチョイス用アプリケーションは復元されません。今後、ソフトチョイス用アプリケーションをインストールする場合は、「再セットアップディスク作成ツール」で作成したソフトチョイス用アプリケーションDVD/CD-ROM を使用してください。
- 再セットアップを始める前に、CD-R/RW ディスクなどに大切なデータのバックアップを取ってください。
- Windows が起動しないなどの理由で、「バックアップレンジャー」でＤドライブにバックアップデータを作成した場合、一度Ｃドライブのみ再セットアップをおこなってから、CD-R/RW ディスクなどにバックアップデータを移動してください。

インスタントの再セットアップ

インスタント機能のみ再セットアップをおこないます。C ドライブ、D ドライブの内容は、再セットアップをおこなう前の状態のまま残します。

この方法で再セットアップするときは、インスタント用 DVD/CD-ROM のほかに再セットアップ用 DVD/CD-ROM が必要になります。

RAID 構成を変更する（RAID 機能搭載モデルのみ）

RAID構成を変更します。RAID構成を変更するとハードディスクに保存されていたデータはすべて消去されてしまいます。必要なデータはあらかじめCD-R/RWディスクなどにバックアップデータを作成しておいてください。

ハードディスクのデータ消去

このパソコンのハードディスクのデータ消去をおこないます。ハードディスクに一度記録されたデータは、「ごみ箱」から削除したり、フォーマットしても復元できる場合があります。このメニューを選択すると、Windows XP 標準のハードディスクのフォーマット機能では消去できないハードディスク上のデータを消去し、復元ツールで復元されにくくします。このパソコンを譲渡や廃棄する場合にご利用ください。
消去にかかる時間は、ご利用のモデルによって異なります。
また、ハードディスクのデータ消去方式は次の 2 つの方式があります。

・かんたんモード（1 回消去）
　ハードディスク全体を「00」のデータで 1 回上書きします。復元ソフトによるデータの復元ができなくなります。

・しっかりモード（3 回消去）
　米国国防総省NSA準拠方式により、ハードディスクのデータ消去をおこないます。ランダムデータ 1、ランダムデータ 2、「00」のデータの順に 3 回書き込みをおこないます。3回消去をおこなうことにより、より完全に消去できます。ただし、3 回書き込みをおこなうため、かんたんモードの 3 倍の時間がかかります。

この方法でのハードディスクのデータ消去は、データの復元が完全にできなくなることを保証するものではありません。データの復元が完全にできないことの証明が必要な場合は、NECフィールディング株式会社に有償のデータ消去を依頼してください。
NEC フィールディングホームページ URL： http://www.fielding.co.jp/

再セットアップ用DVD/CD-ROMを使った再セットアップ手順

再セットアップを始めたら、途中でやめたりせず、手順どおり最後まで操作してください。やむをえず中断したときは、最初から操作をやりなおしてください。

1 作成した再セットアップ用DVD/CD-ROMを用意する

インスタント用DVD/CD-ROMも用意してください。

2 「再セットアップする（Cドライブのみ）」（168ページ）を読み、「1.必要なものを準備する」から「6.別売の周辺機器（メモリ、プリンタ、スキャナなど）を取り外す」までの作業をおこなう

3 キーボードの電源スイッチでパソコン本体の電源を入れる

4 電源ランプが点灯したら、すぐに再セットアップ用DVD/CD-ROM（1枚目）をセットする

5 「再セットアップツール」の画面が表示されたら、「開始」をクリック

ディスクを交換するように指示が表示されたら、指示にしたがって再セットアップ用DVD/CD-ROMを順番にセットしてください。

「再セットアップツール」の画面が表示されずに、通常のWindowsデスクトップが表示されてしまったときは、再セットアップ用DVD/CD-ROMをセットしたまま、パソコンを再起動（「スタート」-「終了オプション」-「再起動」の順にクリック）してください。

6 「再セットアップとは」の画面が表示されたら、「次へ」をクリック

7 「準備するもの」の画面が表示されたら、必要なものがそろっているか確認し、「次へ」をクリック

8 「再セットアップを始める前に」の画面が表示されたら、「次へ」をクリック

9 「再セットアップの種類を選択する」の画面が表示されたら、再セットアップの種類を選び、「次へ」をクリック

ここでバックアップを取りたい場合は「バックアップレンジャー」を選んでください。

10 以降は、画面の指示にしたがって操作する

再セットアップが始まったら、画面に指示が表示されるまで、キーボードやパソコン本体の電源スイッチに触れないでください。
ディスクを交換するように指示が表示されたら、指示にしたがって再セットアップ用DVD/CD-ROMまたはインスタント用DVD/CD-ROMを順番にセットしてください。

ハードディスクのフォーマットまたは再セットアップがおこなわれている間は、画面に指示が表示されないかぎり、ディスクを取り出したり、電源スイッチに触れたりしないでください。

「パソコンを再起動します」の画面が表示されたら、DVD/CD-ROMを取り出し、「再起動」をクリックしてください。パソコンが再起動して「Windowsへようこそ」の画面が表示されます。

- **この画面が表示されなかったときは、再セットアップが正常におこなわれていません。最初からやりなおしてください。**
- **「RAID構成を変更する」を選んでRAID構成を変更した場合は、画面の指示にしたがって再セットアップ用DVD/CD-ROMの一枚目をDVD/CDドライブにセットしてから「再起動」をクリックしてください。その後の作業は、手順4から操作してください。手順9で「再セットアップの種類を選択する」の画面が表示されたら、「Cドライブの領域を自由に作成して再セットアップ」または「ハードディスクの領域をご購入時の状態に戻して再セットアップ」を選択してください。**

11 173ページの「8.Windowsの設定をする」以降の説明を参考に、Windowsの設定、周辺機器の再設定、インターネット接続の再設定などをする

「13.バックアップを取ったデータを復元する」の操作まで終わったら、再セットアップの作業は完了です。

Windowsを起動できないときにデータのバックアップを取る

Windows が正常に起動しないときでも、「バックアップレンジャー」でデータのバックアップを取ることができます。

バックアップレンジャーでできること

通常、データのバックアップは再セットアップをおこなう前に取ります。しかし、障害などが原因で Windows を起動できない場合があります。その場合は、「再セットアップツール」から「バックアップレンジャー」でバックアップを取ってください。

- 「バックアップレンジャー」では、バックアップデータをDドライブにのみ作成することができます。Dドライブに十分な空き容量がない場合やDドライブがない構成の場合は、バックアップを取ることができません。
- 「バックアップレンジャー」でバックアップを取った後は、Cドライブのみ再セットアップをおこなってください。そのほかの方法で再セットアップをおこなうと、Dドライブに作成したバックアップデータが消去されてしまう可能性があります。
- 「バックアップレンジャー」では、インターネット設定のバックアップを取ることはできません。

バックアップレンジャーを使ったバックアップ手順

次の手順で操作してください。

1 キーボードの電源スイッチでパソコン本体の電源を入れる

2 NEC のロゴマークが表示されたら、【F11】を何度か押す

3 「再セットアップツール」の画面が表示されたら、「開始」をクリック

「再セットアップツール」の画面が表示されず、パソコンが通常のように起動してしまったり、ほかのエラーを示す画面が表示されたときは、いったん電源を切り、手順 1 からやりなおしてください。

4 「再セットアップとは」の画面が表示されたら、「次へ」をクリック

5 「準備するもの」の画面が表示されたら、必要なものがそろっているか確認し、「次へ」をクリック

6 「再セットアップを始める前に」の画面が表示されたら、「次へ」をクリック

7 「再セットアップの種類を選択する」の画面が表示されたら、「バックアップレンジャー」を選び、「次へ」をクリック

8 「バックアップレンジャー」の画面が表示されたら、注意事項をよく読み、「実行」をクリック

9 「バックアップレンジャー」メニューの画面が表示されたら、「バックアップするアプリケーション」の「すべて選択」にが付いていることを確認して、「開始」をクリック

10 「バックアップの実行」が表示されたら、バックアップするユーザーを選択して「実行」をクリック

バックアップが始まります。完了までにしばらく時間がかかります。

11 「データのバックアップが完了しました。」と表示されたら、「閉じる」をクリック

12 複数のユーザーを設定している場合は、手順９～11を繰り返し、完了したら画面右上のをクリック

13 「ハードディスクのデータのバックアップを終了しました。」の画面が表示されたら、「次へ」をクリック

「再セットアップの種類を選択する」の画面が表示されますので、「Cドライブのみ再セットアップ」を選択し、続けてCドライブの再セットアップをおこなってください。

Cドライブのみ再セットアップする手順について詳しくは、「再セットアップする（Cドライブのみ）」（168ページ）をご覧ください。

第 9 章

パソコン内部に取り付ける

メモリ（別売）を増設して、パソコンをパワーアップすることができます。パソコン内部のほかの部品を傷つけたりしないよう、手順の説明をよく読んでから作業してください。

メモリ

メモリを増やすことで、より多くのソフトを同時に起動したり、大きなデータをより高速に扱うことができるようになります。このパソコンでメモリを増やすときには、別売の増設RAM（ラム）サブボードをメモリスロットに取り付けます。

メモリを増やすには

どのくらいメモリを増やすかを決める
このパソコンでは、最大2Gバイトまで増やせます。

必要なものを準備する
必要な増設RAMサブボードなどを準備します。

増設RAMサブボードを取り付ける
本体背面のカバーを取り外し、用意した増設RAMサブボードを専用のスロットに取り付けます。取り付けたらカバーをもとに戻します。

メモリが増えたかどうか確認する
本体の電源を入れて、増やしたメモリがこのパソコンで使えるようになっているかどうか確認します。

増設RAMサブボードの取り付けや交換などをおこなうと、メモリを変更した状態でインスタント機能の再セットアップが必要になる場合があります。インスタント機能を起動した際に、自動的にインスタント機能の再セットアップが起動しますので、画面の指示にしたがってインスタント機能の再セットアップをおこなってください。詳しくは、『映像・音楽を楽しむ本』の「Q&A」をご覧ください。

メモリを確認する

お使いのモデルのメモリ容量は次の方法で確認できます。

1 **デスクトップの（困ったときのサポートナビゲーター）をダブルクリック**

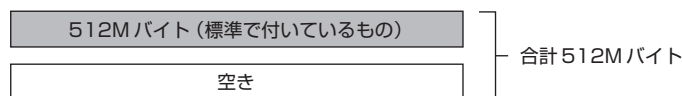
パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」が表示されます。

2 **をクリック**

メモリ容量が表示されます。

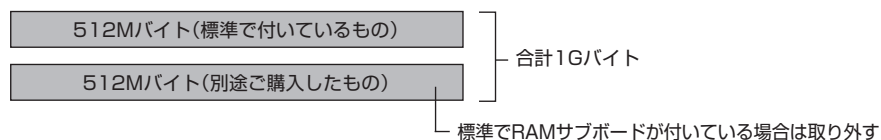
メモリ容量は実際より数Mバイト少なく表示される場合がありますが、故障ではありません。

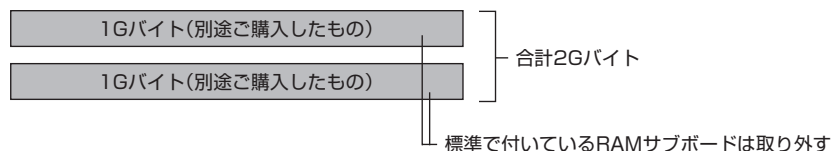
メモリの増やし方の例

このパソコンは、デュアルチャネルのメモリアクセスに対応しており、同容量のRAMサブボードが2枚取り付けられていると、より高速な動作が可能です。
ここでは、標準で512Mバイトのメモリが付いている場合を例にメモリの増やし方を説明します。

※標準で付いているメモリの数は、モデルによって異なります。

標準で付いているメモリを取り外し、スロットに増設RAMサブボードを追加することで、メモリを増やします。メモリは、最大で2Gバイト（1Gバイトの増設RAMサブボード×2枚）まで増やすことができます。

例1：1Gバイトにする場合

512Mバイトの増設RAMサブボードを1枚追加します。

例2：2Gバイト（最大）にする場合

標準で付いているRAMサブボードを取り外し、1Gバイトの増設RAMサブボードを2枚取り付けます。

デュアルチャネルとは、同容量/同タイプの2枚のRAMサブボードに同時にアクセスすることで、メモリのデータ転送性能を約2倍に高速化する技術のことです。

・ご購入時に同容量のRAMサブボードが2枚取り付けられているモデルでは、デュアルチャネルでメモリアクセスがおこなわれます。

・このパソコンに別売の同容量の増設RAMサブボードを2枚取り付けると、デュアルチャネルでメモリアクセスがおこなわれるようになります。

・実際に利用できるメモリ容量は、取り付けたメモリの総容量より少ない値になります。

このパソコンで使える増設RAMサブボード

パソコンのメモリを増やすときには、「増設RAMサブボード」というボードを使います。
このパソコンでは次の増設RAMサブボードを使うことをおすすめします。

型名	メモリ容量
PK-UG-ME039	256Mバイト
PK-UG-ME040	512Mバイト
PK-UG-ME041	1Gバイト

(DDR2 SDRAM/DIMM、PC2-4200タイプ)

このパソコンでは、「SIMM(シム)」やDDR2が付かない「SDRAM DIMM」というタイプの増設RAMサブボード(メモリ)は使用できません。間違ってご購入しないように注意してください。
市販の増設RAMサブボードに関する動作保証やサポートはNECではおこなっていません。販売元にお問い合わせください。

増設RAMサブボードを取り扱うときの注意

・増設RAMサブボードは静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態で増設RAMサブボードを扱うと破損する原因になります。増設RAMサブボードに触れる前に、アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に手を触れて、静電気を取り除いてください。
・増設RAMサブボードの金属端子部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因になります。
・ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。

増設RAMサブボードの取り付けと取り外し

増設 RAM サブボードの取り付け方

⚠注意

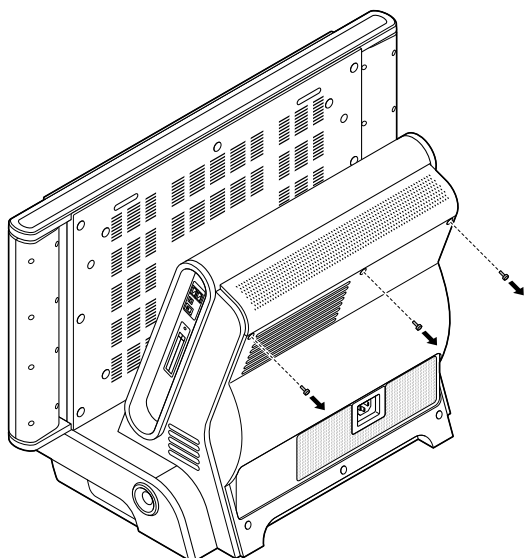
RAM サブボードを差し込むときは、強い力が必要になることがありますので指をぶつけたり、切ったりしないように、注意して作業してください。

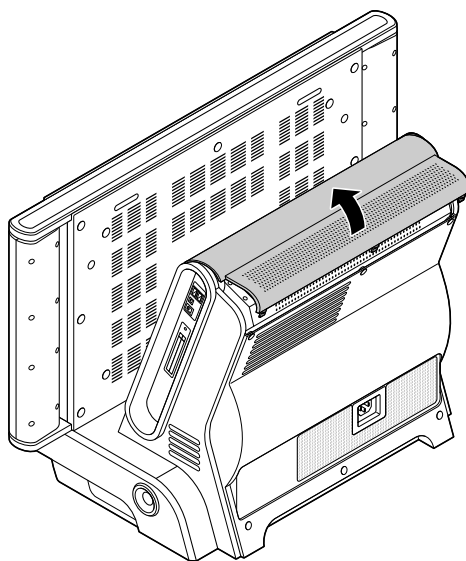
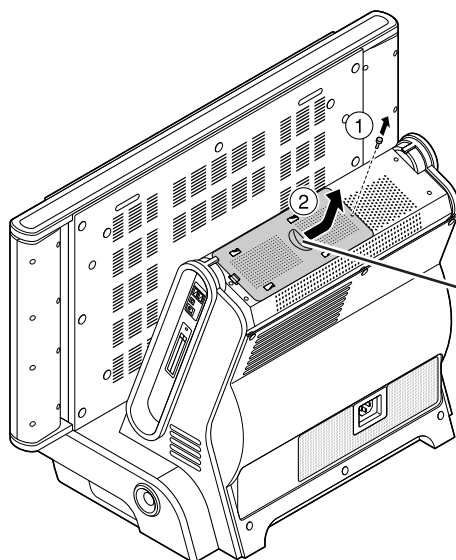
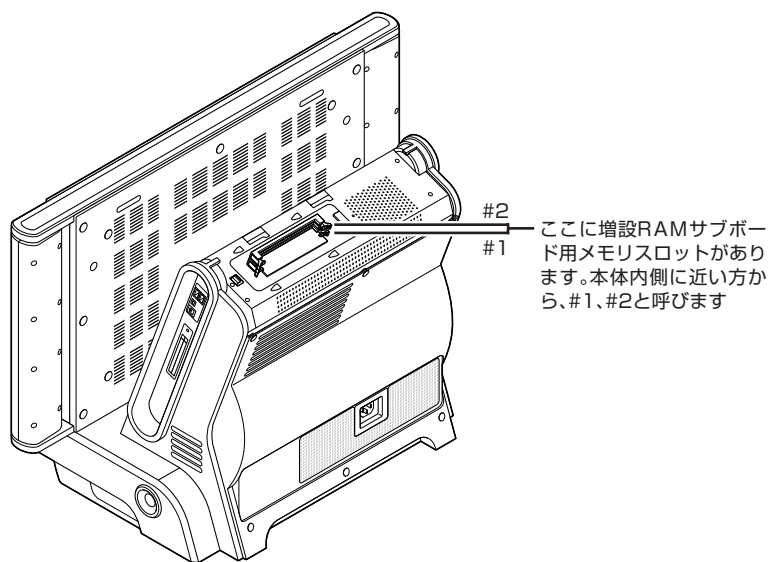
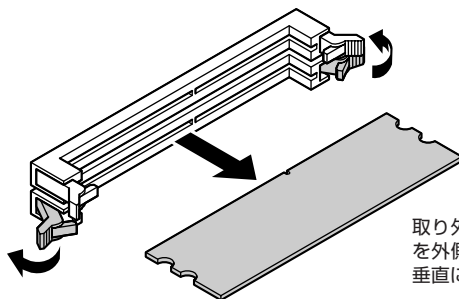
増設 RAM サブボードを取り付けるときは、本体背面のカバーを開けて作業します。

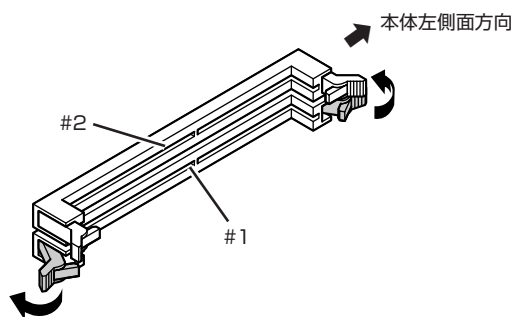
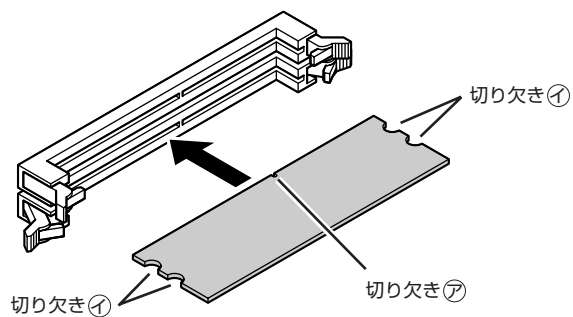
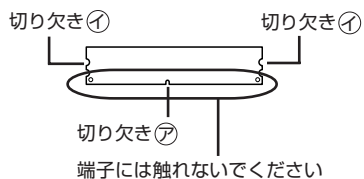
1 アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に触れて、静電気を取り除く

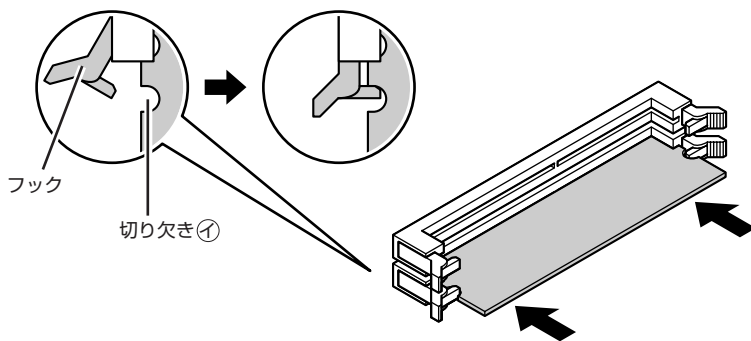
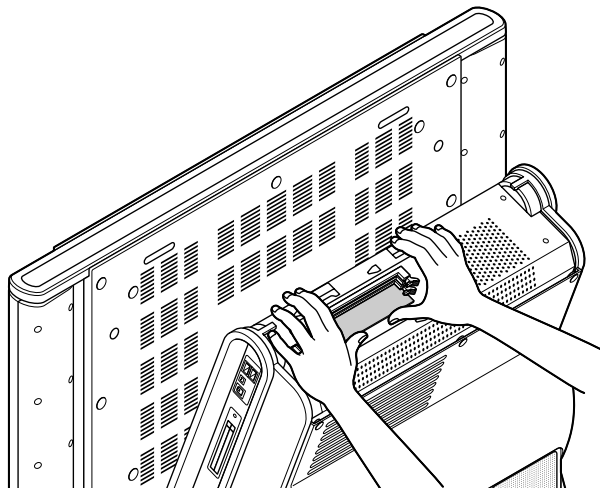
増設RAMサブボードは静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態で扱うと破損する原因になります。

2 電源ケーブルなど、本体に接続されているケーブルをすべて取り外す

3 図のネジをプラスドライバーでゆるめて取り外す

4 カバーを本体前面側に持ち上げて取り外す

内側にもカバーが付いています。

5 図のネジをプラスドライバーでゆるめて外し、内側のカバーを取り外す

ここで、増設RAMサブボード用のメモリスロットの位置を確認しておいてください。

メモリスロット両方にメモリが取り付けられているときは、片方または両方のメモリを取り外してから、別途用意したメモリを取り付けます。

・フックを開きすぎて破損してしまわないように気を付けてください。
・メモリは大変壊れやすい部品です。取り外した増設RAMサブボードおよび標準で付いていたRAM サブボードは、大切に保管してください。

6 ボードを差し込むメモリスロットの両側のフックを外側に開く

7 切り欠き㋐の方向とメモリスロットにあるミゾの位置が合うように、空いているメモリスロットにボードを垂直に差し込む

増設RAMサブボードは、両手で持ってください。

メモリスロットのミゾとボードの切り欠き㋐の位置を確認してから差し込んでください。

8 **次の図のように本体の上面を支えたまま、メモリスロット両側のフックが切り欠き㋑に引っかかるまで、親指で増設RAMサブボードを奥まで押し込む**

差し込んだ後、メモリスロット両側のフックが切り欠き㋑にかかっているか確認してください。
かかっていない場合には、指でフックを切り欠き㋑に引っかけてロックしてください。指でロックさせる場合には、強い力は不要です。うまくロックできないときは、無理に押し込まずに、もう一度ボードを差しなおしてください。

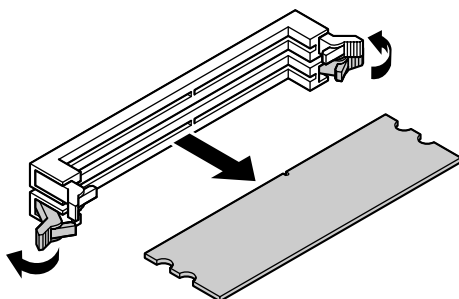
しっかり差し込んでおかないと、故障の原因になります。

9 内側のカバーをもとに戻し、外したネジで取り付ける

10 カバーをもとに戻し、外したネジでカバーを本体背面に取り付ける

RAM サブボードの取り外し方

1 「増設RAMサブボードの取り付け方」の手順１〜４をおこない、カバーと内側のカバーを取り外す

2 メモリスロットの両側のフックを外側に開き、ゆっくりとボードを垂直に引き抜く

・フックを開きすぎて破損してしまわないように気を付けてください。

・メモリは、大変壊れやすい部品です。取り外した増設RAMサブボードおよび標準で付いているRAMサブボードは、大切に保管してください。

3 内側のカバーをもとに戻し、外したネジで取り付ける

4 カバーをもとに戻し、外したネジでカバーを本体背面に取り付ける

増やしたメモリ容量を確認する

パソコンの電源を入れてみて、増やしたメモリが本当に使えるようになったかどうかを確認します。

1 デスクトップの（困ったときのサポートナビゲーター）をダブルクリック

「サポートナビゲーター」が表示されます。

2 このパソコンの情報 をクリック

3 メモリ容量を確認する

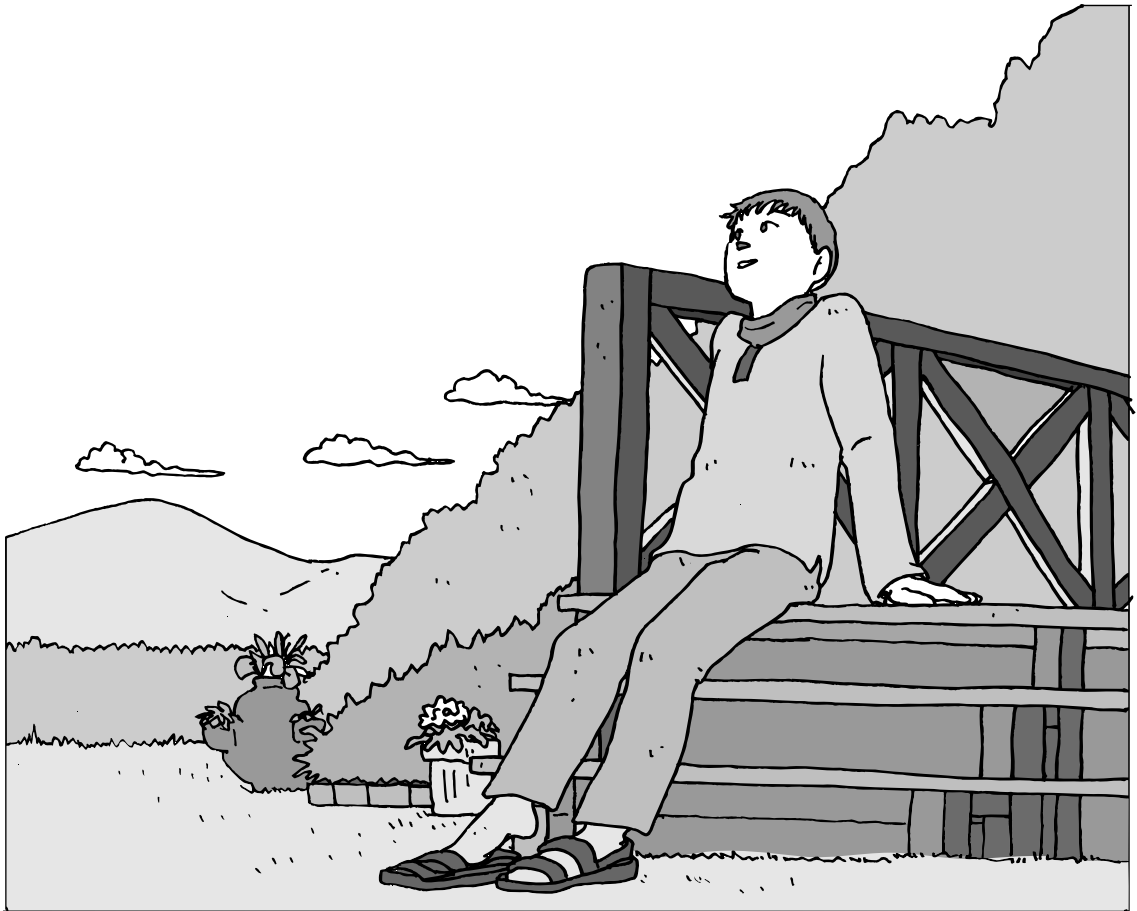
増やした後の全メモリ容量（標準で入っている容量＋増設した容量）が表示されているのを確認してください。

- **ここでは、増やした後の全メモリ容量より数Mバイト少なく表示される場合がありますが故障ではありません。**
- **メモリを増設した場合、初期化のため、電源を入れてからディスプレイの画面が表示されるまで時間がかかることがあります。**

メモリが増えていなかったら

表示されたメモリの大きさが増えていなかった場合には、次のことを確認してください。

- **メモリが正しく取り付けられているか？**
- **このパソコンで使える増設RAMサブボードを取り付けているか？**

付　録

RAID機能について(RAID機能搭載モデルのみ)

RAID機能を使えば、より高速で信頼性の高いシステムを構築できます。

RAID機能とは

RAID 機能とバックアップについて

RAID（Redundant Array of Inexpensive Disks）とバックアップとは異なります。RAID機能はデータの安全性を向上させる技術ですが、完全なデータ保護を保証するものではなく、RAID機能を搭載しているモデルであってもバックアップの必要性がなくなるわけではありません。大切なデータを失わないために定期的にデータのバックアップを取ることをおすすめします。

RAID とは、複数のハードディスクをまとめて 1 台のハードディスクとして管理する技術です。RAID 機能を活用することにより、次の効果が期待できます。

・データの安全性向上

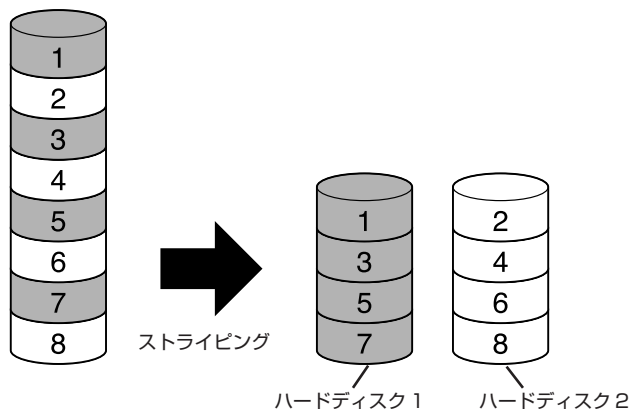
　　ハードディスク障害時のデータ損失を防ぎます。

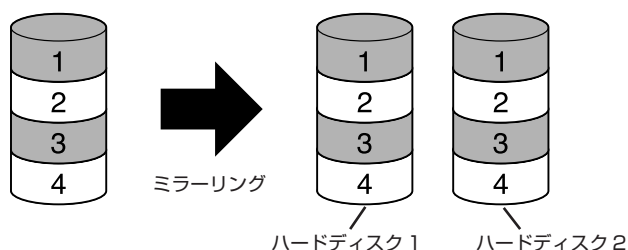
・データ処理の高速化

　　ハードディスクへの読み込み、および書き込みの速度を高速化します。

このパソコンの RAID 機能には、2 つのレベルがあります。それぞれ使用可能なハードディスクの構成、データの安全性、処理の速さが異なります。

RAID0（ストライピング）

2 台以上のハードディスクを 1 つの大きなハードディスクとみなし、データを読み書きする技術です。データの読み込み、書き込みの速度が、RAID0 を構成していない状態に比べて高速化されるというメリットがあります。ハードディスク障害時に重要なデータを保護する機能はありませんが、大容量のデータを取り扱いたい場合に適しています。

RAID1（ミラーリング）

2 台のハードディスクに対して、同じデータを同時に書き込む技術です。そのため、データの安全性に優れており、一方のハードディスクに障害が起きた場合でも、もう一方のハードディスクのデータが無事な場合は、稼動し続けることができます。搭載しているハードディスク容量の半分しか使えませんが、重要なデータの保存に適しています。

各 RAID レベルの特徴を「使用可能な容量」「データの安全性」「処理速度」から比較すると次の表のようになります。

	使用可能な容量	データの安全性	処理速度
RAID0	搭載している全容量	低い	速い
RAID1	全容量の半分	高い	若干遅い

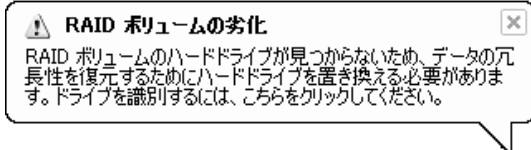
- RAID1はデータの安全性を向上させる技術ですが、完全なデータ保護を保証するものではありません。定期的なデータのバックアップを取ることをおすすめします。
- 電源を入れた後に Intel(R) Matrix Storage Manager option ROM が表示された場合は【Esc】の後、【Y】を押してメニューを終了させてください。このパソコンでは、Intel(R) Matrix Storage Manager option ROM を利用した RAID の設定変更はサポートしていません。ハードディスクのデータがすべて消去される可能性がありますのでご注意ください。

ハードディスク障害が発生したときには

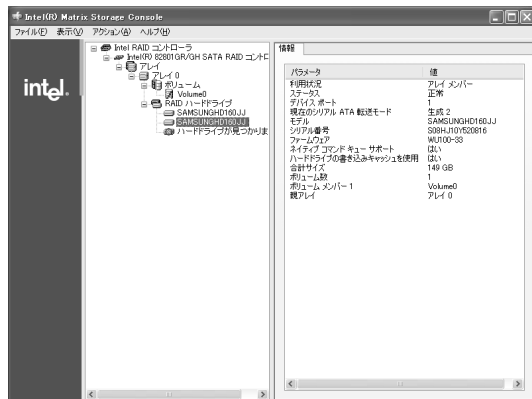
RAID1では、1つのハードディスクに障害が発生しても、データが保護され、動作可能な場合があります。すぐにデータのバックアップを取り、修理を依頼してください。

メッセージを確認する

ハードディスクが故障した場合、画面右下のポップアップウィンドウで通知されます。

RAID ボリュームの劣化
RAID ボリュームのハードドライブが見つからないため、データの冗長性を復元するためにハードドライブを置き換える必要があります。ドライブを識別するには、こちらをクリックしてください。

修理を依頼する

1 「スタート」-「すべてのプログラム」-「Intel(R) Matrix Storage Manager」-「Intel Matrix Storage Console」をクリック

Intel Matrix Storage Consoleの画面が表示されます。

2 「表示」メニューから「詳細モード」を選択する

3 「RAIDハードドライブ」配下にあるそれぞれのハードドライブの「デバイスポート」を確認する

Intel Matrix Storage Console画面左側のエリアのハードドライブをクリックすると、右側の情報エリアで「デバイスポート」が確認できます。ここで欠番となっている番号のデバイスポートのドライブが故障しているドライブになります。

4 必要なデータのバックアップを取る

「バックアップ－NX」を使用して、必要なデータのバックアップを取ります。手順について詳しくは、第8章の「データのバックアップを取る」（164ページ）をご覧ください。

5 再セットアップ用DVD/CD-ROMを作成する

再セットアップ用DVD/CD-ROMを作成していない場合は、ここで作成してください。手順について詳しくは、第8章の「再セットアップ用DVD/CD-ROMを作成する」（182ページ）をご覧ください。

6 修理を依頼する

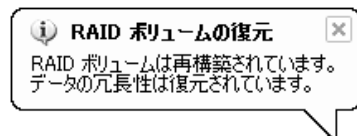
NEC 121コンタクトセンターにご連絡ください。

フリーコール 0120-977-121

※電話番号をよくお確かめになり、おかけください。

詳しくは、『121wareガイドブック』をご覧ください。

RAIDを再構築する

新しいハードディスクに交換した後は、RAID構成の復旧作業をおこないます。ハードディスクの交換後、Intel® Matrix Storage ManagerがRAID構成の再構築をおこなう場合、画面右下のポップアップウィンドウで通知されます。経過を次の手順で確認することができます。

・Intel® Matrix Storage Managerをアンインストールしてしまっていると、自動でのRAIDの再構築ができません。「Intel® Matrix Storage Managerについて」(217ページ)をご覧ください。

・RAID再構築中に電源オフ、または休止状態に入った場合、再構築処理は中断されます。パソコンの再起動後、再構築処理は中断された時点から再度実行されます。

1 **「スタート」-「すべてのプログラム」-「Intel(R) Matrix Storage Manager」-「Intel Matrix Storage Console」をクリック**

Intel Matrix Storage Consoleの画面が表示されます。

2 **「表示」メニューから「詳細モード」を選択する**

3 **左側の表示エリアで「ボリューム」配下にある該当するボリューム名を選択する**

右側の表示エリアの「ステータス」に「再構築中：××%完了」と表示されます。再構築が完了したら、「ステータス」は「正常」と表示されます。

自動での再構築に失敗した場合は、画面右下に「RAIDボリュームは劣化されましたが、再構築できる可能性があります」と表示されます。この場合は、Intel Matrix Storage Consoleの画面上で再構築をおこないます。

「RAID以外のハードドライブ」配下に表示されているハードドライブを右クリックし、「このハードドライブに再構築」、または「スペアとしてマーク」を選択します。画面の指示にしたがってRAIDの再構築をおこなってください。それでも、再構築できない場合は、次の「再セットアップしてRAIDを再構築する」をご覧ください。

再セットアップしてRAIDを再構築する

1 **再セットアップ用DVD/CD-ROMで再セットアップする**

再セットアップ用DVD/CD-ROMで再セットアップをおこない、RAID構成を再構築します。

詳しくは、第8章の「再セットアップ用DVD/CD-ROMを使って再セットアップする」(189ページ)をご覧ください。

2 **バックアップデータを復元する**

再セットアップをおこなった場合は、ハードディスクのデータは消去されています。ハードディスク交換依頼前に作成しておいたバックアップデータを復元してください。

- RAIDの再構築中はハードディスクの読み書きをおこなうような動作は避けてください。再構築完了後におこなってください。特にTV録画再生についてはコマ落ちなどの原因になりますので再構築中はおこなわないでください。
- パソコンの動作中は、正しい手順で電源を切ってください。Windowsが起動しなくなることがあります。

RAIDレベルを変更するには

- RAID0、およびRAID1を構成するには最低2台のハードディスクが必要になります。
- ご購入時のハードディスク構成のみ保証しています。ハードディスクを交換、増設してRAIDを再構成した場合は動作保証の対象とはなりませんのでご了承ください。

再セットアップしてRAIDレベルを変更する

1 **必要なデータのバックアップを取る**

再セットアップでRAIDレベルを変更すると、ハードディスクに保存されているデータは消去されます。「バックアップ－NX」を使用して、必要なデータのバックアップを取ってください。手順について詳しくは、第8章の「データのバックアップを取る」(164ページ)をご覧ください。

2 再セットアップ用DVD/CD-ROMを作成する

再セットアップ用DVD/CD-ROMを作成していない場合は、ここで作成してください。手順について詳しくは、第8章の「再セットアップ用DVD/CD-ROMを作成する」(182ページ)をご覧ください。

3 再セットアップ用DVD/CD-ROMで再セットアップする

再セットアップ用DVD/CD-ROMで再セットアップをおこない、RAIDレベルを変更します。手順について詳しくは、第8章の「再セットアップ用DVD/CD-ROMを使って再セットアップする」(189ページ)をご覧ください。

4 バックアップデータを復元する

再セットアップをおこなった場合は、ハードディスクのデータは消去されています。手順1で作成しておいたバックアップデータを復元してください。

一般的には、ハードディスクを交換、増設してRAIDを構成するためには、すでに取り付けられているハードディスクとまったく同じ容量、もしくは大きい容量のものでなければ設定できません。メーカーが異なると、同じ表示容量のハードディスクでもシステムが認識する容量が異なる場合があるのでご注意ください(このパソコンでは、ハードディスクを交換、増設してRAIDを再構成することは動作保証の対象外です。)。

Intel® Matrix Storage Managerについて

Intel® Matrix Storage Managerは、Windows上で次のことをおこないます。
・RAIDの状態表示
・RAIDの状態が劣化した場合の警告表示
・RAIDの再構築
削除してしまうと、これらの機能が利用できなくなります。Intel Matrix Storage Consoleをアンインストールしないでください。
使い方について詳しくは、Intel® Matrix Storage Managerのヘルプをご覧ください。
・「スタート」-「すべてのプログラム」-「Intel(R) Matrix Storage Manager」-「ヘルプ」

誤ってアンインストールしてしまったら

次の手順で再インストールしてください。

このインストール手順は、インストール可能OS用ドライバが「C:¥WINXP¥MBRD_UTL」にあることを前提としています。

1 **「スタート」-「ファイル名を指定して実行」をクリック**

2 **「名前」に「C:¥WINXP¥MBRD_UTL¥SETUP.EXE」と入力し、「OK」をクリック**
これ以降の操作は画面の指示にしたがってください。

3 **インストールが完了したら、パソコンを再起動する**

Media Centerを使う

Windows Media Center Edition モデルには、Media Centerが搭載されています。

Media Centerでできること

Media Center では、添付のリモコンを使って次の機能が楽しめます。

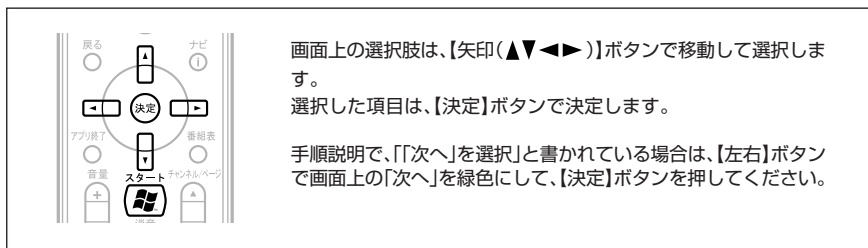
機能	説明
DVDの再生	DVDが再生できます。
メディア オンライン	インターネットに接続し、専用のオンデマンドオンラインコンテンツにアクセスできます。
マイビデオ	指定フォルダに保存してある映像データが再生できます。
マイピクチャ	指定フォルダに保存してある画像データが閲覧できます。
マイミュージック	指定フォルダに保存してある音楽データが再生できます。
ネット映像	BIGLOBEストリームに接続して、映像コンテンツをご覧になれます。
他のプログラム	CD/DVDの作成やMessengerなど、インストールされているほかのアプリケーションが実行できます。
設定	Media Centerの設定・変更ができます。

「メディアオンライン」および「ネット映像」をご利用になる場合は、インターネット接続が必要です。

Media Centerのセットアップ

はじめて Media Center をご使用になる場合は、添付されているリモコンで Media Center のセットアップをおこなってください。
セットアップで使用するリモコンのボタンは次のとおりです。

画面上の選択肢は、【矢印(▲▼◄►)】ボタンで移動して選択します。
選択した項目は、【決定】ボタンで決定します。

手順説明で、「「次へ」を選択」と書かれている場合は、【左右】ボタンで画面上の「次へ」を緑色にして、【決定】ボタンを押してください。

Media Centerのセットアップには、インターネット接続が必要な部分があります。あらかじめインターネット接続の環境を整えておいてください。インターネットに接続していなくても、セットアップは完了できます。また、後からでもセットアップの変更ができます。

次の手順で操作してください。

1 (スタート)を押す

「Media Center セットアップウィザード」が起動されます。

2 「ようこそ」の画面が表示されたら、「次へ」を選択する

「ようこそ」の画面が表示されない場合は、「設定」を選んで、「全般」-「Media Centerセットアップ」-「Media Centerセットアップの再実行」の画面から設定してください。

3 「Media Center セットアップ」の画面が表示されたら、「次へ」を選択する

4 「Media Centerのプライバシーについて」の画面が表示されたら、「次へ」を選択する

「Media Centerのプライバシーに関する声明」をご覧になる場合は、あらかじめインターネットに接続しておいてください。

5 「Media Centerの品質向上にご協力ください」の画面が表示されたら、「参加しません」を選択して、「次へ」を選択する

後からでも参加できます。

6 「Media Center の活用」の画面が表示されたら、「はい」を選択して、「次へ」を選択する

7 **「常時インターネットに接続」の画面が表示されたら、「いいえ」を選択して、「次へ」を選択する**

インターネットに接続していない場合、「インターネット接続がありません」の画面が表示されますので、「次へ」を選択してください。「必要なコンポーネントが設定されました」の画面が表示されたら、「次へ」を選択してください。

8 **「オプション設定」の画面が表示されたら、「ディスプレイでのMedia Centerの表示を最適化する」を選択して、「次へ」を選択する**

9 **「ディスプレイの設定」の画面が表示されたら、「次へ」を選択する**

10 **「ディスプレイの種類の指定」の画面が表示されたら、「内蔵ディスプレイ」を選択して、「次へ」を選択する**

11 **「ディスプレイの幅」の画面が表示されたら、ディスプレイの幅を選択して、「次へ」を選択する**

VALUESTAR Wの場合は、「ワイドスクリーン（16：9）」を選択してください。VALUESTAR Rの場合は、「標準（4：3）」を選択してください。

12 **「解像度の確認」の画面が表示されたら、「はい」を選択して、「次へ」を選択する**

13 **「ディスプレイの調整」の画面が表示されたら、「ウィザードを完了する」を選択して、「次へ」を選択する**

14 **「完了しました」が表示されたら、「次へ」を選択する**

15 **「オプションの設定」の画面が表示されたら、「スピーカーの設定」を選択して、「次へ」を選択する**

16 **「スピーカーの設定へようこそ」の画面が表示されたら、「次へ」を選択する**

17 **「スピーカー数の選択」の画面が表示されたら、「2スピーカー」を選択して、「次へ」を選択する**

18 **「スピーカーの接続の種類」の画面が表示されたら、「内蔵（ラップトップ）」を選択して、「次へ」を選択する**

19 「スピーカーのテスト」の画面が表示されたら、「テスト」を選択する

スピーカーからテスト音が鳴ります。

20 音がきこえたら、「すべてのスピーカーからサウンドが聴こえました」を選択して、「次へ」を選択する

21 「完了しました」が表示されたら、「完了」を選択する

22 「オプション設定」の画面が表示されたら、「完了」を選択して、「次へ」を選択する

23 「完了しました」が表示されたら、「完了」を選択する

これで、Media Center のセットアップは完了です。

リモコンについて

Media Center は、リモコンで操作できます。使用できるボタンは次のとおりです。

【再生】	スタート	【矢印(▲)】
【一時停止】	【メディアオンライン】	【矢印(▼)】
【停止】	【音量調節】	【矢印(◀)】
【巻戻し】	【チャンネル/ページ切換】	【矢印(▶)】
【早送り】	【消音】	【決定】
【スキップ(前)】	【クリア】	【チャンネル番号(0〜9)】
【スキップ(次)】	【DVDメニュー】	【*】
【戻る】	【ワイド切換】	【#】
【ナビ】	【アプリ終了】	【入力】

【ナビ】ボタンは、Media Center のヘルプなどでは【情報】ボタンと記載されている場合があります。

Media Center 使用上の注意

このパソコンの Media Center には、次の機能がサポートされていません。

・テレビ機能（MediaGarage、SmartVision をご利用ください）
・デジタルビデオからの取り込み機能、ＤＶＤ スライドショー機能（ＤＶＤ MovieWriter、SmartHobby をご利用ください）
・ラジオ機能（このパソコンではご利用になれません）

パソコンのお手入れ

パソコンが汚れたときなど、日常のお手入れのしかたを説明します。

水やぬるま湯は、絶対にパソコン本体やキーボードに直接かけないでください。故障の原因になります。

準備するもの

軽い汚れのとき

乾いたきれいな布

汚れがひどいとき

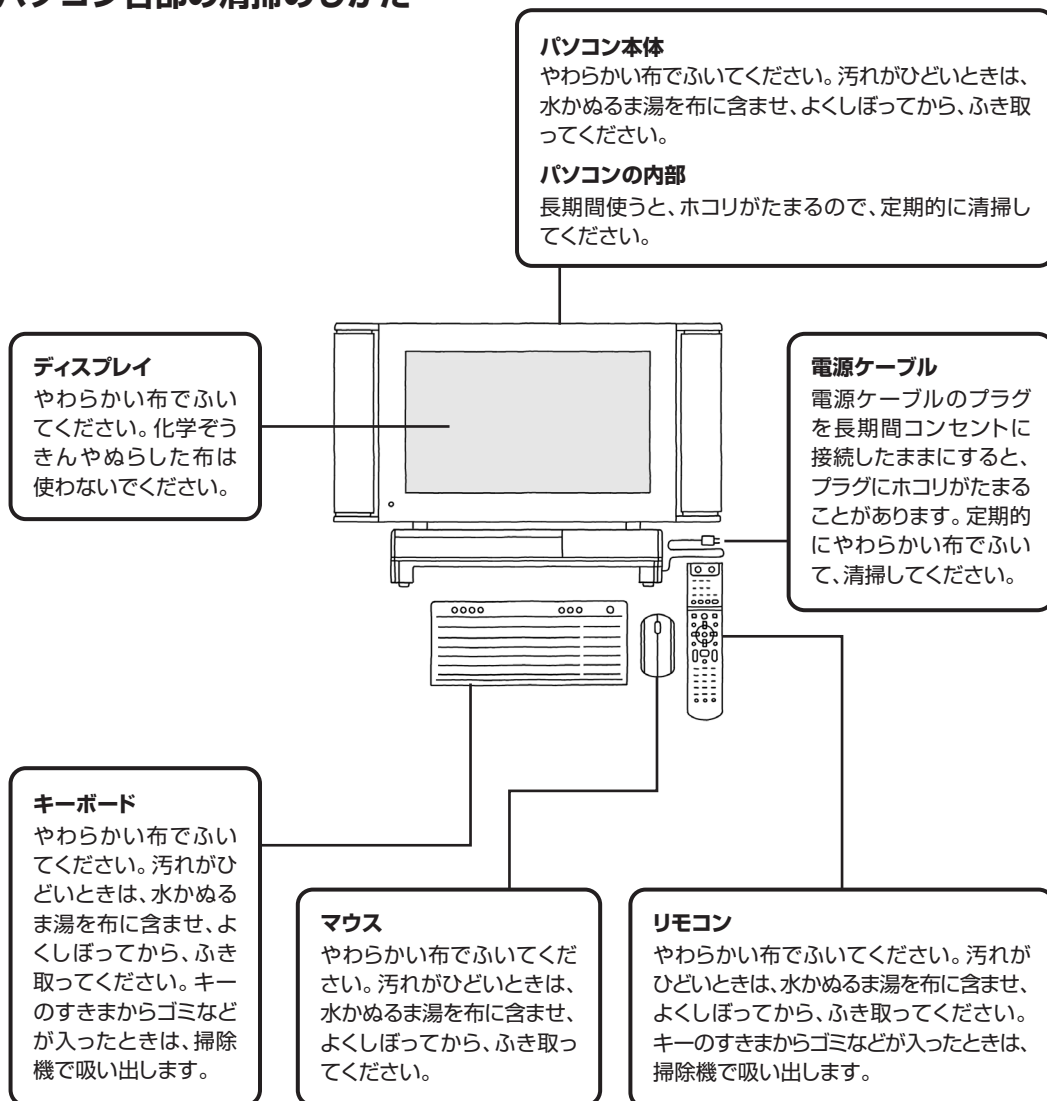
水かぬるま湯を含ませて、よくしぼった布

シンナーやベンジンなど、揮発性の有機溶剤は使わないでください。これらの有機溶剤を含む化学ぞうきんも使わないでください。キーボードなどを傷め、故障の原因になります。

こんなものもあると便利

- OA 用クリーニングキット
  OA用クリーニングキットについては、NEC 121 コンタクトセンターにお問い合わせください。
- 中性洗剤
- 掃除機など

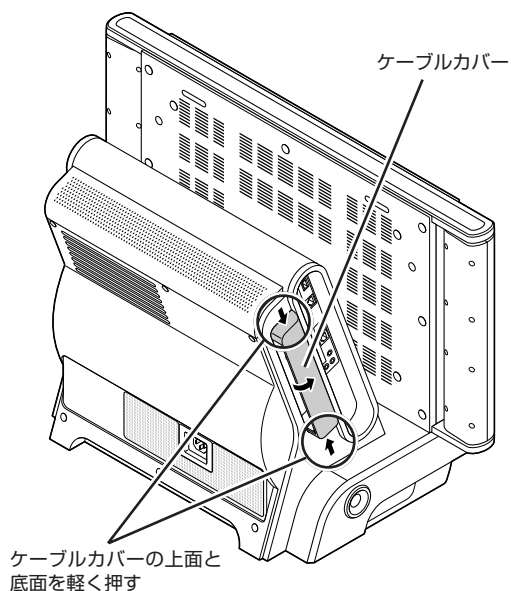
パソコンの電源を切って、電源ケーブルを抜いてから

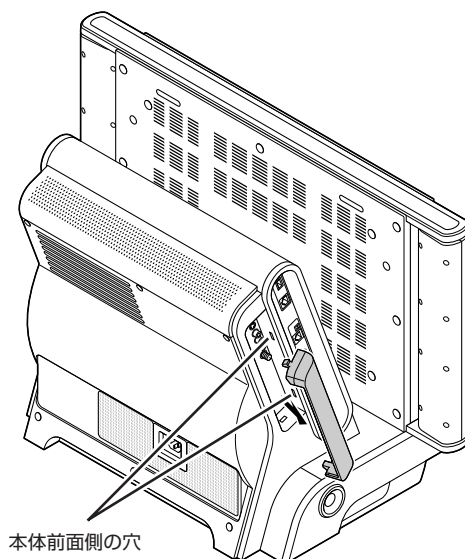
お手入れの前には、必ずパソコン本体や周辺機器の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。電源を切らずにお手入れを始めると、感電することがあります。

ケーブルカバーの取り外し方と取り付け方

本体左側面にあるケーブルカバーの取り外し方と取り付け方について説明します。

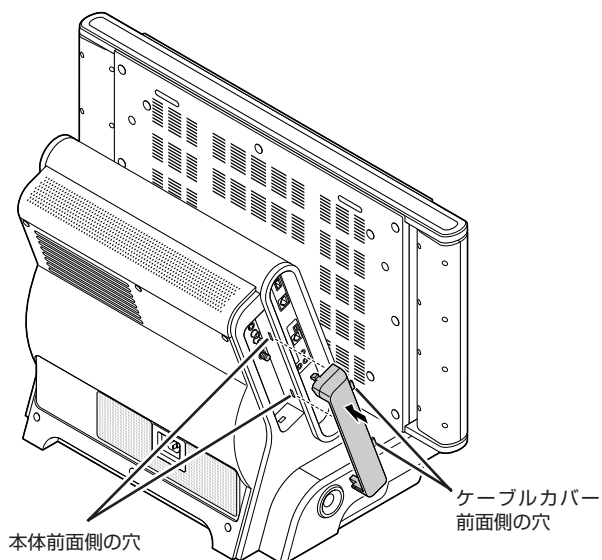
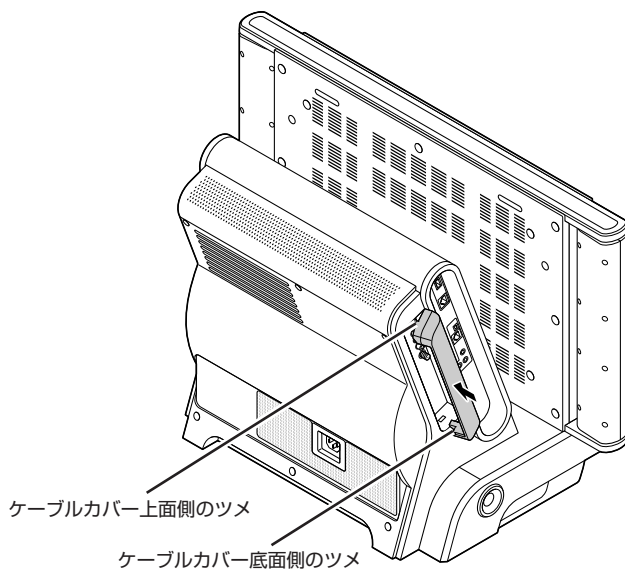
ケーブルカバーの外し方

1 ケーブルカバーの上面と底面を内側に押しながら、本体前面側に開く

ケーブルカバーの上面側と底面側のツメが本体から外れます。

2 ケーブルカバー前面側のツメを本体前面側の穴から外す

ケーブルカバーが外れます。

ケーブルカバーの取り付け方

ケーブルカバーを取り付けるときは、外したときと逆の手順で取り付けます。

1 ケーブルカバーの前面側のツメを本体前面側の穴にはめる

2 ケーブルカバーを矢印の方向へ押して、上面側と底面側のツメをはめる

DVD/CDドライブからディスクが取り出せなくなったときは

DVD/CD ドライブからディスクが取り出せなくなったときの取り出し方を説明します。

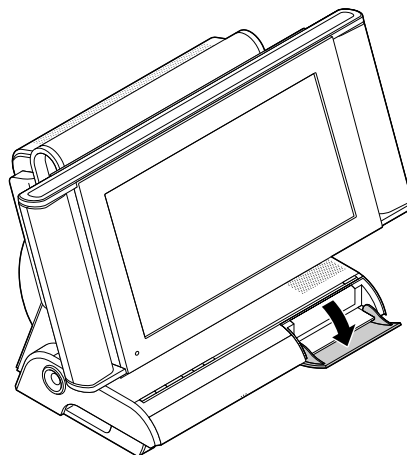
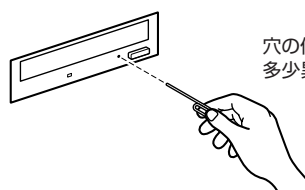
パソコンの電源が入っていないと、DVD/CDドライブのイジェクトボタンを押してもディスクは出てきません。
パソコンの電源が入っているにもかかわらず、ディスクトレイが出てこなくなった場合は、ソフトの異常な操作などでディスクが取り出せなくなっていることが考えられます。次の操作でディスクを取り出してください。

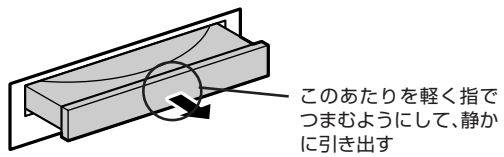
⚠注意

ペーパークリップを使うときは、ペーパークリップのとがった部分で指を切ったりしないように、注意して作業してください。

1. **太さが 1.3mm 程度、まっすぐな部分の長さが 45mm 程度（指でつまむ部分を除く）の針金を用意する**

   大きめのペーパークリップを伸ばして作ることができます。

2. **パソコン前面の DVD/CD ドライブカバーを手前に開ける**

3. **ディスクトレイの下の直径2mm程度の穴に、手順１で作った針金を差し込み、強く押し込む**

   ディスクトレイが５～ 15mm ほど飛び出します。

4 ディスクトレイを手前に引き出し、ディスクを取り出す

5 ディスクトレイの前面を、もとどおりに収納されるまで押し込む

キーボードとマウスを登録しなおす

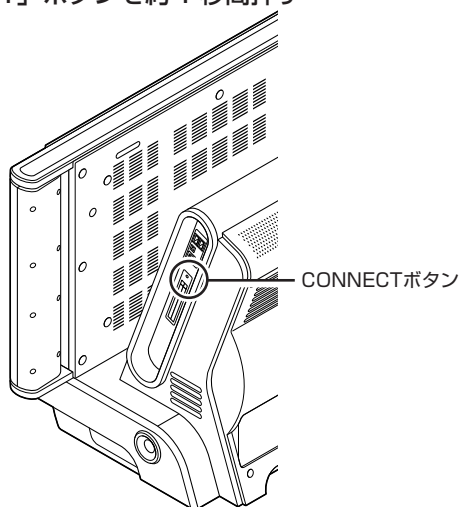
キーボード、マウスが動かなくなったときの登録のしかたを説明します。

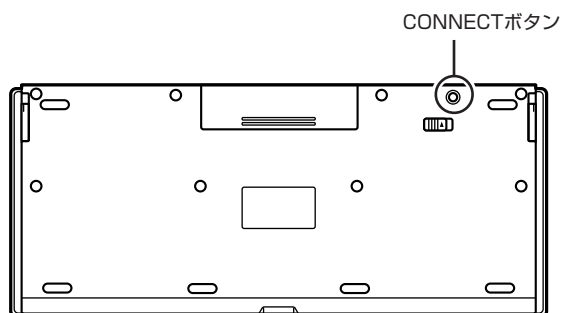
このパソコンのキーボードとマウスは無線でパソコンに信号を送ります。ご購入時には、キーボードとマウスからパソコン本体に信号を送るための登録がされていますが、何らかの原因でキーボードやマウスからの操作ができなくなることがあります。
その場合は、次の手順でキーボードとマウスを登録しなおしてください。
また、パソコンを修理・交換した場合も、登録しなおす必要があります。

キーボードとマウスを連続して登録するときは、一方を登録した後、約30秒間隔をあけて次の登録をおこなってください。

キーボードを登録しなおす

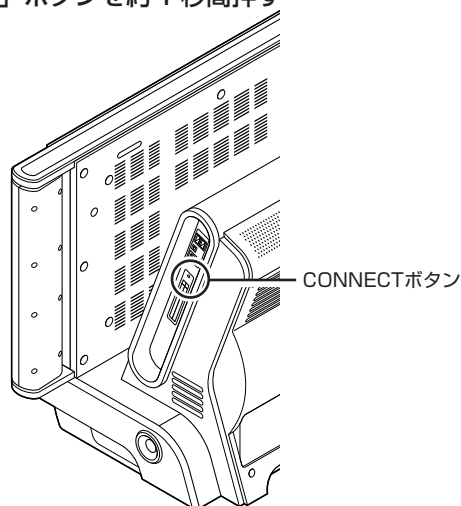
1 **キーボード裏面にあるON/OFFスイッチを「ON」にする**

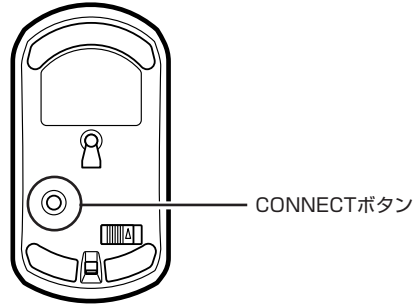
2 **シャープペンシルの先などで、パソコン本体の右側面にある「CONNECT」ボタンを約1秒間押す**

登録モードになり、ディスプレイ下の3つのランプ（🔒1 🔒A 🔒⇅）が点滅します。

3 パソコン本体の「CONNECT」ボタンを押してから30秒以内に、キーボード裏面にある「CONNECT」ボタンを約1秒間押す

CONNECTボタンは、2回以上押さないでください。2回以上押すと、キーボードが動かなくなることがあります。CONNECTボタンを2回以上押してキーボードが動かなくなったときは、手順1からやりなおしてください。

マウスを登録しなおす

1 マウス底面にあるON/OFFスイッチを「ON」にする

2 シャープペンシルの先などで、パソコン本体の右側面にある「CONNECT」ボタンを約1秒間押す

登録モードになり、ディスプレイ下の3つのランプ（1 A ⇅）が点滅します。

3 パソコン本体の「CONNECT」ボタンを押してから30秒以内に、マウス底面にある「CONNECT」ボタンを約1秒間押す

CONNECTボタンは、2回以上押さないでください。2回以上押すと、マウスが動かなくなることがあります。CONNECTボタンを2回以上押してマウスが動かなくなったときは、手順1からやりなおしてください。

このパソコンを複数隣接して使用した場合など、ひとつのキーボード、マウスで2台反応したときは、パソコンを置く位置を変更するか、または、以下の操作をおこなってください。

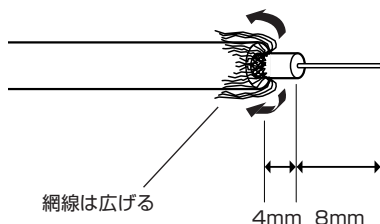
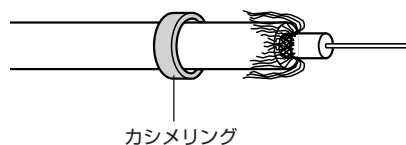
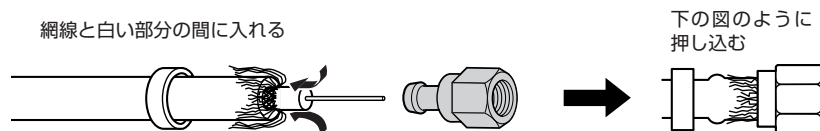
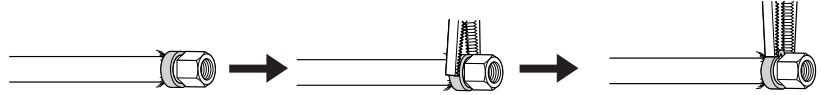
1 どちらか1台のパソコンの電源を切り、電源ケーブルを抜く

2 もう1台で、キーボードとマウスを登録しなおす

ケーブルにF型コネクタプラグを取り付ける

パソコンとアンテナ線を接続するとき、アンテナ線が１本（UHFのみまたはVHFのみか、UHF/VHF混合のとき）または、アンテナ線が２本（UHFとVHF）のときには、ケーブルに市販のF型コネクタプラグを取り付ける必要があります。

- あらかじめ、市販のF型コネクタプラグと、お手持ちのカッター、ペンチを用意してください。
  F型コネクタプラグは、ケーブルの太さに合ったものをお買い求めください。
- 網線の端を少し切っておくと、後でケーブルにカシメリングを通す際に作業しやすくなります。
- 金属線は折れやすいので、カッターで傷つけたり、曲げないように注意してください。
- カシメリングは、F型コネクタプラグが抜けないようしめるためのものです。
- ご購入されたF型コネクタプラグに、取り付け手順の書かれた説明書が添付されている場合は、そちらを参照してください。

1 アンテナ線の先を持ち、カッターを使って、およそ次のような寸法にケーブルを加工する

2 カシメリングをケーブルに通す

3 F型コネクタプラグを図のようにケーブルに押し込む

4 カシメリングをＦ型コネクタプラグの付け根に固定する

5 カシメリングからはみ出した網線を、カッターなどで切り取る

アフターケアについて

このパソコンに対する保守サービスや、消耗品・有寿命部品の内容について説明します。

保守サービスについて

保守サービスについては、NEC 121 コンタクトセンターにお問い合わせください。詳しくは、添付の『121ware ガイドブック』をご覧ください。

NEC 121 コンタクトセンターなどにこのパソコンの修理を依頼する場合は、設定したパスワードを解除しておいてください。

消耗品と有寿命部品について

このパソコンには、消耗品と有寿命部品が含まれています。安定してご使用いただくためには、定期的な保守による部品交換が必要になります。特に長期間連続して使用する場合には、安全などの観点から早期の部品交換が必要です。

種類	内容説明	該当品または部品（代表例）
消耗品	使用頻度や使用量により消耗の進行が異なります。お客様ご自身でご購入いただき、交換していただくものです。本体の保証期間内であっても有償になります。	フロッピーディスク、CD-ROMディスク、DVD-ROMディスク、SDメモリーカード、メモリースティック、バッテリ、乾電池など
有寿命部品	使用頻度や経過時間、使用環境によって摩耗、劣化の進行に大きな差が生じ、修理による再生ができなくなる部品です。本体の保証期間内であっても部品代は有償になる場合があります。詳しくは、NEC 121コンタクトセンターの故障診断・修理受付窓口にご相談ください。	ディスプレイ、ハードディスクドライブ、DVD/CDドライブ、キーボード、マウス、ファン

- 記載部品は代表例です。機種により構成部品が異なります。詳しくは、「仕様一覧」をご覧ください。
- 有寿命部品の交換時期の目安は、1日8時間のご使用で1年365日として約5年です。上記期間はあくまでも目安であり、上記期間中に故障しないことや無償修理をお約束するものではありません。
  また、長時間連続使用等のご使用状態や、温湿度条件等のご使用環境によっては早期に部品交換が必要となり、製品の保証期間内であっても有償となることがあります。
- 本製品の補修用性能部品の最低保有期間は、PC本体、オプション製品については製造打切後6年です。

パソコンの譲渡、廃棄、改造について

パソコンを他人に譲るとき、廃棄するときの注意事項を説明します。また、パソコンの改造はおこなわないでください。

このパソコンを譲渡するには

パソコン内のハードディスクには個人的に作成した情報が多く含まれています。第三者に情報が漏れないように、譲渡の際にはこれらの情報を削除することをおすすめします。このパソコンのハードディスクのデータを消去する方法については、「再セットアップ用DVD/CD-ROMを使って再セットアップする」（189ページ）をご覧ください。

譲渡するお客様へ

このパソコンを第三者に譲渡（売却）する場合は、次の条件を満たす必要があります。

1. 本体に添付されているすべてのものを譲渡し、複製物を一切保持しないこと。
2. 各ソフトウェアに添付されている「ソフトウェアのご使用条件」の譲渡、移転に関する条件を満たすこと。
3. 譲渡、移転が認められていないソフトウェアについては、削除した後譲渡すること（本体に添付されている「ソフトウェア使用条件適用一覧」をご覧ください）。

※ 第三者に譲渡（売却）する製品をお客様登録している場合は、121ware.comのマイアカウント（http://121ware.com/my/）の保有商品情報で削除いただくか、またはEメールアドレス webmaster@121ware.com宛にご連絡ください。

譲渡を受けたお客様へ

NECパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com」での登録をお願いします。

http://121ware.com/my/　にアクセス

- ●はじめて登録するかた

  「新規登録はこちら」をクリックして登録
- ●以前ハガキ、オンライン、FAXなどで登録されたかた

  「インターネット以外の方法でご登録済みの方はこちら」をクリックして登録
- ●すでにログインIDをお持ちのかた

  「ログイン」をクリックして、ログイン後、保有商品情報の「新規・追加登録」で登録

インターネットに接続できないかたは、お客様登録に必要な次の事項を記入し、郵送してください。

1. 本体型番、型名のいずれかと保証書番号
   （本体背面／側面または保証書に記載の型番／型名のいずれかと製造番号）

2. 氏名、住所、電話番号、Eメールアドレス、中古購入された場合はそのご購入先、ご購入日

3. 121wareお客様登録番号

（以前登録されてすでに「121wareお客様登録番号」をお持ちのかたは、記入をお願いします。）

宛先

〒143-8691　東京都大森郵便局 私書箱５号
NEC121ware登録センター係

このパソコンを廃棄するには

本製品は「資源有効利用促進法」に基づく回収再資源化対応製品です。PCリサイクルマークが銘板（パソコン本体の左側面または背面にある型番、製造番号が記載されたラベル）に表示されている、またはPCリサイクルマークのシールが貼り付けられている弊社製品は、弊社が責任を持って回収、再資源化いたします。

当該製品をご家庭から排出する際、弊社規約に基づく回収・再資源化にご協力いただける場合は、別途回収再資源化料金をご負担いただく必要はありません。

廃棄時の詳細については、NECパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com」（URL：http://121ware.com/support/recyclesel/）をご覧ください。

なお、下記の窓口でも廃棄についてお問い合わせいただけます。

NEC 121コンタクトセンター
廃棄のお問い合わせ　受付時間：9:00～17:00（年中無休）
0120-977-121

※電話番号をよくお確かめになり、おかけください。

携帯電話、PHSなどフリーコールをご利用いただけないお客様は下記電話番号へおかけください。

03-6670-6000（東京）（通話料金はお客様負担になります）

※電話番号をよくお確かめになり、おかけください。

当該製品が事業者から排出される場合（産業廃棄物として廃棄される場合）、当社は資源有効利用促進法に基づき、当社の回収・リサイクルシステムにしたがって積極的に資源の有効利用につとめています。廃棄時の詳細については、下記のホームページで紹介している窓口にお問い合わせください。

URL：http://www.nec.co.jp/eco/ja/products/3r/shigen_menu.html

※本文に記載された電話番号や受付時間などは、将来予告なしに変更することがあります。

ハードディスク、メモリーカード上のデータ消去に関するご注意

本内容は「パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意」の趣旨に添った内容で記載しています。詳細は以下のホームページをご覧ください。
http://it.jeita.or.jp/perinfo/release/020411.html

パソコンのハードディスクやメモリーカードには、お客様が作成、使用した重要なデータが記録されています。このパソコンを譲渡または廃棄するときに、これらの重要なデータ内容を消去することが必要になります。「データやファイルの消去」、「ハードディスクの初期化（フォーマット）」、「メモリーカードの初期化（フォーマット）」、「パソコンの再セットアップ」などの操作をおこなうと、記録されたデータの管理情報が変更されるためにWindowsでデータを探すことはできなくなりますが、ハードディスクやメモリーカードに磁気的に記録された内容が完全に消えるわけではありません。

「パソコンの再セットアップ」でデータが消去されるのは、このパソコンに内蔵されたハードディスクのみです。

このため、データ回復用の特殊なソフトウェアを利用すると、ハードディスクやメモリーカードから消去されたはずのデータを読み取ることが可能な場合があり、悪意のある人によって予期しない用途に利用されるおそれがあります。

お客様が廃棄・譲渡などをおこなう際に、ハードディスクおよびメモリーカード上の重要なデータの流出トラブルを回避するために、記録された全データをお客様の責任において完全に消去することが非常に重要です。データを消去するためには、専用ソフトウェアまたはサービス（ともに有償）を利用するか、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁気的に破壊（メモリーカードの場合は、金槌による物理的破壊のみ）して、読めなくすることを推奨します。有償のデータ消去サービスは、NECフィールディング株式会社にご依頼ください。

NECフィールディングホームページURL：http://www.fielding.co.jp/

また、ハードディスクやメモリーカード上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなく譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があります。十分な確認をおこなってください。

パソコンの改造はおこなわない

添付されているマニュアルに記載されている以外の方法で、このパソコンを改造・修理しないでください。記載されている以外の方法で改造・修理された製品は、当社の保証や保守サービスの対象外になることがあります。

仕様一覧

本体仕様一覧

VW970/FG、VW900/FH、VW770/FG、VW700/FG

型名			VW970/FG	VW900/FH	VW770/FG	VW700/FG
型番			PC-VW970FG	PC-VW900FH	PC-VW770FG	PC-VW700FG
インストールOS・サポートOS			Microsoft® Windows® XP Media Center Edition 2005 operating system 日本語版※1※46			
CPU			インテル® Pentium® D プロセッサ 920 (2.8GHz)	インテル® Celeron® D プロセッサ 346 (3.06GHz)		
	キャッシュメモリ	1次	12Kμ命令実行トレース×2/16KBデータ×2	12Kμ命令実行トレース/16KBデータ		
		2次	2MB×2	256KB		
バスクロック	システムバス		800MHz	533MHz		
	メモリバス		533MHz			
チップセット			Intel社製 82945G / 82801GH			Intel社製 82945GZ / 82801GB
メインメモリ	標準容量／最大容量※3		標準1GB※4(512MB×2:デュアルチャネル対応)／最大2GB※5[DDR2 SDRAM、PC2-4200対応]	標準512MB※4(512MB×1:デュアルチャネル対応可能※45)／最大2GB※5[DDR2 SDRAM、PC2-4200対応]		
	スロット数		DIMMスロット×2[空き0]	DIMMスロット×2[空き1]		
表示機能	ディスプレイ[型番](詳細は別表をご覧ください)		32型ワイド(高輝度デジタルTFT液晶)[ディスプレイ本体一体型]		20型ワイド(スーパーシャインビューEX2液晶)[ディスプレイ本体一体型]	
	グラフィックアクセラレータ		Intel社製 82945Gに内蔵			Intel社製 82945GZに内蔵
	ビデオRAM		標準AUTO可変(最大128MB)※4			
	最大表示色(表示解像度) 本体添付ディスプレイ		最大約1,677万色 (1,360×768ドット、1,024×768ドット※6※7、800×600ドット※6※7)			
	最大表示色(表示解像度) 本機のサポートする表示モード	デジタルディスプレイ	ー※8			
		アナログディスプレイ	ー※8			
ドライブ	ハードディスクドライブ※9		約800GB(約400GB×2、Serial ATA、高速7,200回転/分)※11 ※出荷時RAID0構成となります	約500GB(約250GB×2、Serial ATA、高速7,200回転/分)※11 ※出荷時RAID0構成となります		約400GB(Serial ATA、高速7,200回転/分)
	Windows®システムから認識される容量※10	Cドライブ／空き容量	約725GB／約709GB	約446GB／約432GB	約446GB／約431GB	約352GB／約338GB
		Dドライブ／空き容量	約6.5GB／約4.8GB			
	DVD/CDドライブ(詳細は別表をご覧ください)		DVDスーパーマルチドライブ(DVD-RAM/R/RW with DVD+R/RW)内蔵(バッファアンダーランエラー防止機能付き) [DVD-R/+R 2層書込み]			
	フロッピーディスクドライブ		ー【別売、専用オプション(型番：PC-AC-DU001C※12】			
サウンド機能	スピーカ		本体に内蔵(2ウェイサテライトスピーカ内蔵(7.5W+7.5W)、サブウーファ(15W))			
	音源／サラウンド機能		インテル High Definition Audio 準拠(最大192kHz/24ビット※13ステレオPCM同時録音再生機能、MIDI再生機能[OS標準])、マイクノイズ除去機能、3Dオーディオ(Direct Sound 3D対応)			
	サウンドチップ		RealTek社製 ALC262搭載			
通信機能	LAN		1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T対応			
	FAXモデム※14		データ通信：最大56Kbps※15(V.90対応)／FAX通信：最大14.4Kbps(V.17)、Resume On Ring機能対応			
TV機能(詳細は別表をご覧ください)			ハードウェアMPEG2リアルタイムエンコーダ 地上デジタル、BS・110度CSデジタル放送対応			ハードウェアMPEG2リアルタイムエンコーダ×2
インスタント機能			TV視聴※16<DVD※17・CD再生※18／ハードディスク内のファイル再生※19>※20			<TV視聴・録画※21・予約※22／DVD※17・CD再生※18／ハードディスク内のファイル再生※19>※20
入力装置	キーボード		ワイヤレスキーボード※23※24※25(109キーレイアウト準拠、ワンタッチスタートボタン付き)			
	マウス		光センサーワイヤレスマウス※23※25※26(スクロール機能付き)			
	リモコン		赤外線リモコン※25※27			

型名			VW970/FG	VW900/FH	VW770/FG	VW700/FG
外部インターフェイス	USB		コネクタ4ピン×4[USB 2.0]			
	IEEE1394(DV)		4ピン×2			
	FAXモデム		RJ11モジュラコネクタ×1(LINE×1)			
	LAN		RJ45コネクタ×1			
	サウンド関連	光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力	角形×1※28			角形×1※29
		ライン入力	ステレオミニジャック×1(入力インピーダンス 64kΩ、入力レベル 1Vrms)			
		ライン出力	ステレオミニジャック×1(出力インピーダンス 30kΩ、出力レベル 1Vrms、ヘッドフォン出力としても使用可能)			
		マイク入力	ステレオミニジャック×1(マイク入力インピーダンス 64kΩ、入力レベル 5mVrms、バイアス電圧 2.5V)			
		ヘッドフォン出力	ステレオミニジャック×1(ヘッドフォン出力インピーダンス　16Ω-100Ω「推奨32Ω」、出力電力5mW/32Ω)			
	カードスロット	メモリーカード	トリプルメモリースロット※48×1[SDメモリーカード※30、メモリースティック(メモリースティック PRO)※31、xD-ピクチャーカード※32]			
		PCカード	Type Ⅱ×2(Type Ⅲ×1スロットとしても使用可)、PC Card Standard準拠、CardBus対応			
外形寸法	本体(突起部除く)		960(W)×360(D)× 604(H)mm		702(W)×360(D)× 469(H)mm	
	本体(ガジェットスペース用スタンド装着時)		960(W)×360(D)× 624(H)mm		702(W)×360(D)× 527(H)mm	
	キーボード		396(W)×172(D)×29(H)mm			
	リモコン		52(W)×224(D)×28(H)mm			
質量	本体		約40kg		約31kg	約28kg
	キーボード／マウス／リモコン		約770g※33／約80g※33／約130g※33			
電源			AC100V±10%、50/60Hz			
消費電力	標準／最大／スタンバイ状態時		約235W/約374W/約23W※34	約231W/約355W/約23W※34	約178W/約301W/約23W※34	約147W/約259W/約6W
エネルギー消費効率(省エネ基準達成率)※35			P区分 0.00103(AAA)	P区分 0.00184(AAA)	P区分 0.00182(AAA)	P区分 0.00040(AAA)
電波障害対策			VCCI ClassB			
温湿度条件			10～35℃、20～80%(ただし結露しないこと)			
主な添付品			マニュアル、B-CASカード、ガジェットスペース用スタンド、電源ケーブル、電話回線ケーブル、リモコン、乾電池(単三アルカリ：4本、単四アルカリ：2本)			マニュアル、ガジェットスペース用スタンド、電源ケーブル、電話回線ケーブル、リモコン、乾電池(単三アルカリ：4本、単四アルカリ：2本)

VR570/FG、VR500/FG、VR300/FG

型名			VR570/FG	VR500/FG	VR300/FG
型番			PC-VR570FG	PC-VR500FG	PC-VR300FG
インストールOS・サポートOS			Microsoft® Windows® XP Media Center Edition 2005 operating system 日本語版※1		
CPU			HT テクノロジ※2 インテル® Pentium® 4 プロセッサ 517 (2.93GHz)	インテル® Celeron® D プロセッサ 346 (3.06GHz)	
	キャッシュメモリ	1次	12Kμ命令実行トレース/16KBデータ		
		2次	1MB	256KB	
バスクロック	システムバス		533MHz		
	メモリバス		533MHz		
チップセット			Intel社製 82945GZ / 82801GB		
メインメモリ	標準容量／最大容量※3		標準512MB※4(512MB×1:デュアルチャネル対応可能※45)／最大2ＧＢ※5[DDR2 SDRAM、PC2-4200対応]		
	スロット数		DIMMスロット×2[空き1]		
表示機能	ディスプレイ[型番](詳細は別表をご覧ください)		17型(高解像度スーパーシャインビューEX液晶)[ディスプレイ本体一体型]		
	グラフィックアクセラレータ		Intel社製 82945GZに内蔵		
	ビデオRAM		標準AUTO可変(最大128MB)※4		
	最大表示色(表示解像度)	本体添付ディスプレイ	最大約1,677万色 (1,280×1,024ドット、1,024×768ドット※6、800×600ドット※6)		
		本機のサポートする表示モード デジタルディスプレイ	－※8		
		本機のサポートする表示モード アナログディスプレイ	－※8		
ドライブ	ハードディスクドライブ※9		約400GB (Serial ATA、高速7,200回転/分)	約300GB (Serial ATA、高速7,200回転/分)	約250GB (Serial ATA、高速7,200回転/分)
	Windows® システムから認識される容量※10	Cドライブ／空き容量	約352GB／約338GB	約259GB／約245GB	約213GB／約199GB
		Dドライブ／空き容量	約6.5GB／約4.8GB		
	DVD/CDドライブ(詳細は別表をご覧ください)		DVDスーパーマルチドライブ(DVD-RAM/R/RW with DVD+R/RW)内蔵(バッファアンダーランエラー防止機能付き) [DVD-R/+R 2層書込み]		
	フロッピーディスクドライブ		－【別売、専用オプション(型番：PC-AC-DU001C)※12】		
サウンド機能	スピーカ		本体に内蔵(3W＋3W)		
	音源／サラウンド機能		インテル High Definition Audio 準拠(最大192kHz/24ビット※13ステレオPCM同時録音再生機能、MIDI再生機能[OS標準])、マイクノイズ除去機能、3Dオーディオ(Direct Sound 3D対応)		
	サウンドチップ		RealTek社製 ALC262搭載		
通信機能	LAN		1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T対応		
	FAXモデム※14		データ通信：最大56Kbps※15(V.90対応)／FAX通信：最大14.4Kbps(V.17)、Resume On Ring機能対応		
TV機能(詳細は別表をご覧ください)			ハードウェアMPEG2リアルタイムエンコーダ×2		ハードウェアMPEG2リアルタイムエンコーダ
インスタント機能			<TV視聴・録画※21・予約※22／DVD※17・CD再生※18／ハードディスク内のファイル再生※19>※20		
入力装置	キーボード		ワイヤレスキーボード※23※24※25(109キーレイアウト準拠、ワンタッチスタートボタン付き)		
	マウス		光センサーワイヤレスマウス※23※25※26(スクロール機能付き)		
	リモコン		赤外線リモコン※25※27		
外部インターフェイス	USB		コネクタ4ピン×4[USB 2.0]		
	IEEE1394(DV)		4ピン×2		
	FAXモデム		RJ11モジュラコネクタ×1(LINE×1)		
	LAN		RJ45コネクタ×1		
	サウンド関連	光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力	角形×1※29		
		ライン入力	ステレオミニジャック×1(入力インピーダンス 64kΩ、入力レベル 1Vrms)		
		ライン出力	ステレオミニジャック×1(出力インピーダンス 30kΩ、出力レベル 1Vrms、ヘッドフォン出力としても使用可能)		
		マイク入力	ステレオミニジャック×1(マイク入力インピーダンス 64kΩ、入力レベル 5mVrms、バイアス電圧 2.5V)		
		ヘッドフォン出力	ステレオミニジャック×1(ヘッドフォン出力インピーダンス　16Ω-100Ω「推奨32Ω」、出力電力5mW/32Ω)		
	カードスロット	メモリーカード	トリプルメモリースロット※48×1[ＳＤメモリーカード※30、メモリースティック(メモリースティックPRO)※31、xD-ピクチャーカード※32]		
		PCカード	Type Ⅱ×2(Type Ⅲ×1スロットとしても使用可)、PC Card Standard準拠、CardBus対応		

型名		VR570/FG	VR500/FG	VR300/FG
外形寸法	本体(突起部除く)	528(W)×360(D)× 467(H)mm		
	本体(ガジェットスペース用スタンド装着時)	528(W)×360(D)× 527(H)mm		
	キーボード	396(W)×172(D)×29(H)mm		
	リモコン	52(W)×224(D)×28(H)mm		
質量	本体	約25kg		
	キーボード／マウス／リモコン	約770g※33／約80g※33／約130g※33		
電源		AC100V±10%、50/60Hz		
消費電力	標準／最大／スタンバイ状態時	約116W/約230W/約6W	約114W/約226W/約6W	約113W/約225W/約6W
エネルギー消費効率(省エネ基準達成率)※35		P区分 0.00039(AAA)	P区分 0.00040(AAA)	P区分 0.00037(AAA)
電波障害対策		VCCI ClassB		
温湿度条件		10～35℃、20～80%(ただし結露しないこと)		
主な添付品		マニュアル、ガジェットスペース用スタンド、電源ケーブル、電話回線ケーブル、リモコン、乾電池(単三アルカリ：4本、単四アルカリ：2本)		

DVD/CD ドライブ仕様一覧

ドライブ	DVDスーパーマルチドライブ(DVD-RAM/R/RW with DVD+R/RW)内蔵(バッファアンダーランエラー防止機能付き) [DVD-R/+R 2層書込み]※36
DVD-RAM読出し※37	最大12倍速
DVD-RAM書換え※37※38※47	最大12倍速
DVD+R(1層)書込み	最大16倍速
DVD+R (2層)書込み※39	最大8倍速
DVD+RW書換え	最大8倍速
DVD-R(1層)書込み※40	最大16倍速
DVD-R(2層)書込み※41※42	最大4倍速
DVD-RW書換え※43	最大6倍速
DVD読出し	最大16倍速
CD読出し※44	最大40倍速
CD-R書込み	最大40倍
CD-RW書換え※45	最大10倍速

上記の内容は本体のハードウェアの仕様であり、オペレーティングシステム、アプリケーションによっては、上記のハードウェアの機能をサポートしていない場合があります。

※　1：添付のソフトウェアは、インストールされているOSでのみご利用できます。別売のOSをインストールおよび利用することはできません。
※　2：ソフトウェアやドライバがHT テクノロジに対応している必要があります。各ソフトウェアメーカ、周辺機器メーカにお問い合わせください。
※　3：他社製の増設メモリの装着は、動作を保証するものではありません。他社製品との接続は各メーカにご確認の上、お客様の責任において行ってくださるようお願いいたします。増設メモリは、PC-AC-ME013C(256MB)、PC-AC-ME014C(512MB)、PC-AC-ME015C(1GB)を推奨します。
※　4：ビデオRAMは、メインメモリを使用します。
※　5：最大メモリ容量にする場合、本体に実装されているメモリを取り外して、増設メモリ(PC2-4200対応、DDR2-533MHzメモリ)[1GB]を2枚実装する必要があります。
※　6：擬似的に画素を拡大して表示しているため文字などの線がぼやけて表示される場合があります。
※　7：画面が横方向に拡大されて表示されます。
※　8：本機には外付けディスプレイの接続はできません。
※　9：1GBを10億バイトで計算した場合の数値です。
※ 10：右記以外の容量はインスタント機能用領域（インスタント機能搭載モデル）および再セットアップ用領域として占有されます。
※ 11：再セットアップによりRAID1への変更が可能。HDDの設定変更によって発生した不具合については保証・サポートの対象外になります。
※ 12：2モード(720KB/1.44MB)に対応しています(ただし、720KBモードのフォーマットは不可です)。
※ 13：使用可能な量子化ビットやサンプリングレートは、OSや使用するアプリケーションなどのソフトウェアによって異なります。
※ 14：回線状態によっては、通信速度が変わる場合があります。また、内蔵FAXモデムは一般電話回線のみに対応しています。
※ 15：最大56Kbpsはデータ受信時の理論上の最大速度です。データ送信時は最大33.6Kbpsになります。
※ 16：Windows®とは独立したハードウェアを使用して実現しています。電源オフの状態からでも液晶TVと同様のすばやさでTV視聴が可能になります。
※ 17：市販のDVDビデオおよびVideoフォーマットで作成されたDVD-R、DVD+R、DVD-VRフォーマットで作成されたDVD-RAM、DVD+VRフォーマットで作成されたDVD+RWのみ再生可能です。ビデオCDには対応しておりません。
※ 18：市販の音楽CDおよびCD-DAフォーマットで作成されたCD-ROM、CD-R/RWのみ再生可能です。CD-EXTRAやCD-TEXTは音楽データのみ再生可能です。
※ 19：再生できるファイルの種類については、「インスタント機能再生可能フォーマット一覧」をご覧ください。
※ 20：Windows® XP Embeddedにより実現しています。
※ 21：インスタント機能で視聴している番組の録画のみ可能です。DVDへの直接録画はできません。
※ 22：番組表の表示、録画の予約／修正／削除ができます。予約した番組録画の実行はWindows®上で行います。
※ 23：金属製の机の上などで使用した場合に、動作に影響することがあります。木製の机などの上でのご利用をおすすめします。
※ 24：キーボードの使用時間は連続使用で約300時間です（ただし、ご使用の環境条件や方法により異なります）。
※ 25：使用可能な距離は約3mです（ただし、ご使用の環境条件や方法により異なります）。
※ 26：マウスの電池寿命はアルカリ電池を使用し、約2.5ヵ月間使用可能です。マウスを連続して操作した場合は、アルカリ電池で最大約60時間です（ただし、ご使用の環境条件や方法により異なります）。
※ 27：リモコンの電池寿命はアルカリ電池で最大約90時間です（ただし、ご使用の環境条件や方法により異なります）。
※ 28：地上アナログ放送、地上デジタル放送、BS・110度CSデジタル放送における音声は出力できません。
※ 29：地上アナログ放送における音声は出力できません。
※ 30：SDメモリーカードの著作権保護機能には対応しておりません。「miniSDカード」をご使用の場合には、必ずminiSDカードアダプタをご利用ください。詳しくは「miniSDカード」の取扱説明書をご参照ください。
※ 31：メモリースティックの「マジックゲート」(著作権保護)機能には対応しておりません。「メモリースティック Duo」をご使用の場合には、必ずメモリースティック Duoアダプタをご利用ください。詳しくは「メモリースティック Duo」の取扱説明書をご参照ください。
※ 32：xD-ピクチャーカードの著作権保護機能には対応しておりません。
※ 33：乾電池の質量は含まれておりません。
※ 34：設定変更により休止状態および電源オフ時、約9Wにすることが可能です。
※ 35：エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。省エネ基準達成率の表示語Aは達成率100%以上200%未満、AAは達成率200%以上500%未満、AAAは達成率500%以上を示します。
※ 36：使用するディスクによっては、一部の書込み／読み出し速度に対応していない場合があります。
※ 37：DVD-RAM Ver.2.0/2.1/2.2 (片面4.7GB)に準拠したメディアに対応しています。また、カートリッジ式のメディアは使用できませんので、カートリッジなし、あるいはメディア取り出し可能なカートリッジ式でメディアを取り出してご利用ください。
※ 38：DVD-RAM Ver.1 (片面2.6GB)の読み出し／書換えはサポートしておりません。
※ 39：DVD+R 2層書込みはDVD+R（2層）ディスクのみに対応しています。
※ 40：DVD-Rは、DVD-R for General Ver.2.0/2.1に準拠したメディアの書込みに対応しています。
※ 41：DVD-R 2層書込みは、DVD-R for DL Ver.3.0に準拠したメディアの書込みに対応しています。
※ 42：作成したDVD-R(2層)ディスクについては、当社製パソコンに搭載されているDVD-R(2層)対応ドライブでのみ読み出しが可能です。
※ 43：DVD-RWは、DVD-RW Ver.1.1/1.2に準拠したメディアの書き換えに対応しています。
SuperAudio CDは、ハイブリッドのCD Layerのみ読み出し可能。
※ 44：Ultra Speed CD-RWメディアはご使用になれません。
※ 45：本体に実装されているメモリと同容量/同仕様のメモリを2スロットに増設した場合、デュアルチャネルとなります。
※ 46：ネットワークでドメインに参加する機能はありません。
※ 47：DVD-RAM12倍速書き込みには、DVD-RAM12倍書き込みに対応したDVD-RAMメディアが必要です。
※ 48：メモリースティック、SDメモリーカード、D-ピクチャーカードは各々同時に使用することはできません。

TV機能仕様一覧

VW970/FG、VW900/FH、VW770/FG、VW700/FG

型名			VW970/FG	VW900/FH	VW770/FG	VW700/FG
型番			PC-VW970FG	PC-VW900FH	PC-VW770FG	PC-VW700FG
映像関連機能 (地上アナログ放送)	TVチューナ		音声多重対応、受信チャンネル：VHF(1～12ch)、UHF(13～62ch)、CATV(C13～C38)※1			
	データ放送受信		地上アナログデータ放送(ADAMS-EPG)、字幕放送			
	高画質機能		VISITAL			
	TV録画機能	MediaGarage, SmartVision	MPEG2(高画質モード：720×480ドット(8Mbps CBR)、 標準画質モード：720×480ドット(4Mbps VBR)、 長時間モード：352×480ドット(2Mbps VBR)、 超長時間モード:352×240ドット(1.2Mbps VBR))の録画可能			
		同時録画機能	地上アナログ放送とデジタル放送(地上デジタル放送、BSデジタル放送、110度CSデジタル放送のいずれか)の組み合わせで2番組までの同時録画可能※3			2番組までの同時録画可能
	最長録画時間	高画質モード	約204時間	約124時間	約123時間	約97時間
		標準画質モード	約398時間	約242時間	約241時間	約189時間
		長時間モード	約757時間	約460時間	約459時間	約359時間
		超長時間モード	約1182時間	約719時間	約717時間	約561時間
映像・サウンド関連インターフェイス	地上アナログ放送アンテナ入力		地上デジタル放送と共用			F型同軸×1
	ビデオ入力		コンポーネント(D4映像)入力端子×1(側面×1、画面表示のみ)、 Sビデオ入力端子×2(前面×1、側面×1、前面の1系統は画面表示のみ)、 コンポジットビデオ入力端子×2(前面×1、側面×1、前面の1系統は画面表示のみ)			Sビデオ入力端子×1(側面×1)、コンポジットビデオ入力端子×1(側面×1)
	ビデオオーディオ入力端子(L/R)		3系統(前面×1、側面×2、側面の1系統以外は再生のみ)			1系統(側面×1)

VR570/FG、VR500/FG、VR300/FG

型名			VR570/FG	VR500/FG	VR300/FG
型番			PC-VR570FG	PC-VR500FG	PC-VR300FG
映像関連機能 (地上アナログ放送)	TVチューナ		音声多重対応、受信チャンネル：VHF(1～12ch)、UHF(13～62ch)、CATV(C13～C38)※1		
	データ放送受信		地上アナログデータ放送(ADAMS-EPG)、字幕放送		
	高画質機能		VISITAL		
	TV録画機能	MediaGarage, SmartVision	MPEG2(高画質モード：720×480ドット(8Mbps CBR)、 標準画質モード：720×480ドット(4Mbps VBR)、 長時間モード：352×480ドット(2Mbps VBR)、 超長時間モード:352×240ドット(1.2Mbps VBR))の録画可能		
		同時録画機能	2番組までの同時録画可能		－
	最長録画時間	高画質モード	約97時間	約70時間	約56時間
		標準画質モード	約189時間	約136時間	約110時間
		長時間モード	約359時間	約260時間	約210時間
		超長時間モード	約561時間	約406時間	約329時間
映像・サウンド関連インターフェイス	地上アナログ放送アンテナ入力		F型同軸×1		
	ビデオ入力		Sビデオ入力端子×1(側面×1)、コンポジットビデオ入力端子×1(側面×1)		
	ビデオオーディオ入力端子(L/R)		1系統(側面×1)		

VALUESTAR W デジタルTV機能

型名			VW970/FG	VW900/FH	VW770/FG
型番			PC-VW970FG	PC-VW900FH	PC-VW770FG
映像関連機能 (地上デジタル放送)	TVチューナ		地上デジタル放送※2		
	データ放送受信		地上デジタル放送		
	TV録画機能	MediaGarage, SmartVision	独自形式(デジタルハイビジョンTV放送(約15Mbps)、デジタル標準TV放送(約8Mbps))の録画可能		
		SmartVision	以下のアナログ放送画質への画質変換録画が可能 MPEG2(高画質モード：720×480ドット(8Mbps CBR)、 標準画質モード：720×480ドット(4Mbps VBR)、 長時間モード：352×480ドット(2Mbps VBR)、 超長時間モード:352×240ドット(1.2Mbps VBR)		
		同時録画機能	地上アナログ放送とデジタル放送(地上デジタル放送、BSデジタル放送、110度CSデジタル放送のいずれか)の組み合わせで2番組までの同時録画可能※3		
	最長録画時間	デジタルハイビジョンTV放送	約109時間	約65時間	
		デジタル標準TV放送	約206時間	約123時間	
		アナログ画質 (超長時間モード)	約1182時間	約719時間	約717時間
映像関連機能 (BSデジタル放送・110度CSデジタル放送)	TVチューナ		BSデジタル放送、110度CSデジタル放送※4		
	データ放送受信		BSデジタル放送、110度CSデジタル放送		
	TV録画機能	MediaGarage, SmartVision	独自形式(デジタルハイビジョンTV放送(約24Mbps)、デジタル標準TV放送(約12Mbps))の録画可能		
		SmartVision	以下のアナログ放送画質への画質変換録画が可能 MPEG2(高画質モード：720×480ドット(8Mbps CBR)、 標準画質モード：720×480ドット(4Mbps VBR)、 長時間モード：352×480ドット(2Mbps VBR)、 超長時間モード:352×240ドット(1.2Mbps VBR))		
		同時録画機能	地上アナログ放送とデジタル放送(地上デジタル放送、BSデジタル放送、110度CSデジタル放送のいずれか)の組み合わせで2番組までの同時録画可能※3		
	最長録画時間	デジタルハイビジョンTV放送	約65時間	約39時間	
		デジタル標準TV放送	約131時間	約78時間	
		アナログ画質 (超長時間モード)	約1182時間	約719時間	約717時間
映像・サウンド関連インターフェイス	地上アナログ・デジタル放送アンテナ入力		F型同軸×1		
	BS・110度CSデジタル放送アンテナ入力		F型同軸×1		
	光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力		角形×1※5※6		
	B-CASカードスロット		専用×1		

※1：ケーブルテレビの受信チャンネル表記は、(社)電子情報技術産業協会規格(CPR-4103)の表記に基づきます。実際のケーブルテレビ受信チャンネル番号は、ケーブルテレビ会社により異なりますので、ケーブルテレビ会社にお問い合わせください。
本製品をケーブルテレビ回線に接続する場合、ケーブルテレビ会社との受信契約が必要となります。また、本製品は、記載されたケーブルテレビ周波数の受信に対応しておりますが、大半のチャンネルはケーブルテレビ会社により視聴制限(スクランブル)を施されているため、本製品で直接受信することはできません。この場合は、ケーブルテレビ会社より貸与されるターミナルアダプタにより、受信する必要があります。
ケーブルテレビ会社により再送信を行っている地上アナログ放送は、VHFおよびUHFの周波数で送信されていますので、特別な受信装置がなくとも、受信可能です。詳細は、ご利用のケーブルテレビ会社にご相談ください。

※2：ケーブルテレビ会社経由で地上デジタル放送を受信する場合、再配信されている地上デジタル放送信号が同一パススルー方式の場合は地上デジタル放送を視聴可能です。その他の方式(周波数変換パススルー方式、トランスモジュレーション方式など)では視聴できません。再配信されている地上デジタル放送の方式に関しては、ご利用のケーブルテレビ会社にご確認ください。

※3：デジタル放送をアナログ放送画質へ変換して録画している時は同時録画できません。

※4：ケーブルテレビ会社経由でBSデジタル放送や110度CSデジタル放送が受信できるかどうかは、ケーブルテレビ会社により異なります。ご利用のケーブルテレビ会社にご確認ください。

※5：MediaGarageまたはSmartVisionの映像音声(AAC 5.1chもしくはPCM 2ch)を出力します。
※6：放送内容によりサンプリング周波数32KHz、44.1KHzあるいは48KHzで出力します。また、一般のCDプレーヤ・MDデッキ類と同様に、SCMS(シリアルコピーマネジメントシステム)に準拠した信号を出力します。

ディスプレイ仕様一覧

VW970/FG、VW900/FH、VW770/FG、VW700/FG

型名	VW970/FG	VW900/FH	VW770/FG	VW700/FG
型番	PC-VW970FG	PC-VW900FH	PC-VW770FG	PC-VW700FG
画面サイズ	32型ワイド(高輝度デジタルTFT液晶)		20型ワイド (スーパーシャインビューEX2液晶)	
ディスプレイ型番	ー(本体に内蔵)			
表示寸法(アクティブ表示エリア)	698(W)×392(H)		443(W)×249(H)mm	
画素ピッチ	0.511mm		0.325mm	
表示解像度	1,360×768ドット、1,024×768ドット※1※2、800×600ドット※1※2			
LCDドット抜けの割合※3	0.00016%以下			

VR570/FG、VR500/FG、VR300/FG

型名	VR570/FG	VR500/FG	VR300/FG
型番	PC-VR570FG	PC-VR500FG	PC-VR300FG
画面サイズ	17型 (高解像度スーパーシャインビューEX液晶)		
ディスプレイ型番	ー(本体に内蔵)		
表示寸法(アクティブ表示エリア)	337(W)×270(H)mm		
画素ピッチ	0.264mm		
表示解像度	1,280×1,024ドット、1,024×768ドット※1、800×600ドット※1		
LCDドット抜けの割合※3	0.00016%以下		

※1：擬似的に画素を拡大して表示しているため文字などの線がぼやけて表示される場合があります。
※2：画面が横方向に拡大されて表示されます。
※3：ISO13406-2の基準にしたがって、副画素（サブピクセル）単位で計算しています。

再生可能フォーマット一覧(インスタントー機能)

フォーマット		拡張子
写真/静止画	JPEG	jpg、jpeg
	BMP	bmp
音楽	WAV	wav
	MP3	mp3
	WMA	wma
動画	MPEG1、MPEG2	mpg、mpeg
	SmartVision録画ファイル※	svi
	WMV	wmv

※：VW970/FG、VW900/FH、VW770/FGは対応しておりません。

<ご注意>
これらの拡張子であっても、フォーマットその他によって、対応できないコンテンツがあります。
著作権保護のかかったコンテンツは、再生することができません。

FAXモデム仕様一覧

項目		規格
適用回線		加入電話回線
ダイヤル方式		パルスダイヤル(10/20PPS) トーンダイヤル(DTMF)
FAX機能	交信可能ファクシミリ装置	ITU-T　G3ファクシミリ装置
	同期方式	半2重調歩同期方式
	通信規格※1	ITU-T V.17:14,400 / 12,000 / 9,600 / 7,200 bps V.29:9,600 / 7,200 bps V.27ter:4,800 / 2,400 bps V.21 ch2:300 bps
	送信レベル	-10 ～ -15dBm(出荷時 -15dBm)
	受信レベル	-10 ～ -40dBm
	制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド(CLASS 1)
データモデム機能	同期方式	全2重調歩同期方式
	通信規格※1	ITU-T V.90:56,000 ～ 28,000 bps※2 V.34:33,600 ～ 2,400 bps V.32bis:14,400 ～ 4,800 bps V.32:9,600 ～ 4,800 bps V.22bis:2,400 / 1,200 bps V.22:1,200 / 600 bps V.21:300 bps
	エラー訂正	ITU-T V.42(LAPM) MNP class 4
	データ圧縮	ITU-T V.42 MNP class 5
	送信レベル	-10 ～ -15dBm(出荷時 -15dBm)
	受信レベル	-10 ～ -40dBm
	制御コマンド	Hayes ATコマンド準拠※3

※　1：回線状態によっては通信速度が変わる場合があります。

※　2：送信時は33,600～2,400bpsになります。

※　3：ATコマンドについては、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「ATコマンド」をご覧ください。

LAN仕様一覧

項目	規格
準拠規格	ISO 8802-3、IEEE802.3、IEEE802.3u、IEEE802.3ab
ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	1000BASE-T使用時：1000Mbps 100BASE-TX使用時：100Mbps 10BASE-T使用時：10Mbps
伝送路	1000BASE-T使用時：UTPカテゴリ5e以上 100BASE-TX使用時：UTPカテゴリ5 10BASE-T使用時 ：UTPカテゴリ3または5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
メディアアクセス制御方式	CSMA/CD方式
ステーション台数	最大1,024台/ネットワーク
ステーション間距離/ ネットワーク経路長※	1000BASE-T：最大約200m/ステーション間 100BASE-TX：最大約200m/ステーション間 10BASE-T：最大約500m/ステーション間 最大100m/セグメント

※リピータの台数など、条件によって異なります。

リモコン仕様一覧

外形寸法	52 (W) × 224 (D) × 28 (H) mm
質量	約 130g (電池含まず)
通信方式	赤外線通信方式
赤外線到達距離	3m 以内
電池	単４形アルカリ乾電池２本
電池寿命	キー連続操作約 90 時間

その他のご注意

[著作権に関するご注意]
・ お客様が複製元のCD-ROMやDVD-ROMなどの音楽コンテンツやビデオコンテンツの複製や改変を行う場合、複製元の媒体などについて、著作権を保有していなかったり、著作権者から複製や改変の許諾を得ていない場合、利用許諾条件または著作権法に違反する場合があります。
・ 複製の際は、複製元の媒体の利用許諾条件、複製などに関する注意事項にしたがってください。
・ お客様が録音・録画したものは、個人として楽しむなどのほかには、著作権法上、著作権者に無断で使用することはできません。

[TV視聴／録画について]
・ 地上デジタル・BSデジタル・CSデジタル放送対応のチューナを本商品（デジタルハイビジョンTVモデルを除く）の外部入力端子に接続した場合、「一回だけ録画可能」の番組を録画およびタイムシフトすることはできません。
・ デジタルハイビジョンTVモデルでは、「一回だけ録画可能」の番組をビデオ入力端子に接続して取り込んだ場合、録画、タイムシフトが可能です。
・ TVをご覧いただくためにはご家庭のアンテナケーブル（別売）と接続する必要があります。
・ TV放送やデータ放送をご覧になる場合、ノイズやゴーストなど電波障害が強いところでは、TV映像がコマ落ちしたり、データ放送が受信できないなどの現象が発生する場合があります。電波の弱い場合は、ブースタが必要になる場合があります。また、ケーブルテレビをご利用の場合は、ADAMSなどのデータ放送が受信可能かどうか、ご利用のケーブルテレビ会社へお問い合わせください。
・ 録画時間は映像の内容およびご利用状況によって前後する場合があります。

[電波に関するご注意]
〈ワイヤレスマウス、ワイヤレスキーボード対応商品〉
・ 病院内や航空機内など電子機器、無線機器の使用が禁止されている区域では使用しないでください。機器の電子回路に影響を与え、誤作動や事故の原因となる恐れがあります。
・ 埋め込み型心臓ペースメーカを装備されている方は、本商品をペースメーカから30cm以上離して使用してください。

[DVD/CDの読み込み／書き込みについて]
・ コピーコントロールCDなど一部の音楽CDでは、再生やCD作成ができない場合があります。
・ デジタルハイビジョンTVモデルを除くモデルは、別途有償アップデートを行うことでCPRM（Content Protection for Recordable Media）の著作権保護機能に対応することができます。
・ メディアの種類、フォーマット形式によって読み取り性能が出ない場合があります。また、記録状態が悪い場合など、読み取りできない場合があります。
・ 12cmCD、DVD以外は使用できません。ハート形、カード型などの特殊形状をしたCDは故障の原因となりますので使用できません。
・ 設定した書き込み、書き換え速度を実現するためには、書き込み、書き換え速度に応じたメディアが必要になります。
・ 映像ソフトの再生は、ソフトウェアによるMPEG2再生方式です。NTSCのみ対応しております。Regionコード「2」、「ALL」以外のDVDビデオの再生は行えません。再生するDVDディスクおよびビデオCDの種類によってはコマ落ちする場合があります。リニアPCM（96KHz/24bit）で記録されている20KHz以上の音声信号は再生できません。DVDレコーダで記録されたDVDで、書き込み形式により再生できないものがあります。そのような場合はDVDレコーダの取扱説明書などをご覧ください。
・ ライティングソフトウェアが表示する書き込み予想時間と異なる場合があります。
・ 作成したDVDは家庭用のDVDプレーヤやDVD-ROMドライブ搭載パソコンで再生できますが、一部のDVDプレーヤやDVD-ROMドライブでは再生できないことがあります。また、メディアやプレーヤの状態により再生できないことがあります。
・ ソフトウェアによっては書き込み速度設定において最大速度を表示しない場合があります。

[周辺機器接続について]
・ 接続する周辺機器および利用するソフトウェアが、各種インターフェイスに対応している必要があります。
・ 接続する周辺機器によっては対応していない場合があります。
・ USB1.1対応の周辺機器も利用できます。USB2.0で動作するにはUSB2.0対応の周辺機器が必要です。
・ IEEE1394インターフェイスを装備した商品と他社製デジタルビデオカメラの連携は、機種により対応していない場合があります。
・ 他社製増設機器の接続につきましては、動作を保証するものではありません。他社製品との接続は、各メーカにご確認の上、お客様の責任において行ってくださるようお願いいたします。
・ 光デジタルオーディオ出力端子に接続するオーディオ機器は48KHzのサンプリング周波数に対応している必要があります。また、一般のCDプレーヤ・MDデッキ類と同様に、SCMS（シリアルコピーマネジメントシステム）に準拠した信号を出力します。

[インターネット電話／インターネットテレビ電話について]
・ ご利用の通信事業者、プロバイダ、お客様の環境によってはご利用になれない場合があります。事前に通信事業者やプロバイダにご確認ください。ADSLなどのブロードバンド環境でのご利用を推奨いたします。

「サポートナビゲーター」詳細目次

■安心安全に使う

● 121ware お客様登録
お客様登録のしかたについて。

●安全に使うためのポイント
このパソコンのセキュリティの状態や、インターネットを使うときの注意などについて。

- ・121 ポップリンクを活用しよう
- ・セキュリティ対策の必要性
- ・ご購入時のセキュリティの状態
- ・ほかのセキュリティソフトを使う場合
- ・Internet Explorer のセキュリティ設定
- ・個人情報はしっかり管理
- ・ホームページを見るときの注意
- ・有害ホームページのフィルタリング
- ・フィッシング詐欺対策

●ウイルス感染の防止
パソコンを使う際に注意しなければいけないウイルスについて、感染予防や対策。

- ・ウイルスって何？
- ・ウイルス対策ソフトを使い始める
- ・ウイルス対策ソフトを更新する
- ・ウイルスを見張る
- ・ウイルスをチェックする
- ・ソフトのセキュリティを強化する
- ・感染しないためには
- ・感染したかな？と思ったら
- ・感染してしまったら
- ・メッセージが表示されたら

●不正アクセスの防止
インターネットを通じて外から侵入されることを防ぐファイアウォールについて。

- ・不正アクセスって何？
- ・ファイアウォールでブロック
- ・ウイルスバスターのパーソナルファイアウォール機能で監視する
- ・Windows ファイアウォールで監視する
- ・ウイルスバスターのパーソナルファイアウォール機能におけるセキュリティレベル
- ・ウイルスバスターのパーソナルファイアウォール機能でのアクセス許可設定
- ・ファイアウォールの警告メッセージ
- ・アクセスブロックを解除する

● Windowsを更新する

Windowsを常に最新の状態にするためのWindows Updateの使い方。

●無線LANのセキュリティ

無線LANとは、重要なセキュリティについて。

● NECが取り組むエコ

NECのパソコンが環境を守るために取り組んでいること、パソコンを使う上でのエコについて紹介。

■使いこなす

●パソコン各部の説明

このパソコンの各部の名称や詳しい機能の使い方について。

●ソフトの紹介

このパソコンに入っているソフトの詳しい使い方、追加と削除の方法。

● Windowsの操作

自分好みに使いやすくしたり、ファイル・フォルダ管理など、パソコンを使う上での設定方法、操作方法について。

（次ページへ続く）

● Windowsの操作（続き）

自分好みに使いやすくしたり、ファイル・フォルダ管理など、パソコンを使う上での設定方法、操作方法について。

・スクリーンセーバーを使う
・デスクトップテーマを設定する
・起動時やエラー時の音を変える
・ドライブ番号を変える

▼使いこなすためのコツ

・ソフトをすばやく起動する
・ドラッグ＆ドロップを使いこなす
・ショートカットキーを使いこなす
・住所の入力を楽にする（郵便番号辞書）
・よく使う言葉を登録しておく（単語登録）
・入力方式を選ぶ
・IME言語バーを表示する

▼ファイルとフォルダの使い方

・ドライブ／フォルダ／ファイルの構造を知る
・「マイ コンピュータ」と「エクスプローラ」を使い分ける
・データの保存先を使い分ける
・ファイルを探す
・「マイ ドキュメント」にタスクの一覧を表示させる
・ファイルの詳細情報を見る
・ファイルやフォルダの表示を切り換える
・ファイルやフォルダをスタートメニューに表示する
・画像ファイルを表示する
・画像ファイルの読み込み方を設定する
・キーワードで画像ファイルを探す

▼複数の人で1台のパソコンを使う

・複数の人でパソコンを使う（マルチユーザー機能）
・ユーザーを追加する
・ほかの人が使う
・ほかの人が一時的に使う
・パスワードを設定する
・データ保存のしくみ
・ファイル／フォルダのプライバシー

●週刊ぱそらいふ

パソコンライフをもっと豊かにするための情報や活用情報をお届けしているWebマガジン「週刊ぱそらいふ」の紹介。

■解決する

●困ったときには

パソコンを使っていて困ったことが起きたときの対処法について。

- 大切なのは、おちつくこと
- 急にパソコンが動かなくなったら
- 突然、見知らぬ画面が表示されたら
- ソフトの使い方を知りたい
- ハードウェアについて知りたい
- 知りたい情報を検索するには

● Q&A 一覧

Q&A を、カテゴリ別（「文字入力／キーボード」「画面」など）に紹介。

●最新情報はインターネットで

このパソコンの修正プログラムや Q&A などの最新情報をインターネットで探す方法。

- 修正プログラムを探す
- 最新の Q&A を探す
- ウイルス／セキュリティ情報を確認する
- NEC 以外のホームページで探す

●電話で問い合わせる

パソコンの使い方や修理方法を電話で問い合わせるときの説明。

- 電話をかける前の準備
- リモートサポートを利用する
- パソコンの使い方を相談する
- 故障かな？と思ったら

● NEC のサポート・サービス

NECがご提供しているサポートやサービスの一覧。

●トラブル解決ナビ

トラブルが発生したときの解決方法の流れをナビゲート。

索引

英数字

あ行

か行

さ行

た行

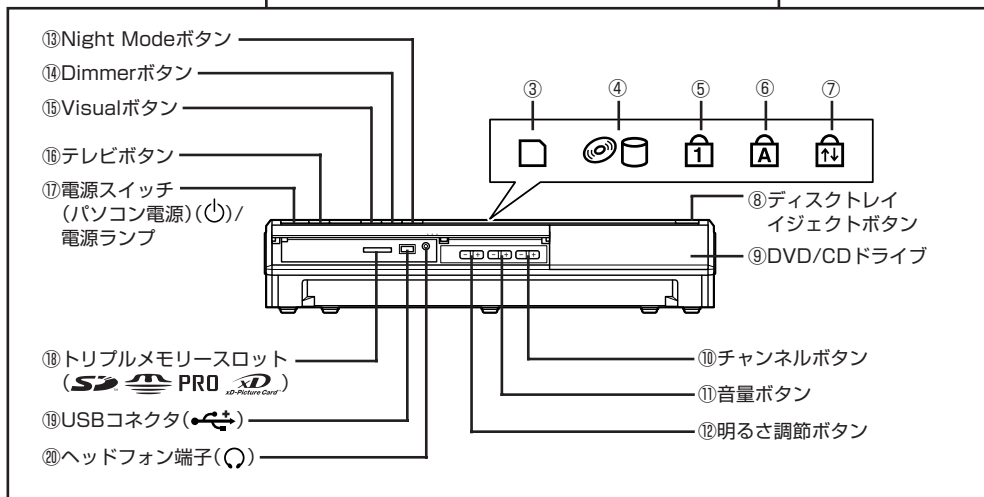
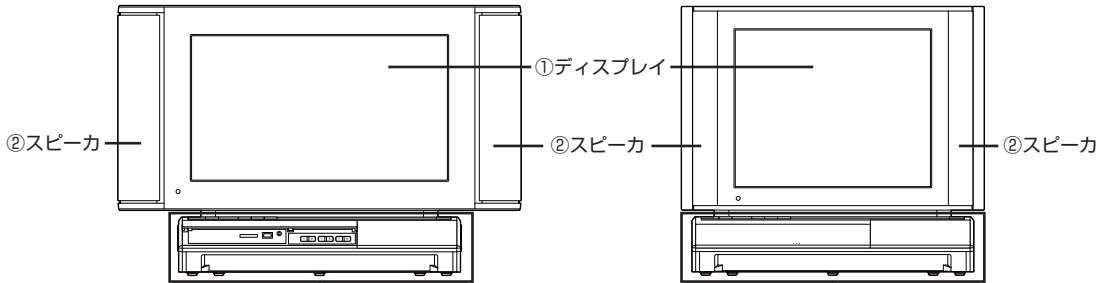
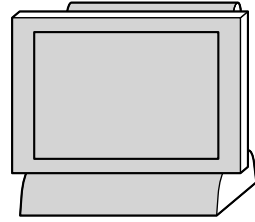
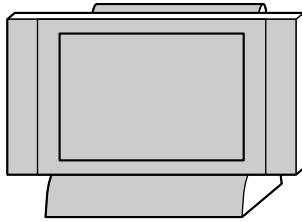
は行

ま行

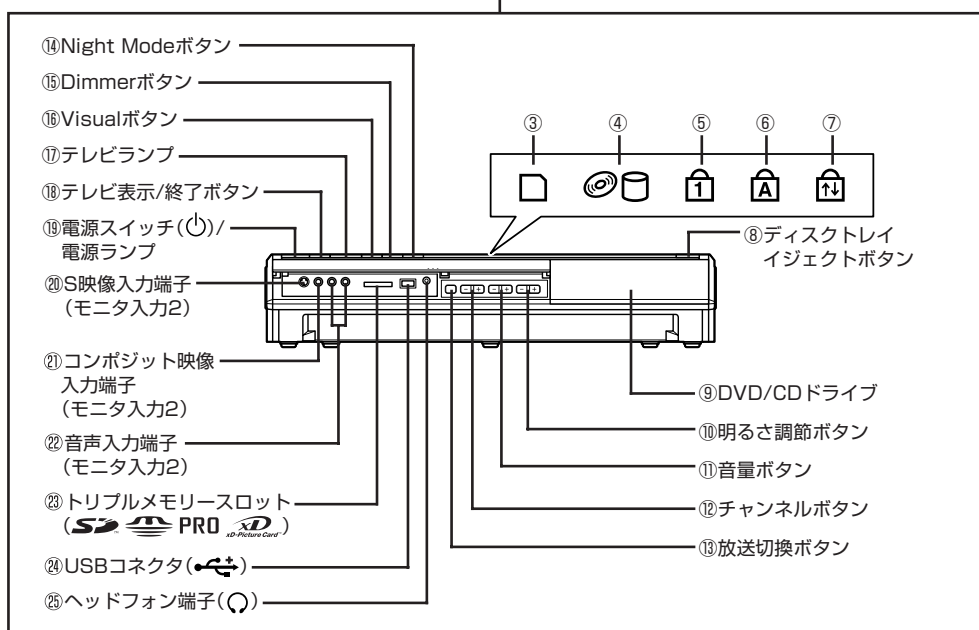
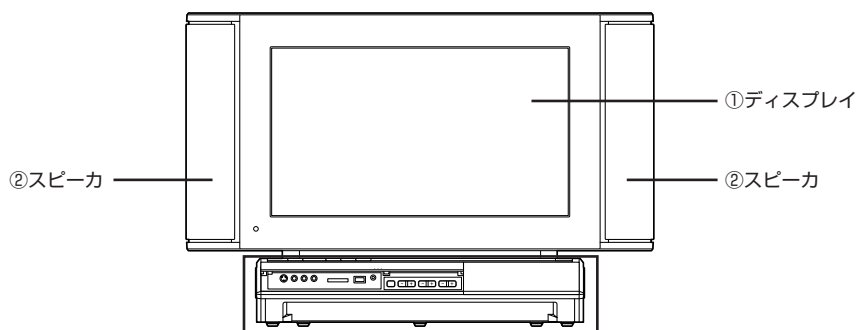
ら行

わ行

各部の名称(1)

● 本体前面 VALUESTAR R および VALUESTAR W（TV モデル ）●

（カバーを開いたところ）

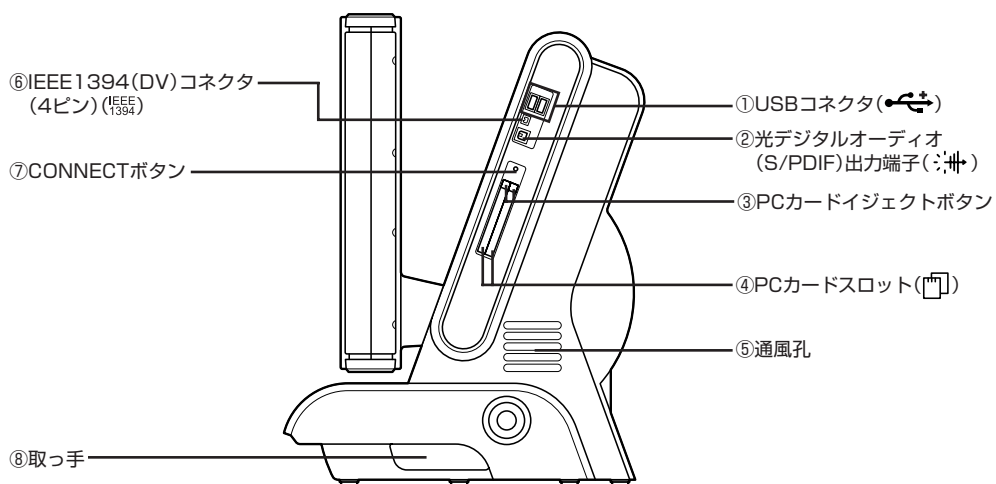
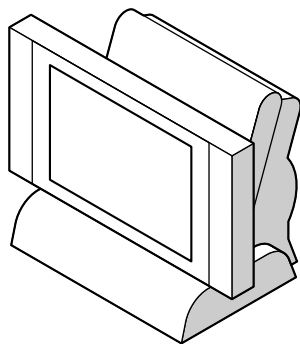
③トリプルメモリースロットアクセスランプ
④CD/ハードディスクアクセスランプ
⑤ニューメリックロックキーランプ
⑥キャップスロックキーランプ
⑦スクロールロックキーランプ

● 本体前面 VALUESTAR W（デジタルハイビジョンTVモデル）●

（カバーを開いたところ）

③トリプルメモリースロットアクセスランプ
④CD/ハードディスクアクセスランプ
⑤ニューメリックロックキーランプ
⑥キャップスロックキーランプ
⑦スクロールロックキーランプ

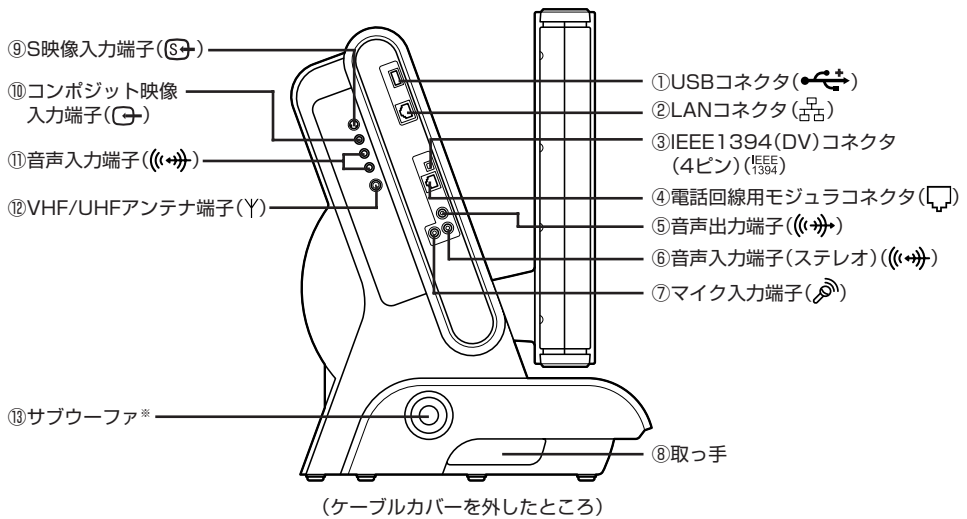
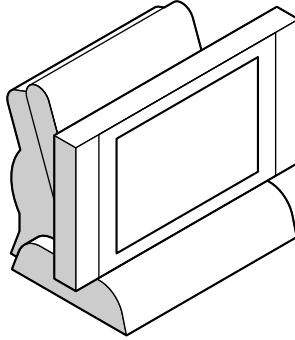
詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「各部の名称と役割」をご覧ください。

各部の名称(2)

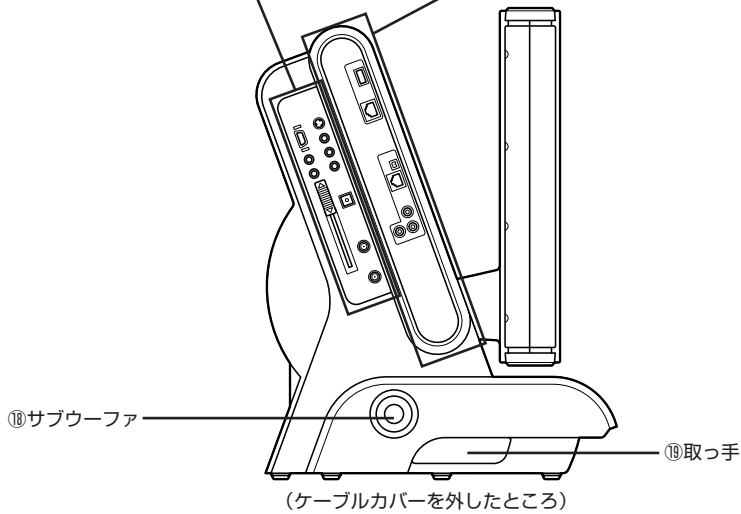
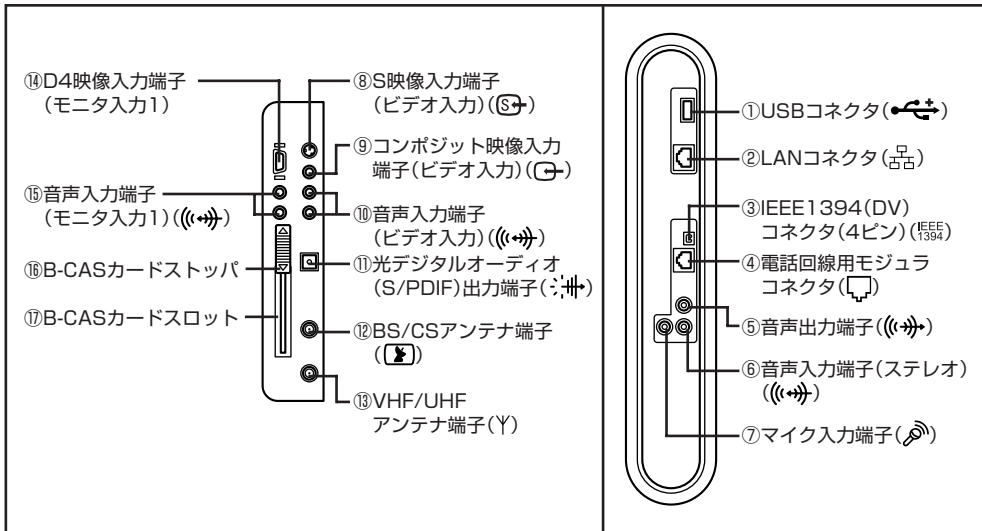
● 本体右側面 ●

詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「各部の名称と役割」をご覧ください。

各部の名称(3)

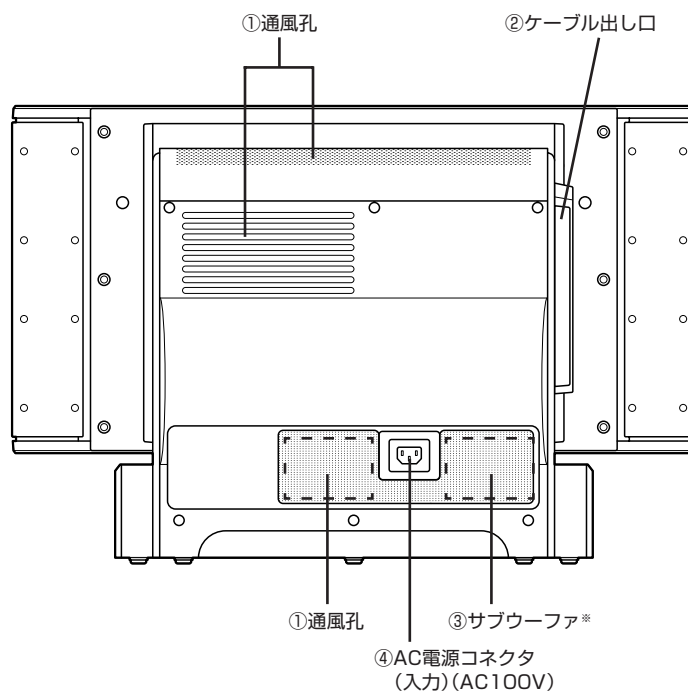
● 本体左側面 VALUESTAR RおよびVALUESTAR W（TVモデル）●

（ケーブルカバーを外したところ）

※ VALUESTAR Wのみ

● 本体左側面 VALUESTAR W（デジタルハイビジョンTVモデル）●

（ケーブルカバーを外したところ）

詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「各部の名称と役割」をご覧ください。

各部の名称(4)

● 本体背面 ●

※ VALUESTAR Wのみ

詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「各部の名称と役割」をご覧ください。

パソコンの中にもマニュアルがある

● サポートナビゲーターで調べてみよう ●

このパソコンには、使いながら画面で説明を見るための、サポートナビゲーターが入っています。

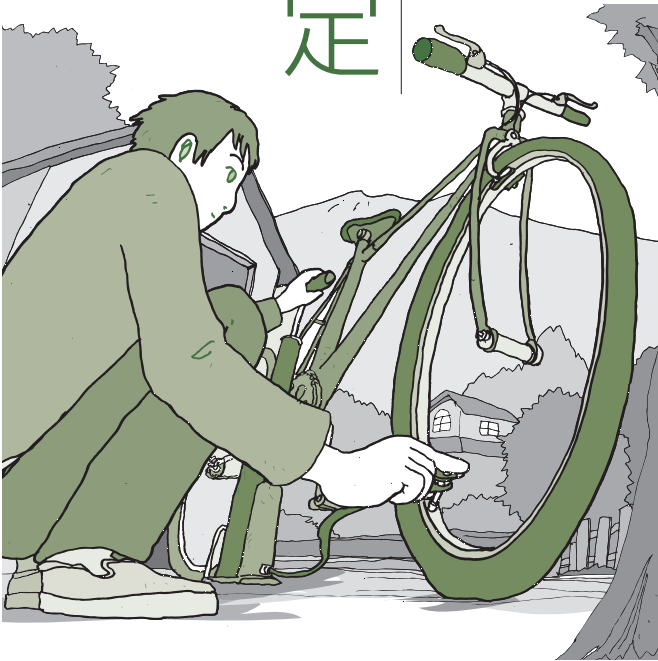
デスクトップにある 困ったときのサポートナビゲーター をダブルクリックすれば、いつでも利用できます。

必要に応じて、次の３種類の説明を利用してください。

▶ **安心安全に使う**	インターネットを安心して使うためのウイルス対策やセキュリティの設定などについて説明しています。
▶ **使いこなす**	Windowsの便利な使い方、このパソコンに入っているソフトの使い方、このパソコンの各部の機能や設定についての詳しい情報など、一歩進んだ使い方を説明しています。
▶ **解決する**	うまくいかないときや、故障かな？と思ったときに利用してください。サポート窓口への問い合わせ方なども説明しています。

2

準備と設定

VALUESTAR

初版 **2006年4月**
NEC
853-810601-539-A
Printed in Japan

日本マニュアルコンテスト2004
家庭製品第3部門
部門優良賞 受賞マニュアル

NECパーソナルプロダクツ株式会社
〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目11-1（ゲートシティ大崎 ウエストタワー）

このマニュアルは、再生紙(古紙率:表紙70%、本文100%)を使用しています。